

秋田県文化財調査報告書第453集

森吉家ノ前A遺跡(第3次)

— 森吉山ダム建設事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書XXII —

2010・3

秋田県教育委員会

シンボルマークは、北秋田市白坂(しろざか)遺跡出土の「岩偶」です。

縄文時代晩期初頭、1992年8月発見、高さ7cm、凝灰岩。

もり よし いえ の まえ
森吉家ノ前A遺跡(第3次)

— 森吉山ダム建設事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書XXII —

2010・3

秋田県教育委員会

序

本県には、これまでに発見された約4,900か所の遺跡をはじめとして、先人の遺産である埋蔵文化財が豊富に残されています。これらの埋蔵文化財は、地域の歴史や伝統を理解し、未来を展望した彩り豊かな文化を創造していくうえで、欠くことのできないものであります。

一方、これまで大きな洪水や渇水の被害に見舞われてきた米代川や阿仁川の流域では、自然災害の脅威や不安を解消するためのダム建設が長く望まれ、洪水被害の軽減、灌漑用水・水道水の供給、水辺環境の保全などを目的とする森吉山ダムの建設事業が行われてきました。このことを受け秋田県教育委員会では地域開発との調和を図りながら、埋蔵文化財を保存し、活用することに取り組んできました。

本報告書は、森吉山ダム建設事業に先立って、平成19年度に北秋田市（旧森吉町）において実施した森吉家ノ前A遺跡第3次調査の発掘調査成果をまとめたものであります。調査の結果、第1次・第2次調査に引き続き縄文時代の竪穴住居跡・土坑、中世の掘立柱建物跡・井戸跡・溝跡等が検出され、当時の人々の生活の一端が明らかになりました。

本書がふるさとの歴史資料として広く活用され、埋蔵文化財保護の一助となることを心から願うものであります。

最後になりましたが、発掘調査ならびに本報告書の刊行にあたり、御協力いただきました国土交通省東北地方整備局森吉山ダム工事事務所、北秋田市、北秋田市教育委員会など関係各位に対し、厚くお礼申し上げます。

平成22年3月

秋田県教育委員会

教育長 根 岸 均

例 言

- 1 本書は、平成19(2007)年度に行った北秋田市森吉家ノ前A遺跡(略号2MY I NM-A)第3次発掘調査の報告書で、森吉山ダム建設事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書の22冊目である。
- 2 平成14・15年度に実施した第1次・第2次調査の報告書は、すでに平成18年3月に刊行されている。平成19年度に実施した第3次調査の調査結果は、平成19年度刊行の埋蔵文化財センター年報等で概要を報告しているが、本報告書をもって正式なものとする。
- 3 発掘調査から報告書作成に当たり、次の業務については委託により実施した。
方眼杭・水準杭打設：株式会社大館換地測量設計
石器実測・デジタルトレース：株式会社アルカ
土器実測・デジタルトレース：特定非営利活動法人 歴史・環境・まちづくり(NPO法人CUBIS)
シン技術コンサル株式会社
- 4 次の自然科学的分析は業務委託し、その結果を第5章に掲載した。
木器保存処理・樹種同定、漆塗膜構造調査：株式会社吉田生物研究所
木製品樹種同定、骨同定：パレオ・ラボ
- 5 放射性炭素年代測定と植物遺体群分析については東京大学大学院辻誠一郎教授から、年輪年代学調査については東北大学植物園大山幹成助教、日本学術振興会特別研究員PD星野安治氏から玉稿を賜った。記して謝意を表す。
- 6 本書の原稿は各発掘担当者が作成し、編集は谷地薫が行った。
- 7 本報告書の作成にあたり、次の方々から御指導、御助言をいただいた。記して感謝申し上げる次第である。(敬称略、五十音順)
板橋範芳 和泉昭一 榎本剛治 細田昌史 小山内透

凡 例

- 1 本書第1図は国土地理院発行1/50,000地形図「米内沢」、「大葛」を使用し、第2図は国土交通省東北地方整備局森吉山ダム工事事務所提供の1/2,500「森吉山ダム貯水池平面図」等から作成した。
- 2 平面図の方位は、日本測地系平面直角座標第X系の座標北である。原点(MA50)における磁北は、座標北から8度10分西偏する。本文及び巻末の報告書抄録記載の経緯度は世界測地系に基づく。
- 3 遺構に使用した略記号は下記のとおりである。
SB：掘立柱建物跡、SD：溝跡、SE：井戸跡、SI：竪穴住居跡、SK：土坑、
SKP：柱穴様ピット、SN：焼土遺構、SR：土器埋設遺構、SQ：配石遺構、ST：捨て場
- 4 挿図には、それぞれスケールを付して縮尺を表示した。
- 5 土層の表記は、農林水産省農林水産技術会議事務局監修、財団法人日本色彩研究所色票監修『新版 標準土色帖』2003年版に拠った。
- 6 挿図中のスクリーントーンは、図中に凡例を付した。

目 次

序

例言・凡例・目次・挿図目次・表目次・図版目次

第1章 はじめに	1
第1節 調査に至る経過	1
第2節 調査要項	1
第2章 遺跡の環境	2
第1節 遺跡の位置と立地	2
第2節 歴史的環境	2
第3章 発掘調査の概要	5
第1節 遺跡の概観	5
第2節 調査の方法	5
第3節 調査の経過	6
第4章 調査の記録	9
第1節 基本層序	9
第2節 川側調査区の検出遺構と遺物	10
第3節 山側調査区の検出遺構と遺物	85
第4節 遺構外出土遺物	131
第5章 自然科学的分析	183
第1節 森吉家ノ前A遺跡における放射性炭素年代測定と植物遺体群分析	183
第2節 秋田県森吉家ノ前A遺跡の年輪年代学調査	191
第3節 森吉家ノ前A遺跡出土木製品の樹種同定	197
第4節 森吉家ノ前A遺跡出土木製品の樹種調査結果	199
第5節 森吉家ノ前A遺跡出土漆器の塗膜構造調査	204
第6節 森吉家ノ前A遺跡出土骨の同定	206
第6章 まとめ	209

図版

報告書抄録

挿 図 目 次

第1図 遺跡位置及び周辺遺跡分布図	3
第2図 グリッド設定図	7
第3図 SB5089・SB5090掘立柱建物跡(1)	12
第4図 SB5089・SB5090掘立柱建物跡(2)、柱穴様ピット群	13
第5図 SI5060竪穴住居跡(1)	14
第6図 SI5060竪穴住居跡(2)、SI5073竪穴住居跡	15
第7図 SI5080竪穴住居跡、SI5560竪穴住居跡複式炉	16
第8図 SI5083、SI5560竪穴住居跡	17

第9回	SI5522竪穴住居跡	19
第10回	SK5001、SK5002、SK5006、SK5007土坑	28
第11回	SK5008、SK5009、SK5012、SK5013、SK5014、SK5030、SK5035土坑	29
第12回	SK5037、SK5038、SK5039、SK5040、SK5041、SK5042、SK5043土坑	30
第13回	SK5044、SK5045、SK5046、SK5047、SK5048、SK5049、SK5050、SK5051土坑	31
第14回	SK5053、SK5054、SK5055、SK5056、SK5076、SK5078、SK5059、SK5070土坑	32
第15回	SK5057、SK5071、SK5072、SK5074、SK5075土坑	33
第16回	SK5079、SK5081、SK5082、SK5085、SK5086、SK5087、SK5088土坑	34
第17回	SK5103、SK5104、SK5105、SK5106、SK5107、SK5113、SK5109、SK5110、SK5111土坑	35
第18回	SK5114、SK5115、SK5116、SK5117、SK5124、SK5127、SK5128、SK5131、SK5132、SK5133、SK5134、SK5137土坑	36
第19回	SK5135、SK5136、SK5138、SK5139、SK5140、SK5141、SK5144、SK5146、SK5147、SK5148、SK5149、SK5153、SK5154土坑	37
第20回	SK5509、SK5523、SK5525、SK5529、SK5531、SK5537、SK5539、SK5541、SK5540、SK5549土坑	38
第21回	SK5543、SK5551、SK5550、SK5562、SK5552、SK5553、SK5555、SK5561、SK5567土坑	39
第22回	SK5554、SK5556、SK5557、SK5564、SK5565、SK5566、SK5568土坑	40
第23回	SR5506土器埋設遺構・SN5526焼土遺構、SR5507、SR5521、SR5527土器埋設遺構	41
第24回	SN5118焼土遺構	43
第25回	SN5119、SN5120焼土遺構	44
第26回	SN5121焼土遺構	45
第27回	SN5122、SN5125、SN5126焼土遺構	46
第28回	SN5123、SN5129、SN5130焼土遺構	48
第29回	SN5505、SN5510、SN5511、SN5512、SN5513、SN5517、SN5563焼土遺構	49
第30回	SD63溝跡	52
第31回	SD5102溝跡	53
第32回	SD5151、SD5152、SD5518、SD5503、SD5559溝跡、SQ5569配石遺構	54
第33回	SD5501、SD5502、SD5503溝跡	55
第34回	遺構内出土土器(1)	59
第35回	遺構内出土土器(2)	60
第36回	遺構内出土土器(3)	61
第37回	遺構内出土土器(4)	62
第38回	遺構内出土土器(5)	63
第39回	遺構内出土土器(6)	64
第40回	遺構内出土土器(7)	65
第41回	遺構内出土土器(8)	66
第42回	遺構内出土土器(9)	67
第43回	遺構内出土土器(10)	68
第44回	遺構内出土土器(11)	69
第45回	遺構内出土土器(12)	70
第46回	遺構内出土土器(13)	71
第47回	遺構内出土土器(14)	72
第48回	遺構内出土土器(15)	73
第49回	遺構内出土土器(16)	74
第50回	遺構内出土土器(17)	75
第51回	遺構内出土土器(1)	76
第52回	遺構内出土土器(2)	77
第53回	遺構内出土土器(3)	78
第54回	遺構内出土土器(4)	79
第55回	遺構内出土土器(5)	80
第56回	遺構内出土土器(6)	81
第57回	遺構内出土土器(7)	82
第58回	遺構内出土土器(8)	83
第59回	遺構内出土土器(9)	84
第60回	SB6311、SB6312掘立柱建物跡	86
第61回	SB6315掘立柱建物跡	87
第62回	SB6141掘立柱建物跡	88
第63回	SB6142掘立柱建物跡	89
第64回	SB6143、SB6174掘立柱建物跡	90
第65回	SB6144掘立柱建物跡	91
第66回	SE6011井戸跡	94
第67回	SE6012、SE6051井戸跡	95
第68回	SE6052井戸跡、SE6055井戸跡・SK6056土坑	96
第69回	SE6057、SE6097井戸跡	97
第70回	SE6098井戸跡	99
第71回	SE6099、SE6261井戸跡	100
第72回	SE6139、SE6140井戸跡	102
第73回	SE6164井戸跡	103
第74回	SK6010、SK6058、SK6050、SK6053、SK6059、SK6060土坑	109
第75回	SK6103、SK6104、SK6106、SK6107、SK6108、SK6109、SK6110、SK6111土坑	110
第76回	SK6112、SK6113、SK6114、SK6115、SK6118、SK6119、SK6125、SK6126土坑	111
第77回	SK6120、SK6121、SK6122、SK6124、SK6128、SK6130、SK6172土坑	112
第78回	SK6131、SK6132、SK6133、SK6134、SK6135、SK6137、SK6145、SK6149土坑	113
第79回	SK6146、SK6147、SK6150、SK6151、SK6152、SK6153、SK6155、SK6156、SK6157土坑	114
第80回	SK6158、SK6159、SK6160、SK6162、SK6165、SK6166、SK6167、SK6171、SK6173土坑	115
第81回	SN6054、SN6105焼土遺構	117
第82回	SN6116、SN6117、SN6127、SN6148焼土遺構	118

第83図	SN6123、SN6129、SN6163、SN6168焼土遺構	120
第84図	遺構内出土木製品(1)	123
第85図	遺構内出土木製品(2)	124
第86図	遺構内出土木製品(3)	125
第87図	遺構内出土木製品(4)	126
第88図	遺構内出土木製品(5)	127
第89図	遺構内出土木製品(6)	128
第90図	遺構内出土木製品(7)	129
第91図	遺構内出土木製品(8)	130
第92図	遺構内出土木製品(9)	132
第93図	遺構内出土木製品(10)	133
第94図	遺構内出土木製品(11)	134
第95図	遺構内出土木製品(12)	135
第96図	遺構内出土木製品(13)	136
第97図	遺構内出土木製品(14)	137
第98図	遺構内出土木製品(15)	138
第99図	遺構内出土木製品(16)	139
第100図	遺構内出土木製品(17)	140
第101図	遺構内出土木製品(18)	141
第102図	遺構内出土木製品(19)	142
第103図	遺構内出土木製品(20)	143
第104図	遺構内出土木製品(21)	144
第105図	遺構内出土木製品(22)	145
第106図	遺構外出土石器	146
第107図	遺構外出土石器(1)	147
第108図	遺構外出土石器(2)	148
第109図	遺構外出土石器(3)	149
第110図	遺構外出土石器(4)	150
第111図	遺構外出土石器(5)	151
第112図	遺構外出土石器(6)	152
第113図	遺構外出土石器(7)	153
第114図	遺構外出土石器(8)	154
第115図	遺構外出土石器(9)	155
第116図	遺構内外出土珠洲系陶器(1)	159
第117図	遺構内外出土珠洲系陶器(2)	160
第118図	遺構内外出土陶磁器	161
第119図	遺構内外出土金属製品	162
第120図	遺構内外出土銭貨	163
第121図	木材の光学顕微鏡写真	185
第122図	放射性炭素年代測定図(1)	185
第123図	放射性炭素年代測定図(2)	185
第124図	放射性炭素年代測定図(3)	185
第125図	花粉ダイアグラム	188
第126図	森吉家ノ前A遺跡から出土した主な種実類	189
第127図	各試料の年輪曲線(曲線)とその平均値(太線)	192
第128図	各試料の相対的な年代範囲	193
第129図	年輪幅の変動が酷似する試料の年輪曲線	194
第130図	森吉家ノ前A遺跡出土木材の光学顕微鏡写真	198
第131図	木材の光学顕微鏡写真(1)	201
第132図	木材の光学顕微鏡写真(2)	202
第133図	木材の光学顕微鏡写真(3)	203
第134図	漆塗膜の光学顕微鏡写真	205
第135図	森吉家ノ前A遺跡出土骨	208
付図1	遺構配置図、基本土層図	
付図2	柱穴様ビット分布図	
付図3	SB4043、SB4049、SB6310、SB6313、SB6314、SB6138掘立柱建物跡	
付図4	井戸跡出土木材(1)	
付図5	井戸跡出土木材(2)	
付図6	井戸跡出土木材(3)	

表 目 次

第1表	周辺遺跡一覧	3	第12表	出土銭貨一覧表	181
第2表	発掘調査経過表	8	第13表	石器器種別出土点数一覧表	182
第3表	掘立柱建物跡一覧表	164	第14表	木製品・木材遺構別出土点数一覧表	182
第4表	井戸跡一覧表	164	第15表	花粉計数表	187
第5表	焼土遺構一覧表	164	第16表	供試試料の概要および年輪幅・クロスデーティングに関する統計値	192
第6表	土坑一覧表	165	第17表	森吉家ノ前A遺跡の樹種同定結果一覧表	199
第7表	柱穴様ビット一覧表	167	第18表	秋田県森吉家ノ前A遺跡出土木製品樹種同定表	201
第8表	土器観察表	172	第19表	漆器塗膜構造調査試料一覧表	204
第9表	石器観察表	175	第20表	漆器塗膜構造断面観察結果表	204
第10表	木製品・木材観察表	177	第21表	森吉家ノ前A遺跡出土骨の同定結果表	207
第11表	金属製品観察表	181			

図 版 目 次

図版 1

- 1 遺跡遺景(西から)
- 2 川側調査区北側の調査終了状況(北西から)

図版 2

- 1 川側調査区旧神社跡地の調査終了状況(西から)
- 2 山側調査区南側の調査終了状況(北から)

図版 3

- 1 山側調査区北側の調査終了状況(東から)
- 2 山側調査区北側の調査終了状況(北から)

図版 4

- 1 S I 5060 竪穴住居跡完掘状況(北西から)
- 2 S I 5060 竪穴住居跡炭化材出土状況(北西から)
- 3 S I 5060 竪穴住居跡炭化材出土状況(北西から)
- 4 S I 5073 竪穴住居跡遺物出土状況(南から)
- 5 S I 5080 竪穴住居跡複式炉完掘状況(南東から)
- 6 S I 5080 竪穴住居跡複式炉完掘状況(南西から)
- 7 S I 5083 竪穴住居跡完掘状況(北西から)
- 8 S I 5522 竪穴住居跡完掘状況(南から)

図版 5

- 1 S I 5560 竪穴住居跡完掘状況(東から)
- 2 S I 5560 竪穴住居跡複式炉完掘状況(南から)
- 3 SK 5001 土坑完掘状況(南西から)
- 4 SK 5007 土坑完掘状況(南東から)
- 5 SK 5008 土坑断面土層(南東から)
- 6 SK 5009 土坑完掘状況(南東から)
- 7 SK 5012 土坑半截状況(北東から)
- 8 SK 5013 土坑完掘状況(南から)

図版 6

- 1 SK 5040 土坑断面土層(南から)
- 2 SK 5046 土坑完掘状況(南東から)
- 3 SK 5047 土坑完掘状況(西から)
- 4 SK 5055 土坑完掘状況(南西から)
- 5 SK 5157 土坑断面土層(南から)
- 6 SK 5059 土坑完掘状況(南から)
- 7 SK 5071 土坑完掘状況(南西から)
- 8 SK 5079 土坑完掘状況(南から)

図版 7

- 1 SK 5082 土坑精査状況(南から)
- 2 SK 5088 土坑完掘状況(南東から)
- 3 SK 5105 土坑断面土層(南西から)
- 4 SK 5107 土坑・SK 5113 土坑完掘状況(西から)
- 5 SK 5109 土坑完掘状況(西から)
- 6 SK 5110 土坑完掘状況(南東から)
- 7 SK 5111 土坑完掘状況(南東から)
- 8 SK 5116 土坑完掘状況(南から)

図版 8

- 1 SK 5124 土坑完掘状況(西から)
- 2 SK 5127 土坑完掘状況(西から)
- 3 SK 5131 土坑完掘状況(北西から)
- 4 SK 5132 土坑完掘状況(南東から)
- 5 SK 5133 土坑完掘状況(東から)
- 6 SK 5135 土坑検出状況(北東から)
- 7 SK 5509 土坑完掘状況(南から)
- 8 SK 5523 土坑焼骨出土状況(北東から)

図版 9

- 1 SK 5525 土坑焼骨出土状況(南東から)
- 2 SK 5537 土坑完掘状況(南東から)
- 3 SK 5539 土坑・SK 5541 土坑焼骨出土状況(南東から)
- 4 SK 5541 土坑焼骨出土状況(南東から)
- 5 SK 5543 土坑完掘状況(南西から)
- 6 SK 5549 土坑断面土層(南東から)
- 7 SK 5550 土坑断面土層(北東から)
- 8 SK 5552 土坑完掘状況(南東から)

図版 10

- 1 SK 5554 土坑完掘状況(南から)
- 2 SK 5557 土坑断面土層(南から)
- 3 SK 5564 土坑完掘状況(南から)
- 4 SK 5565 土坑完掘状況(南から)
- 5 SK 5567 土坑完掘状況(南東から)
- 6 SK 5568 土坑断面土層(南東から)
- 7 SR 5507 土器埋設遺構断面土層(北東から)
- 8 SR 5506 土器埋設遺構、SN 5526 焼土遺構の土器埋設炉断面土層(東から)

図版 11

- 1 SN 5118 焼土遺構、SN 5129 焼土遺構検出状況(南西から)
- 2 SN 5118 焼土遺構検出状況(北東から)
- 3 SN 5122 焼土遺構検出状況(南西から)
- 4 SN 5123 焼土遺構検出状況(南西から)
- 5 SN 5125 焼土遺構精査状況(西から)
- 6 SN 5126 焼土遺構検出状況(南から)
- 7 SN 511 焼土遺構の土器埋設炉断面土層(北西から)
- 8 SN 5563 焼土遺構の土器埋設炉断面土層(西から)

図版 12

- 1 SD 63 溝跡完掘状況(北西から)
- 2 SD 63 溝跡断面土層(南東から)
- 3 SD 5102 溝跡完掘状況(南から)
- 4 SD 5501 溝跡、SD 5502 溝跡完掘状況(東から)
- 5 SD 5503 溝跡完掘状況(東から)
- 6 SD 5518 溝跡完掘状況(西から)
- 7 SQ 5569 配石遺構検出状況(東から)
- 8 ST 5101 捨て場遺物出土状況(北東から)

図版 13

- 1 SB 6315 掘立柱建物跡検出状況(南西から)
- 2 SB 6315 掘立柱建物跡 P2 柱根検出状況(南東から)
- 3 SB 6315 掘立柱建物跡 P5 柱根検出状況(南東から)
- 4 SB 6138 掘立柱建物跡検出状況(南西から)
- 5 SE 6011 井戸跡埋没状況(南西から)
- 6 SE 6011 井戸跡埋没状況(南西から)
- 7 SE 6011 井戸跡完掘状況(北西から)
- 8 SE 6011 井戸跡、SE 6012 井戸跡完掘状況(北から)

図版 14

- 1 SE 6012 井戸跡精査状況(北東から)
- 2 SE 6012 井戸跡完掘状況(北西から)
- 3 SE 6012 井戸跡精査状況(北西から)
- 4 SE 6012 井戸跡底面の大礫出土状況(北東から)
- 5 SE 6051 井戸跡埋没状況(南西から)
- 6 SE 6051 井戸跡底面付近の精査状況(南西から)
- 7 SE 6055 井戸跡埋没状況、SK 6056 土坑完掘状況(南東から)
- 8 SE 6155 井戸跡底面の遺物出土状況(南東から)

図版 15

- 1 SE 6057 井戸跡埋没状況(南東から)
- 2 SE 6057 井戸跡完掘状況(南東から)
- 3 SE 6097 井戸跡埋没状況(北東から)
- 4 SE 6097 井戸跡底面付近の精査状況(北東から)
- 5 SE 6098 井戸跡完掘状況(南東から)
- 6 SE 6098 井戸跡完掘状況(西から)
- 7 SE 6098 井戸跡完掘状況(南東から)
- 8 SE 6098 井戸跡完掘状況(南西から)

図版 16

- 1 SE 6098 井戸跡完掘状況(北西から)
- 2 SE 6098 井戸跡完掘状況(北東から)
- 3 SE 6099 井戸跡埋没状況(南西から)
- 4 SE 6099 井戸跡底面の大礫出土状況(南東から)
- 5 SE 6139 井戸跡埋没状況(西から)
- 6 SE 6139 井戸跡埋没状況(西から)
- 7 SE 6140 井戸跡埋没状況(南から)
- 8 SE 6140 井戸跡埋没状況(南から)

図版 17

- 1 SE 6140 井戸跡底面の遺物出土状況(南から)
- 2 SE 6139 井戸跡・SE 6140 井戸跡埋没状況(西から)
- 3 SE 6164 井戸跡埋没状況(南から)
- 4 SE 6164 井戸跡底面の遺物出土状況(南西から)
- 5 SK 6050 土坑埋没状況(南東から)
- 6 SK 6010 土坑・SK 6058 土坑埋没状況(南東から)
- 7 SK 6107 土坑完掘状況(西から)
- 8 SK 6109 土坑検出状況(南から)

図版 18

- 1 SK 6119 土坑完掘状況(東から)
- 2 SK 6121 土坑完掘状況(南から)
- 3 SK 6122 土坑埋没状況(南西から)
- 4 SK 6131 土坑完掘状況(南から)
- 5 SK 6132 土坑断面土層(南から)
- 6 SK 6137 土坑完掘状況(南東から)
- 7 SK 6149 土坑完掘状況(西から)
- 8 SK 6159 土坑・SK 6160 土坑完掘状況(南東から)

図版 19

- 1 SN 6116 焼土遺構精査状況(西から)
- 2 SN 6129 焼土遺構検出状況(北西から)
- 3 SN 6148 焼土遺構検出状況(南東から)
- 4 SN 6163 焼土遺構検出状況(南西から)
- 5 SKP 6239 柱穴椽ビット柱根出土状況(南東から)
- 6 SKP 6615 柱穴椽ビット礎板出土状況(北東から)
- 7 SKP 6609 柱穴椽ビット礎板出土状況(南から)
- 8 山側調査区大湯淨石層の堆積状況(北西から)

図版 20

- 1 S I 5060 竪穴住居跡出土土器
- 2 S I 5060 竪穴住居跡出土土器
- 3 S I 5060 竪穴住居跡出土土器
- 4 S I 5060 竪穴住居跡出土土器
- 5 S I 5073 竪穴住居跡出土土器
- 6 S I 5073 竪穴住居跡出土土器
- 7 S I 5080 竪穴住居跡出土土器
- 8 S I 5080 竪穴住居跡出土土器

図版 21

- 1 S I 5080 竪穴住居跡出土土器
- 2 S I 5560 竪穴住居跡出土土器
- 3 S I 5560 竪穴住居跡出土土器
- 4 SK 5040 土坑出土土器
- 5 SK 5047 土坑出土土器
- 6 SK 5071 土坑出土土器
- 7 SK 5076 土坑出土土器
- 8 SR 5506 土器埋設遺構出土土器

図版 22

- 1 SR 5507 土器埋設遺構出土土器
- 2 SN 5511 焼土遺構出土土器
- 3 SN 5526 焼土遺構出土土器
- 4 SN 5563 焼土遺構出土土器
- 5 ST 5101 捨て場出土土器
- 6 ST 5101 捨て場出土土器
- 7 ST 5101 捨て場出土土器
- 8 ST 5101 捨て場出土土器

図版 23

- 1 ST 5101 捨て場出土土器
- 2 ST 5101 捨て場出土土器
- 3 ST 5101 捨て場出土土器
- 4 ST 5101 捨て場出土土器
- 5 ST 5101 捨て場出土土器
- 6 ST 5101 捨て場出土土器
- 7 ST 5101 捨て場出土土器
- 8 ST 5101 捨て場出土土器

図版 24

- 1 遺構内出土土器
- 2 遺構外出土土器

図版 25

- 1 遺構外出土珠洲系陶器
- 2 遺構内外出土珠洲系陶器
- 3 遺構外出土珠洲系陶器

図版 26

- 1 遺構内外出土鉄製品
- 2 遺構外出土斧
- 3 遺構外出土土鏡

第1章 はじめに

第1節 調査に至る経過

森吉山ダムは、米代川流域の洪水調節、既得取水の安定化、河川環境の保全、灌漑用水の供給、水道用水の供給、水力発電などを目的として計画された多目的ダムである。

森吉山ダム建設に伴い、事業主体である建設省東北地方建設局森吉山ダム工事事務所(現国土交通省東北地方整備局森吉山ダム工事事務所)は、秋田県教育委員会に対し貯水池流域面積248.0km²の遺跡分布調査を依頼した。秋田県教育委員会は、1992(平成4)・1993(平成5)年の2年にわたって遺跡分布調査を実施し、さらに1994(平成6)年より遺跡確認調査を実施して1998(平成10)年までに60の遺跡を確認した(第1表)。

森吉山ダム建設事業に係る発掘調査は、確認調査を行った遺跡の中から記録保存の必要なものについて、秋田県教育委員会と北秋田市教育委員会(旧森吉町教育委員会)が工事工程に合わせて実施してきた。発掘調査は1997(平成9)年から2007(平成19)年の11年間にわたり、その多くは既に報告書も刊行されている。

森吉家ノ前A遺跡の発掘調査は3次に分けて行われ、遺跡総面積16,600m²のうち、第1次(平成14年度)5,600m²、第2次(平成15年度)5,450m²の発掘調査については、平成17年度に報告書が刊行された。第3次調査は、工事用道路や神社跡地として発掘調査ができなかった残りの6,980m²について、平成19年度(2007年5月15日～11月9日)に実施したものである。

第2節 調査要項

遺 跡 名	森吉家ノ前A遺跡(もりよしいえのまえAいせき)	略号2MY I NM-A
遺 跡 所 在 地	秋田県北秋田市森吉字森吉家ノ前145ほか	
調 査 期 間	平成19年5月15日～11月9日	
調 査 目 的	森吉山ダム建設事業に係る事前発掘調査	
調 査 面 積	6,980m ²	
調 査 主 体 者	秋田県教育委員会	
調 査 担 当 者	谷地 薫(秋田県埋蔵文化財センター北調査課 主任学芸主事)	
	馬場 泰一(秋田県埋蔵文化財センター北調査課 学芸主事)	
	加藤 竜(秋田県埋蔵文化財センター北調査課 文化財主事)	
	菅野美香子(秋田県埋蔵文化財センター北調査課 文化財主事)	
総 務 担 当 者	渡辺 憲(秋田県埋蔵文化財センター総務課長)	
	袴田 幸樹(秋田県埋蔵文化財センター北調査課 主査)	※職名は当時のもの
調 査 協 力 機 関	国土交通省東北地方整備局森吉山ダム工事事務所 北秋田市教育委員会	

第2章 遺跡の環境

第1節 遺跡の位置と立地

森吉家ノ前A遺跡は、秋田県北秋田市森吉字森吉家ノ前に所在する。遺跡のある北秋田市森吉地区は県内陸北部に位置し、遺跡は森吉山(標高1,454m)の北麓を流れる小又川の右岸にある。遺跡の経緯度は北緯40度02分49秒、東経140度29分32秒である。立地の詳細は第1・2次調査報告書を参照されたい。

森吉家ノ前A遺跡のある段丘面の標高は148～151m前後で、北側の旧神社跡地で最も高く、南西の方向に緩やかに傾斜し、遺跡の南側を流れる小又川へは比高11～12mの段丘崖となって続く。段丘上一帯は昭和40年代に圃場整備され、水田として利用されていた場所である。遺跡のすぐ西側と北西の山地との間には、新第3紀中新世の岩盤を浸蝕して東西方向に蛇行する埋没谷があり、遺跡北側にも山麓から小又川に向かう埋没谷がある。北側の埋没谷は縄文時代前期にはすでに埋没が進み、緩斜面の低地となっていた。西側の埋没谷は、中世までには埋没が進み低地となっていたと推測される。

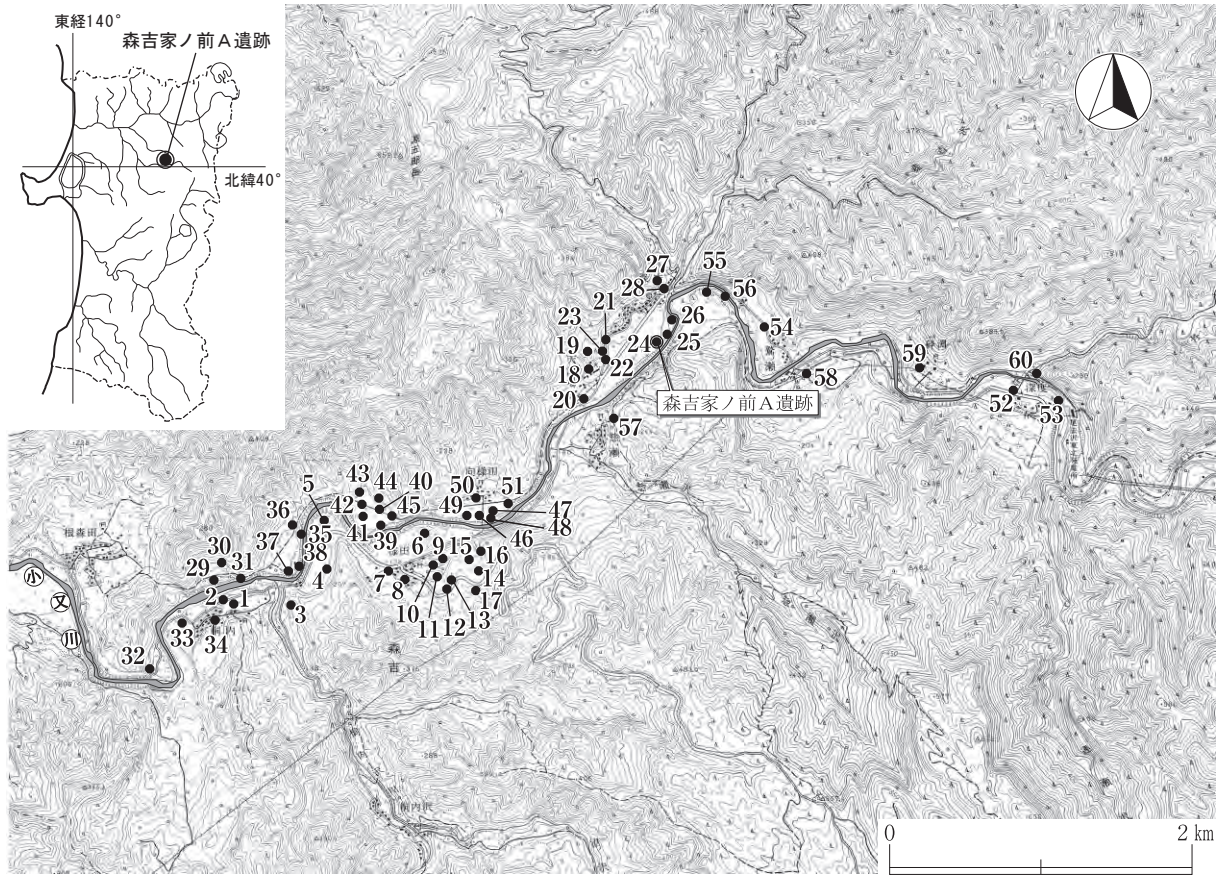
第2節 歴史的環境

小又川流域の歴史的環境の概要については、既刊の森吉山ダム関連発掘調査報告書を参照されたい。

森吉家ノ前A遺跡では主に縄文時代前期後葉、中期後葉、後期初頭、後期中葉、平安時代、中世の遺構、遺物を検出した。以下、文中の番号は第1図、第1表に対応する。

本遺跡の下流側には、縄文前期茂屋下岱式期の土坑墓を検出した桂の沢遺跡、上流側に円筒下層b式期の竪穴住居跡を検出した地藏岱遺跡(55)、深渡遺跡(52)がある。中期後葉の集落遺跡は、二重鳥A遺跡(9)、二重鳥C遺跡(11)、上ハ岱A遺跡(7)等数多く調査されている。後期初頭の集落遺跡では日廻岱B遺跡(5)で多数の竪穴住居跡が調査されている。後期中葉から晩期にかけては、桂の沢遺跡、漆下遺跡(6)、向様田D遺跡(49)、向様田A遺跡(46)など大規模な集落遺跡や祭祀遺跡がある。総じて縄文時代後半の遺跡は小又川流域に広く分布する傾向があるが、その中でも拠点的な遺跡と小規模な遺跡群に大別できる。

平安時代の遺跡では本遺跡の対岸にある地藏岱遺跡(55)で、製鉄関連遺構を伴った環濠集落が調査されており、向様田E遺跡(50)でも竪穴住居跡が調査されている。中世以降の遺跡では、小又川流域のダム事業地内ではいわゆる中世城館として登録されている遺跡はない。地藏岱遺跡では平安時代以降中世後期まで断続的に遺跡が営まれており、方形区画の濠や椀粗形等の木製品を出土した水場遺構を伴って多くの建物跡群が確認されている。深渡遺跡では中世の石組炉が調査されている。本遺跡に隣接する森吉家ノ前C遺跡(26)では掘立柱建物跡群を構成する柱穴群、森吉家ノ前B遺跡(25)では馬具の一部と思われる金具や室町時代と推定する珠洲系陶器が検出されている。



第1図 遺跡位置及び周辺遺跡分布図

第1表 周辺遺跡一覧

番号	遺跡名	遺跡所在地	時期
1	桐内C	北秋田市森吉字桐内家ノ上ニ岱11外	縄文前～後期
2	桐内D	北秋田市森吉字桐内家ノ上川反19外	縄文後期
3	桐内沢	北秋田市森吉字桐内沢関下夕103	縄文前～後期
4	日廻岱A	北秋田市森吉字日廻岱65.63-4外	縄文前～晩期
5	日廻岱B	北秋田市森吉字日廻岱86.88.89.90.91	縄文前・後期
6	漆下	北秋田市森吉字漆下2-1.4.5.6.7.8.14-2.37外	縄文前～後期
7	上八岱A	北秋田市森吉字上八岱102.104.105.106外	縄文中～晩期・弥生
8	上八岱B	北秋田市森吉字上八岱70.71.72	縄文前～晩期
9	二重島A	北秋田市森吉字二重島31-1.32-2.47-1.106-1.134.135	縄文晩期
10	二重島B	北秋田市森吉字二重島1199.100外	縄文中～後期
11	二重島C	北秋田市森吉字二重島93.94.95.96.97.110	縄文前～晩期
12	二重島D	北秋田市森吉字二重島39	縄文中～晩期
13	二重島E	北秋田市森吉字二重島65.66-1.69.70-2.70-3	縄文前・晩期・弥生
14	二重島F	北秋田市森吉字二重島124-1	縄文中～後期・弥生
15	二重島G	北秋田市森吉字二重島80.81-1.84-1	縄文早・中～晩期・弥生・近世
16	二重島H	北秋田市森吉字二重島6.14.15	縄文後期
17	水上	北秋田市森吉字水上42-1.43-1.44.113-6外	縄文中～晩期・弥生
18	天津場A	北秋田市森吉字天津場15-3	縄文後期・古代
19	天津場B	北秋田市森吉字天津場16-1	縄文後期
20	天津場C	北秋田市森吉字天津場87-1.87-3.88-2	縄文中・後期
21	ネネム沢A	北秋田市森吉字ネネム沢26.27.28.29.30.31.32.33.34.35	旧石器・縄文後期・古代
22	ネネム沢B	北秋田市森吉字ネネム沢17.19.22	縄文後期
23	ネネム沢C	北秋田市森吉字ネネム沢6-1	縄文晩期
24	森吉家ノ前A	北秋田市森吉字森吉家ノ前50.145.174.175.176.177.178	縄文前～後期・古代・中世
25	森吉家ノ前B	北秋田市森吉字森吉家ノ前138.139.140.141.142	縄文中～晩期・室町時代
26	森吉家ノ前C	北秋田市森吉字森吉家ノ前101-1.103.114.115.116	中世
27	森吉A	北秋田市森吉字森吉95	縄文後期・古代
28	森吉B	北秋田市森吉字森吉69	縄文後期
29	上悪戸A	北秋田市根森田字上悪戸4-1.9.10-1.11-1.21.2-1～4.13.14-1.16-1.2外	縄文中～晩期
30	上悪戸B	北秋田市根森田字上悪戸8-1.2	弥生後期
31	上悪戸C	北秋田市根森田字上悪戸7.8-9	縄文後～晩期
32	上悪戸D	北秋田市根森田字上悪戸34-7.34-29～41.34-60-61-67-54外	縄文後・晩期
33	桐内A	北秋田市森吉字桐内前田5-1.6-1.3外	縄文早・中～晩・弥生
34	桐内B	北秋田市森吉字家ノ下16、字桐内33-1.34～37外	縄文晩期
35	姫ヶ岱A	北秋田市根森田字姫ヶ岱8.9-1.10-1	縄文前～晩期
36	姫ヶ岱B	北秋田市根森田字姫ヶ岱14-10～12	縄文中～後期
37	姫ヶ岱C	北秋田市根森田字姫ヶ岱12-2～11.15外	縄文早～晩期
38	姫ヶ岱D	北秋田市根森田字姫ヶ岱12-31外	縄文早・中・晩期
39	橋場岱A	北秋田市森吉字橋場岱48.49.50-1外	縄文中期
40	橋場岱B	北秋田市森吉字橋場岱69.78外	縄文後・晩期
41	橋場岱C	北秋田市森吉字橋場岱42.62外	縄文後・晩期
42	橋場岱D	北秋田市森吉字橋場岱110-1	縄文時代
43	橋場岱E	北秋田市森吉字橋場岱109	縄文時代
44	橋場岱F	北秋田市森吉字橋場岱101.103.104	縄文晩期
45	橋場岱G	北秋田市森吉字橋場岱6-1.39.40.46	縄文後期
46	向様田A	北秋田市森吉字向様田家ノ下モ8.9-1.2.11.16.81-1.82.83.84	縄文晩期
47	向様田B	北秋田市森吉字向様田67-1.2.70.71-1.72.74.75外	縄文前～晩期
48	向様田C	北秋田市森吉字向様田76.77.78.79	縄文後・晩期
49	向様田D	北秋田市森吉字向様田家ノ下モ14-1.17.18.19-1.20	縄文晩期
50	向様田E	北秋田市森吉字向様田家ノ下モ36.37.39.63.64	縄文前・晩期・古代
51	向様田F	北秋田市森吉字向様田58.59外	縄文後～晩期
52	深渡	北秋田市森吉字深渡104-1外	縄文前～晩期
53	深渡A	北秋田市森吉字深渡29外	縄文後・晩期
54	鷺ノ瀬	北秋田市森吉字鷺ノ瀬80外	縄文後期
55	地藏岱	北秋田市森吉字地藏岱74外	縄文後～後期・古代
56	地藏岱A	北秋田市森吉字地藏岱124外	縄文中・後期
57	惣瀬	北秋田市森吉字惣瀬86外	縄文後期・古代
58	棚岱	北秋田市森吉字棚岱74外	縄文後・晩期
59	砕瀨	北秋田市森吉字砕瀨124外	縄文中・後期
60	丹瀨口	北秋田市森吉字丹瀨口2-1外	縄文後期

第2章 遺跡の環境

参考文献

- 秋田県農政部農地整備課 『大野台開発計画区域土地分類基本調査 米内沢』 1978(昭和53)年
- 川村公一 『子孫に残す歴史の記録 森吉路 過去から未来へ』 モリトピア選書2 建設省東北地方建設局
森吉山ダム工事事務所 1993(平成5)年
- 秋田県教育委員会 『秋田県遺跡地図(県北版)』 1991(平成3)年
- 秋田県 『秋田県史考古編』 1977(昭和52)年
- 奈良修介・豊島昂 『秋田県の考古学』 郷土考古学叢書3 吉川弘文館 1966(昭和41)年
- 森吉町 「民俗資料ならびに考古学資料調査の協力依頼について」 『広報もりよし』 第127号 1968(昭和43)年
- 森吉町教育委員会 『諏訪岱遺跡～堤沢川流路溝工事に係る発掘調査報告～』 1992(平成4)年
- 森吉町教育委員会 『平成7年度埋蔵文化財発掘調査報告書～森吉山ダム建設事業に係る埋蔵文化財発掘調査～』 1996(平成8)年
- 森吉町教育委員会 『平成8年度埋蔵文化財発掘調査報告書～森吉山ダム建設事業に係る埋蔵文化財発掘調査～』 1997(平成9)年
- 森吉町教育委員会 『上悪戸D遺跡発掘調査報告書～比内・森吉線地方道改良工事に係る発掘調査～』
1997(平成9)年
- 秋田県教育委員会 『秋田県の中世城館』 秋田県文化財調査報告書第86集 1981(昭和56)年
- 秋田県教育委員会 『桂の沢遺跡発掘調査報告書－小滝阿仁前田停車場線地方道改良事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書－』 秋田県文化財調査報告書第247集 1994(平成6)年
- 秋田県教育委員会 『遺跡詳細分布調査報告書』 秋田県文化財調査報告書第270集 1997(平成9)年
- 秋田県教育委員会 『森吉家ノ前A遺跡－森吉山ダム建設事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書XVIII－』 秋田県文化財調査報告書第409集 2006(平成18)年
- 秋田県教育委員会 『地藏岱遺跡－森吉山ダム建設事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書XIX－』 秋田県文化財調査報告書第434集 2008(平成20)年

第3章 発掘調査の概要

第1節 遺跡の概観

森吉家ノ前A遺跡の発掘調査は、3次にわたり平成14年度(第1次)、平成15年度(第2次)、平成19年度(第3次)に実施した。調査範囲は概ね北東側から南西側に向かって傾斜した地形である。第1次調査では旧神社跡地を除く北東側の標高が高い部分を調査し、第2次調査では南西側の標高が低い部分の調査を行った。小又川に沿った段丘崖に近い幅20～30mの範囲(約5,500㎡)と旧神社跡地の丘陵は、工事用の材料運搬路や用地条件により第1次、第2次調査範囲から除外された。第3次調査はこの部分を対象として実施したものである。

遺跡は、昭和40年代の圃場整備で造成された25×80mほどの北東―南西に長い区画の水田で覆われている。第1次、第2次調査では、旧神社跡地周辺や小又川沿いの比較的標高の高い部分は圃場整備による削平が地山面まで及んでいて遺構はほとんど確認できなかった。遺跡の南側部分、西側の低い部分、盛土によって水田造成された東側部分、北側の沢状の地形部分では縄文時代前期から中世にかけての遺構が検出された。

第3次調査でも遺構の残存状況は同様である。小又川沿いの標高が高い平坦地では底面のみがわずかに残存する縄文時代の遺構が多く、分布している可能性がある中世以降の柱穴様ピットはほとんど残っていなかった。北側の森吉家ノ前C遺跡との間の低地には第1次調査で縄文時代前期の捨て場があることが分かっていたが、新たにこの低地で大溝1条、多数の柱穴様ピット群、カマド状の焼土遺構群、土坑群を検出した。旧神社跡地の丘陵上は削平が著しくなく、縄文時代前期から中世の遺構・遺物が残存していた。第2次調査範囲西側の低地では、掘立柱建物跡群、土坑群、焼土遺構群を検出した。

第2節 調査の方法

1 発掘調査

調査方法は第1次・第2次調査を踏襲し、第1次調査で設定したグリッドを拡張して設定した。原点杭(MA50: X座標5,285.000、Y座標-29,107.000)は第3次調査範囲の外となるが座標計算により調査に必要な範囲に4mメッシュの方眼杭を打設した。グリッドの呼称は第1次調査を踏襲した。

調査対象地が分散しているため、2調査区、5作業班の体制で併行して調査を進めた。調査区は小又川沿いの調査区を川側調査区、西側の調査区を山側調査区とした。作業班は川側調査区の下流側で比較的標高の高い平坦地を2班、上流側の低地を4班、旧神社跡地を神社班、山側調査区の北東部を1班、南西部を3班が担当した。

遺構は、5001からの通し番号を付して遺構種別を表す記号と組み合わせて呼称した。川側調査区は5001から、山側調査区は6001から番号を使用し、最終的に遺構ではないと判断されたものについては欠番とした。

第3章 発掘調査の概要

遺構の掘削は原則として半截または十字に土層観察用のベルトを残し、2分割法または4分割法による精査を行った。遺物は、グリッド単位または遺構単位で取り上げ、出土した層位、グリッド名または遺構名、出土年月日を記入した耐久性荷札を添付した。

平面図及び断面図は、原則として20分の1の縮尺で作成し、細部状況を表すために適宜10分の1の拡大図も作成した。実測図の作成はグリッド杭を基準として簡易遣り方測量によった。

発掘調査時の写真撮影は、遺構の検出状況・断面土層・完掘状況の順で撮影し、適宜、遺物の出土状況、遺構細部の拡大写真なども撮影した。また、広範囲の撮影、俯瞰状況での撮影にはローリングタワーを使用した。写真撮影は基本的に35mmカメラを用い、モノクロフィルム、カラーリバーサル(スライド用)フィルムを使用した。補助的にデジタルカメラも併用した。

2 室内整理

各遺構図は、現場で作成した図を第1原図とした。これをもとに平面図と断面図の整合を図った図を第2原図としてスキャニングし、Adobe社「PhotoshopCS3」・Adobe社「IllustratorCS3」を使用してトレースおよびレイアウトまでの作業を行った。遺物は、洗浄・注記の後、報告書に記載する遺物の選別を行い、基本的に原寸で実測図を作成した。報告書に掲載するに当たり適宜縮尺を変え、遺構図と同じソフト・ウェアを用いてトレースおよびレイアウトを行った。なお、土器片の図化は拓本をとったうえで遺構同様の処理を経てレイアウトした。遺構図・遺物図ともにレイアウトされたファイルが版下である。遺物写真は35mmカメラを用い、モノクロフィルムを使用した。

第3節 調査の経過

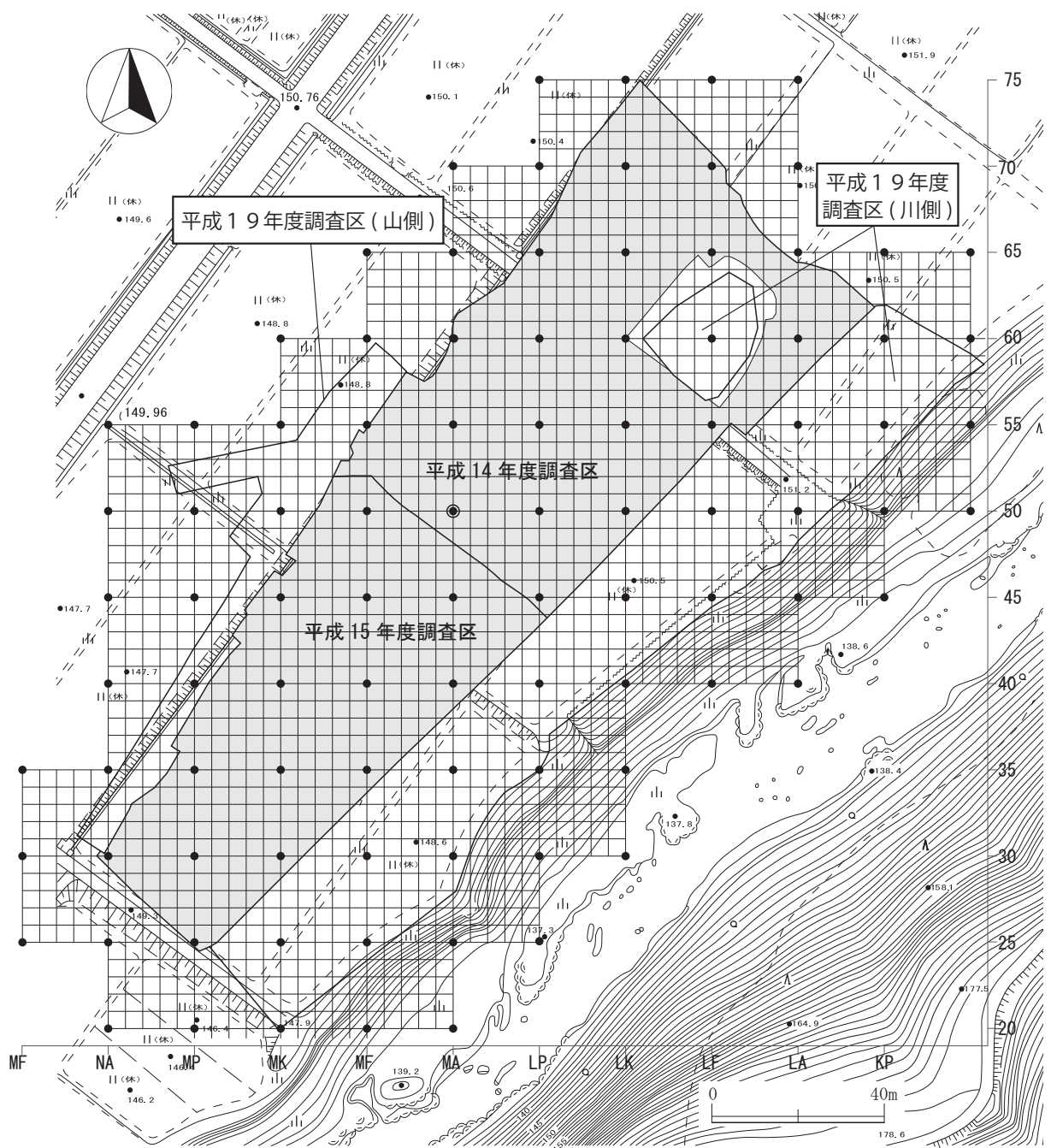
発掘調査は、平成19年5月15日～11月9日まで、調査員4名・作業員52名の体制で実施した。調査に先立ち、5月7日～18日に水準杭及び方眼杭打設を行った。

発掘作業は、旧表土及びその上の盛土を重機で除去した後、遺構検出から遺構精査まで、スコップや移植ゴテなどを使用して人力で掘削を行った。作業班を川側調査区、山側調査区北側、同南側の3班に編成し、併行して調査を行った。調査着手後、当初遺構分布が希薄と予想していた川側調査区北側の低地に遺構が密集していることが分かり、6月18日から作業班を再編して4班体制とし、この区域も併行して調査を行った。

9月1日、北秋田市教育委員会と共催で合同遺跡見学会を開催し、60名の来跡者に遺跡を公開した。

遺跡内で立ち入りができなかった旧神社跡地の用地条件が解決したことを受け、9月10日から作業班を5班に再編して調査に着手した。9月15日夜の集中豪雨では、発掘現場自体に被害はなかったものの作業員送迎バスの経路が寸断され、2日間の中断を余儀なくされた。山側調査区北側では、西端からさらに西側に遺構群が広がることがわかり、調査区拡張のための盛土除去後、9月20日からこの部分の調査を開始した。11月9日、国土交通省に現場を引き渡して発掘調査を終了した。

なお、各週毎の詳細な経過は第2表に掲載した。



第2図 グリット設定図

第2表 発掘調査経過表

週	期 間	川側		山側		調 査 経 過 と 作 業 内 容	特 記 事 項	
		南側	北側	旧神社跡地	北側			南側
1	5/15 - 5/18	○			○	○	発掘調査開始。作業班を3班に編制し人力の粗掘を開始した。	
2	5/21 - 5/25	○			○	○	川側は南側の削平範囲で盛土に含まれる遺物の採集を行った。山側は盛土除去、遺構確認を行った。	
3	5/28 - 6/1	○			○	○	川側は中央より上流側で著しい削平を受けている範囲の盛土を剥離し、遺構のない範囲は調査を終了した。山側は粗掘を継続した。	
4	6/4 - 6/8	○			○	○	山側調査区では土坑の半載に着手。板材を四角に組んだ井戸枠がある井戸跡を検出した。	
5	6/11 - 6/15	○			○	○	川側調査区で大溝のプランを検出した。山側調査区は盛土の除去を終了し、遺構検出、確認撮影を行った。	6/14 作業員の健康診断（前田集落基幹センター） 森吉山ダム工事事務所来跡視察。
6	6/18 - 6/22	○	○		○	○	作業班を再編し川側調査区北側に想定される縄文前期の捨て場範囲の粗掘に着手した。山側調査区は井戸跡や土坑を精査した。	
7	6/25 - 6/29	○	○		○	○	川側調査区北側で縄文前期の遺物包含層を検出した。山側調査区で井戸跡から小型の下駄1足が出土。柱穴を結んで建物跡のプラン認定作業を開始した。	6/28 森吉山ダム工事事務所来跡視察。
8	7/2 - 7/6	○	○		○	○	川側調査区では川岸に近い範囲に大型柱穴などの土坑や堅穴住居跡を検出。山側調査区では大型掘立柱建物跡を認定した。	7/2 大館北秋地区商工会女性部一行60名が発掘現場を見学。
9	7/9 - 7/13	○	○		○	○	川側調査区は地山面上で土坑群の検出を行った。山側調査区は掘立柱建物跡の柱穴精査を開始した。	
10	7/17 - 7/20	○	○		○	○	川側調査区南側の粗掘終了。堅穴住居跡、土坑、大溝などを検出した。山側調査区は井戸跡、土坑、掘立柱建物跡柱穴の精査を行った。	7/19 鷹巣南小学校6年生22名、引率者4名が発掘現場を見学。
11	7/23 - 7/27	○	○		○	○	川側調査区北側は中世の遺構面を確認。大型の焼土遺構、多数の柱穴を検出。山側調査区は掘立柱建物跡、井戸跡、土坑、柱穴の精査を行った。	7/25 ダム公開セミナー一行70名が発掘現場を見学。
12	7/30 - 8/3	○	○		○	○	川側調査区北側は中世の焼土遺構、大溝、柱穴多数が密集することが判明した。川側調査区南側と山側調査区は遺構精査を継続した。	7/31 旧神社跡地の調査条件整備に関する現地協議。（森吉山ダム工事事務所、埋文センター）
13	8/6 - 8/10	○	○		○	○	川側調査区北側は縄文前期の捨て場の掘り下げと、中世の大溝、土坑等の遺構精査を行った。川側調査区南側と山側調査区は遺構精査を継続した。	8/7 旧神社跡地の調査方法と条件整備に関する現地協議（森吉山ダム工事事務所、県文化財保護室、第2JV、埋文センター） 山側調査区の拡張について協議、指導。（県文化財保護室、埋文センター）
14	8/20 - 8/24	○	○		○	○	川側調査区北側は縄文前期の捨て場の掘り下げ、南側は縄文後期の堅穴住居跡の精査を行った。山側調査区は遺構精査を継続した。	
15							川側調査区北側で検出した土坑と溝跡の精査に着手した。川側調査区南側では大溝と焼失堅穴住居跡の精査も継続した。山側調査区は井戸跡、土坑、焼土遺構、柱穴の精査を継続した。	8/27 旧神社跡地表土除去開始。山側調査区拡張範囲に関する現地打ち合わせ（森吉山ダム工事事務所、第2JV、埋文センター）
16	8/27 - 8/31	○	○		○	○	川側調査区旧神社跡地の表土除去により、縄文時代の遺物、溝跡、埋設土器、焼骨出土地点、土坑など多数を検出し、全面に多量の遺構、遺物が残っていることが判明。	8/28 神社跡地の表土除去終了。 8/29 山側調査区拡張範囲の廃棄岩盛土除去作業開始。 8/30 ダム遺跡調査検討委員（岡村、藤沼、辻）現地指導。北秋田市教育委員会来跡。 8/31 ダム遺跡調査検討会議。県文化財保護室来跡。
17	9/1 - 9/7	○	○		○	○	川側調査区北側・南側、山側調査区南側の遺構精査を継続した。山側調査区北側は拡張区の盛土掘削により精査を休止した。	9/1 北秋田市発掘遺跡合同見学会（参加者計約60名） 9/3 山側調査区拡張範囲の盛土・表土除去開始。 9/4 山側調査区拡張範囲の盛土・表土除去終了 9/5 旧神社跡地のグリッド設定、杭・釘打設開始。 9/6 神社跡地のグリッド設定、杭・釘打設終了。 9/7 台風9号接近により、現場作業中止。
18	9/10 - 9/14	○	○	○	○	○	作業班を再編し、川側調査区旧神社跡地の調査を開始。遺構検出作業を行い埋設土器を伴う炉跡、溝跡を検出した。川側調査区北側・南側は遺構精査を継続した。山側調査区は下流側の精査をほぼ終了した。	9/13 東大大学院辻教授、院生2名が試料サンプリングのため来跡。
19	9/18 - 9/21	○	○		○	○	9月16・17日の集中豪雨により向様田D遺跡法面の崩落等の被害があった。当発掘現場内には被害はなかった。山側調査区北側の調査をほぼ1ヵ月ぶりに再開し、拡張範囲の遺構検出を行った。	9/18 集中豪雨で作業員送迎バス経路が確保できず、現場中止。（～19日） 9/20 高校初任者研修で鷹巣農林高校と米内沢高校の教諭各1名が来跡し発掘調査体験実習を行った。
20	9/25 - 9/28	○	○		○	○	川側調査区南側の川沿いの縁辺部で堅穴住居跡や土坑を検出し精査を行った。南端部では複式炉を検出した。旧神社跡地は遺構精査に着手した。山側調査区北側の拡張範囲は遺構検出作業を行い、土坑、焼土遺構、柱穴を検出した。	9/25 向様田D遺跡発掘作業員が合流し、合同で作業を行った。
21	10/1 - 10/5	○	○		○	○	川側調査区南側は堅穴住居跡の精査を継続し、旧神社跡地は焼骨片を含む小土坑を検出した。山側の調査区では中央部にある埋没谷の近くで井戸跡を検出し、他の遺構精査も継続した。	10/1 バスルート道路の一部復旧により経路変更。
22	10/9 - 10/12	○	○		○	○	川側調査区は西側縁辺に残る遺構の精査を行い中央部の遺構精査をほぼ終了した。北端部での柱穴の検出と精査を行った。旧神社跡地では片側にスロープのある大型柱穴を検出した。山側調査区は上流側と拡張区の遺構精査を行い、拡張範囲で検出した遺構群の精査をほぼ終了した。	10/12 鷹巣地方史研究会 約30名来跡、見学。
23	10/15 - 10/19	○	○		○	○	川側調査区北側の柱穴群と南側の縄文後期焼失堅穴住居跡及び中期複式炉の精査を行った。旧神社跡地は上層の遺構精査を終え地山漸移層までの掘り下げと遺構検出を行った。山側調査区北側は井戸跡と柱穴群の精査を行い柱根が残る柱穴を検出した。	10/16 北秋田市老人クラブ連合会女性委員140名来跡、見学。
24	10/22 - 10/27	○	○		○	○	川側調査区北側の柱穴群と南側の複式炉の精査を継続した。旧神社跡地は平安時代の堅穴住居跡の精査を行った。山側調査区は井戸跡と柱穴群の精査を行い、箸、種子、桜皮が出土した。	10/22 向様田D遺跡調査終了に伴い、遺物、機材等を搬入。
25	10/29 - 11/2	○	○		○	○	遺構内から採取した土壌の水洗を開始し、焼骨片、種実を採集した。	10/27 県民カレッジ現地学習50名来跡、見学。
26	11/5 - 11/9	○	○		○	○	川側調査区北側は柱穴群の精査を継続した。旧神社跡地は土坑群と縄文中期の堅穴住居跡の精査を行った。山側調査区北側は井戸跡の精査と柱穴群の完掘を行い柱根や礎盤の残るものを精査した。中央部埋没谷の埋土中で弥生時代の小規模な遺物包含層を検出した。遺構内から採取した土壌の水洗を継続した。	11/6 現地引き渡し協議。（森吉山ダム工事事務所、県文化財保護室、埋文センター）
26	11/5 - 11/9	○	○		○	○	全調査区の精査を終了した。全体の撤収作業を行った。	

第4章 調査の記録

第1節 基本層序

今回の発掘調査は地点が分散していること、第1次調査、第2次調査の基本土層と連続した土層観察ができる地点がなかったことから、各調査区毎に基本層序を把握し、その後に各地点間の相互対比を行った。基本土層図は、山側調査区の西壁と拡張範囲の北壁で作成した。さらに山側調査区中央部の埋没谷埋土は良好な状態で堆積土が観察できたので、その土層図を作成した。川側調査区では、北側の低地部を除き、平坦面から南側全体が著しい削平により地山が露出している状態であった。北側の低地で堆積土が残っている範囲について土層図を作成した(付図1)。土層の番号は、各地点に共通する基本的堆積をⅠ～Ⅴで表し、各地点における堆積土の細分をa～mで付加した。

各地点に共通する基本層序は次のとおりである。

- Ⅰ層 盛土。ダム工事のために廃棄岩を表土上に盛り立てた盛土は、調査区内は発掘調査前に重機で除去したが、山側調査区西壁には現れている。旧表土の水田造成は2枚ないし3枚の水田造成面があり、切土、盛土によって耕作土の改変が行われている。本来の地表面の標高が低い山側調査区と川側調査区の北側低地では水田造成盛土が厚く堆積している。
- Ⅱ層 旧表土。山側調査区中央部と川側調査区北側低地では大湯浮石層が認められる。大湯浮石層を含む平安時代以降、圃場整備による水田造成前に堆積した旧表土である。この層中から柱穴様ピットや土坑が掘り込まれているものが多い。
- Ⅲ層 平安時代前期以前の堆積土。大湯浮石層が堆積する前の堆積土である。山側調査区中央部ではこの層中に弥生時代の小規模な遺物包含層が認められた。川側調査区北側では、Ⅲ層下部で縄文前期の遺物を多量に含む堆積土がある。
- Ⅳ層 地山漸移層。地山とⅢ層の漸移部分である。川側調査区北側低地では縄文前期の捨て場はこの層より上位に形成されている。
- Ⅴ層 地山。山側調査区ではグライ化した細砂層で、北側ではこの層の直下が岩盤である。川側調査区平坦面も同様の細砂層であるがグライ化はしていない。北側低地では、礫混じりの粗砂層である。

第2節 川側調査区の検出遺構と遺物

1 掘立柱建物跡

SB5089掘立柱建物跡・SB5090掘立柱建物跡(第3・4図)

小又川沿いで比較的標高が高い平坦面の表土直下のV層(地山)上面で12基の柱穴を検出した。柱穴配置から方形の掘立柱建物跡2棟を推定した。2棟は重複するが新旧は不明である。

SB5189掘立柱建物跡の柱穴配置の規模は長軸3.0m、短軸は北西辺2.8m、南東辺2.6m、長軸方位はN-54°-Wである。柱穴の平面形は円形で、直径24cm~42cm、検出面からの深さは21cm~40cmである。柱穴内埋土から縄文土器の小破片が出土した。

SB5190掘立柱建物跡の柱穴配置の規模は長軸2.9m、短軸は北西辺2.1m、南東辺1.9m、長軸方位はN-53°-Wである。柱穴の平面形は円形で直径20~28cm、検出面からの深さ24cm~29cmである。柱穴内埋土から縄文土器の小破片が出土した。

この2棟の長軸方位がほぼ同じであることから、2棟は建て替えられたものと推測する。各時代の遺構分布状況から中世~近世の遺構と推定する。

2 竪穴住居跡

SI5060竪穴住居跡(第5・6・34・35・51・52図、図版4・20)

小又川沿いで比較的標高が高い平坦面の表土直下のV層(地山)上面で褐色土の不明瞭な円形プランを検出した。SK5085土坑と重複し本遺構が新しい。平面形は長軸6.17m、短軸5.67mの円形で、検出面から床面までの深さは約40cmである。床面中央に直径約1mの浅い掘り込みの地床炉がある。床面は平坦で、炉を囲む直径約3mの範囲は硬化している。柱穴は北西側の床面で9基を検出した。壁に沿ってほぼ等間隔に並ぶP1、P2、P3、P6、P9は支柱穴と推測する。

竪穴中央部の床面上に薄く堆積する10層黒色土は竪穴居住中の床面堆積土と推測する。9層~5層は地山土母材の堆積土で、竪穴の縁辺部に厚く中央部に薄く堆積する。竪穴住居廃絶後の埋め立て土と考える。この堆積層より上位の4層には焼土、炭化材が多量に含まれている。炭化材のレベルは9層~5層上面の傾斜により中心部に近いほど低く、周縁部では高くなる。炭化材は炉付近を中心に放射状の配列を示しており、上屋の垂木が組まれた状態で焼けたものとする。4層を覆う1~3層は地山土や礫を多く含み、埋め立て土と推定する。炉以外に床面の被熱が認められず、4層に含まれる炭化材が床面上を覆う5~9層の上にあることから、竪穴住居跡の上屋部材がそのまま焼け落ちたとは考えにくい。竪穴住居廃絶後、上屋の構造部材をあまり解体せずに周縁部から埋め立て、その途中で上屋の部材を焼却し、再び埋め立てを行ったと推測する。

遺物は、床面直上から大型破片が重なった状態で深鉢形土器(第35図1)が出土した。床面直上からは石皿(第51図4・5、第52図1)が出土した。第35図1は胴下半部の縄文が横走る深鉢形土器で口唇にも縄文が施文されている。そのほか埋め立て土に混入した土器の破片が埋土4層から上位に多く含まれていた。出土土器から本竪穴住居跡の廃絶時期は後期中葉と推定する。

SI5073竪穴住居跡(第6・35・36・37・52図、図版4・20)

小又川沿いで比較的標高が高い平坦面の表土直下のV層(地山)上面で黒褐色土の不明瞭な楕円形プ

ランを検出した。南東側は小又川に下る斜面となり残存しない。本遺構は重複するSK5081土坑より新しく、SK5082土坑より古い。平面形は現存径4.35m、推定径約4.5mの円形または隅丸方形で、検出面から床面までの深さは約45cmである。床面は平坦で、一部に硬化が認められる。炉は残存範囲では検出されなかった。柱穴は壁際で2基検出した。北東側のP1の上を覆うように、大木9式の深鉢形土器(第35図2)が出土したことから、竪穴住居跡廃絶後、柱を引き抜き土器を安置した廃絶儀礼があったものと推測する。

埋土は、下位～中位が地山土を母材とする埋め立て土、上位の黒褐色土は埋め立て後に生じた窪みに周辺地表土が流入したものとする。

遺物は床面直上から復元可能な土器が出土した。第35図2は柱穴(P1)を覆っていた土器で、LR縄文が充填されたH字状区画文と楕円形区画文が描かれている。区画文の内と外とが不分明な部分がある。文様施文手順は、沈線で下書き→縄文施文→下書き沈線・無文部磨り消し→区画沈線引き直しの順である。第37図1は小型注口土器である。内傾する無文の口縁部と縄文が施文された胴部の境界に横位列点文をめぐらし注口部を取り付けている。注口部付近の内外面にタール状物質が付着している。出土土器から本遺構の廃絶時期は縄文中期後葉大木9式期である。

SI5080竪穴住居跡(第7・36・37・38・52図、図版4・20・21)

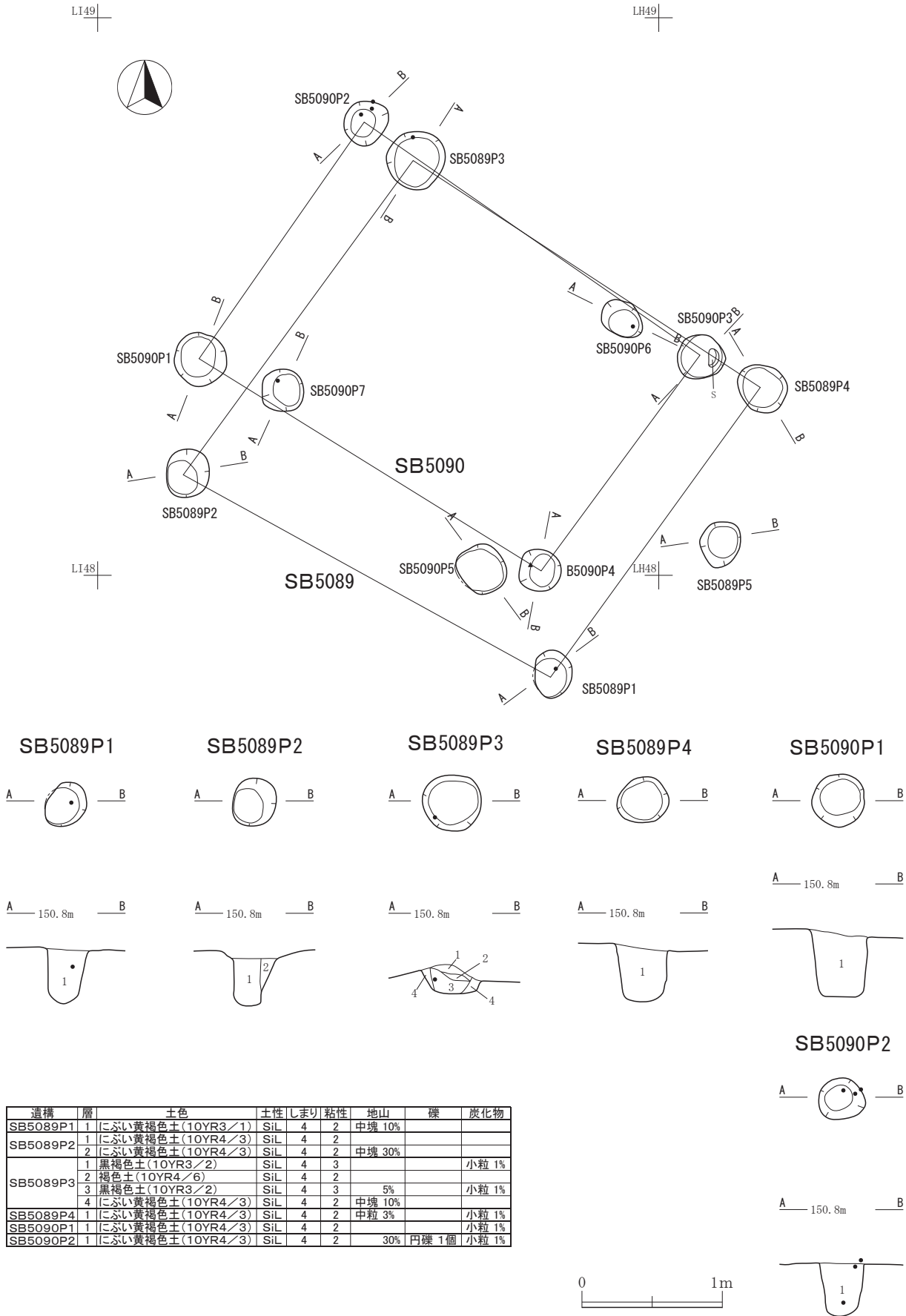
小又川沿いの平坦面の南端部付近、南東側に傾斜する緩斜面上部のV層上面で複式炉を検出し竪穴住居跡と認定した。削平が著しく複式炉のみが残存する。重複する遺構はない。

複式炉は土器埋設部、石組部、掘り込み部からなる。土器埋設部は深鉢形土器の下半部(第37図4)が正位でやや石組部側に傾斜して埋設され、土器を囲むように5cm程度の板状礫が6個立てて据えられている。同一個体の胴上半部(第36図2・第37図3)は石組部の埋め立て土中から大破片を敷き並べたような状態で出土した。石組部は深さ約25cmの小土坑の側壁に礫を置き、底面には厚さ2cm程度の板状礫を2枚～3枚敷き並べている。掘り込み部側に約30cmの扁平な円礫1個、南東側に30～50cmの扁平な円礫2個、北西側に20～30cmの円礫8個を用いている。石組部の内面は強く被熱している。掘り込み部の平面形は扇形で、側壁には石組部に連続して八の字形に大礫が据えられている。南東側には抜き取り穴があり、本来は両側が対称に2個ずつの礫があったと推測する。南東側の大礫付近が一段低く、浅いピットや側壁の大礫に平行に据えられた礫もある。底面は固く締まるが焼土や被熱痕はない。複式炉の長軸方位はN-78°-Eである。

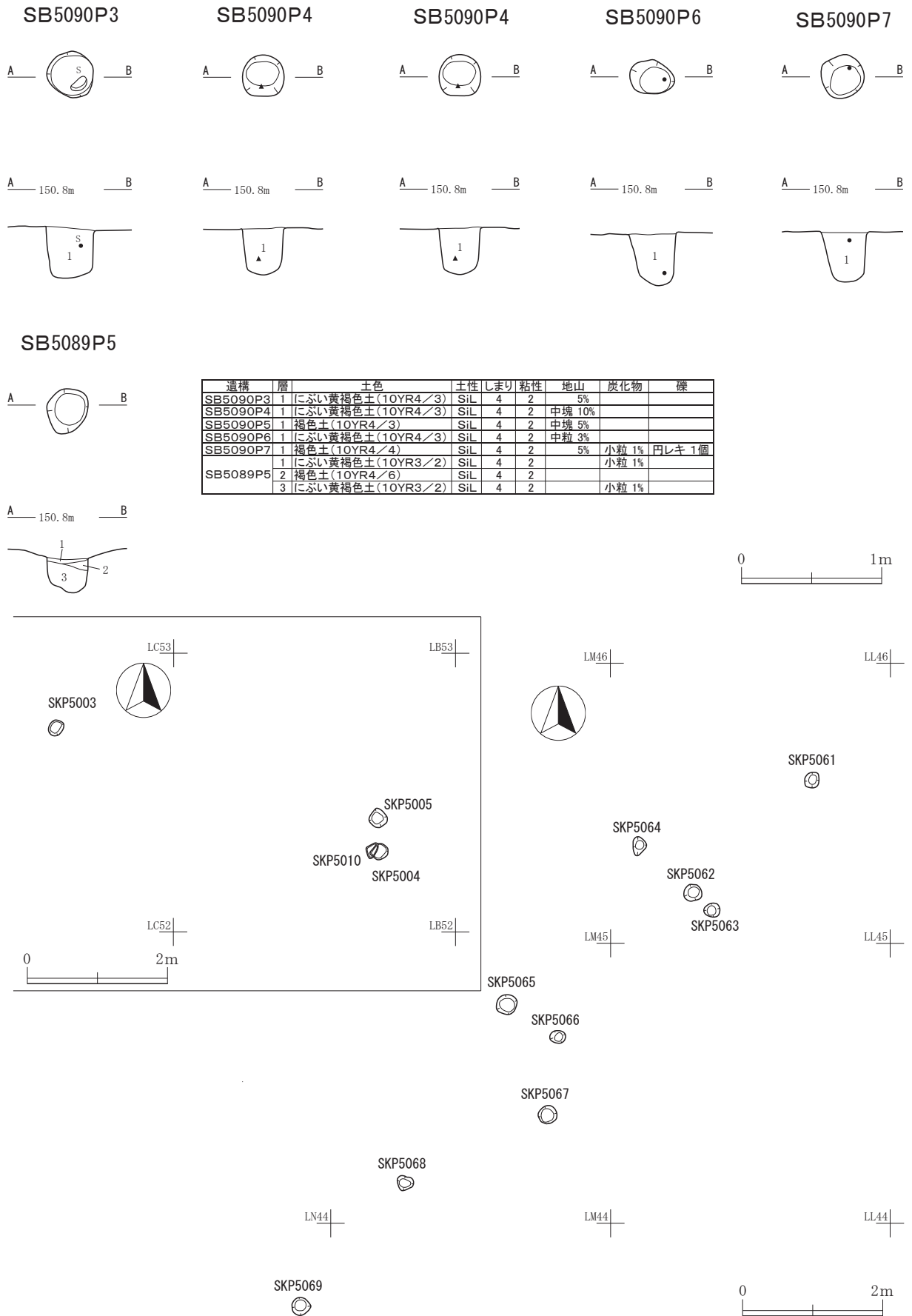
埋土は地山土を母材とするきわめて固く締まった土で、埋め立て土である。

遺物は、炉埋設土器の深鉢形土器胴下半部(第37図4)と同一個体の上半部(第36図2・第37図3)が石組部埋土から出土したほか、掘り込み部南東側の大礫から礫の抜き取り穴の上にかけて小型深鉢形土器(第38図1)が出土した。また、炉の東側、北側に近接して土器片がまとまって出土し、北側から出土した土器(第37図5)は深鉢形土器胴下半部に復元できた。

第36図2・第37図3・4は大型の深鉢形土器である。底径は比較的小さく胴部は底部から直線的に開いて立ち上がり、上部で屈曲して幅の広い口縁部が内傾する。口縁部は外反して大きく開き3単位の波状口縁となる。口縁部は無文、胴部は全面にRL縄文が縦位回転施文されている。口縁部と胴部の境界には2段の刺突列が巡り3か所に浅く大きい刺突痕がある。胴部には逆U字形懸垂文と縦位沈線が交互に描かれている。第37図5は胴上半部に波頭形または横S字形の沈線区画文が描かれ、区



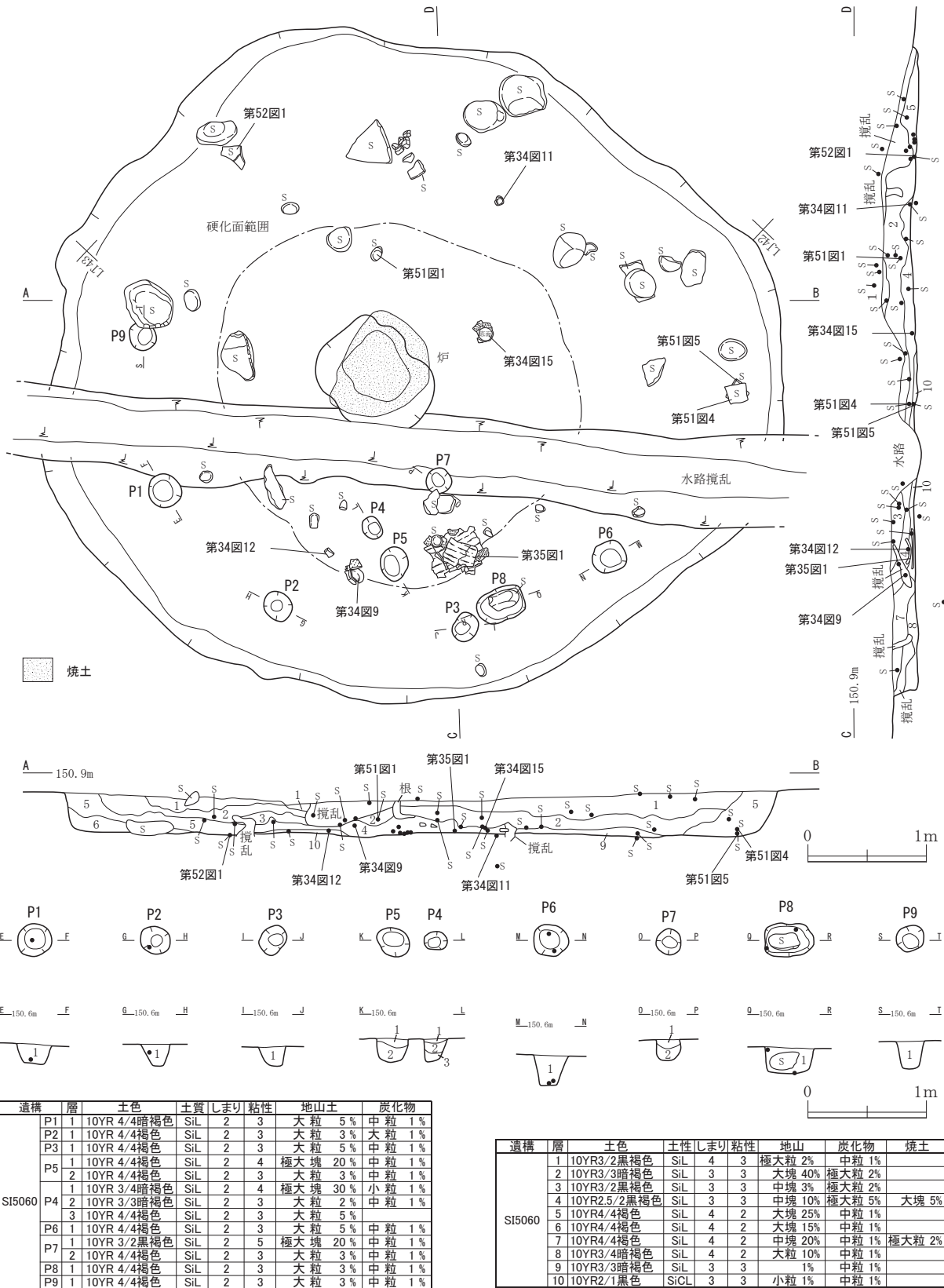
第3図 SB5089・SB5090掘立柱建物跡(1)



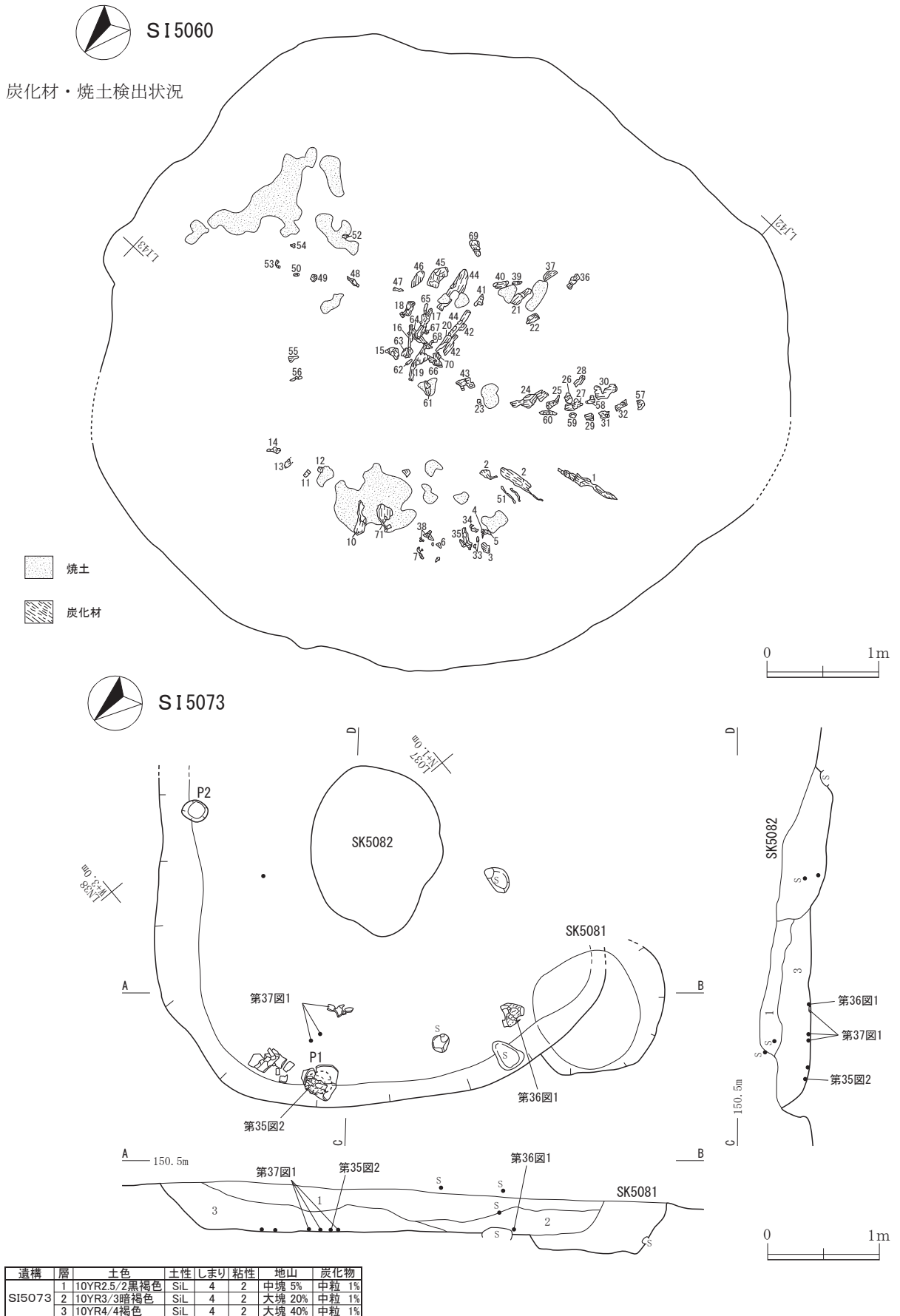
第4図 SB5089・SB5090掘立柱建物跡(2)、柱穴様ピット群



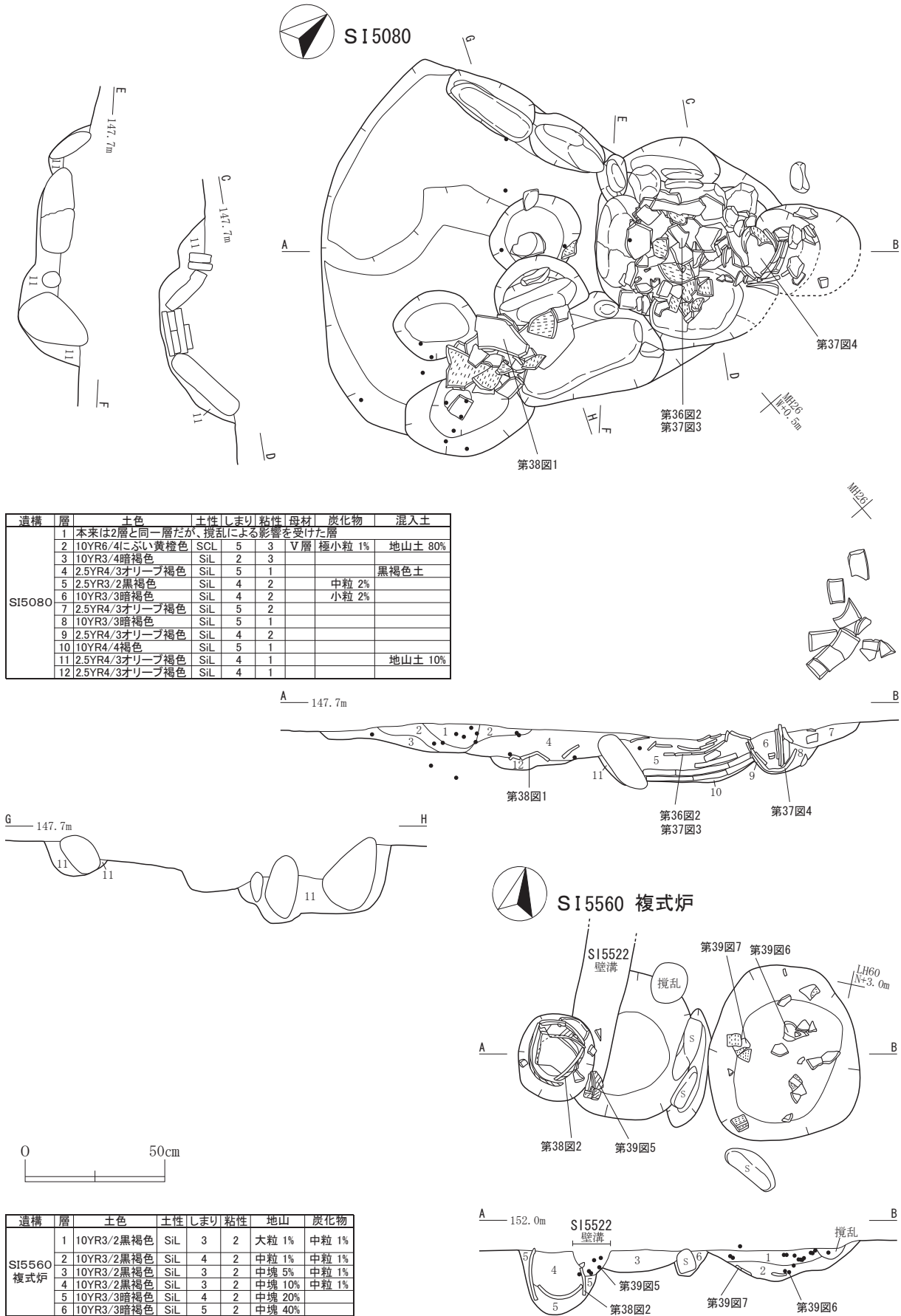
SI5060



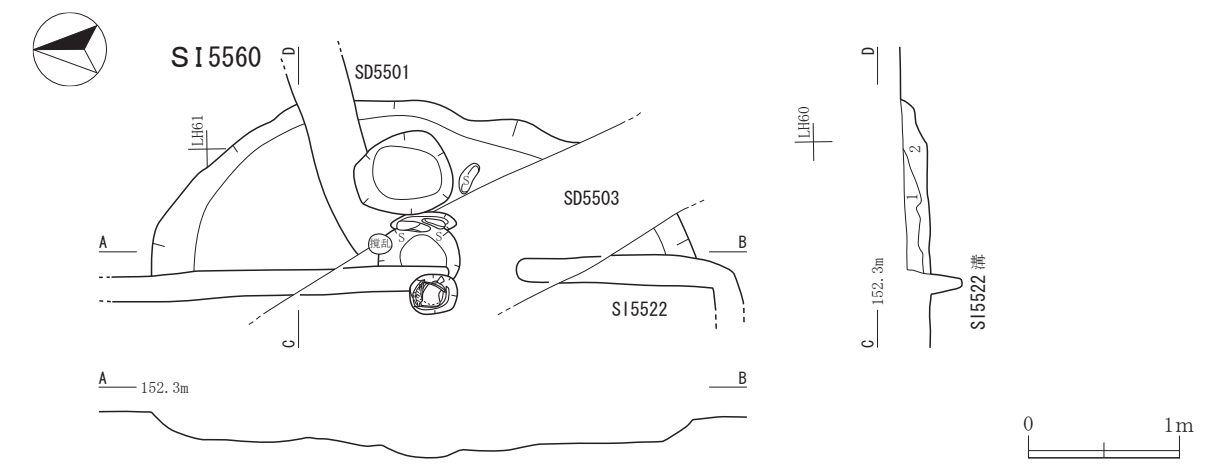
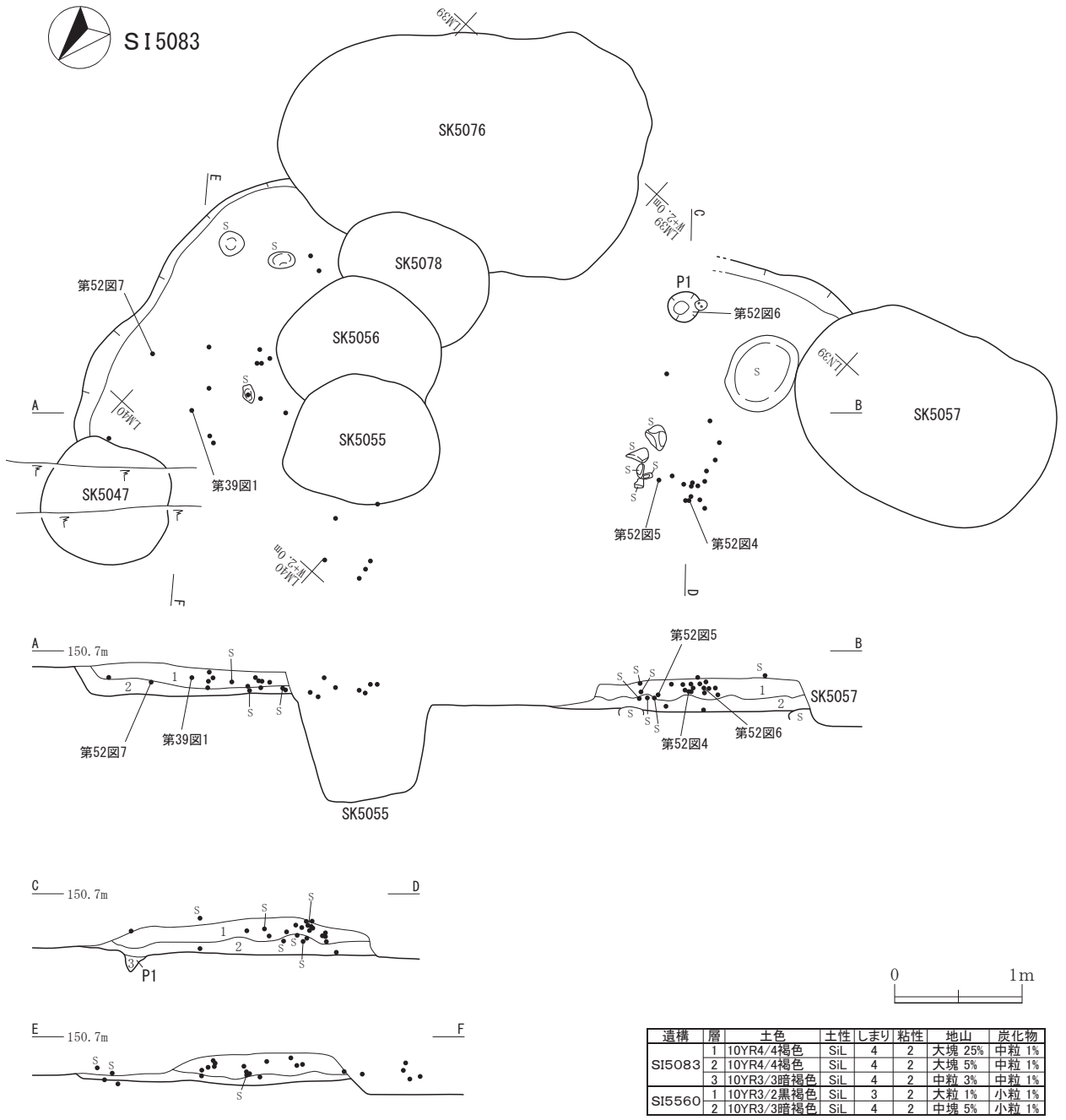
第5図 SI5060 縦穴住居跡(1)



第6図 SI5060竪穴住居跡(2)、SI5073竪穴住居跡



第7図 SI5080竪穴住居跡、SI5560竪穴住居跡複式炉



第8図 SI5083、SI5560竪穴住居跡

画文内と胴下半部にR L R縄文が施文されている。区画文が描出される胴上半部と縄文が施文される胴下半部とを分離して全周する沈線が不明瞭で、区画文の内外や区画文と胴下半部の縄文部との分離が不分明である。第52図3は薄い縦長剥片素材のスクレイパーである。末端側に刃部を作出している。複式炉内出土土器から本遺構の廃絶時期は中期後葉の大木9式併行期と考える。廃絶に伴い礫の一部を抜き去り完形土器を遺棄して炉を埋め立てており、廃絶儀礼があったものと推測する。

SI5083竪穴住居跡(第8・39・52図、図版4)

小又川沿いで比較的標高が高い平坦面の表土直下のV層(地山)上面で褐色土の不明瞭な半円形プランを検出した。北西側は耕地造成による削平を受け残存しない。本遺構は北東側をSK5047土坑、南東側をSK5055・SK5056・SK5076・SK5078土坑、西側をSK5057土坑に切られている。SK5053土坑、SK5054土坑は本遺構の推定範囲の中央から西側の範囲内に位置し本遺構と重複するが、前後関係は不明である。平面形は、現存径6.24m、推定径約7mの円形で、検出面から床面までの深さは約28cmである。床面は平坦である。炉は検出されなかった。柱穴は南東側の壁際で1基検出した。

埋土は地山土母材の褐色土で、埋め立て土と推測する。

遺物は、埋め立て土に混入して土器片、石器類が出土した。第39図1は口唇部にも縄文を施文する深鉢形土器で胴部の縄文は横走する。SI5060竪穴住居跡出土第35図1と類似する。第52図5は右側縁の鋭い縁辺を刃部とした不定形石器である。本遺構の廃絶時期は縄文後期中葉と推定する。

SI5522竪穴住居跡(第9・39・50図、図版4)

旧神社跡地の丘陵西端のV層(地山面)上面で黒褐色土の明瞭な方形プランの一部を検出した。北西側は丘陵の法面で大きく削り取られている。SD5501・SD5503溝跡、SK5568土坑、SKP5667・5668・5670柱穴様ピットと重複して本遺構が古く、SI5560竪穴住居跡より本遺構が新しい。

平面形は方形、現存長軸(東西)5.68m、現存短軸(南北)4.93m、検出面から床面までの深さは34cmである。本来は一辺6m程度の方形と推定する。軸線方向は真北方向にほぼ一致する。外周には幅約20cm、床面からの深さ10~25cmの壁溝が巡る。竪穴掘形の底面は凹凸が著しい。床は地山土と黒褐色土を混合した土を貼った平坦な貼り床である。残存範囲では柱穴はなかった。

東壁の南寄りにカマドの痕跡が認められた。長軸1.74m、短軸1.03m、床面からの深さ約10cmの浅い掘り込み(SI5522-SK1)の東側底面には焼土が堆積し、埋土中からは被熱礫や粘土が出土した。焼土はカマド燃焼部、礫や粘土は廃絶時に破壊し埋め立てたカマドの構築材の一部と考える。カマド煙道部はSD5503溝跡に切られ残存しない。

埋土1・2層は地山土塊が混じる黒褐色土で埋め立て土と推測する。3層は床面直上の一部に薄く堆積する黒色土で、竪穴住居居住中の有機物に由来する堆積土と考える。6層は貼り床である。

遺物は土師器甕の破片がカマド跡のSK1(第50図14・15)と東壁付近の床面上(第50図13)から出土した。また、重複するSI5560竪穴住居跡に由来する縄文中期後葉の土器片(第39図2~4)も出土した。本遺構の廃絶時期は出土土師器から10世紀後葉ころと推定する。

SI5560竪穴住居跡(第7・8・38・39図、図版5・21)

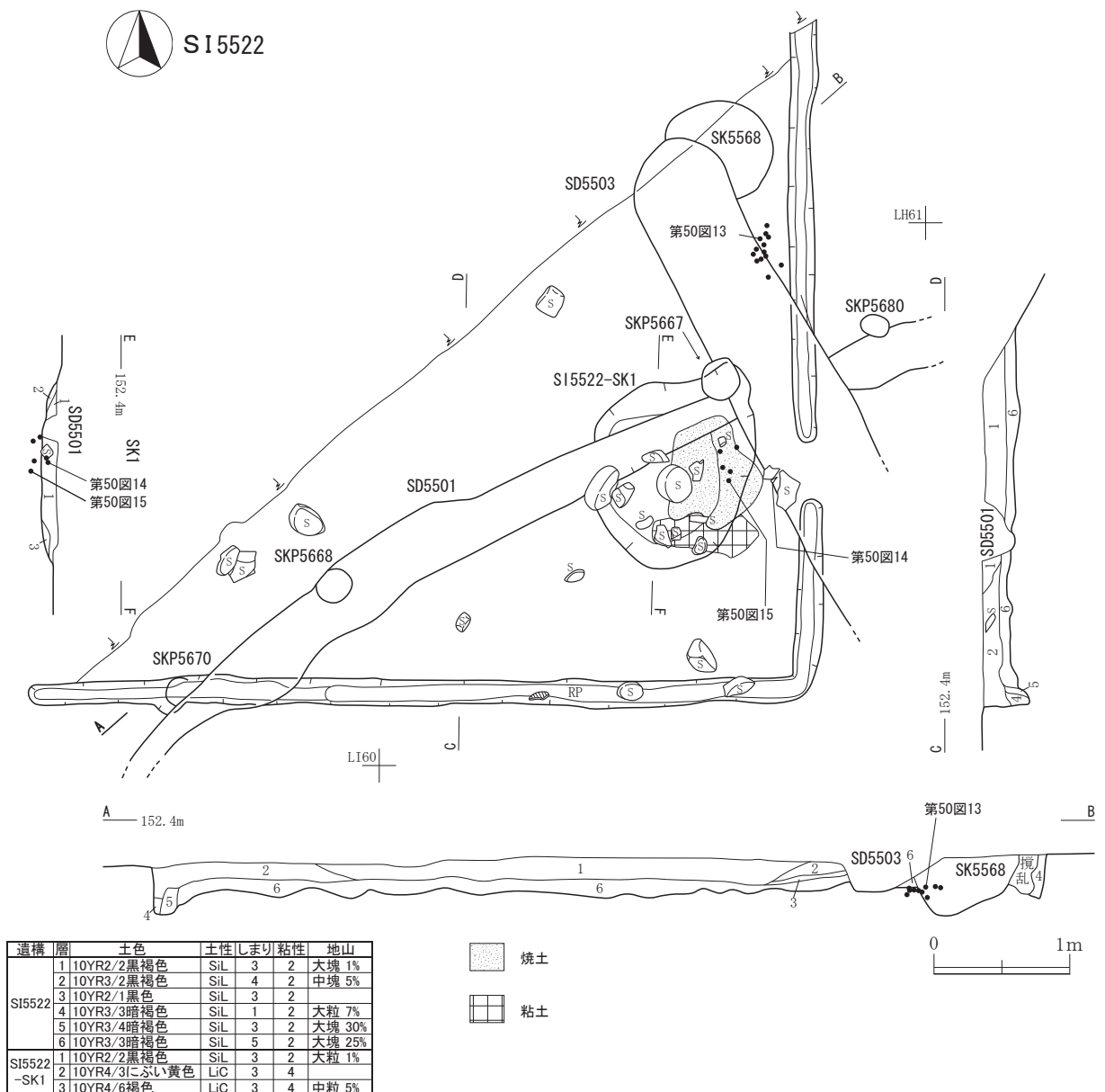
旧神社跡地の丘陵西端のV層(地山面)上面で平安時代のSI5522竪穴住居跡を精査中に検出した。SD5501・SD5503溝跡・SI5522竪穴住居跡と重複して本遺構が古い。西側の大部分をSI5522竪穴住居跡に切られるため全体形状は不明であるが、残存部の平面形は最大径3.57mの円形で、検出面か

らの深さは20cmである。本来は径約3mの円形と推定する。床面は平坦で特に硬化した範囲は認められなかった。残存範囲では柱穴はなかった。

東側壁際に土器埋設部と2か所の浅い掘り込み部からなる複式炉がある。土器埋設部は、長軸31cm、短軸27cm、床面からの深さ23cmの円形の掘り込みの中に、口縁部と底部を欠く深鉢形土器(第38図2)の大破片を少しずつ重ねて正位に埋設し底面にも破片を敷いている。土器埋設部の東側に連続する2か所の浅い掘り込み部の間には、幅約10cmの板状の円礫2個を立てている。土器埋設炉に隣接する掘り込みは最大径53cmの円形で底面が硬化している。さらに東側の掘り込みは長軸63cm、短軸54cmの楕円形で底面が著しく硬化している。複式炉の長軸方位はN-78°-Eである。

竪穴住居跡の埋土、炉内の埋土1~4層は埋め立て土、炉内の埋土5・6層は土器や礫を埋設した裏込め土と考える。

第38図2は炉埋設土器である。縄文を充填した楕円形区画文と逆U字状区画文が7単位描かれ、そ



第9図 SI5522竪穴住居跡

の間に縦位帯状区画文が配列されている。縄文部と無文部の境界が不分明で連続して縄文が施文されている部分がある。このほか、炉内埋土中から埋め立て時に混入した縄文中期後葉の土器片が出土した。第39図6・7は掘り込み部底面付近から出土した。口縁が外反し、口縁直下から胴部に縄文が充填された逆U字状区画文が描かれている。本遺構の廃絶時期は縄文中期後葉大木9式期と推定する。

3 土坑

川側調査区では、小又川沿いの標高が比較的高い平坦面の中央部で46基(SK5001土坑～SK5088土坑)、北端部の低地で34基(SK5103土坑～SK5154土坑)、旧神社跡地の丘陵上で26基(SK5509土坑～SK5568土坑)計106基の土坑を検出した。各土坑の属性は第6表に掲載した。

SK5001土坑(第10・40・53図、図版5)

壁がオーバーハングするフラスコ状土坑で、埋土は地山土が混じる埋め立て土である。土坑中位から板状の大礫、底面付近から磨製石斧(第53図2)が出土した。縄文時代前期の土坑墓と推定する。

SK5002土坑(第10・40図)

黒褐色土の明瞭な隅丸方形プラン及びその中央の直径約30cmの円形プランを検出した。第1次・2次調査で検出した中世の大型柱穴と考える。

SK5006土坑(第10・40図)

平面形は円形で、埋土は土坑をやや埋め立てた窪地で炭化物層が形成され、その後に再び埋め立てられている。時期、性格とも不明である。

SK5007土坑(第10図・40・53、図版5)

平面形は楕円形で、南西側壁はほぼ直立し北東側壁は緩やかに傾斜する。底面には硬化・グライ化した円形の柱あたりがある。埋土には縄文後期の土器片が多数混入するが、規模・形態から第1次・2次調査で検出した掘形の側縁がスロープとなる中世の大型柱穴と考える。

SK5008土坑(第11図、図版5)

黒褐色土の明瞭な楕円形プラン及びその中央の直径約30cmの円形プランを検出した。底面には硬化した円形の柱あたりがある。中世の大型柱穴と考える。

SK5009土坑(第11・40・53図、図版5)

黒褐色土の明瞭な円形プランを検出した。底面には硬化した円形の柱あたりがある。埋土には縄文後期の土器片が多数混入するが、規模・形態から中世の大型柱穴と考える。柱痕跡の断面形は上部が開いており、柱は抜き取られたと推測する。

SK5012土坑(第11図、図版5)

平面形は方形で、壁は直立またはわずかにオーバーハングする。底面中央には径約25cmの円形に硬化した柱あたりがある。中世の大型柱穴と推定する。柱は抜き取られたと推測する。

SK5013土坑(第11・40図、図版5)

平面形は円形で、底面付近から円筒下層c式土器がまとまって出土した(第40図9)。北西側では径約15cmの円礫が集積していた。埋土は地山土母材の埋め立て土である。縄文前期の土坑墓と考える。

SK5014土坑(第11図)

平面形は円形で、埋土は地山土母材の埋め立て土である。底面付近で長さ20cm以下の円礫が多数出土した。埋土中から円筒下層c式土器が出土した。縄文前期の土坑墓と考える。

SK5030土坑 (第11・40・53図)

平面形は円形で、底面には長さ25cm以下の円礫が多数分布する。埋土は地山土母材の埋め立て土である。埋土中には円筒下層c式土器が含まれている。縄文前期の土坑墓と考える。

SK5035 (第11図)

平面形は円形で、壁は直立気味に立ち上がる。埋土は地山土を含む埋め立て土である。剥片が1点出土した。埋め立てられていることから縄文時代の土坑墓と推測する。時期は不明である。

SK5037土坑 (第12図)

平面形は円形で、埋土は埋め立て土と推測する。剥片が1点出土した。時期、性格は不明である。

SK5038土坑 (第12図)、**SK5039土坑** (第12図)

平面形は円形で、埋土は埋め立て土と推測する。遺物は出土しなかった。時期、性格は不明である。

SK5040土坑 (第12・40・54図、図版6・21)

平面形は円形で、埋土は炭化物が混じる黒褐色土で、埋め立て土と考える。埋土中には多量の土器片が含まれている。第40図14は口唇外面に2条の沈線が巡り胴部に網目状撚糸文が施文された土器である。出土土器片139点中29点を占めるが、接合する破片がきわめて少なく、土坑外で土器を破碎し埋め立て土とともに破片を投入した可能性がある。第40図10は埋土上位から出土した小型の鉢形土器で、4単位の波状口縁の波頂部内外面に沈線で装飾を加え、胴部は不規則な横位沈線文が巡る。埋土中からは石鏃(第54図1)も出土した。縄文後期前葉の土坑墓と推定する。

SK5041土坑 (第12図)

平面形は円形で、埋土は埋め立て土と推測する。遺物は出土しなかった。時期、性格は不明である。

SK5042土坑・SK5043土坑 (第12図)

SK5042土坑がSK5043土坑を切っている。両土坑とも、平面形は円形で、埋土は埋め立て土と推測する。SK5042土坑から石核1点、SK5043土坑から縄文後期の土器片1点と拳大の円礫1点が出土した。SK5043土坑の状況から両土坑は縄文後期の土坑墓と推定する。

SK5044土坑 (第13・54図)

平面形は円形で、埋土は地山土母材の埋め立て土である。底面付近から石鏃1点(第54図2)と拳大の円礫が出土した。縄文前期又は後期の土坑墓と考える。

SK5045土坑 (第13図)

平面形は円形で、埋土は地山土母材の埋め立て土である。時期、性格は不明である。

SK5046土坑 (第13図、図版6)

平面形は円形で、壁がオーバーハングするフラスコ状土坑である。埋土は地山土母材の埋め立て土である。埋土中から縄文後期の土器片が出土した。縄文後期の土坑墓と推定する。

SK5047土坑 (第13・40図、図版6・21)

平面形は円形で、壁がオーバーハングするフラスコ状土坑である。埋土は地山土が混じる埋め立て土である。土坑中位から径約20cmの円礫2個と拳大の礫が出土したほか、礫近くで破片が分散した状態で小型鉢形土器(第40図15)が出土した。縄文時代後期の土坑墓と推定する。

SK5048土坑 (第13図)、**SK5050** (第13図)

平面形は円形で、埋土は地山土母材の埋め立て土である。底面付近から縄文後期の土器小破片が出

土した。縄文後期の土坑墓と考える。

SK5049土坑(第13図)、SK5051土坑(第13図)、SK5054土坑(第14図)

平面形は円形で、埋土は地山土母材の埋め立て土である。時期、性格は不明である。

SK5053土坑(第14・40図)

平面形は円形で、埋土は地山土母材の埋め立て土である。土坑検出面付近で縄文後期前葉の土器片が出土した。第40図17は波状口縁の小型深鉢形土器である。縄文後期前葉の土坑墓と推定する。

SK5055土坑・SK5056土坑・SK5078土坑・SK5076土坑(第14・41・42図、図版6・21)

土坑4基と竪穴住居跡1棟が重複する。新旧関係はSI5083竪穴住居跡→SK5076土坑→SK5078土坑→SK5056土坑→SK5055土坑である。

SK5055土坑は黒褐色土の明瞭な楕円形プランで、埋土1層は柱痕跡、2層・3層は円礫を詰め込んだ裏込め土と考える。埋土に縄文土器破片が混入するが、規模・形態から中世の大型柱穴と考える。柱痕跡の断面形は上部が開いており、柱は抜き取られたと推測する。

SK5056土坑は平面形が円形で、埋土は黒褐色土の埋め立て土である。底面付近から縄文後期前葉十腰内Ⅱ群の鉢形土器(第41図1)が出土した。縄文後期前葉の土坑墓と考える。

SK5078土坑は平面形が楕円形で、地山土母材の褐色土で多量の大礫とともに埋め立てられたと考える。埋土中から縄文後期前葉の土器が出土した。縄文後期前葉の土坑墓と考える。

SK5076土坑は大型の楕円形土坑である。北側壁の一部はオーバーハングする。埋土は地山土塊や大礫が多量に混じる埋め立て土である。埋土中から縄文後期前葉の十腰内Ⅱ群土器(第42図1・2)が出土した。縄文後期前葉の土坑墓と推定する。

SK5057土坑(第15・41図、図版6)

大型の楕円形土坑である。埋土は地山土母材の埋め立て土で、多量の大礫を含む。埋土中から縄文後期中葉の土器が出土した。第41図5・6・7はLR縄文が施文された深鉢形土器である。出土土器片47点中23点を占めるが接合する破片が少なく、土坑外で土器を破碎し埋め立て土とともに破片を投入した可能性がある。縄文後期中葉の土坑墓と考える。

SK5059土坑(第14・41図、図版6)

平面形は円形で、埋土は地山土母材の埋め立て土である。土坑内には大小の礫が投入されている。底面から縄文後期前葉の土器(第41図8)が出土した。縄文後期の土坑墓と考える。

SK5070土坑(第14図)

平面形は円形で、埋土は地山土母材の埋め立て土である。遺物は縄文後期前葉の土器片が出土した。縄文後期前葉の土坑墓と推定する。

SK5071土坑(第15・41・53・54図、図版6・21)

平面形は円形で、埋土は地山土母材の埋め立て土である。大量の礫も投入している。埋土中から小型壺形土器(第41図10)が出土した。縄文後期中葉の土坑墓で、土器は副葬品と考える。

SK5072土坑(第15・41図)

平面形は円形で、埋土は地山土が混じる埋め立て土である。大量の礫も投入している。埋土中から縄文後期中葉の壺形土器破片(第41図12・13)が出土した。縄文後期中葉の土坑墓と考える。

SK5074土坑 (第15図)

黒褐色土の不明瞭な方形プランで、埋土は地山土塊が多量に混入する埋め立て土である。埋土中から縄文中期後葉の土器片が出土した。時期、性格は不明である。

SK5075土坑 (第15図)

平面形は楕円形で、埋土は地山土が混じる埋め立て土である。埋土中から縄文中期後葉の土器小破片が出土した。時期、性格は不明である。

SK5079土坑 (第16図、図版6)

平面形は円形で、埋土は地山土が混じる埋め立て土である。埋土中から磨滅した縄文土器小破片が出土した。時期、性格は不明である。

SK5081土坑 (第16・54図)

平面形は円形である。埋土は黒褐色土に地山土が少量混じる埋め立て土で、礫も投入している。埋土中から石鏃(第54図5)、縄文中期後葉の土器片が出土した。縄文中期後葉の土坑墓と推定する。

SK5082土坑 (第16・42図、図版7)

平面形は円形で、埋土は地山土母材の土と大礫を多量に投入して埋め立てている。出土土器(第42図3)から縄文後期前葉の土坑墓と考える。

SK5085土坑、SK5086土坑、SK508土坑 (第16図)、**SK5088土坑** (第16図、図版7)

平面形は円形、全体の形状は円筒形である。底面中央部には硬化した円形の柱あたりがある。SK5085土坑はSI5060竪穴住居跡に切られている。縄文後期中葉以前の大型柱穴と考える。4基の土坑は、規模、形態が類似し近接するが、配置が不整で掘立柱建物跡のプランを復元するに至らなかった。

SK5103土坑 (第17・42図)

平面形は円形で、北西側の壁がオーバーハングする。埋土上位には焼土粒、炭化物粒、火山灰を含み、下位は地山土が多く混じる埋め立て土である。埋土に拳大の礫が3個と縄文後期土器片(第42図4)が混入していた。埋土の状態から中世の土坑墓と推定する。

SK5104土坑 (第17図)

平面形は円形で、底面は丸みを帯び、壁と底面の境界が不明瞭である。検出面上には大礫が散在する。埋土は地山土塊、焼土粒、炭化物粒、火山灰が混じる埋め立て土である。中世の土坑墓と考える。

SK5105土坑 (第17図、図版7)

平面形は円形で、底面は丸みを帯びる。検出面中央に大円礫が置かれていた。埋土は焼土粒、炭化物粒、火山灰が混じる埋め立て土である。底面から焼骨小片が出土した。中世の火葬骨を埋葬した土坑墓と推定する。

SK5106土坑 (第17図)

平面形は円形で、壁が屈曲し上端部が大きく開く。埋土上位には焼土粒、炭化物粒、火山灰を含み、下位は地山土が多く混じる埋め立て土である。中世の土坑墓と推定する。

SK5107土坑 (第17図、図版7)

平面形は円形で、底面はやや丸みを帯びる。埋土は焼土粒、炭化物粒、火山灰が混じる埋め立て土である。中世の土坑墓と推定する。

SK5109土坑(第17図、図版7)

平面形は円形で、底面は丸みを帯びる。南西側で約20cmの角礫が出土した。埋土は地山土塊、焼土粒、炭化物粒、火山灰が混じる埋め立て土である。中世の土坑墓と推定する。

SK5110土坑(第17図、図版7)

平面形は円形で、底面は丸みを帯びる。埋土は火山灰、地山土が混じる埋め立て土である。中世の土坑墓と推定する。

SK5111土坑(第17図、図版7)

平面形は円形で、底面はやや丸みを帯びる。埋土は火山灰、地山土が混じる埋め立て土である。埋土には大礫が7個詰め込まれている。中世の土坑墓と推定する。

SK5113土坑(第17図、図版7)

平面形は円形で、底面はやや凹凸がある。埋土は地山土母材で焼土粒、火山灰が混じる埋め立て土である。中世の土坑墓と推定する。

SK5114土坑(第18図)

平面形は円形で、底面はやや凹凸がある。埋土は地山土塊、焼土粒、炭化物、火山灰が混じる埋め立て土である。中世の土坑墓と推定する。

SK5115土坑(第18図)

平面形は円形で、底面はやや丸みを帯びる。埋土は火山灰、地山土が混じる埋め立て土である。埋土中から大礫が3個出土した。中世の土坑墓と推定する。

SK5116(第18図、図版7)

平面形は円形で、底面はやや丸みを帯びる。埋土は火山灰、地山土が混じる埋め立て土である。埋土中から大礫が5個出土した。中世の土坑墓と推定する。

SK5117土坑(第18図)

平面形は楕円形で、底面はやや凹凸がある。埋土は地山土母材で焼土粒、火山灰が混じる埋め立て土で、大礫が1個出土した。中世の土坑墓と推定する。

SK5124土坑(第18図、図版8)

平面形は楕円形で、底面は平坦である。埋土は焼土粒、炭化物粒、地山土粒、火山灰が混じる埋め立て土である。中世の土坑墓と推定する。

SK5127土坑(第18図、図版8)

平面形は円形で、底面はやや丸みを帯びる。埋土は焼土粒、炭化物粒、地山土粒、火山灰が混じる埋め立て土である。埋土中から礫が1個出土した。中世の土坑墓と推定する。

SK5128土坑(第18図)

平面形は円形で、底面はやや凹凸がある。埋土は焼土粒、炭化物粒、地山土粒、火山灰が混じる埋め立て土である。埋土中から角礫が2個出土した。1個は直立した状態であった。中世の土坑と推測するが性格は不明である。

SK5131土坑(第18図、図版8)

平面形は円形で、底面は平坦である。埋土は炭化物粒、地山土粒、火山灰が混じる埋め立て土で、埋土中から大礫が3個出土した。中世の土坑墓と推定する。

SK5132土坑 (第18図、図版8)

平面形は楕円形で、底面は丸みを帯びる。埋土は地山土塊、焼土粒、炭化物粒、小礫が混じる埋め立て土である。埋土中から大礫1個が出土した。中世の土坑墓と推定する。

SK5133土坑 (第18図、図版8)

平面形は円形で、底面はやや凹凸がある。埋土は地山土塊、炭化物粒、火山灰が混じる埋め立て土で、埋土中から大礫が1個出土した。中世の土坑墓と推定する。

SK5134土坑 (第18図)

推定平面形は円形で、底面はやや凹凸がある。埋土は地山土粒、炭化物粒、火山灰が混じる埋め立て土である。中世の土坑墓と推定する。

SK5135土坑 (第19図、図版8)

推定平面形は楕円形で、底面は凹凸がある。埋土は地山土塊、炭化物粒、火山灰が混じる埋め立て土である。検出面上で角礫が多数出土した。中世の土坑墓と推定する。

SK5136土坑 (第19図)

平面形は楕円形で、底面は丸みを帯びる。埋土は地山土塊、炭化物粒、火山灰が混じる埋め立て土である。中世の土坑墓と推定する。

SK5137 (第18図)

平面形は楕円形で、底面は丸みを帯びる。埋土は地山土粒、炭化物粒、火山灰が混じる埋め立て土である。中世の土坑墓と推定する。

SK5138土坑 (第19図)

平面形は円形で、底面は丸みを帯びる。埋土は炭化物粒、火山灰が混じる埋め立て土である。検出面上で大礫が1個出土した。埋土中に焼骨粉、焼骨の一部が含まれていた。中世の火葬骨を埋納した土坑墓と推定する。

SK5139土坑・SK5140土坑・SK5141土坑 (第19図)

3基とも推定平面形は円形で、底面は丸みを帯びる。埋土は地山土粒、炭化物粒、火山灰が混じる埋め立て土である。中世の土坑墓と推定する。

SK5144土坑 (第19図)

平面形は楕円形で底面はやや丸みを帯びる。北側は柱穴様ピットに切られている可能性がある。時期、性格は不明である。

SK5146土坑 (第19図)

平面形は楕円形で、底面は平坦である。埋土は地山土、炭化物粒が混じる埋め立て土である。中世の土坑墓と推定する。

SK5147土坑 (第19図)

平面形は楕円形で、底面は丸みを帯びる。埋土は地山土塊、炭化物粒、火山灰が混じる埋め立て土である。中世の土坑墓と推定する。

SK5148土坑 (第19図)

IV層(地山漸移層)上面で検出した。平面形は楕円形で、底面は平坦である。形態から中世の土坑墓と推測する。

SK5149土坑(第19図)

平面形は楕円形で、底面は丸みを帯びる。埋土は地山土、炭化物粒が混じる埋め立て土である。中世の土坑墓と推定する。

SK5153土坑(第19図)

平面形は楕円形で、底面は丸みを帯びる。形態から中世の土坑墓と推定する。

SK5154土坑(第19図)

平面形は円形で底面はやや丸みを帯びる。埋土は地山土、炭化物粒が混じる埋め立て土である。中世の土坑墓と推定する。

SK5509土坑(第20・120図、図版8)

平面形は長方形で、底面は平坦である。埋土は焼土塊、地山土塊、炭化物粒が多く混じる埋め立て土である。縄文前・中・後期の土器片も多数混入している。埋土中から熙寧元寶(第120図1)が出土した。中世の土坑墓と推定する。

SK5523土坑(第20図、図版8)

平面形は楕円形で、底面は丸みを帯びる。埋土は炭化物、焼骨片が混じる埋め立て土である。焼骨が多数出土したが一体分には満たない。中世の火葬骨を埋納した土坑墓と考える。

SK5525土坑(第20図、図版9)

平面形は隅丸長方形で、底面は丸みを帯びる。埋土は地山土塊、炭化物、焼骨片が混じる埋め立て土である。焼骨が多数出土したが一体分には満たない。中世の火葬骨を埋納した土坑墓と考える。

SK5529土坑(第20図)

平面形は円形で、底面はやや丸みを帯びる。埋土は地山土と焼骨片が混じる埋め立て土である。焼骨が少量出土した。中世の火葬骨を埋納した土坑墓と考える。

SK5531土坑(第20図)

推定平面形は隅丸長方形で、底面はやや丸みを帯びる。埋土は地山土塊が多く混じる埋め立て土で、縄文土器小破片と剥片が混入する。時期、性格は不明である。

SK5537土坑(第20・42図、図版9)

平面形は楕円形で、底面は平坦である。埋土は焼土塊、炭化物粒、地山土塊が多く混じる埋め立て土である。弥生前期の土器片(第42図7・8)が出土したことから、弥生前期の土坑墓と推定する。

SK5539土坑・SK5541土坑(第20図、図版9)、SK5540土坑(第20図)

平面形は円形で、底面はやや丸みを帯びる。埋土は焼骨片が混じる埋め立て土である。焼骨片が少量出土した。中世の火葬骨を埋納した土坑墓と考える。

SK5543土坑(第21図、図版9)

平面形は隅丸長方形で、北西側壁はほぼ直立し南東側壁は緩やかに傾斜する。底面には硬化した円形の柱あたりがある。柱がなくなった後に堆積した1層に骨片と大礫が含まれている。第1次・2次調査で検出した掘形の一側縁がスロープとなる中世の大型柱穴と判断する。

SK5549土坑(第20図、図版9)

平面形は楕円形で、底面は丸みを帯びる。埋土は地山土塊、炭化物粒が混じる埋め立て土である。埋土中から大礫が1個出土した。中世の土坑墓と推定する。

SK5550土坑 (第21・119図、図版9・26)

平面形は楕円形で、底面はやや凹凸がある。黒色土単層の埋め立て土である。検出面上で大型の板状礫が出土した。埋土中からは鉄釘(第119図1)が出土した。中世の土坑墓と推定する。

SK5551土坑 (第21図)

平面形は楕円形で、底面は丸みを帯びる。埋土は地山土塊が混じる埋め立て土である。中世の土坑と推測するが性格は不明である。

SK5552土坑 (第21・54図、図版9)

平面形は楕円形で、底面は平坦である。埋土は地山土塊が混じる埋め立て土である。検出面上で板状礫、埋土中から全面が磨面の凹石(第54図11)が出土した。中世の土坑墓と推測する。

SK5553土坑 (第21図)

平面形は円形で、底面は丸みを帯びる。埋土は地山土塊が混じる単層の埋め立て土で、縄文土器小片が混入する。形態から中世の土坑墓と推測する。

SK5554土坑 (第22・42図、図版10)

平面形は楕円形で、北側壁はほぼ直立し南側壁は緩やかに傾斜する。底面には硬化した円形の柱あたりがある。埋土には縄文前期から弥生前期(第42図9)までの土器片が混入していた。第1次・2次調査で検出した掘形の側縁がスロープとなる中世の大型柱穴と判断する。柱痕跡の断面形は上部が開いており、柱は抜き取られたと推測する。

SK5555土坑 (第21図)

平面形は楕円形で、底面は平坦である。埋土は地山土が混じる単層の埋め立て土である。時期、性格は不明である。

SK5556土坑 (第22図)

平面形は円形で、底面はやや凹凸がある。埋土は地山土塊、炭化物粒が混じる単層の埋め立て土である。形態から中世の土坑墓と推定する。

SK5557土坑 (第22図、図版10)

平面形は円形で、底面はやや凹凸がある。埋土は地山土塊が混じる単層の埋め立て土である。検出面上で大礫が1個出土した。中世の土坑墓と推定する。

SK5561土坑 (第21図)

推定平面形は楕円形で、底面は平坦である。埋土は地山土塊が混じる単層の埋め立て土である。中世の土坑墓と推定する。

SK5562土坑 (第21図)

平面形は楕円形で、全体の形状は円筒形である。底面には硬化した円形の柱あたりがある。中世の大型柱穴と判断する。埋土は裏込め土が崩落した様相が認められ、柱は抜き取られたと推測する。

SK5564土坑 (第22図、図版10)

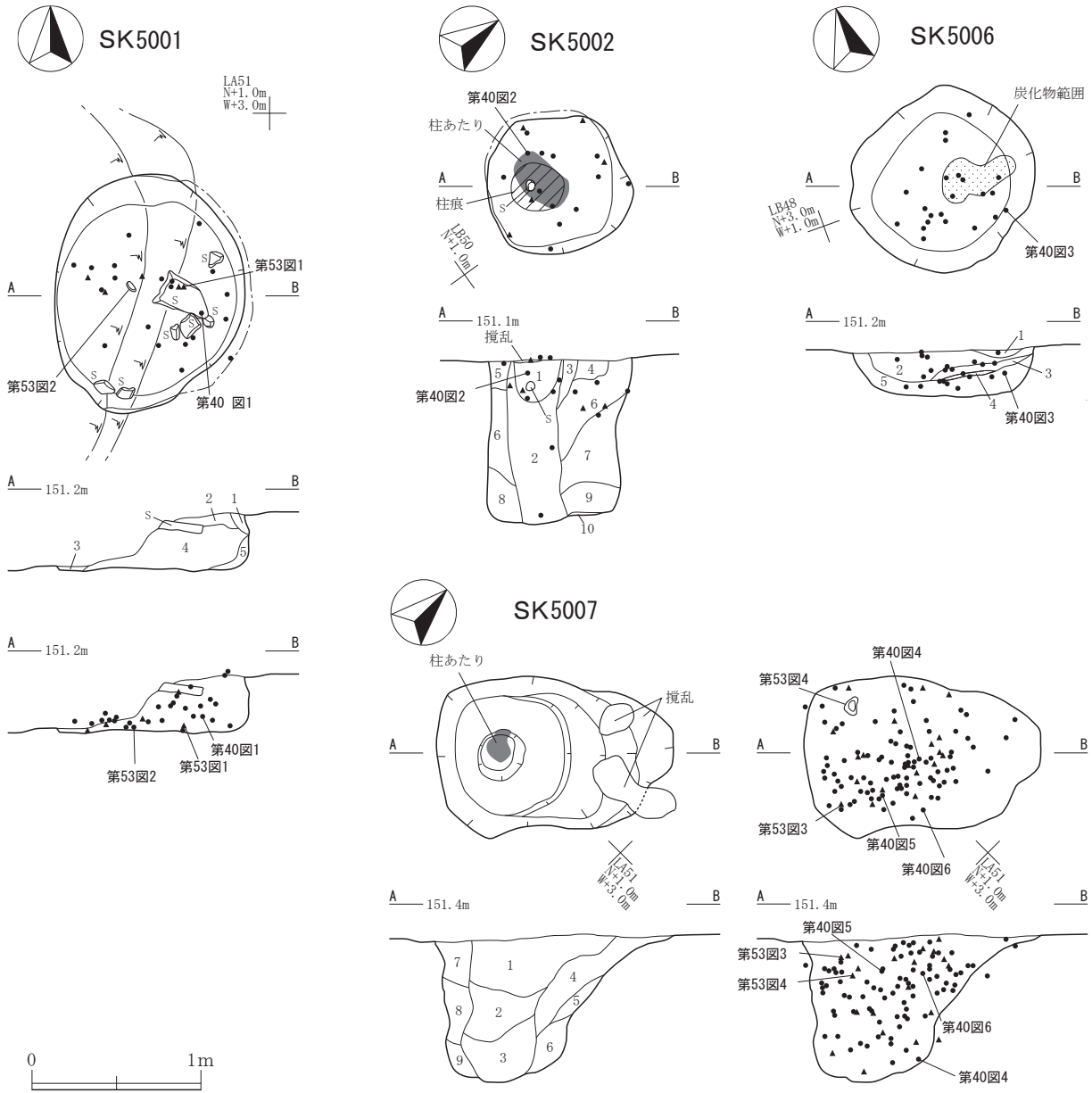
平面形は楕円形で、東西両側が緩やかに傾斜し中央部が楕円形に窪んでいる。埋土1層は柱痕跡、2層以下は裏込め土で、掘形の両側縁がスロープとなる中世の大型柱穴と推定する。

SK5565土坑 (第22・42図、図版10)

平面形は円形で、埋土は地山土塊が多く混じる埋め立て土である。土坑中央部上位に大形の円礫・板

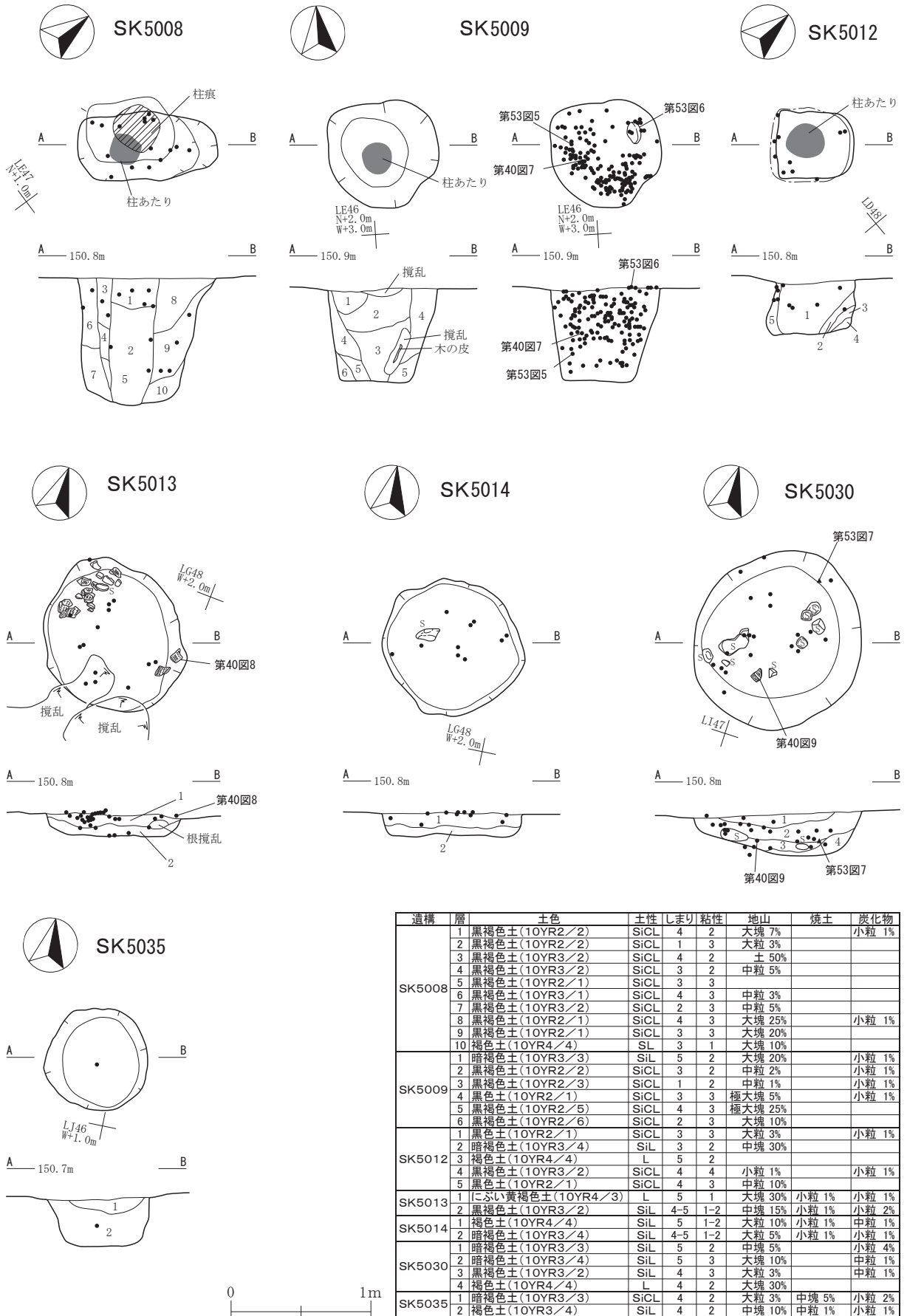
(41頁につづく)

第4章 調査の記録



遺構	層	土色	土性	しまり	粘性	混入土	地山	焼土	炭化物
SK5001	1	にぶい黄褐色土(10YR4/3)	L	4	1		中塊 40%		
	2	黒褐色土(10YR2/2)	SiL	4	3		中塊 5%		
	3	褐色土(10YR4/4)	SL	4	1	黒褐色土 10%			
	4	暗褐色土(10YR3/3)	SiL	4	2				小粒 1%
	5	褐色土(10YR4/4)	SiL	4	2		中塊 10%		小粒 1%
SK5002	1	黒色土(10YR2/1)	SiC	4	3		小粒 1%		小粒 1%
	2	黒褐色土(10YR3/2)	SiCL	1	3				
	3	暗褐色土(10YR3/3)	SiL	4	2	黒褐色土中粒 3%	大粒 30%		
	4	黒褐色土(10YR2/2)	SiCL	4	3		中粒 3%		小粒 1%
	5	黒褐色土(10YR2/2)	SiCL	4	3		中塊 25%		小粒 1%
	6	黒褐色土(10YR2/2)	SiL	3	3		大塊 10%		小粒 1%
	7	褐色土(10YR4/4)	L	3	2	黒褐色土中粒 3%	大塊 15%		
	8	黒褐色土(10YR3/2)	SiCL	3	3		大塊 20%		小粒 1%
	9	褐色土(10YR4/6)	L	3	2		大塊 10%		
	10	黒褐色土(10YR2/2)	SiL	3	3		中塊 5%		
SK5006	1	黒褐色土(10YR2/2)	SiCL	4	3			小粒 1%	小粒 1%
	2	黒褐色土(10YR3/2)	SiCL	4	2		大塊 30%	小粒 1%	中粒 3%
	3	黒褐色土(10YR2/2)	SiCL	4	2		中粒 1%		小粒 1%
	4	黒色土(10YR2/1)	SiCL	3	2				小粒 5%
	5	にぶい黄褐色土(10YR4/3)	SiL	3	2		中粒 10%		中粒 2%
SK5007	1	黒褐色土(10YR2/2)	SiL	4	3		小粒 1%		小粒 1%
	2	黒褐色土(10YR3/2)	SiL	2	3				
	3	黒褐色土(10YR2/2)	SiL	2	3		中粒 3%		
	4	黒褐色土(10YR3/2)	SiL	4	3		中塊 7%		小粒 1%
	5	黒褐色土(10YR3/2)	SiL	4	3		中塊 10%		
	6	暗褐色土(10YR3/3)	SiL	3	3		中粒 5%		
	7	黒褐色土(10YR3/1)	SiL	5	2		大塊 15%		
	8	黒褐色土(10YR2/2)	SiL	4	3		大塊 10%		
	9	褐色土(10YR4/4)	SiL	3	2		大塊 25%		

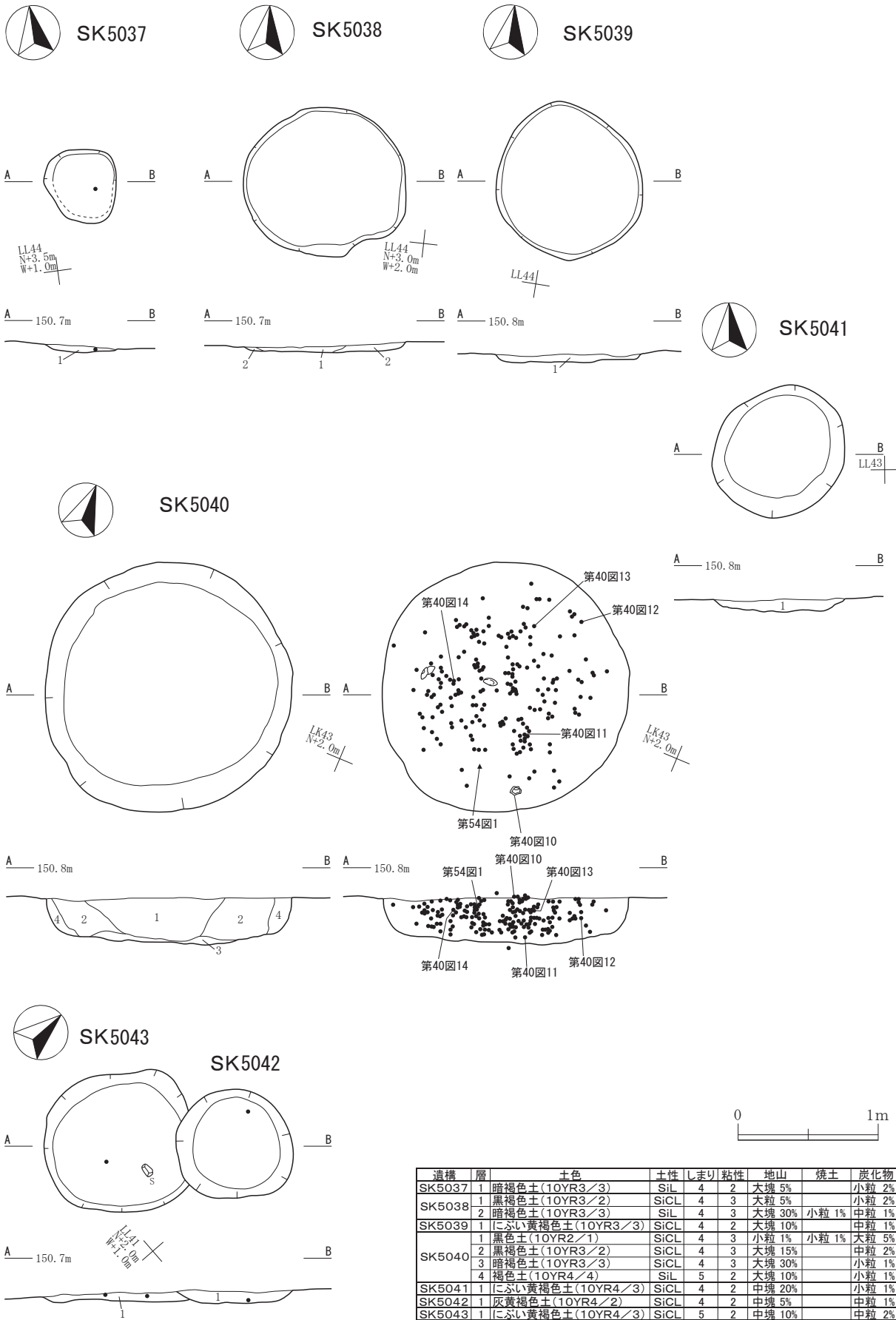
第10図 SK5001、SK5002、SK5006、SK5007土坑



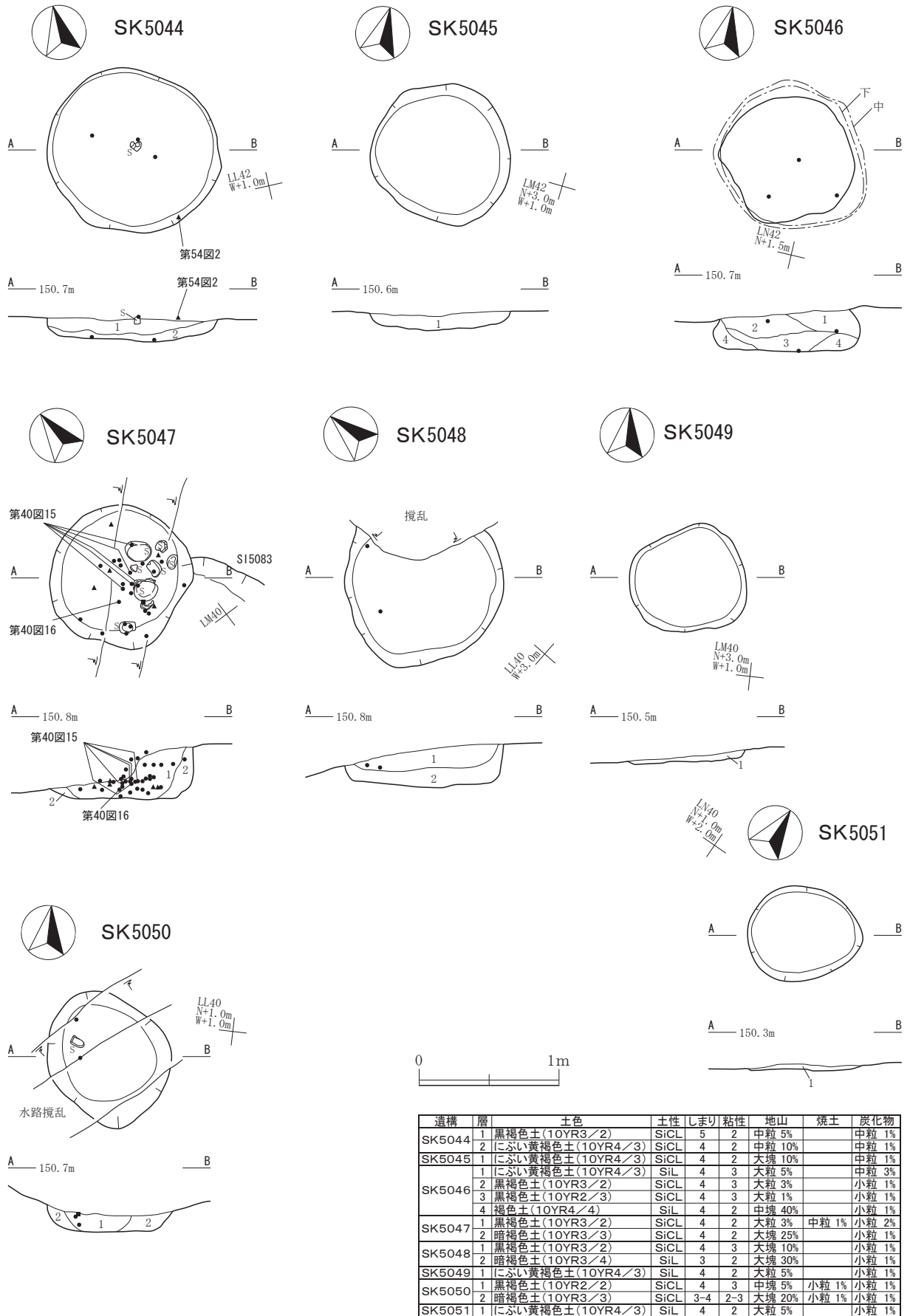
第11図 SK5008、SK5009、SK5012、SK5013、SK5014、SK5030、SK5035土坑

遺構	層	土色	土性	しまり	粘性	地山	焼土	炭化物
SK5008	1	黒褐色土(10YR2/2)	SiCL	4	2	大塊 7%		小粒 1%
	2	黒褐色土(10YR2/2)	SiCL	1	3	大粒 3%		
	3	黒褐色土(10YR3/2)	SiCL	4	2	土 50%		
	4	黒褐色土(10YR3/2)	SiCL	3	2	中粒 5%		
	5	黒褐色土(10YR2/1)	SiCL	3	3			
	6	黒褐色土(10YR3/1)	SiCL	4	3	中粒 3%		
	7	黒褐色土(10YR3/2)	SiCL	2	3	中粒 5%		
	8	黒褐色土(10YR2/1)	SiCL	4	3	大塊 25%		小粒 1%
	9	黒褐色土(10YR2/1)	SiCL	3	3	大塊 20%		
	10	褐色土(10YR4/4)	SL	3	1	大塊 10%		
SK5009	1	暗褐色土(10YR3/3)	SiL	5	2	大塊 20%		小粒 1%
	2	黒褐色土(10YR2/2)	SiCL	3	2	中粒 2%		小粒 1%
	3	黒褐色土(10YR2/3)	SiCL	1	2	中粒 1%		小粒 1%
	4	黒色土(10YR2/1)	SiCL	3	3	極大塊 5%		小粒 1%
	5	黒褐色土(10YR2/5)	SiCL	4	3	極大塊 25%		
	6	黒褐色土(10YR2/6)	SiCL	2	3	大塊 10%		
SK5012	1	黒色土(10YR2/1)	SiCL	3	3	大粒 3%		小粒 1%
	2	暗褐色土(10YR3/4)	SiL	3	2	中塊 30%		
	3	褐色土(10YR4/4)	L	5	2			
	4	黒褐色土(10YR3/2)	SiCL	4	4	小粒 1%		小粒 1%
	5	黒色土(10YR2/1)	SiCL	4	3	中粒 10%		
SK5013	1	にぶい黄褐色土(10YR4/3)	L	5	1	大塊 30%	小粒 1%	小粒 1%
	2	黒褐色土(10YR3/2)	SiL	4-5	1-2	中塊 15%	小粒 1%	小粒 2%
SK5014	1	褐色土(10YR4/4)	SiL	5	1-2	大粒 10%	小粒 1%	中粒 1%
	2	暗褐色土(10YR3/4)	SiL	4-5	1-2	大粒 5%	小粒 1%	小粒 1%
SK5030	1	暗褐色土(10YR3/3)	SiL	5	2	中塊 5%		小粒 4%
	2	暗褐色土(10YR3/4)	SiL	5	3	大塊 10%		中粒 1%
	3	黒褐色土(10YR3/2)	SiL	4	3	大粒 3%		中粒 1%
	4	褐色土(10YR4/4)	L	4	2	大塊 30%		
SK5035	1	暗褐色土(10YR3/3)	SiCL	4	2	大粒 3%	中塊 5%	小粒 2%
	2	褐色土(10YR3/4)	SiL	4	2	中塊 10%	中粒 1%	小粒 1%

第4章 調査の記録

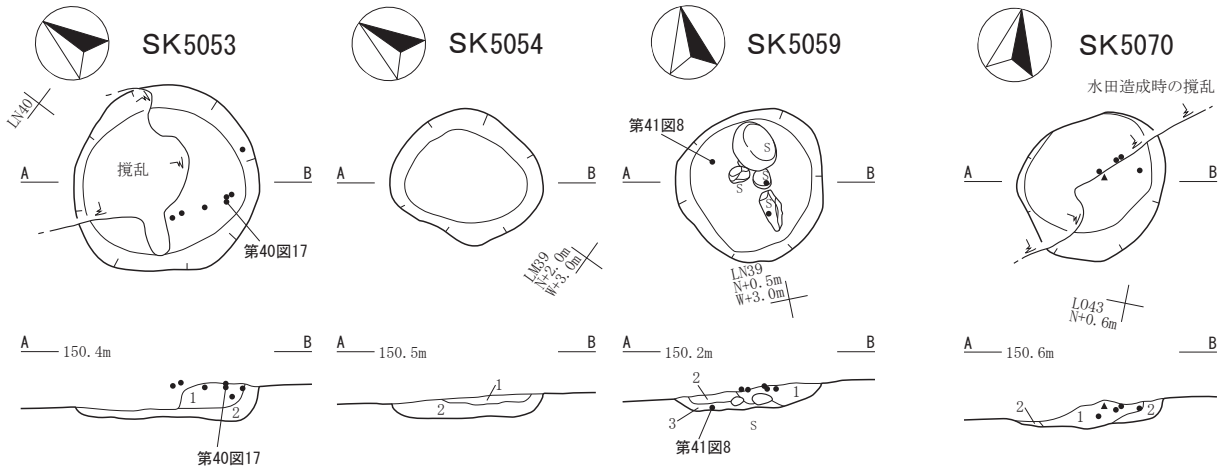


第12図 SK5037、SK5038、SK5039、SK5040、SK5041、SK5042・SK5043土坑

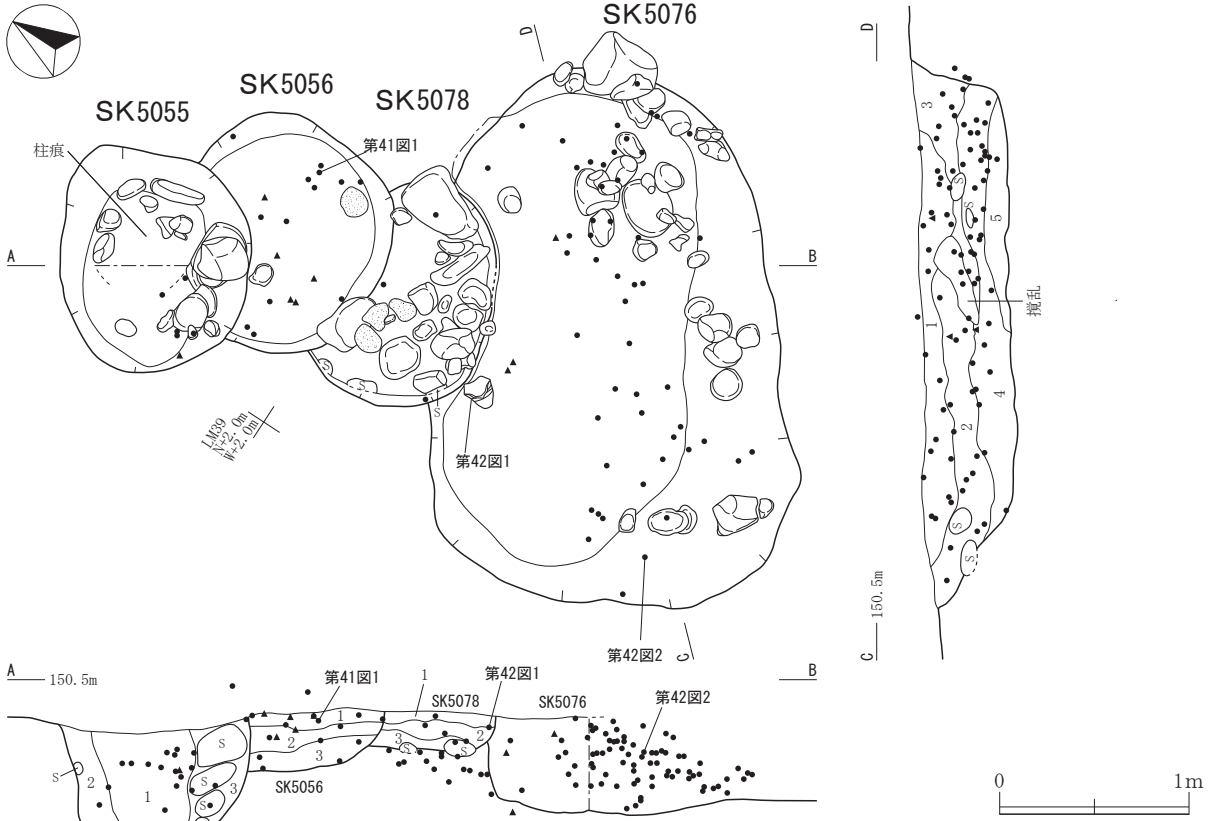


第13図 SK5044、SK5045、SK5046、SK5047、SK5048、SK5049、SK5050、SK5051土坑

第4章 調査の記録

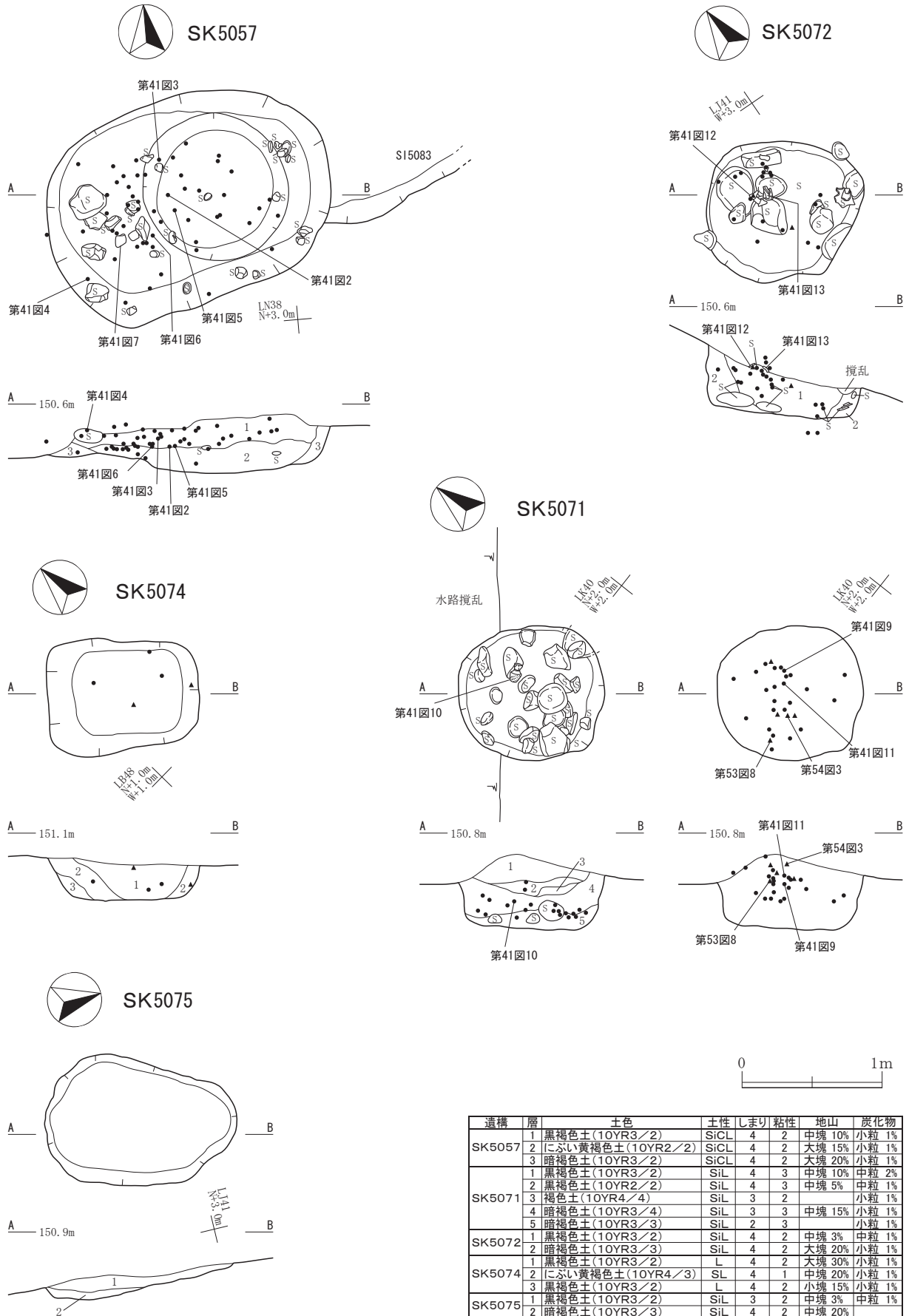


遺構	層	土色	土性	しまり	粘性	地山	焼土	炭化物
SK5053	1	にぶい黄褐色土(10YR4/3)	SiCL	4-5	2-3	大塊 25%		中粒 1%
	2	褐色土(10YR4/4)	SiCL	4	2-3	大塊 30%		中粒 1%
SK5054	1	にぶい黄褐色土(10YR4/3)	SiL	3	2	大粒 15%	小粒 1%	小粒 1%
	2	褐色土(10YR4/4)	SiL	4	2	大塊 25%		小粒 1%
SK5059	1	褐色土(10YR4/4)	SiL	4	2	大塊 30%	小粒 1%	小粒 1%
	2	暗褐色土(10YR3/4)	SiL	4	2	大塊 30%		小粒 1%
SK5070	3	黒褐色土(10YR3/2)	SiCL	4	3	大塊 5%		小粒 1%
	2	暗褐色土(10YR3/3)	SiL	4	2	大塊 20%		小粒 1%



遺構	層	土色	土性	しまり	粘性	混入土	地山	礫	焼土	炭化物
SK5055	1	黒褐色土(10YR2/2)	SiCL	1-2	2	暗褐色土大粒 10%	大粒 1%		小粒 1%	中粒 1%
	2	黒色土(10YR2/1)	SiCL	2	2	白色土小粒 1%	大粒 1%	径30~50mm 5%	小粒 1%	小粒 1%
	3	黒褐色土(10YR3/2)	SiCL	2	3	白色土小粒 1%	大粒 10%	径10~20mm 30%	小粒 1%	小粒 1%
SK5056	1	黒褐色土(10YR3/2)	SiL	4	3		中塊 3%		中粒 1%	小粒 1%
	2	黒褐色土(10YR2/2)	SiL	3	3				小粒 1%	小粒 1%
	3	黒褐色土(10YR3/2)	SiL	4	3				中粒 1%	小粒 1%
SK5076	1	黒褐色土(10YR3/2)	SiL	4	2		中粒 1%			小粒 1%
	2	黒褐色土(10YR3/2)	SiL	4	2		中塊 15%			中粒 1%
	3	暗褐色土(10YR3/3)	SL	3	2		大塊 30%			小粒 1%
	4	黒褐色土(10YR3/2)	SiL	3	3		大塊 20%			中粒 1%
	5	黒褐色土(10YR2/2)	SiL	2	2		中粒 3%			中粒 1%
SK5078	1	黒褐色土(10YR3/2)	SiL	4	2		中塊 5%		小粒 2%	小粒 1%
	2	褐色土(10YR4/4)	L	4	2		大塊 30%		小粒 1%	小粒 1%
	3	暗褐色土(10YR3/4)	L	4	2		大塊 25%		小粒 1%	小粒 1%

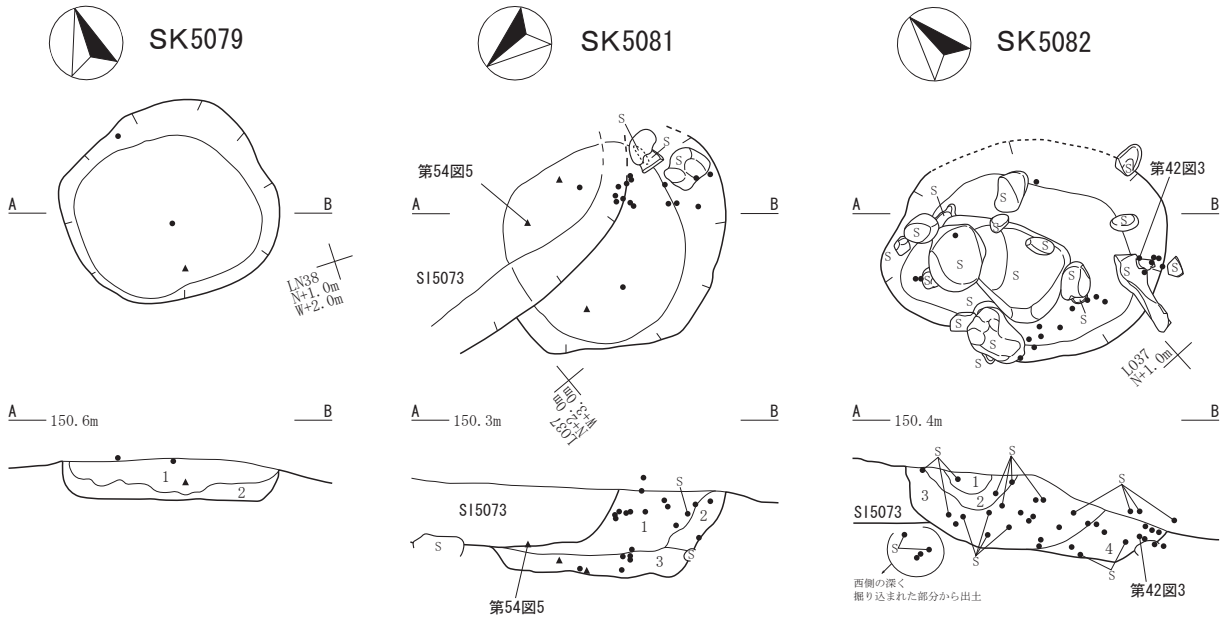
第14図 SK5053、SK5054、SK5055・SK5056・SK5076・SK5078、SK5059、SK5070土坑



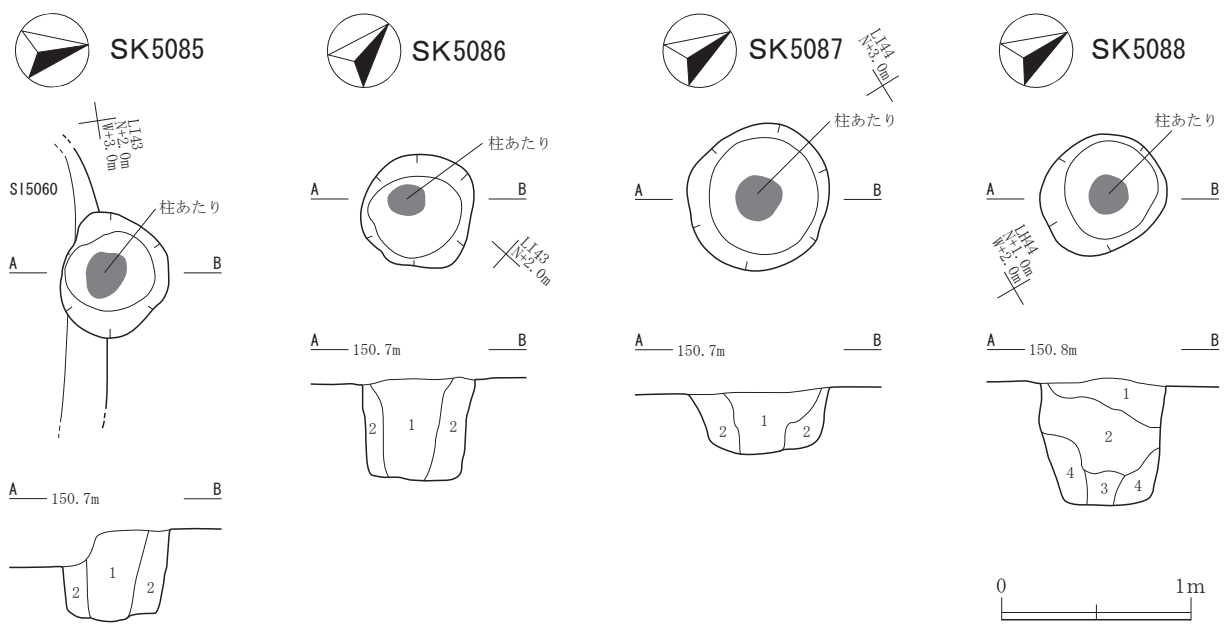
遺構	層	土色	土性	しまり	粘性	地山	炭化物
SK5057	1	黒褐色土(10YR3/2)	SiCL	4	2	中塊 10%	小粒 1%
	2	にぶい黄褐色土(10YR2/2)	SiCL	4	2	大塊 15%	小粒 1%
	3	暗褐色土(10YR3/2)	SiCL	4	2	大塊 20%	小粒 1%
SK5071	1	黒褐色土(10YR3/2)	SiL	4	3	中塊 10%	中粒 2%
	2	黒褐色土(10YR2/2)	SiL	4	3	中塊 5%	中粒 1%
	3	褐色土(10YR4/4)	SiL	3	2		小粒 1%
	4	暗褐色土(10YR3/4)	SiL	3	3	中塊 15%	小粒 1%
	5	暗褐色土(10YR3/3)	SiL	2	3		小粒 1%
SK5072	1	黒褐色土(10YR3/2)	SiL	4	2	中塊 3%	中粒 1%
	2	暗褐色土(10YR3/3)	SiL	4	2	大塊 20%	小粒 1%
SK5074	1	黒褐色土(10YR3/2)	L	4	2	大塊 30%	小粒 1%
	2	にぶい黄褐色土(10YR4/3)	SL	4	1	中塊 20%	小粒 1%
	3	黒褐色土(10YR3/2)	L	4	2	小塊 15%	小粒 1%
SK5075	1	黒褐色土(10YR3/2)	SiL	3	2	中塊 3%	中粒 1%
	2	暗褐色土(10YR3/3)	SiL	4	2	中塊 20%	

第15図 SK5057、SK5071、SK5072、SK5074、SK5075土坑

第4章 調査の記録

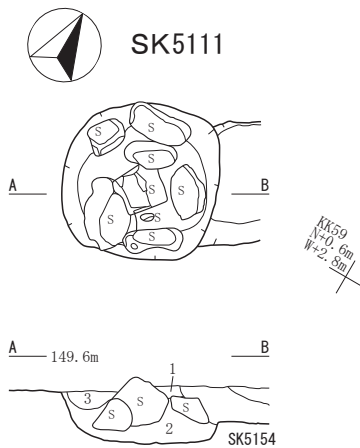
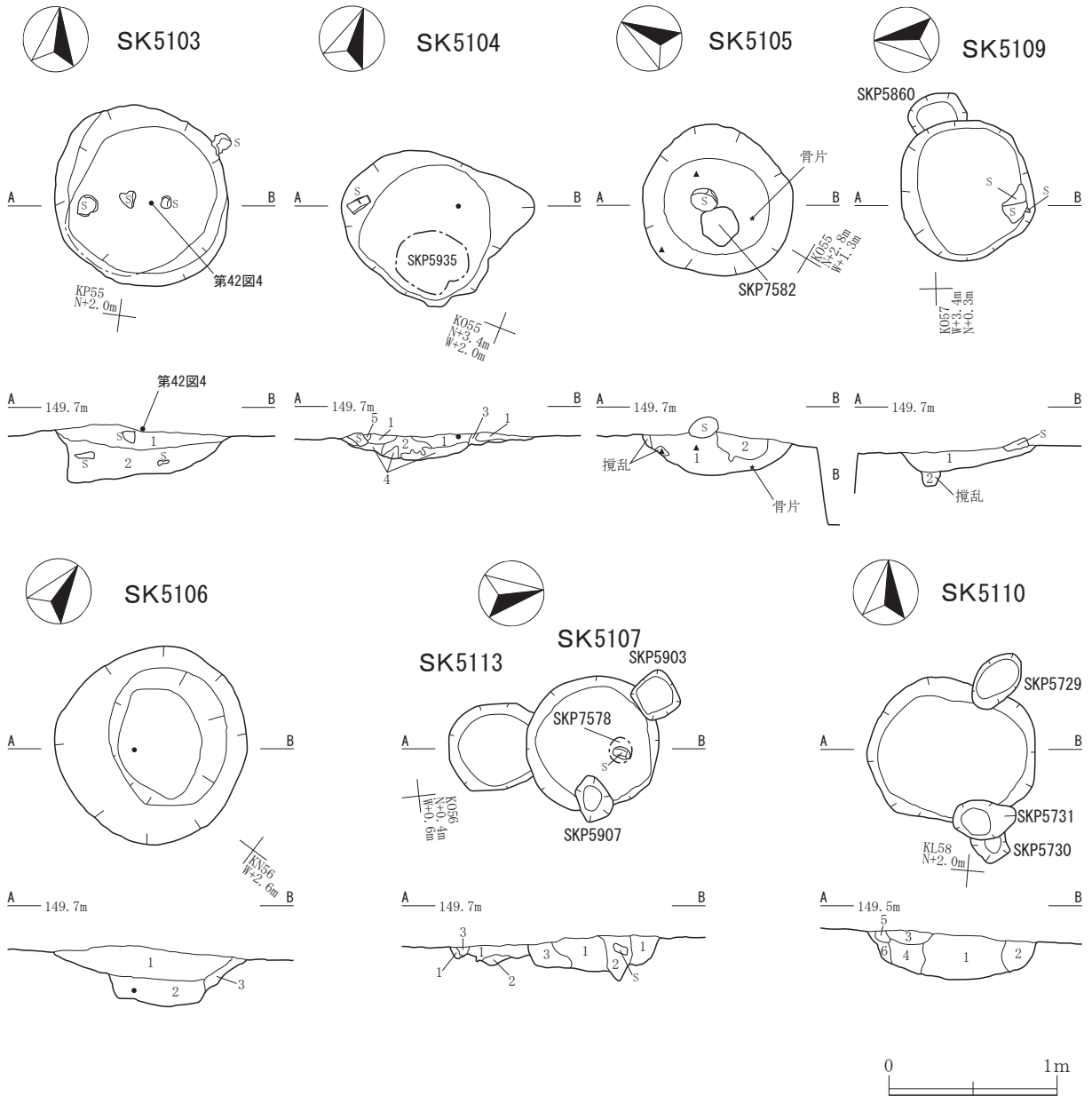


遺構	層	土色	土性	しまり	粘性	地山	炭化物
SK5079	1	暗褐色土(10YR3/3)	SiL	4	2	大塊 15%	小粒 1%
	2	褐色土(10YR4/4)	SiL	4	2	大塊 10%	小粒 1%
SK5081	1	黒褐色土(10YR3/2)	SiL	3	4	中塊 3%	小粒 1%
	2	暗褐色土(10YR3/3)	SiL	3	4	大塊 20%	小粒 1%
	3	黒褐色土(10YR3/2)	SiL	3	3	中粒 1%	小粒 1%
SK5082	1	暗褐色土(10YR3/2)	SiL	4	3		小粒 1%
	2	黒褐色土(10YR4/4)	SiL	4	3		小粒 1%
	3	黒褐色土(10YR3/4)	SiL	3	3	中塊 10%	小粒 1%
	4	褐色土(10YR4/6)	SiL	3	2	大塊 30%	小粒 1%



遺構	層	土色	土性	しまり	粘性	地山	炭化物
SK5085	1	暗褐色土(10YR3/3)	SiL	3	2	中塊 5%	小粒 1%
	2	褐色土(10YR4/4)	SiCL	4	2		小粒 1%
SK5086	1	暗褐色土(10YR3/3)	SiL	3	2	中塊 7%	
	2	褐色土(10YR4/4)	SiL	4	2		
SK5087	1	暗褐色土(10YR3/3)	SiL	4	2	中塊 5%	小粒 1%
	2	褐色土(10YR4/4)	SiL	4	2	大塊 20%	小粒 1%
SK5088	1	褐色土(10YR4/4)	SiL	4	2	大塊 20%	小粒 1%
	2	黒褐色土(10YR3/2)	SiL	4	2	中塊 10%	小粒 1%
	3	にぶい黄褐色土(10YR4/3)	SiL	4	2		
	4	褐色土(10YR4/4)	SiL	4	2		

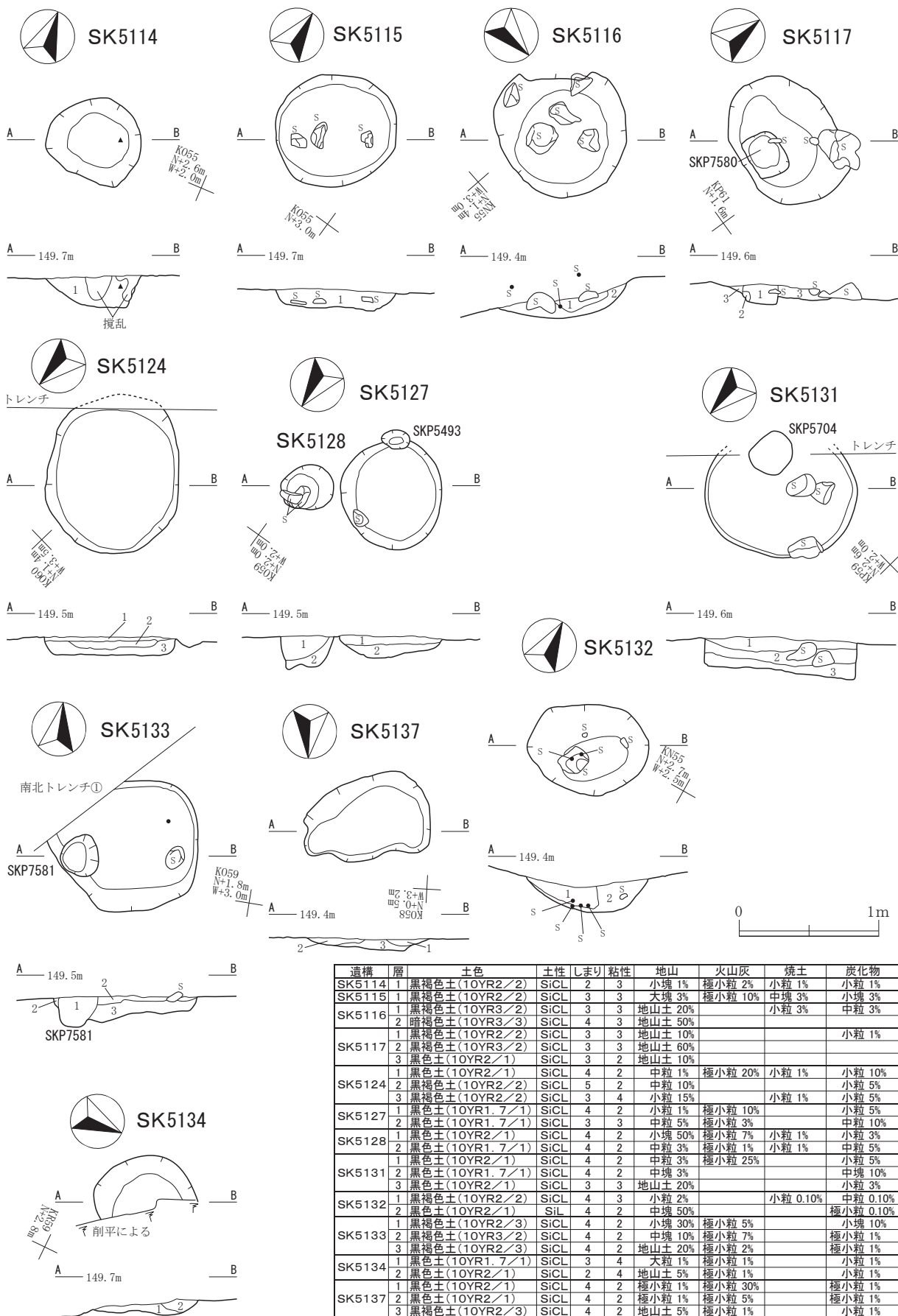
第16図 SK5079、SK5081、SK5082、SK5085、SK5086、SK5087、SK5088土坑



遺構	層	土色	土性	しまり	粘性	地山	火山灰	焼土	炭化物
SK5103	1	黒褐色土(10YR2/2)	SiCL	3	3	中塊 5%	極小粒 3%	中塊 10%	中塊 3%
	2	黒褐色土(10YR2/3)	SiCL	4	4	地山土 30%			
SK5104	1	黒色土(10YR2/1)	SiCL	3	3	小塊 3%	極小粒 3%	中粒 5%	中粒 2%
	2	黒褐色土(10YR2/2)	SiCL	3	3	地山土 40%			
	3	暗褐色土(10YR3/4)	SiCL	4	2	地山土 90%			
	4	暗褐色土(10YR3/3)	SiCL	4	4	地山土 80%			
	5	黒褐色土(10YR2/3)	SiCL	3	2				
SK5105	1	黒色土(10YR1.7/1)	SiCL	3	3	大粒 3%	極小粒 2%	極小粒 2%	極小塊 3%
	2	黒褐色土(10YR2/2)	SiCL	4	3	地山土 30%	極小粒 2%	極小粒 1%	極小粒 1%
SK5109	1	黒褐色土(10YR2/2)	SiCL	3	4	小塊 2%	極小粒 2%	極小粒 10%	小塊 1%
	2	黒褐色土(10YR2/2)	SiCL	3	2	地山土 30%			
SK5106	1	黒褐色土(10YR2/2)	SiCL	4	2	小塊 2%	極小粒 20%	小塊 3%	極小粒 1%
	2	黒色土(10YR2/1)	SiCL	3	4	小粒 3%	極小粒 3%	極小粒 1%	極小粒 1%
	3	黒褐色土(10YR2/2)	SiCL	4	4	地山土 25%			
SK5107	1	黒褐色土(10YR2/3)	SiCL	3	2	小塊 25%	極小粒 3%	極小粒 1%	極小粒 3%
	2	黒褐色土(10YR2/2)	SiCL	3	2	中塊 5%	極小粒 1%	小粒 1%	小粒 1%
	3	黒褐色土(10YR2/3)	SiCL	2	2	大塊 40%	極小粒 1%		中塊 1%
SK5113	1	黒褐色土(10YR2/2)	SiCL	3	3	地山土 15%		極小粒 1%	
	2	暗褐色土(10YR3/3)	SiCL	2	4	地山土 80%			
	3	黒褐色土(10YR2/2)	SiCL	3	2				
SK5110	1	褐色土(10YR4/6)	SiCL	4	2	地山土 60%			小粒 1%
	2	黒褐色土(10YR2/3)	SiCL	3	2	中塊 20%			小粒 3%
	3	黒褐色土(10YR2/2)	SiCL	3	2	小塊 10%			小粒 3%
	4	暗褐色土(10YR3/4)	SiCL	3	1	地山土 70%			小粒 2%
	5	褐色土(10YR4/6)	SiCL	5	2	地山土 90%			
	6	褐色土(10YR4/6)	SiCL	5	2	地山土 80%			
SK5111	1	黒褐色土(10YR2/2)	SiCL	4	3	中粒 3%			小粒 1%
	2	黒褐色土(10YR2/3)	SiCL	3	3	大粒 40%			
	3	黒色土(10YR2/1)	SiCL	3	2	中粒 5%			小粒 1%

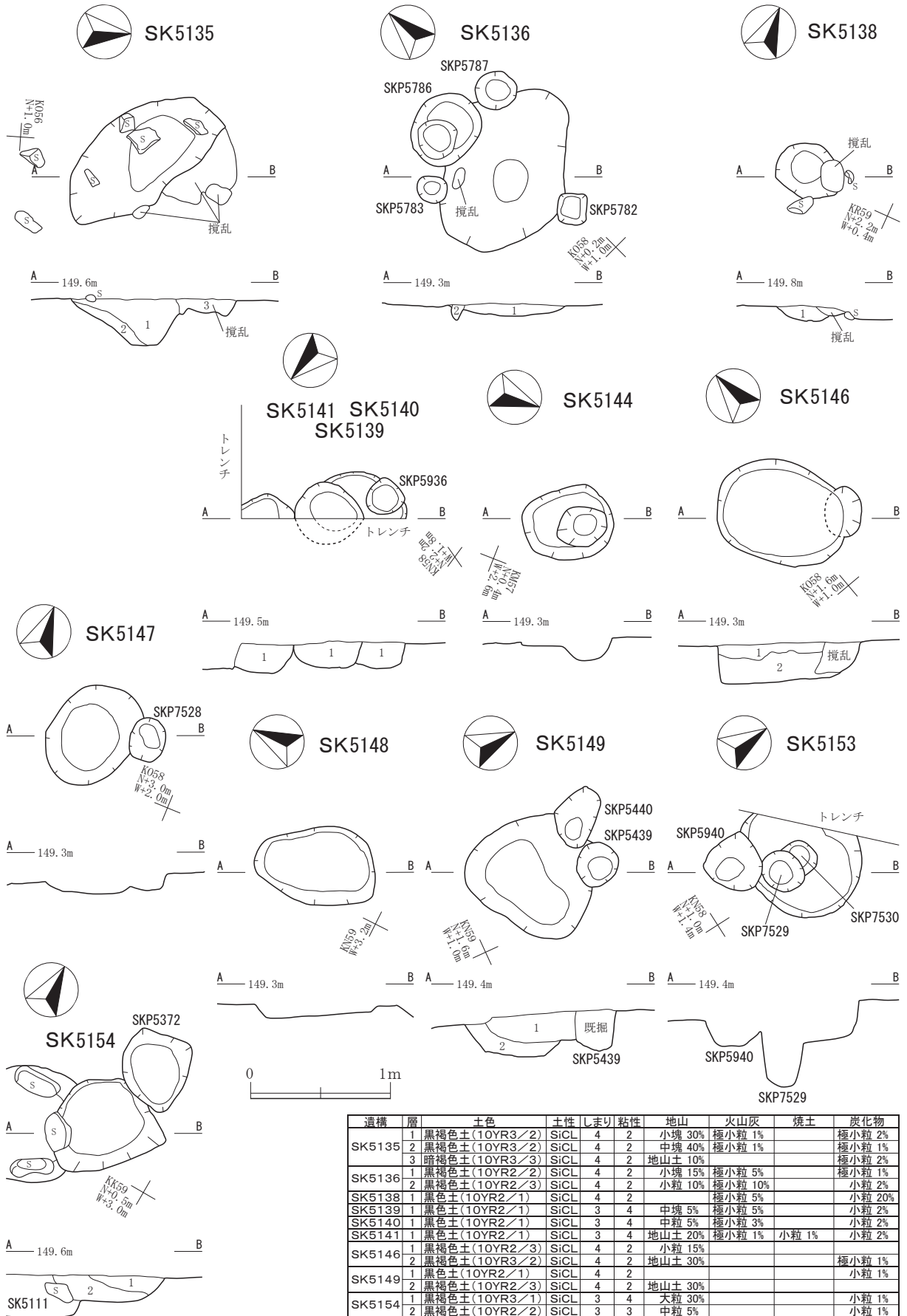
第17図 SK5103、SK5104、SK5105、SK5106、SK5107・SK5113、SK5109、SK5110、SK5111土坑

第4章 調査の記録



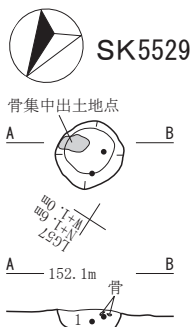
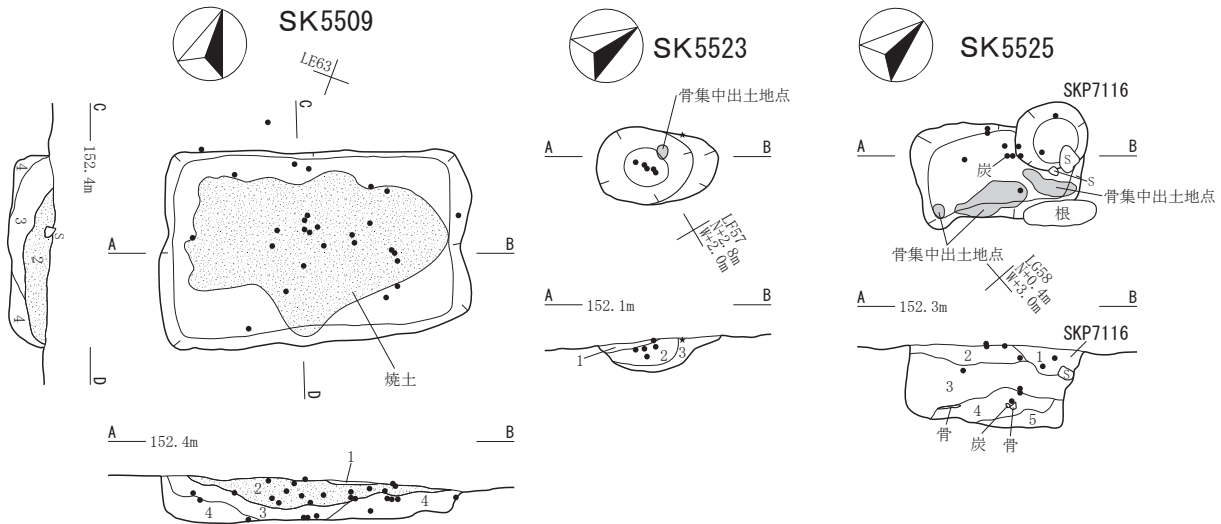
遺構	層	土色	土性	しまり	粘性	地山	火山灰	焼土	炭化物
SK5114	1	黒褐色土 (10YR2/2)	SiCL	2	3	小塊 1%	極小粒 2%	小粒 1%	小粒 1%
SK5115	1	黒褐色土 (10YR2/2)	SiCL	3	3	大塊 3%	極小粒 10%	中塊 3%	小塊 3%
SK5116	1	黒褐色土 (10YR3/2)	SiCL	3	3	地山土 20%		小粒 3%	中粒 3%
	2	暗褐色土 (10YR3/3)	SiCL	4	3	地山土 50%			小粒 1%
SK5117	1	黒褐色土 (10YR2/2)	SiCL	3	3	地山土 10%			
	2	黒褐色土 (10YR3/2)	SiCL	3	3	地山土 60%			
	3	黒色土 (10YR2/1)	SiCL	3	2	地山土 10%			
SK5124	1	黒色土 (10YR2/1)	SiCL	4	2	中粒 1%	極小粒 20%	小粒 1%	小粒 10%
	2	黒褐色土 (10YR2/2)	SiCL	5	2	中粒 10%			小粒 5%
	3	黒褐色土 (10YR2/2)	SiCL	3	4	小粒 15%		小粒 1%	小粒 5%
SK5127	1	黒色土 (10YR1.7/1)	SiCL	4	2	小粒 1%	極小粒 10%		小粒 5%
	2	黒色土 (10YR1.7/1)	SiCL	3	3	中粒 5%	極小粒 3%		中粒 10%
SK5128	1	黒色土 (10YR2/1)	SiCL	4	2	小塊 50%	極小粒 7%	小粒 1%	小粒 3%
	2	黒色土 (10YR1.7/1)	SiCL	4	2	中粒 3%	極小粒 1%	小粒 1%	中粒 5%
SK5131	1	黒色土 (10YR2/1)	SiCL	4	2	中粒 3%	極小粒 25%		小粒 5%
	2	黒色土 (10YR1.7/1)	SiCL	4	2	中塊 3%			中塊 10%
	3	黒色土 (10YR2/1)	SiCL	3	3	地山土 20%			小粒 3%
SK5132	1	黒褐色土 (10YR2/2)	SiCL	4	3	小粒 2%		小粒 0.10%	中粒 0.10%
	2	黒色土 (10YR2/1)	SiL	4	2	中塊 50%			極小粒 0.10%
SK5133	1	黒褐色土 (10YR2/3)	SiCL	4	2	小塊 30%	極小粒 5%		小塊 10%
	2	黒褐色土 (10YR3/2)	SiCL	4	2	中塊 10%	極小粒 7%		極小粒 1%
	3	黒褐色土 (10YR2/3)	SiCL	4	2	地山土 20%	極小粒 2%		極小粒 1%
SK5134	1	黒色土 (10YR1.7/1)	SiCL	3	4	大粒 1%	極小粒 1%		小粒 1%
	2	黒色土 (10YR2/1)	SiCL	2	4	地山土 5%	極小粒 1%		小粒 1%
SK5137	1	黒色土 (10YR2/1)	SiCL	4	2	極小粒 1%	極小粒 30%		極小粒 1%
	2	黒色土 (10YR2/1)	SiCL	4	2	極小粒 1%	極小粒 5%		極小粒 1%
	3	黒褐色土 (10YR2/3)	SiCL	4	2	地山土 5%	極小粒 1%		小粒 1%

第18図 SK5114、SK5115、SK5116、SK5117、SK5124、SK5127、SK5128、SK5131、SK5132、SK5133、SK5134、SK5137土坑

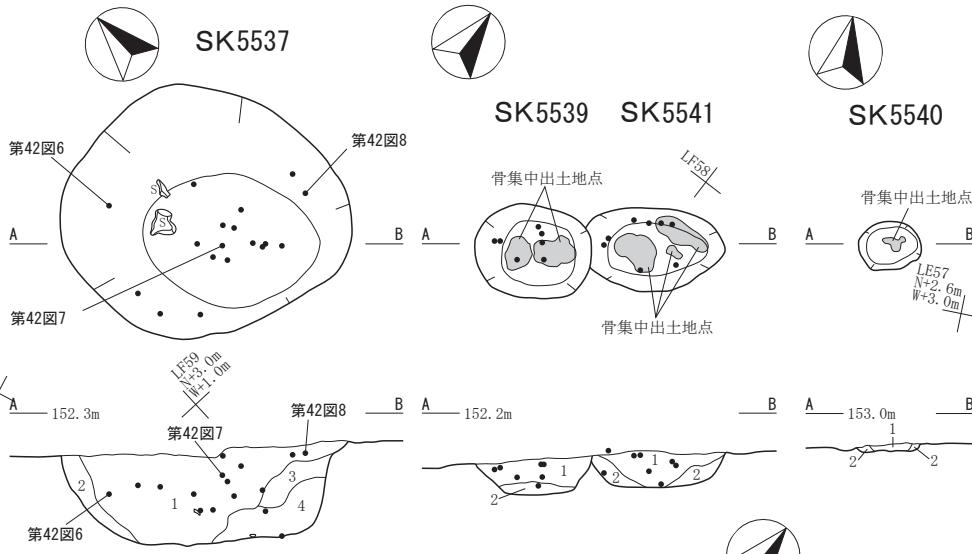
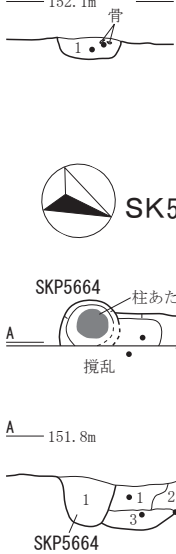


第19図 SK5135、SK5136、SK5138、SK5139・SK5140・SK5141、SK5144、SK5146、SK5147、SK5148、SK5149、SK5153、SK5154土坑

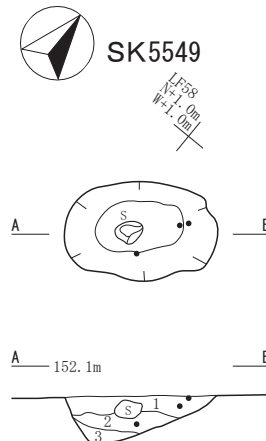
第4章 調査の記録



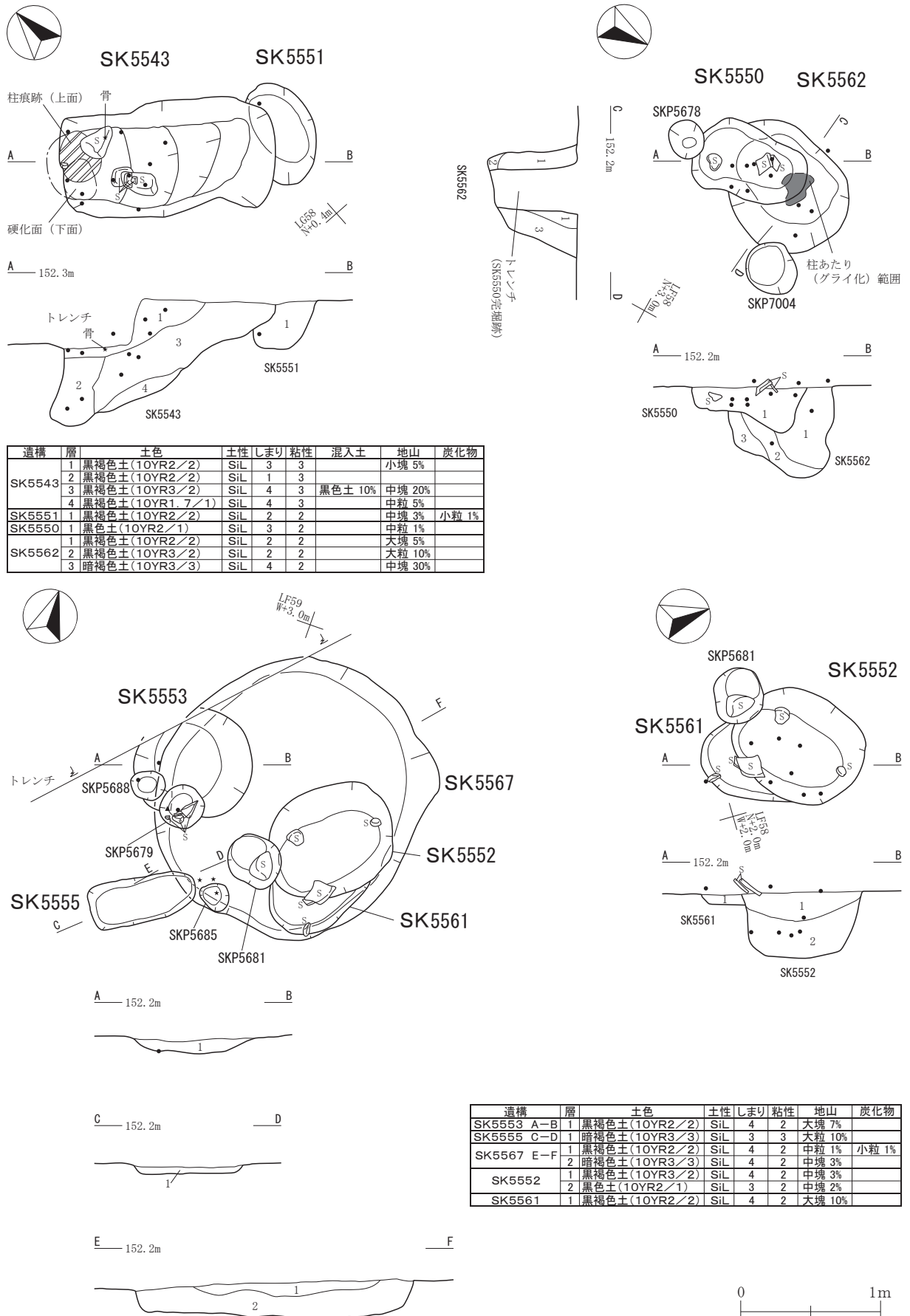
遺構	層	土色	土性	しまり	粘性	混入土	地山	焼土	炭化物	その他
SK5509	1	褐色土(10YR4/6)	SiL	5	2					
	2	黒褐色土(10YR2/2)	SiL	4	3			大塊 15%	中粒 3%	
	3	黒褐色土(10YR2/2)	SiL	3	3			小塊 3%	小粒 2%	
	4	黒褐色土(10YR2/2)	SiL	4	3		大塊 20%		小粒 1%	
SK5523	1	黒褐色土(10YR2/2)	SiL	3	3				小塊 1%	焼骨 5%
	2	黒褐色土(10YR2/1)	SiL	3	3				小塊 5%	焼骨 40%
	3	黒褐色土(10YR2/2)	SiL	3	3				小塊 1%	焼骨 3%
SK5525	1	黒褐色土(10YR2/2)	SiL	2	2		10%			
	2	黒褐色土(10YR2/2)	SiL	2	2		中塊 20%			
	3	黒色土(10YR1.7/1)	SiL	2	3	黒褐色土 10%	小塊 10%		中塊 5%	
	4	黒褐色土(10YR2/2)	SiL	2	3			焼骨片 40%		
	5	黒褐色土(10YR2/3)	SiL	2	3		中塊 10%			



遺構	層	土色	土性	しまり	粘性	地山	焼土	炭化物
SK5529	1	黒褐色土(10YR2/2)	SiL	3	3	5%	焼骨 5%	
SK5531	1	にふい黄褐色土(10YR4/3)	SiL	3	2	3%		
	2	にふい黄色土(10YR4/3)	SiL	3	2	大塊 40%		
	3	にふい黄褐色土(10YR4/3)	SiL	4	2	小塊 15%		
SKP5664	1	暗褐色土(10YR3/3)	SiL	2	3	小塊 15%		
SK5537	1	黒褐色土(10YR2/2)	SiL	3	3	大塊 5%	大塊 10%	中粒 2%
	2	黒褐色土(10YR2/2)	SiL	4	3	大塊 30%		
	3	黒褐色土(10YR2/2)	SiL	5	3	20%		
	4	暗褐色土(10YR3/3)	SiL	4	3	20%		小粒 1%
SK5539	1	黒褐色土(10YR2/2)	SiL	2	3		焼骨 10%	
	2	黒褐色土(10YR2/3)	SiL	4	3		焼骨 80%	
SK5541	1	黒褐色土(10YR2/2)	SiL	4	3		焼骨 40%	
	2	黒褐色土(10YR2/2)	SiL	3	3		焼骨 10%	
SK5540	1	黒褐色土(10YR2/2)	SiL	4	3		焼骨 40%	中粒 20%
	2	暗褐色土(10YR3/3)	SiL	4	2	小塊 10%	焼骨 5%	
SK5549	1	黒褐色土(10YR2.5/2)	SiL	2	2	大塊 3%		中粒 1%
	2	黒褐色土(10YR2/2)	SiL	3	2	小塊 1%		
	3	黒褐色土(10YR3/2)	SiL	3	2	小塊 2%		

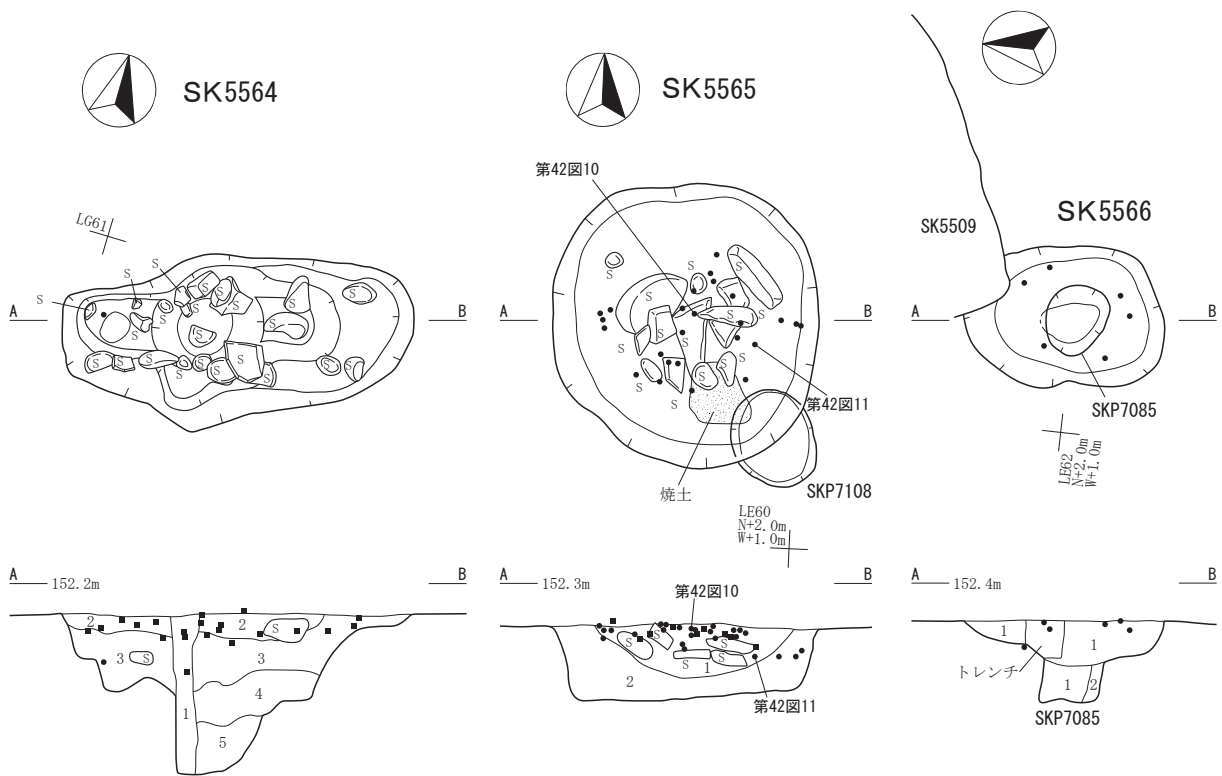
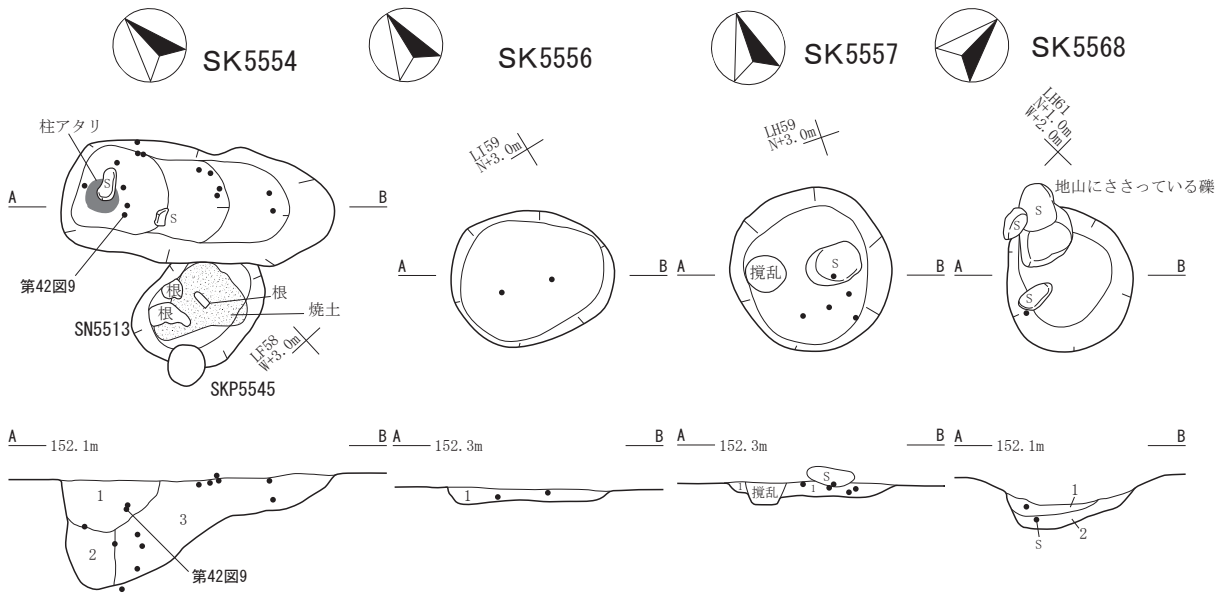


第20図 SK5509、SK5523、SK5525、SK5529、SK5531、SK5537、SK5539・SK5541、SK5540、SK5549土坑



第21図 SK5543・SK5551、SK5550・SK5562、SK5552・SK5553・SK5555・SK5561・SK5567土坑

第4章 調査の記録



遺構	層	土色	土性	しまり	粘性	地山	焼土	炭化物	その他
SK5554	1	黒褐色土(10YR3/2)	SiL	2	2	中粒 3%			
	2	黒褐色土(10YR2/2)	SiL	1	2	小粒 1%			
	3	黒褐色土(10YR3/2)	SiL	4	2	大粒 5%			
SK5556	1	黒褐色土(10YR3/2)	SiL	2	2	大塊 7%			
	2	黒褐色土(10YR3/2)	SiL	3	2	大塊 5%		小粒 1%	
SK5564	1	黒褐色土(10YR3/2)	SiL	1	2	大粒 2%			
	2	黒褐色土(10YR2/2)	SiL	4	2	大塊 5%			
	3	暗褐色土(10YR3/4)	SiL	4	2	大塊 30%			
	4	黒褐色土(10YR3/2)	SiL	3	2	大粒 1%			
	5	暗褐色土(10YR3/3)	SiL	2	2	大粒 7%			
SK5568	1	黒褐色土(10YR3/2)	SiL	2	2	中粒 2%	小粒 1%	中粒 1%	
	2	にふい黄褐色土(10YR4/3)	SiC	4	3	中塊 15%	小塊 1%	中粒 1%	
SK5565	1	黒褐色土(10YR2/2)	SiL	3	2	大塊 5%			礫多
	2	暗褐色土(10YR3/3)	SiL			大塊 20%			
SK5566	1	黒褐色土(10YR2/2)	SiL	5	2	大粒 3%			
	2	黒褐色土(10YR2/3)	SiL	4	2	大塊 10%			
SKP7085	1	黒褐色土(10YR2/3)	SiL	4	2	大塊 10%			
	2	暗褐色土(10YR3/3)	SiL	4	2	中粒 2%			

第22図 SK5554、SK5556、SK5557、SK5564、SK5565、SK5566、SK5568土坑

状礫を集積している。その付近から縄文中期大木9式土器破片が多数出土した(第42図10・11)。縄文中期後葉の土坑墓と考える。

SK5566土坑(第22図)

平面形は楕円形で、底面は丸みを帯びる。埋土は地山土塊が混じる単層の埋め立て土である。中世の土坑墓と推定する。

SK5567土坑(第21図、図版10)

平面形が円形で大型の土坑である。埋土は地山土塊が多く混じる埋め立て土である。埋土中から縄文前・後期土器の小破片が出土した。時期、性格は不明である。

SK5568土坑(第22図、図版10)

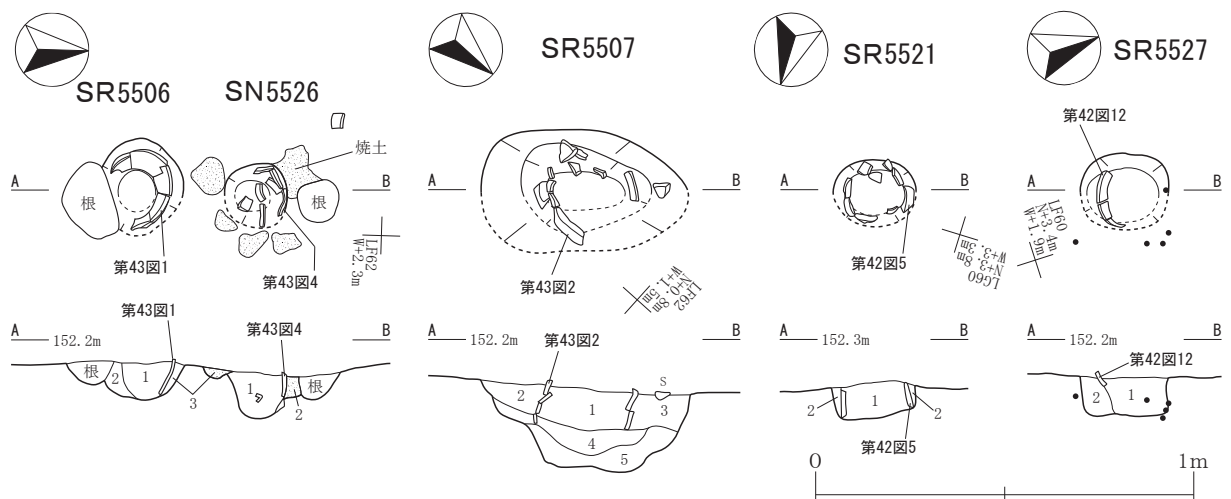
平面形は円形で、底面は丸みを帯びる。埋土は地山土塊、焼土粒、炭化物粒が混じる埋め立て土である。底面に突き刺すように大礫が置かれている。中世の土坑墓と推定する。

4 土器埋設遺構

旧神社跡地の丘陵上で4基検出した。屋外の埋設土器のうち、周辺に焼土が検出されたものは焼土遺構(SN)の項に掲載した。

SR5506土器埋設遺構(第23・43図、図版10・21)

IV層上面で検出した。推定長軸26cm、推定短軸22cm、深さ約11cmの楕円形の掘り込みの中央、底面直上に正位で埋設されている。埋土1層は埋め立て土、2・3層は土器の裏込め土である。隣接してSN5526焼土遺構(土器埋設炉)を検出した。両遺構が一組の遺構である可能性もある。埋設土器(第43図1)は4条の縦位隆線によって全面を均等に4分割し、全面に横位連続刺突文を充填している。こ



遺構	層	土色	土性	しまり	粘性	地山	焼土	炭化物
SR5506	1	暗褐色土(10YR3/3)	SiL	4	3	5%		
	2	暗褐色土(10YR3/3)	SiL	4	3	小塊 10%		
	3	暗褐色土(10YR3/3)	SiL	2	3	3%		
SN5526	1	暗褐色土(10YR3/4)	SiL	4	2			
	2	褐色土(10YR4/6)	SiL	4	3	中塊 30%		
	3	暗褐色土(10YR3/3)	SiL	4	2			
SR5507	1	黒褐色土(10YR2/2)	SiL	4	3	5%		
	2	暗褐色土(10YR3/3)	SiL	4	3	5%		
	3	暗褐色土(10YR3/3)	SiL	5	2	中塊 30%		
	4	黒褐色土(10YR2/2)	SiL	4	3	3%		
	5	にふい黄褐色土(10YR4/3)	SiL	5	2	大塊 30%		
SR5521	1	暗褐色土(10YR3/3)	SiL	5	2	小塊 20%		
	2	黒褐色土(10YR2/3)	SiL	4	2			
SR5527	1	黒褐色土(10YR2/2)	SiL	4	3	10%		
	2	暗褐色土(10YR3/3)	SiL	4	3			

第23図 SR5506土器埋設遺構・SN5526焼土遺構、SR5507、SR5521、SR5527土器埋設遺構

の刺突は、指先で左から右に器面を抉って凹部を作出するとともに右端に粘土瘤をそのまま残す手法である。縦位隆線の上には細いへら状工具の先端で縦長の連続刺突を施している。縄文後期初頭の土器である。

SR5507土器埋設遺構(第23・43図、図版10・22)

IV層上面で検出した。長軸55cm、推定短軸32cm、深さ約24cmの楕円形の掘り込みの中央に正位で埋設されている。埋土1層は地山土が混じる埋め立て土、2・3層は土器の裏込め土、4・5層は掘形を埋め戻した土である。埋設土器(第43図2)は全面にLR縄文を縦位回転施文している。縄文中期後葉～後期初頭の土器である。

SR5521土器埋設遺構(第23・42図)

IV層上面で検出した。長軸22cm、推定短軸18cm、深さ約11cmの楕円形の掘り込みに倒位で埋設されている。埋土1層は地山土が混じる埋め立て土、2層は裏込め土である。土器の残存状態は不良で復元できなかった。埋設土器(第42図5)は、口縁部と胴部に結束羽状縄文を施文し頸部に撚紐原体側面圧痕を巡らす縄文前期の円筒下層b式土器である。

SR5527土器埋設遺構(第23・42図)

IV層上面で検出した。長軸23cm、推定短軸20cm、深さ約11cmの楕円形の掘り込みに正位で埋設されている。埋土1層は地山土が混じる埋め立て土、2層は裏込め土である。土器の残存状態は不良で全周しない。埋設土器(第42図12)は、全面にLR縄文を縦位回転施文している。縄文中期後葉～後期初頭の土器である。

5 焼土遺構

小又川沿いの北端部低地ではカマド状遺構5基を含む10基(SN5118焼土遺構～SN5130焼土遺構)、旧神社跡地の丘陵状で土器埋設炉2基を含む8基(SN5505焼土遺構～SN5563焼土遺構)計18基を検出した。各焼土遺構の属性は第5表に掲載した。

SN5118焼土遺構(第24図、図版11)

焼土、掘形ともに平面形は楕円形で掘形底面は丸みを帯びる。焼土の長軸南西側縁には長さ60cmの角礫が置かれ強く被熱している。その北側延長線上と反対側縁には大礫の抜き取り穴がある。焼土を覆う埋土は焼土塊、炭化物粒、焼粘土塊、焼けて崩壊した礫が多量に混じる。埋土中には火山灰を含むが、焼骨片は含まれていない。本遺構は側壁と天井部がある屋外カマド状遺構と推定する。楕円形の掘形の最下部に黒褐色土を充填して火焼面を整形するとともに両側縁に側壁の心材となる角礫を立て並べ、側壁と天井部を粘土で構築したものとする。焼土範囲の幅が広い南東側が主要な火焼面として使用されたと推測する。カマドとして使用した後、天井部と側壁を崩して心材の角礫を抜き取り、天井部と側壁の残骸で埋め立てたものである。時期は深渡遺跡などの類例から中世と推定する。

SN5119焼土遺構(第25図)

焼土の平面形は隅丸方形、掘形は楕円形で底面は丸みを帯びる。焼土は掘形の北東側半分だけに形成されている。側壁心材の礫や礫の抜き取り穴はなく、粘土で構築した側壁下部が幅約10cm、高さ約5cm残存し、内側が強く被熱している。側壁間は約45cmである。焼土を覆う埋土は焼土塊、炭化物粒、焼粘土塊、焼けて崩壊した礫が多量に混じる。埋土中には火山灰を含むが、焼骨片は含まれていない。本遺構は側壁と天井部がある屋外カマド状遺構と考える。楕円形の掘形の最下部に黒褐色土を

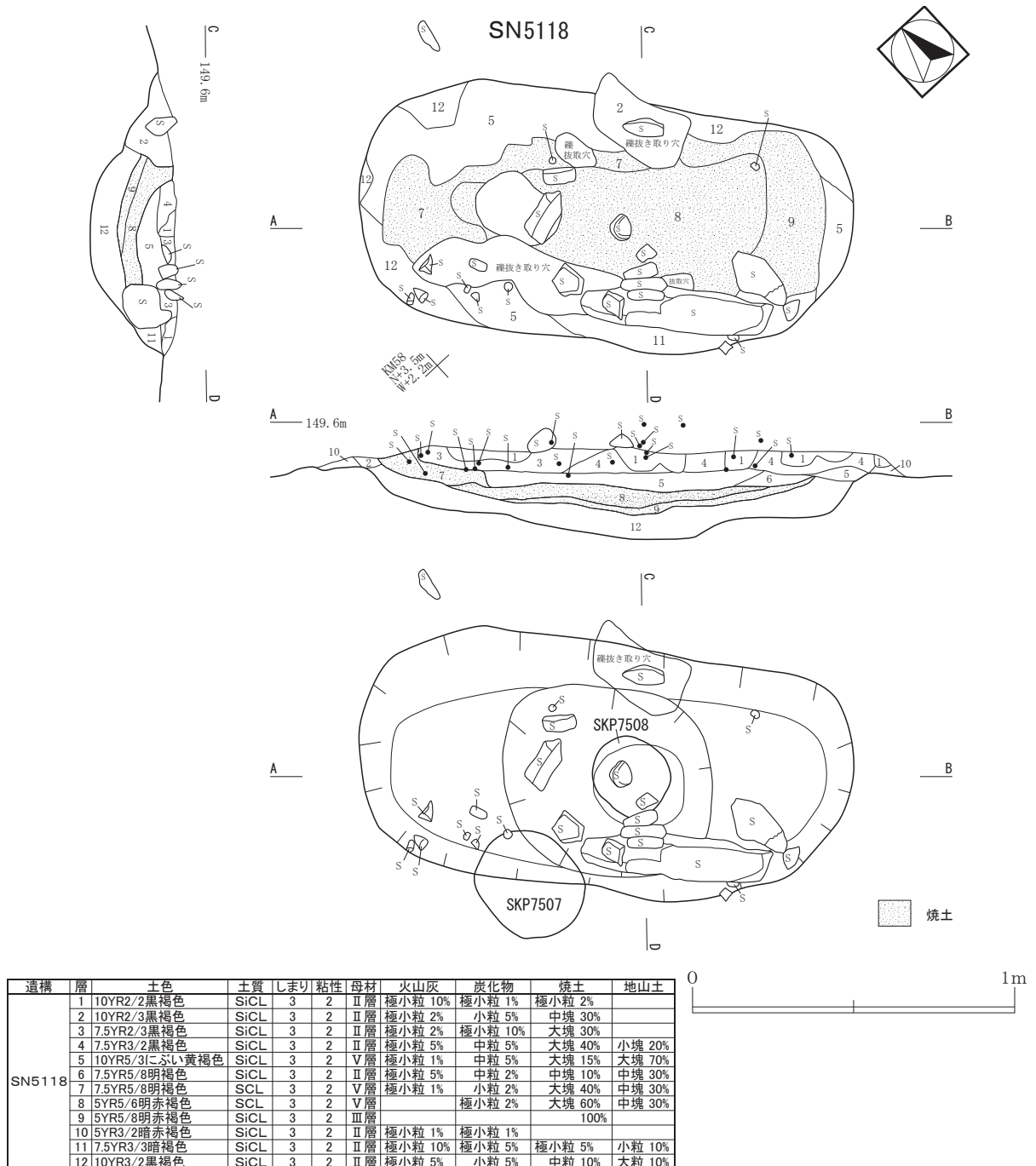
充填して焼面を整形し、北東側に側壁と天井部を粘土で構築したものと考えられる。廃絶後、天井部と側壁を崩しその残骸で埋め立てたと推測する。時期は中世と推定する。

SN5120焼土遺構(第25図)

焼土、掘形ともに平面形は楕円形で掘形底面は丸みを帯びる。検出面では南側に焼土塊の散布域が広がっている。焼土中には火山灰を含むが、焼骨片は含まれていない。側壁や天井部の痕跡はなく、地床炉と推定する。時期は検出面がカマド状遺構と同じであることから中世と推定する。

SN5121焼土遺構(第26図)

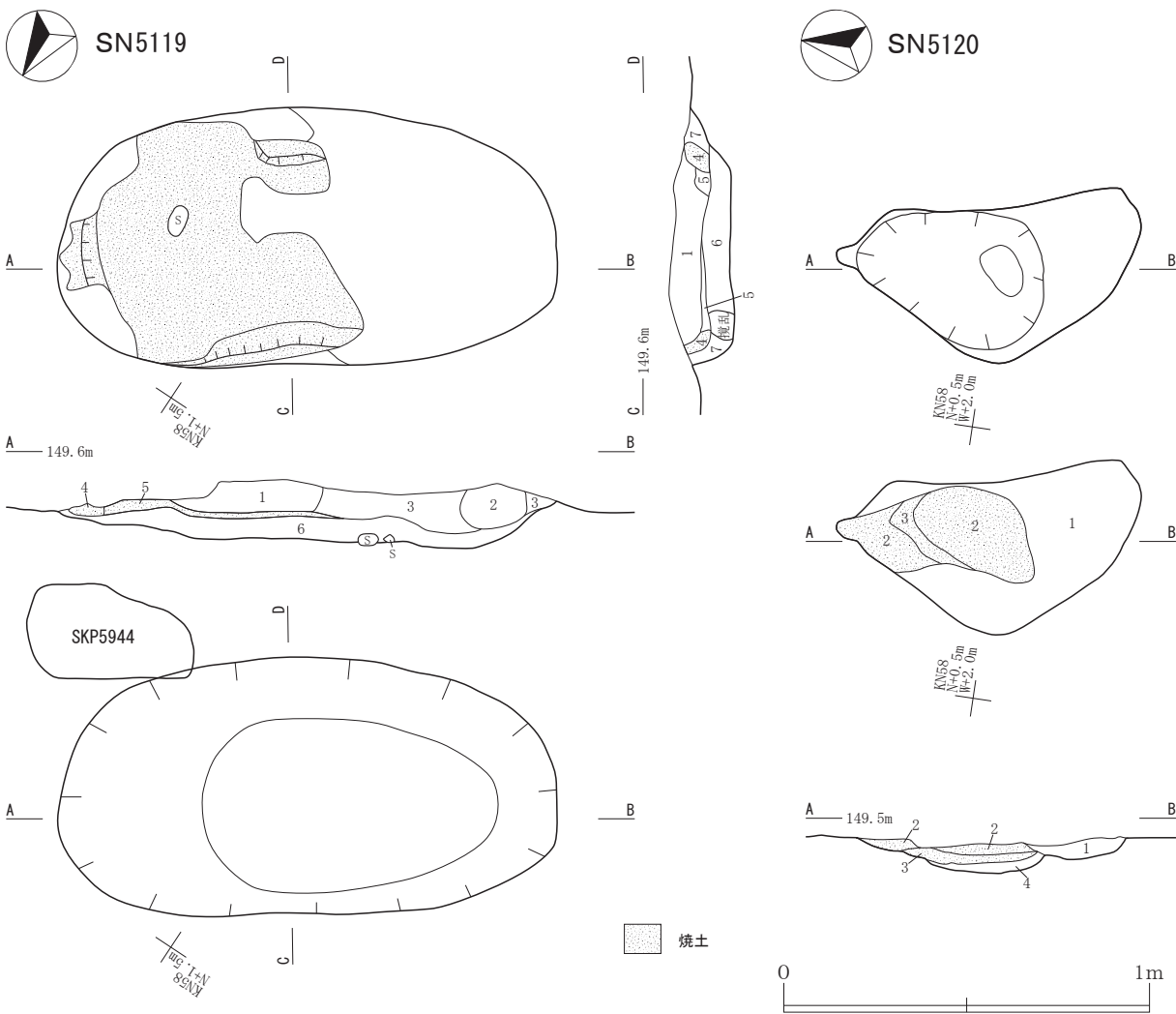
焼土の平面形は楕円形、掘形は長い溝状で底面は丸みを帯びる。焼土は掘形の南西側半分だけに形



第24図 SN5118焼土遺構

第4章 調査の記録

成されている。掘形中央には炭化物が集中して堆積している。掘形は焼土が堆積する南西側が狭く、中央から北東側は幅が広くやや浅い。側壁心材の礫や礫の抜き取り穴はなく、掘形の内側に粘土で構築した側壁下部が幅約10cm、高さ約10cm残存し、内側が強く被熱している。側壁間は20~40cmである。焼土を覆う埋土は焼土塊、炭化物粒、焼粘土塊、焼けて崩壊した礫が多量に混じる。埋土中には火山灰を含むが、焼骨片は含まれていない。本遺構は南西端が煙出し、南西側の焼土堆積範囲が側壁と天井部をもつカマド本体、中央部の炭化物堆積範囲が焚き口部で、北東側に作業用の前庭部が付属する構造の屋外カマド状遺構と考える。溝状の掘形の南西側最下部に黒褐色土を充填して火焼面を整形し、側壁と天井部を粘土で構築したものとする。廃絶後、天井部と側壁を崩しその残骸で前庭部まで全体を埋め立てたと推測する。時期は中世と推定する。

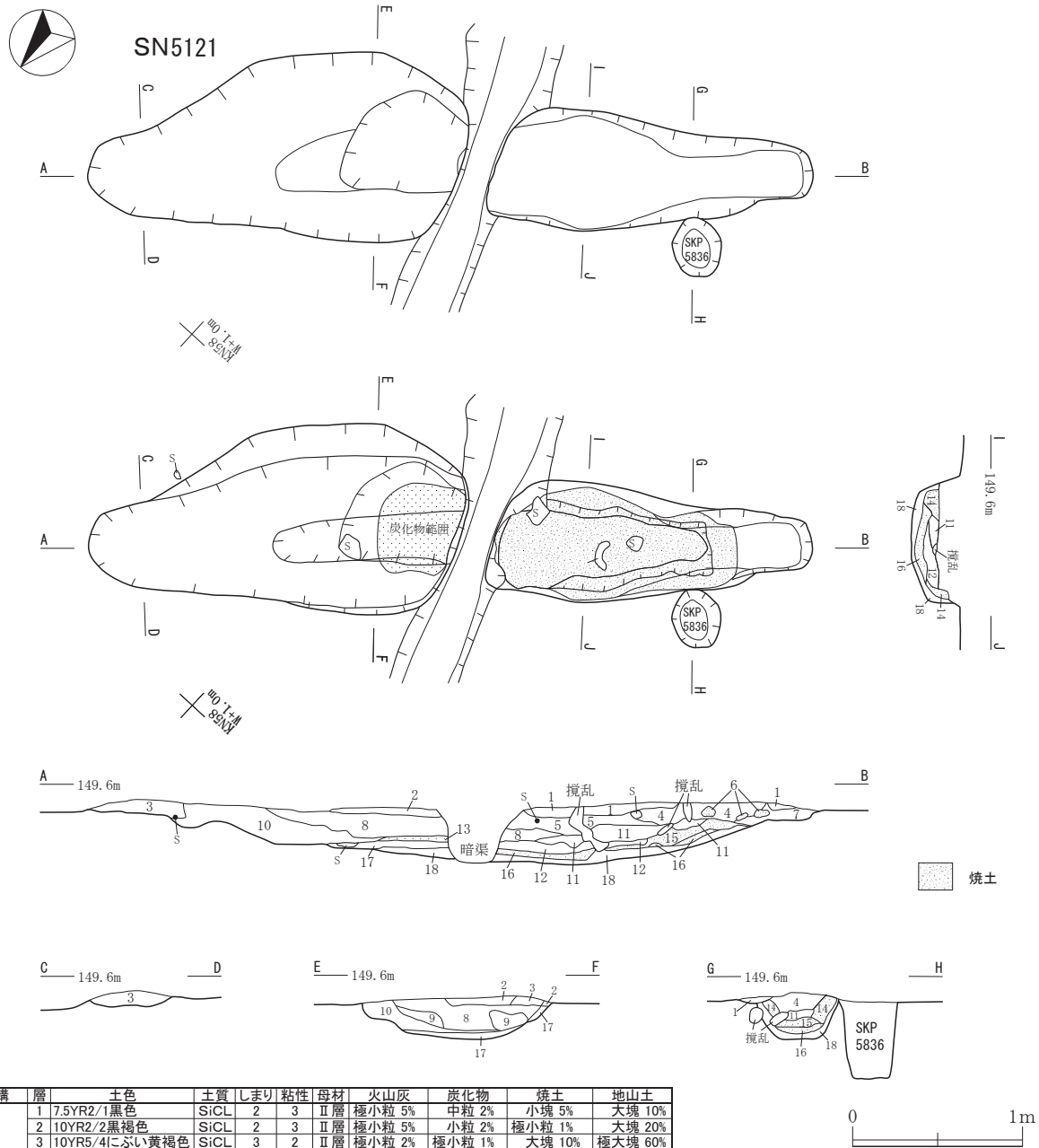


遺構	層	土色	土質	しまり	粘性	母材	火山灰	炭化物	焼土	地山土
SN5119	1	7.5YR2/2黒褐色	SiCL	3	2	II層	極小粒 2%	小粒 5%	大塊 30%	大塊 30%
	2	7.5YR2/1黒色	SiCL	3	2	II層	極小粒 1%	極小粒 1%	中塊 30%	中塊 30%
	3	10YR2/2黒褐色	SiCL	3	2	II層	極小粒 5%	極小粒 5%	小粒 2%	中塊 20%
	4	5YR5/8明赤褐色	SiCL	3	2	III層		極小粒 1%	80%	極小粒 2%
	5	5YR4/8赤褐色	SiCL	3	2	V層			70%	30%
	6	7.5YR2/1黒色	SiCL	2	3	III層	極小粒 1%	極小粒 5%	極小粒 1%	極小粒 5%
SN5120	1	10YR2/3黒褐色	SiCL	3	2	II層	極小粒 5%	極小粒 1%	小塊 5%	
	2	7.5YR5/8明褐色	SiCL	4	2	II層	極小粒 5%	中塊 10%	大塊 60%	小塊 20%
	3	7.5YR5/8明褐色	SiCL	4	2	II層	極小粒 5%	大塊 20%	70%	10%
	4	10YR2/2黒褐色	SiCL	3	2	II層	極小粒 10%	極小粒 1%		

第25図 SN5119、SN5120焼土遺構

SN5122焼土遺構(第27図、図版11)

焼土の推定平面形は楕円形、掘形は溝状で底面は丸みを帯びる。焼土は掘形の南側半分にだけ形成されている。焼土の長軸北東側縁には長さ64cmの板状礫が横に立てて置かれ、その南側に連続して掘形の内側に粘土で構築した側壁下部が幅約12cm、高さ約15cm残存し、いずれも内側が強く被熱している

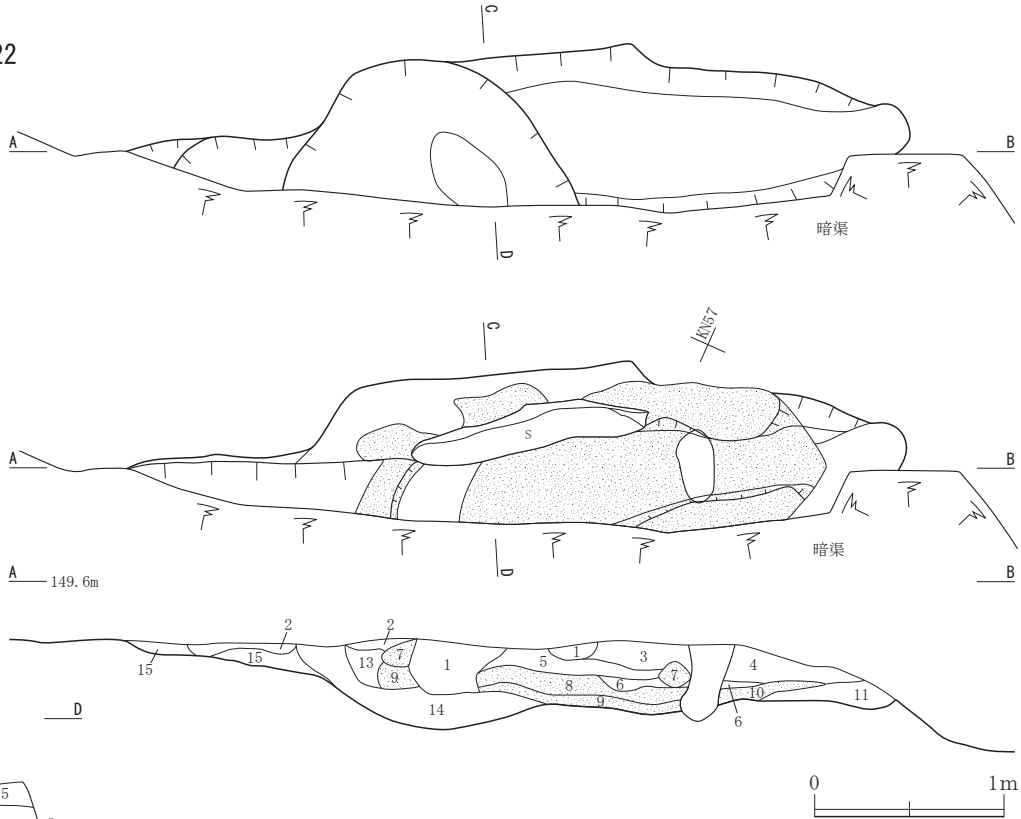


遺構	層	土色	土質	しまり	粘性	母材	火山灰	炭化物	焼土	地山土
SN5121	1	7.5YR2/1黒色	SiCL	2	3	II層	極小粒 5%	中粒 2%	小塊 5%	大塊 10%
	2	10YR2/2黒褐色	SiCL	2	3	II層	極小粒 5%	小粒 2%	極小粒 1%	大塊 20%
	3	10YR5/4にぶい黄褐色	SiCL	3	2	II層	極小粒 2%	極小粒 1%	大塊 10%	極大塊 60%
	4	7.5YR2/2黒褐色	SiCL	3	2	II層	極小粒 2%	中粒 1%	大塊 15%	極大塊 40%
	5	7.5YR2/2黒褐色	SiCL	2	3	II層	極小粒 1%	中粒 2%	中塊 10%	中塊 50%
	6	5YR5/8明赤褐色	SiCL	3	2	III層			極大塊 90%	
	7	7.5YR2/2黒褐色	SiCL	3	2	II層	極小粒 5%	大粒 5%	小塊 15%	中粒 10%
	8	10YR2/2黒褐色	SiCL	2	3	II層	極小粒 10%	中塊 20%	極小粒 2%	大塊 15%
	9	7.5YR2/2黒褐色	SiCL	2	3	II層	10%	小塊 10%	小塊 10%	大塊 30%
	10	10YR3/1黒褐色	SiCL	2	3	III層		極小粒 1%	極小粒 1%	極小塊 10%
	11	10YR5/3にぶい黄褐色	SiCL	3	2	III層	極小粒 2%	極小塊 2%	大塊 20%	70%
	12	10YR3/4暗褐色	SiCL	3	2	III層	極小粒 1%	小粒 5%	大塊 20%	大塊 40%
	13	10YR2/1黒色	SiCL	3	2	III層	極小粒 1%	中塊 40%	極小粒 1%	小塊 5%
	14	5YR3/4暗赤褐色	SiCL	3	2	III層		極小粒 1%	90%	10%
	15	5YR5/8明赤褐色	SiCL	3	2	III層		極小粒 1%	80%	10%
	16	2.5YR3/3暗赤褐色	SiCL	3	2	III層			100%	
	17	10YR2/2黒褐色	SiCL	3	2	III層		中塊 10%	小塊 5%	中塊 10%
	18	10YR3/3暗褐色	SiCL	3	2	III層		極小粒 1%		10%

第26図 SN5121焼土遺構



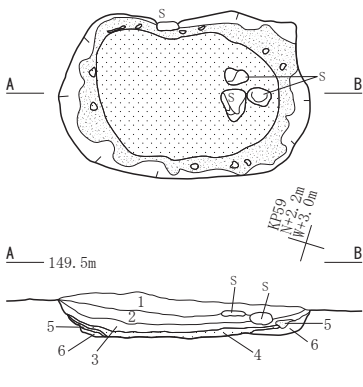
SN5122



遺構	層	土色	土質	しまり	粘性	母材	火山灰	炭化物	焼土	地山土
SN5122	1	7.5YR2/3黒褐色	SiCL	3	2	II層	極小粒 1%	小粒 5%	中塊 20%	小塊 5%
	2	10YR6/6明黄褐色	SiCL	3	2	V層			小粒 20%	大塊 80%
	3	7.5YR3/2黒褐色	SiCL	3	2	II層	極小粒 1%	極小粒 2%	極小粒 5%	中塊 10%
	4	10YR3/2黒褐色	SiCL	3	2	II層	極小粒 1%	小粒 2%	小粒 10%	小粒 10%
	5	7.5YR3/2黒褐色	SiCL	3	2	II層	極小粒 2%	極小粒 1%	極小粒 2%	5%
	6	10YR3/2黒褐色	SiCL	3	2	II層	極小粒 5%	極小粒 1%	中粒 30%	小粒 10%
	7	5YR5/8明赤褐色	SiCL	3	2	II層			90%	
	8	5YR5/8明赤褐色	SiCL	3	2	II層		小粒 5%	中塊 80%	小塊 10%
	9	5YR5/8明赤褐色	SiCL	3	2	III層		極小粒 1%	90%	
	10	7.5YR6/6橙褐色	SiCL	3	2	V層		中塊 20%	80%	
	11	7.5YR2/3黒褐色	SiCL	3	2	II層	極小粒 1%	小粒 10%	中粒 10%	小塊 10%
	12	5YR5/8明赤褐色	SiCL	3	2	II層	極小粒 1%	極小粒 1%	大塊 80%	中塊 15%
	13	7.5YR2/3黒褐色	SiCL	3	2	II層	極小粒 1%	小粒 5%	極小粒 10%	極小粒 5%
	14	10YR2/3黒褐色	SiCL	3	2	II層	極小粒 1%	小粒 5%	小粒 20%	小粒 15%
	15	7.5YR2/2黒褐色	SiCL	3	2	III層	極小粒 1%	小粒 1%		中塊 30%



SN5125

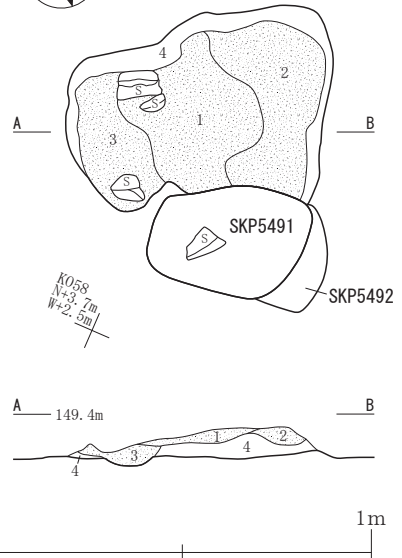


● 焼土
● 炭

遺構	層	土色	土質	しまり	粘性	母材	火山灰	炭化物	焼土	地山土
SN5125	1	10YR2/1黒色土	SiCL	4	1	II層	極小粒 2%	小粒 5%		
	2	10YR2/1黒色土	SiCL	4	2	II層	極小粒 1%	中粒 10%	小粒 2%	
	3	10YR1.7/1黒色土	SiCL	4	2	II層		中粒 20%	小粒 1%	小粒 1%
	4	7.5YR1.7/1黒色土	SiCL	4	2	II層		中粒 40%	小粒 1%	
	5	10YR2/1黒色土	SiCL	2	4	II層				
	6	5YR3/6暗赤褐色土	SiCL	3	4	II層		小粒 3%	小粒 60%	
SN5126	1	7.5YR5/8明褐色	SiC	4	2	II層	極小粒 2%	小粒 5%	80%	
	2	5YR5/8黄褐色	SiC	4	2	II層	極小粒 2%	極小粒 1%	90%	
	3	7.5YR3/2黒褐色	SiCL	3	2	II層	極小粒 5%	極小粒 5%	小塊 30%	小塊 5%
	4	7.5YR2/2黒褐色	SiCL	3	2	II層	極小粒 1%	極小粒 2%	極小粒 1%	



SN5126



第27図 SN5122、SN5125、SN5126焼土遺構

る。残存する南西側縁の南側も粘土で構築した側壁下部が幅約10cm、高さ約12cm残存している。側壁間は25cm～45cmである。焼土を覆う埋土は焼土塊、炭化物粒、焼粘土塊、焼けて崩壊した礫が多量に混じる。埋土中には火山灰を含むが、焼骨片は含まれていない。本遺構は南東端が煙出し、南東側の焼土堆積範囲が側壁と天井部をもつカマド本体、現存しないが北西側に作業用の前庭部が付属する構造の屋外カマド状遺構と考える。溝状の掘形の南東側最下部に黒褐色土を充填して火焼面を整形するとともに両側縁に側壁の心材となる板状礫を立て並べ、さらに側壁と天井部を粘土で構築したものと考える。廃絶後、天井部と側壁を崩しその残骸で前庭部まで全体を埋め立てたと推測する。埋土中には火山灰を含むが、焼骨片は含まれていない。時期は中世と推定する。

SN5123焼土遺構(第28図、図版11)

焼土の平面形は不整楕円形、掘形は溝状で底面は丸みを帯びる。焼土は掘形の北西側半分だけに形成されている。掘形は焼土が堆積しない南東端がやや狭くなる。側壁心材の礫や礫の抜き取り穴はなく、掘形の内側に粘土で構築した側壁も残存しない。焼土を覆う埋土は焼土塊、炭化物粒、焼粘土塊、焼けて崩壊した礫が多量に混じる。埋土中には火山灰を含むが、焼骨片は含まれていない。本遺構は北西端が煙出し、北西側の焼土堆積範囲が側壁と天井部をもつカマド本体、南東側に作業用の前庭部が付属する構造の屋外カマド状遺構と考える。溝状の掘形の南西側最下部に黒褐色土を充填して火焼面を整形し、側壁と天井部を粘土で構築したものと考える。廃絶後、天井部と側壁を崩しその残骸で前庭部まで全体を埋め立てたと推測する。時期は中世と推定する。

SN5125焼土遺構(第27図、図版11)

平面形が楕円形の土坑内で焼土と炭化物層を検出した。土坑の底面は平坦である。底面全面に厚さ約3cmの炭化物層が堆積し、側壁にドーナツ状に幅8～20cm、厚さ約3cmの焼土が形成されている。埋土は火山灰、焼土粒、炭化物粒が混じる埋め立て土で、南側から大礫3個がまとまって出土した。時期は近接する土坑墓群と同様の中世と推定する。

SN5126焼土遺構(第27図、図版11)

焼土の平面形は不整形である。掘形はなく旧地表面の地床炉と推定する。焼土はきわめて硬化し焼土下の黒褐色土は厚さ8～10cmが漸移的に被熱赤変している。時期は中世と推定する。

SN5129焼土遺構(第28図、図版11)

現存焼土の平面形は半円形であるが、本来は径約45cmの円形と推定する。掘形はなく旧地表面の地床炉と推定する。焼土はきわめて硬化し焼土下の黒褐色土は厚さ約10cmが漸移的に被熱赤変している。時期は中世と推定する。

SN5130焼土遺構(第28図)

楕円形の土坑内に焼土が形成されている。土坑の底面はやや凹凸がある。焼土は不整楕円形である。掘形の最下層に充填した黒褐色土も漸移的に被熱赤変している。旧地表面の地床炉と推定する。時期は中世と推定する。

SN5505焼土遺構(第29図)

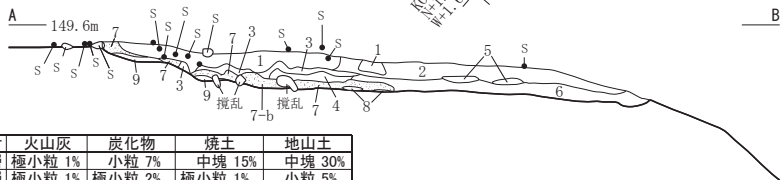
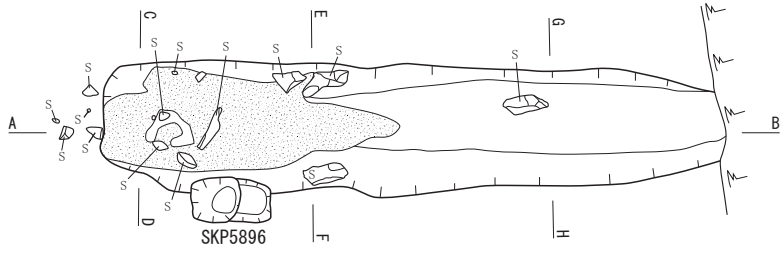
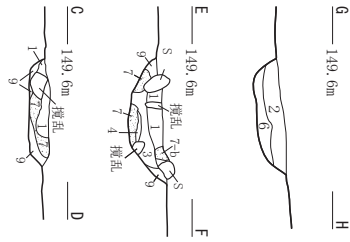
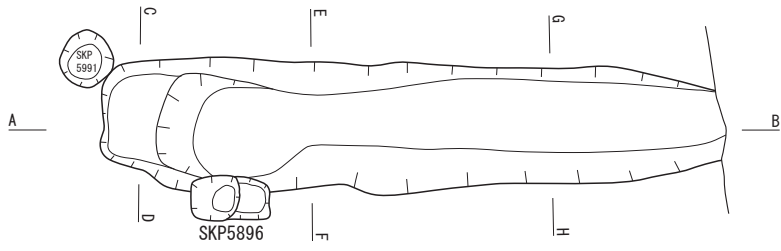
平面形は不整形で、掘形はない。地床炉と推定する。時期・性格ともに不明である。

SN5510焼土遺構(第29・42図)

楕円形の焼土が近接して2か所に形成されており、一連の遺構と推定する。2か所とも不整楕円形

第4章 調査の記録

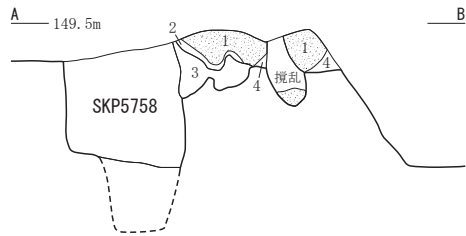
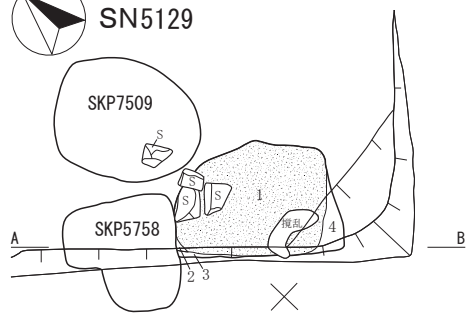
SN5123



0 1m

遺構	層	土色	土質	しまり	粘性	母材	火山灰	炭化物	焼土	地山土
SN5123	1	7.5YR2/3黒褐色	SiCL	3	3	Ⅲ層	極小粒 1%	小粒 7%	中塊 15%	中塊 30%
	2	10YR2/3黒褐色	SiCL	3	2	Ⅱ層	極小粒 1%	極小粒 2%	極小粒 1%	小粒 5%
	3	7.5YR3/3暗褐色	SiCL	2	3	V層			極小粒 5%	70%
	4	10YR2/2黒褐色	SiCL	2	3	Ⅱ層	極小粒 1%	極小粒 1%	大塊 30%	小塊 20%
	5	10YR2/1黒色	SiCL	3	2	Ⅱ層	極小粒 1%	小塊 10%	極小粒 1%	極小粒 5%
	6	10YR3/3暗褐色	SiCL	3	2	Ⅱ層	極小粒 1%	小粒 5%	極小粒 1%	小粒 10%
	7	5YR4/8赤褐色	SiCL	3	2	V層		極小粒 5%	80%	
	7-b	5YR3/6暗赤褐色	SiCL	3	2	V層		極小粒 5%	大塊 70%	極小粒 5%
	8	7.5YR4/4褐色	SiCL	3	3	Ⅲ層		小粒 10%	極小粒 1%	40%
9	10YR2/2黒褐色	SiCL	3	2	Ⅱ層	極小粒 1%	小粒 2%	極小粒 1%	中粒 20%	

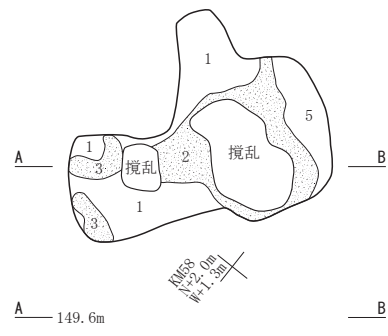
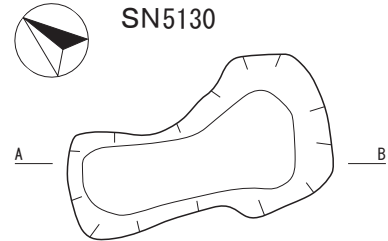
SN5129



焼土

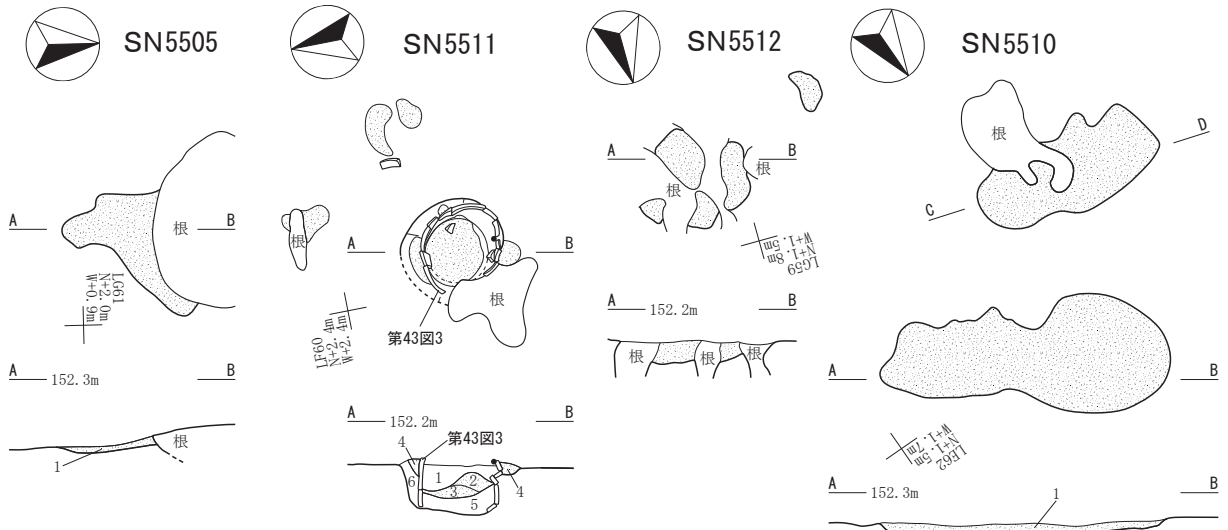
遺構	層	土色	土質	しまり	粘性	母材	火山灰	炭化物	焼土	地山土
SN5129	1	5YR4/8赤褐色	SiC	4	2	Ⅱ層		極小粒 1%	70%	小塊 5%
	2	7.5YR2/3黒褐色	SiCL	3	2	Ⅱ層	極小粒 1%	極小粒 2%	中塊 50%	
	3	7.5YR2/2黒褐色	SiCL	3	2	Ⅱ層	極小粒 2%	極小粒 5%	小塊 20%	小粒 10%
	4	7.5YR2/2黒褐色	SiCL	3	2	Ⅱ層	極小粒 5%	小粒 5%	小粒 2%	中塊 15%
SN5130	1	7.5YR2/3黒褐色	SiCL	3	2	Ⅱ層	極小粒 5%	小粒 5%	極小粒 2%	極小粒 5%
	2	5YR4/8赤褐色	SiCL	3	2	Ⅱ層	極小粒 5%	極小粒 2%	大塊 40%	小塊 10%
	3	5YR5/6明赤褐色	SCL	4	2	Ⅱ層	極小粒 5%	極小粒 1%	40%	極小粒 1%
	4	7.5YR2/3黒褐色	SiCL	3	2	Ⅱ層	極小粒 2%	小粒 2%	小粒 5%	小塊 10%
	5	7.5YR2/2黒褐色	SiCL	3	2	Ⅲ層		極小粒 1%	極小粒 1%	5%

SN5130

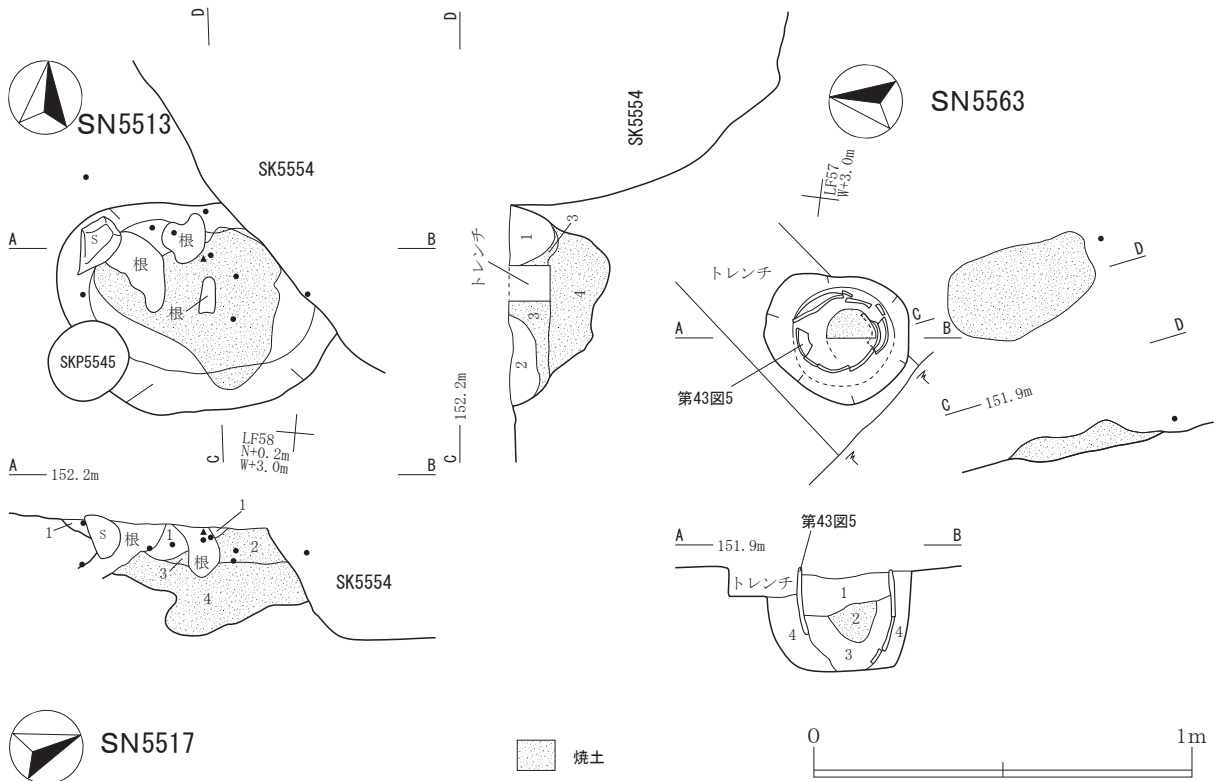


0 1m

第28図 SN5123、SN5129、SN5130焼土遺構



遺構	層	土色	土性	しまり	粘性	混入土	地山	焼土	炭化物
SN5505	1	暗褐色土(7. 5YR3/4)	SiL	4	3				
SN5510 A-B間	1	暗褐色土(7. 5YR3/4)	SiL	4	2				
SN5510 C-D間	1	赤褐色土(5YR4/6)	SiL	4	2				
	2	褐色土(7. 5YR4/4)	SiL	3	2				
SN5511	1	黒色土(10YR2/2)	SiL	3	3			大塊 10%	中粒 2%
	2	褐色土(7. 5YR4/6)	SiL	3	1	1層土 10%			
	3	暗褐色土(7. 5YR3/4)	SiL	4	2				
	4	暗褐色土(10YR3/3)	SiL	3	3		大粒 20%		小粒 1%
	5	褐色土(7. 5YR4/6)	SiL	5	1				
	6	暗褐色土(10YR3/3)	SiL	3	3		20%		なし
SN5512	1	暗褐色土(7. 5YR4/6)	SiL	4	3				



遺構	層	土色	土性	しまり	粘性	地山	焼土	炭化物
SN5513	1	暗褐色土(10YR3/4)	SiL	4	2			小粒 1%
	2	褐色土(10YR4/4)	SiL	4	2	小塊 20%		
	3	褐色土(7. 5YR4/4)	SiL	5	1	小塊 10%		
	4	褐色土(7. 5YR4/6)	SiL	5	1			
SN5517	1	暗褐色土(7. 5YR3/4)	SiL	5	2			
	2	暗褐色土(7. 5YR3/4)	SiL	5	2			
SN5563	1	黒褐色土(10YR2/2)	SiL	3	2	小塊 5%		小粒 1%
	2	にぶい赤褐色土(5YR4/4)	SiL	4	1			
	3	暗褐色土(10YR3/3)	SiL	4	2	中塊 30%		
	4	褐色土(10YR4/4)	SiL	4	2	中塊 40%		

第29図 SN5505、SN5510、SN5511、SN5512、SN5513、SN5517、SN5563焼土遺構

である。北側の焼土の西側半分は特に強く被熱している。2か所とも掘形はなく、地床炉と推定する。時期・性格ともに不明である。第42図13は口唇に刻み目を施し器表面に多段のループ文を施文した前期初頭の土器で混入遺物と考える。

SN5511焼土遺構 (第29・43図、図版11・22)

土器埋設炉である。楕円形の掘形の底面直上に底部と口縁部を欠く土器が正位で埋設されている。埋設土器の周囲には厚さ約5cmの焼土が形成され、さらに土器から北東に約20cm離れた場所にも径約15cmの焼土がある。埋設土器内には焼土層が形成されており、埋土上部は焼土塊や炭化物粒が混じる埋め立て土である。埋設土器(第43図3)は胴部全面にLR状文を縦位回転施文している。一部に縦位4条のR撚紐原体側面押圧痕がある。縄文後期初頭の土器と推測する。

SN5512焼土遺構 (第29図)

平面形は円形で、さらに西側に約20cm離れた場所にも楕円形焼土がある。どちらも掘形はなく、地床炉と推定する。時期・性格ともに不明である。

SN5513焼土遺構 (第29図)

楕円形土坑の底面に焼土層が形成されている。埋土は焼土塊が多量に混じる埋め立て土である。埋土中には縄文前、中、後期の土器片が混入する。土坑西端から扁平な円礫が出土した。時期、性格は不明である。

SN5517焼土遺構 (第29図)

小規模な焼土が約65cmの範囲で3か所に分散している。掘形はなく、地床炉と推定する。時期・性格ともに不明である。

SN5526焼土遺構 (第23・43図、図版22)

土器埋設炉である。隣接してSR5506土器埋設遺構を検出した。両遺構が一組の遺構である可能性もある。埋設土器は円形の掘形の底面直上に土器の胴下半部が正位で埋設されている。埋設土器の周囲には幅約10cm、厚さ約5cmの焼土が形成されている。埋設土器内の埋土は焼土塊や炭化物粒が混じる埋め立て土である。埋設土器(第43図4)は胴部全面にLR縄文を縦位回転施文している。底面には板状の圧痕がある。縄文後期初頭の土器と推測する。

SN5563焼土遺構 (第29図・43図、図版11・22)

埋設土器とそれに隣接する焼土を検出した。きわめて近接し埋設土器内にも焼土層があることから一組の遺構と判断した。埋設土器は長軸39cm、短軸34cm、深さ27cmの楕円形の掘り込み内の底面直上に、土器の胴上半部が正位で埋設されている。埋設土器内には焼土層が形成されており、埋土上部は焼土塊や炭化物粒が混じる埋め立て土である。隣接する焼土は長軸40cm、短軸24cmの楕円形で、厚さは約8cmである。地床炉と推定する。埋設土器(第43図5)は胴部全面にLR縄文を縦位回転施文している。口唇直下に1条のLR撚紐原体側面押圧痕が巡る。縄文後期初頭の土器である。

6 配石遺構

SQ5569配石遺構(第32図、図版12)

旧神社跡地の丘陵上南東端のIV層(地山漸移層)上面で検出した。径約60cm、深さ16cmの円形土坑の側壁に最大で長さ約40cmの垂円礫をコの字形に埋め込んだ遺構と推測する。東側は当初から礫がなく、北側は礫の抜き取り穴がある。埋土は地山土塊が混じる埋立土である。遺物は出土しなかった。時期、性格は不明である。

7 溝跡

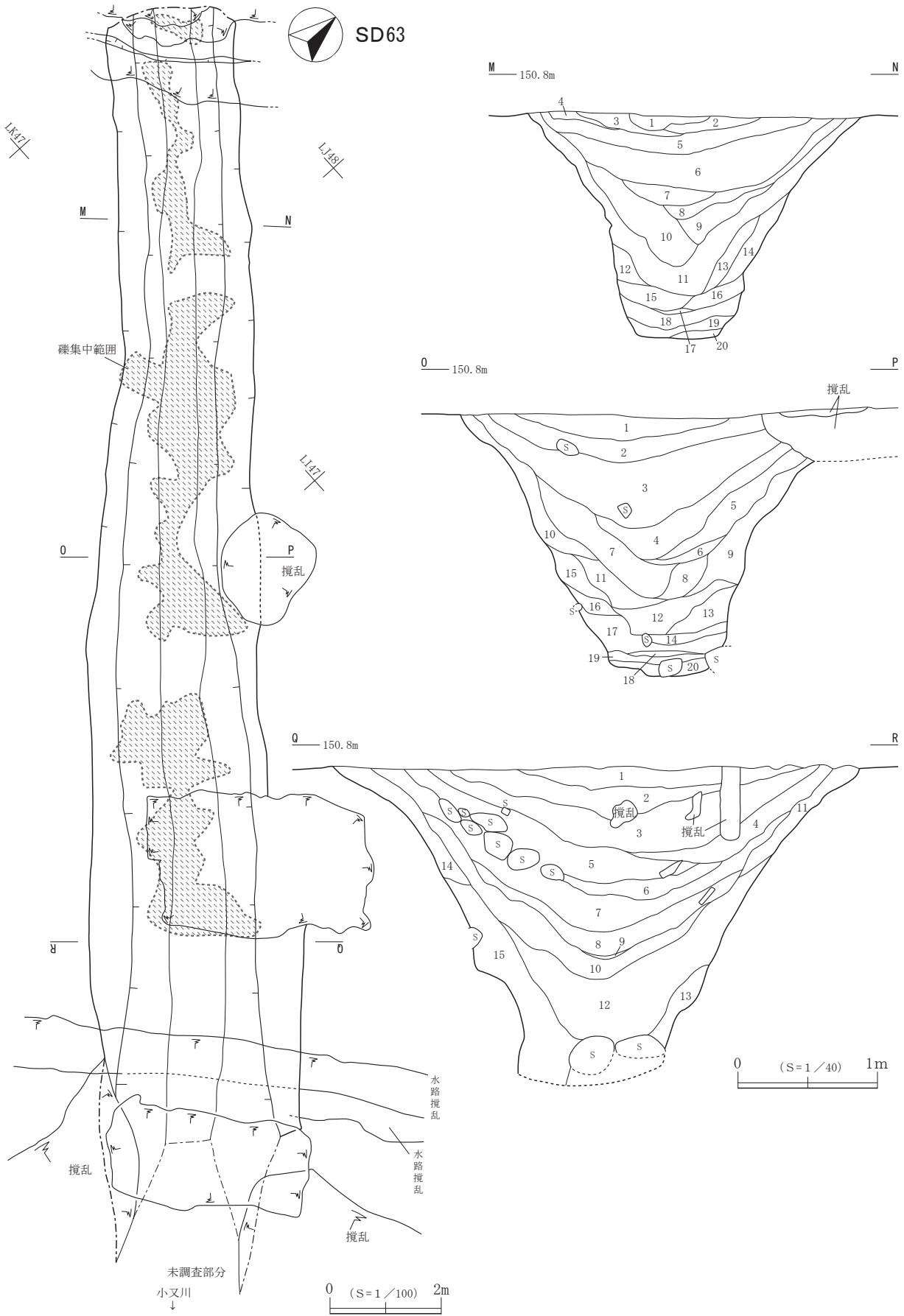
小又川沿いの平坦部中央付近で、第1次調査で検出したSD63溝跡の延長部分を検出した。また、北端部低地でもSD63溝跡と同様の大溝(SD5102溝跡)1条と区画溝又は板塀跡と推測する小規模な溝跡(SD5151溝跡・SD5152溝跡)2条を検出した。旧神社跡地の丘陵上では、区画溝又は板塀跡と推測する小規模な溝跡(SD5501溝跡～SD5559溝跡)5条を検出した。

SD63溝跡(第30・54・55・118・119図、図版12・26)

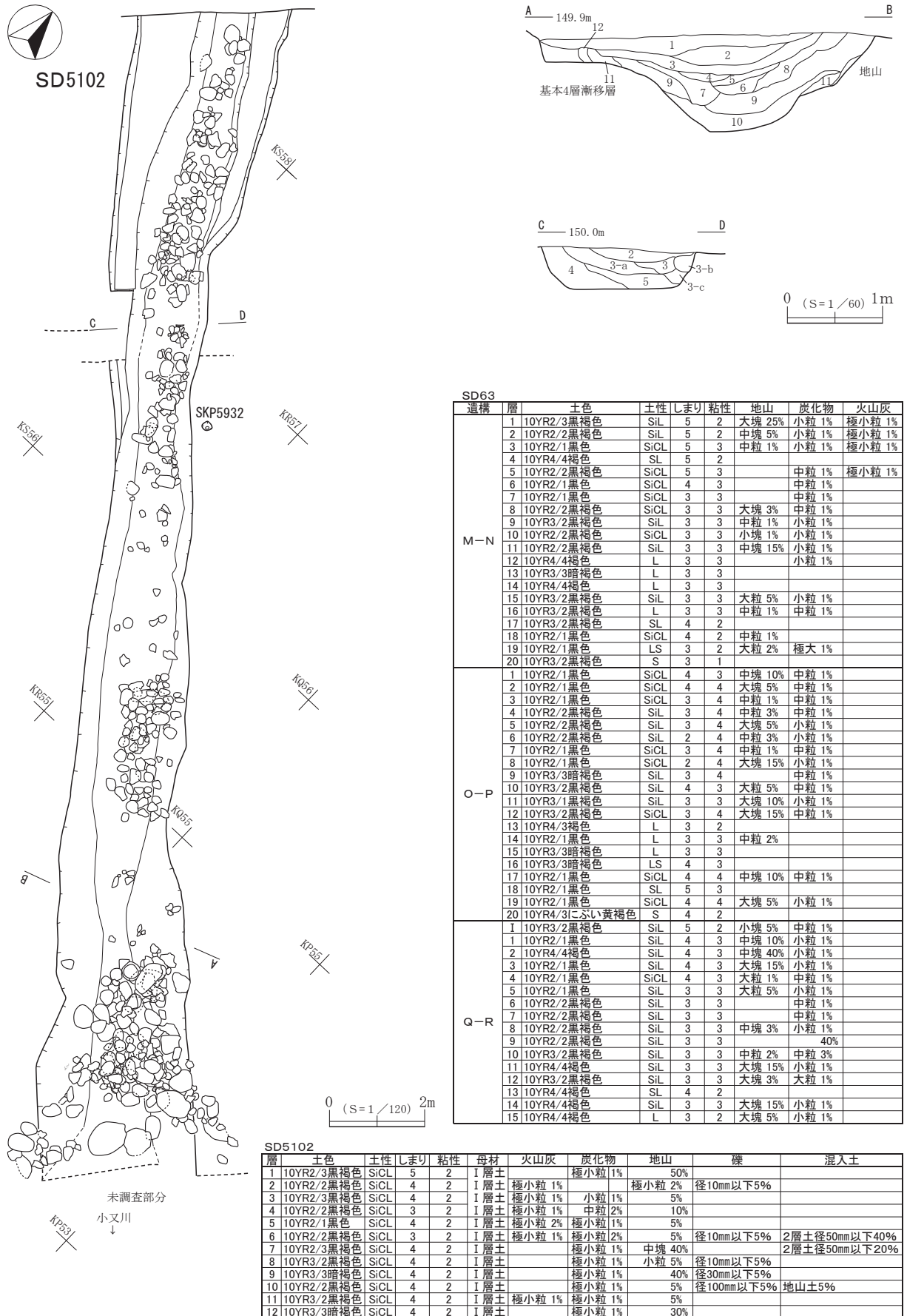
本遺構は第1次調査で検出した大溝の延長部分で、今回調査分の長さは20.6m、第1次調査分を合わせると総延長は45.6mである。溝は北西の山側から今回の調査区を横断して小又川に達しほぼ直角に開口している。今回調査区の北西端は上端幅2.4m、小又川に近くなるにしたがって幅が広がり、開口地点近くでは3.8mである。底面幅も同様に北西端で約60cm、小又川への開口地点では約110cmと広がる。溝の形態は箱薬研掘堀状で底面はほぼ平坦である。壁は底面から急角度で立ち上がり途中で屈曲して大きく外傾する。深さは北西端付近で約1.6m、中央付近で約1.8m、南東端付近で約2.3mで、小又川に向かって傾斜している。埋土は底面に近い下位では地山土と砂の互層によるラミナ構造が認められる。構築当初は開口し山側から小又川への水流があったことがわかる。埋土中位には多量の大型円礫と地山土母材の褐色土を主体とする埋め立て土が堆積する。埋土上位は黒褐色土が流入堆積している。埋土中からは縄文土器、石器、陶磁器、鉄釘が出土した。近世末の陶磁器と鉄釘が埋土中位の埋め立て土上面から出土したことから、近世末には深さ60cm～80cmの溝状の窪地であったと推測する。本遺構は縄文時代の土坑群分布域を掘削していることから、縄文土器と石器は埋土中位の埋め立てに周辺の表土を投入したことによる混入と考える。今回の調査では溝構築の時期を示す遺物は出土しなかった。

SD5102溝跡(第31・54～56図、図版12)

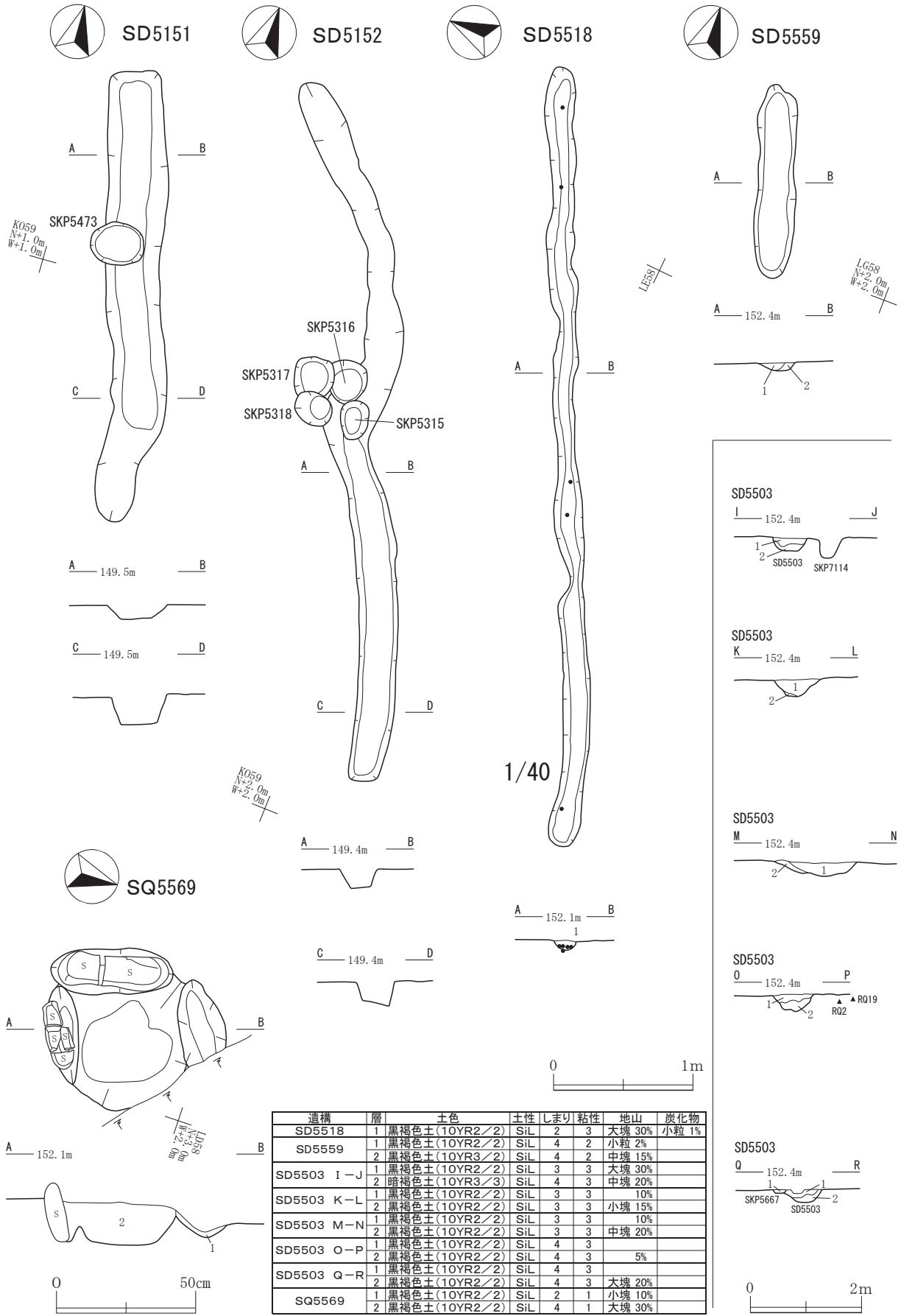
小又川沿いの北端部低地で検出した。小又川に直交して開口する大溝跡である。北西端は第1次調査区と接するが、旧神社跡地周縁の掘削によりすでに失われ検出できなかったものである。今回の調査区北端部は低地で深い削平を免れたことにより溝の下部が残存していた。縄文時代前期のST5101捨て場を切っている。溝の北西端は上端幅1.2m、小又川に近くなるにしたがって幅が広がり、開口地点近くでは3.3mである。底面はほぼ平坦で、壁は丸みを帯びて立ち上がる。深さは北西端付近で約45cm、南東端付近で約1mで小又川に向かって傾斜している。埋土は多量の大型円礫と地山土母材の褐色土を主体とする埋め立て土である。埋土中位と最上位には特に地山土が多く混じる層がある。埋土中からはST5101捨て場由来の縄文土器小片と石器類(第54～56図)が出土した。本遺構の構築、埋め立て時期を直接示す遺物はないが、溝の規模、方向、埋土がSD63溝跡に類似すること、中世の遺構群が本遺構より西には分布しないことから、中世の大溝跡と推定する。



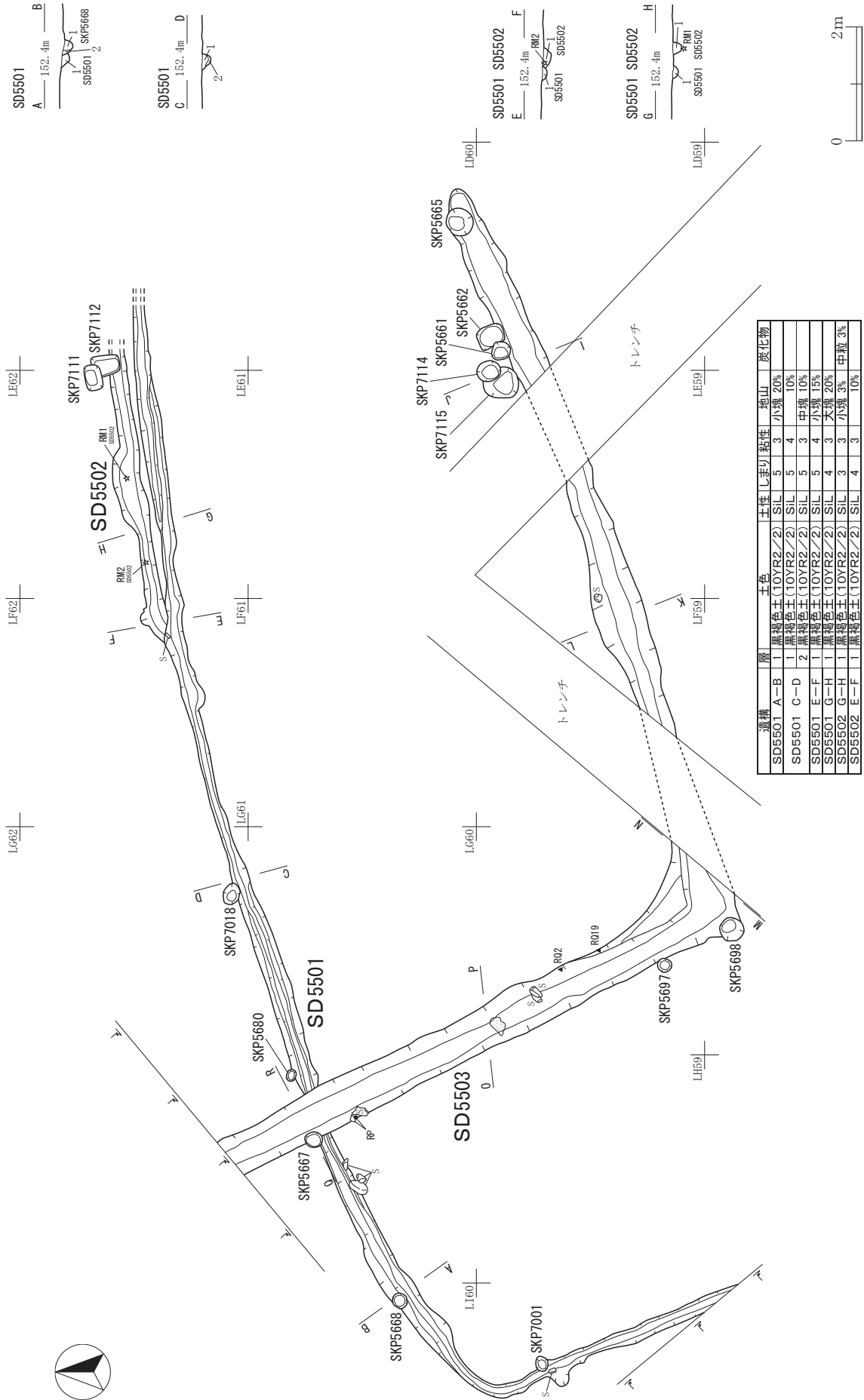
第30図 SD63溝跡



第31図 SD5102溝跡



第32図 SD5151、SD5152、SD5518、SD5503、SD5559溝跡、SQ5569配石遺構



第33図 SD5501・SD5502・SD5503溝跡

SD5151溝跡(第32図)

直線的に伸び南端に近い部分で南方にやや屈曲する溝跡である。SKP 5473柱穴様ピットに切られている。長さ3.24m、幅約43cm、深さ10cm～22cmで、底面は平坦で、北から南に傾斜している。遺物は出土しなかった。中世の板塀跡または区画溝と推測する。

SD5152溝跡(第32図)

V層(地山土)上面で検出した。北側と南側がそれぞれ西に弧状に湾曲し中央で接続している形態の溝跡である。SKP 5315・5316・5318柱穴様ピットに切られている。全体の長さは約5m、幅は約30cm、深さは14cm～18cmである。底面は平坦で水平である。遺物は出土しなかった。中世の板塀跡または区画溝と推測する。

SD5501溝跡(第33・43・120図、図版12)

北東－南西方向に直線的に伸び、南西側でほぼ直角に屈曲して南東方向に向きを変える溝跡である。SD5502溝跡を切り、SD5503溝跡、SKP 5667・5668・5680・7001・7018柱穴様ピットに切られている。現存の総延長は24.8m、幅は15cm～50cm、深さは10cm～15cmである。底面は丸みを帯び、壁は開いて立ち上がるが、一部では、壁上位は開き下位はほぼ垂直に立ち上がる。埋土は地山土塊が混じる埋め立て土である。埋土中から寛永通宝(第120図2)が出土したことから、埋め立て時期は近世である。埋土の状況から板塀跡と推定する。SD5502溝跡は本遺構に沿った溝跡で本遺構に切られることから、本遺構はSD5502溝跡を改築したものと考える。

SD5502溝跡(第33・120図、図版12)

北東－南西方向に直線的に伸びる溝跡である。南西端がSD5501溝跡に、北東端がSKP 7112柱穴様ピットに切られている。現存の総延長は5.3m、幅は15cm～50cm、深さは10cm～15cmである。底面は丸みを帯び、壁は開いて立ち上がる。埋土は地山土塊が混じる埋め立て土である。埋土の状況から本遺構は板塀跡と推定する。埋土中から嘉祐通宝(第120図3)が出土した。この銭貨は大きさ、重量、文字のつぶれから鋳写しの模鑄銭と考える。本遺構がSD5501溝跡に改築され、さらにSD5501溝跡の埋土中から寛永通宝が出土したことから、両遺構は戦国期から近世初期の可能性が考えられる。

SD5503溝跡(第32・33・43図、図版12)

北東－南西方向に直線的に伸び、南西側でほぼ直角に屈曲して北西方向に向きを変える溝跡である。SD5501溝跡を切り、SKP 5661・5662・5665・5667・5697・5698柱穴様ピットに切られている。現存の総延長は23.3m、幅は60cm～90cm、深さは25cm～30cmである。底面はやや丸みを帯び、壁は開いて立ち上がる。西側の底面に小規模な焼土が形成されている。埋土は地山土塊が混じる埋め立て土である。SD5501溝跡より新しいことから、近世の区画溝と推定する。

SD5518溝跡(第32図、図版12)

北東－南西方向に直線的に伸びる溝跡である。現存の総延長は5.6m、幅は8cm～24cm、深さは5cm～10cmである。底面はやや丸みを帯び、壁は開いて立ち上がる。埋土は地山土塊が混じる埋め立て土である。埋土の状況から板塀跡と推定する。SD5501溝跡、SD5502溝跡と形状、方向が類似することから、これらと同時期の溝跡と推定する。

SD5559溝跡(第32図)

南東—北西方向に直線的に延びる溝跡である。溝の方向は概ねN-21°-Wである。現存の総延長は1.4m、幅は30cm、深さは5cmである。底面はやや丸みを帯び、壁は開いて立ち上がる。埋土は地山土塊が混じる埋め立て土である。埋土の状況から板塀跡と推定する。SD5501溝跡と形状、方向が類似することから、これらと同時期の溝跡と推定する。

8 柱穴様ピット(第4・44・56・120図、付図2、図版1・2・24・26)

掘立柱建物を構成する柱穴と推測するが掘立柱建物跡のプランが判明しなかったものを柱穴様ピットとして掲載する。個別の属性は第7表に掲載した。

小又川沿いの平坦面は削平が著しく、SB5089・5090掘立柱建物跡周辺と平坦面中央部で散在する17基を検出したのみである(第4図)。北端部低地では、Ⅲ層(黒褐色土)またはⅣ層(地山漸移層)上面で564基の柱穴様ピットを検出した(付図2)。SD5102溝跡より北東側に分布し、土坑群、焼土遺構群と重複する。土坑、焼土遺構より古いものも新しいものもある。SKP5342柱穴様ピットからは凹部のある自然礫の円礫(第56図4)が出土した。用途は不明である。

旧神社跡地の丘陵上ではⅣ層(地山漸移層)上面で149基の柱穴様ピットを検出した(付図2)。柱穴様ピットは縄文時代の遺構を切り、中世と推定する遺構を切るものと切られるものがある。SKP5665柱穴様ピットから寛永通宝(第120図4)が出土し、近世と考えるSD5502・5503溝跡を切る柱穴様ピットもあることから、中世から近世まで年代に幅がある。SKP7049・7054柱穴様ピットからは鉄釘(第119図6～8)が出土した。ほかに埋土に混入した縄文土器(第44図1～4)、石器(第56図2・3・5・6)が出土した。

9 捨て場**ST5101捨て場**(第44～50・57～59図、付図1、図版12・22～24)

第1次調査で旧神社跡地北東側の斜面下部に縄文前期の遺物が集中する捨て場を調査したが、南東側は調査区外で未調査であった。今回はその部分を調査し、連続する遺物包含層を検出した。捨て場の遺物包含層は旧神社跡地の丘陵北東部斜面から小又川沿いの低地まで、北西—南東に32m、北東—南西に6～9mの範囲に広がっている。今回の調査では、旧神社跡地に近いKR57・58グリッド、KS58グリッドの遺物出土量が多かった。遺物包含層はⅣ層(地山漸移層)上面からⅢ層(黒褐色土層)下部に形成されている。包含層上部では土器破片が散在し、下部では復元可能土器が押しつぶされた状態で出土する傾向があった。出土土器の分類は第1次・第2次調査報告書43・44頁の分類に拠った。出土土器の主体は縄文前期円筒下層b式で、次いで円筒下層a式が多い。円筒下層c式・d式は比較的少なかった。各型式の土器は層位的に分離して出土したのではなく、出土地点では混在していた。石器類は総数301点出土した。

第I群土器：前期の円筒下層式土器

a類：円筒下層a式 (第44図6～9)

b類：円筒下層b式 (第45図1～15、第46図1～9、第47図1～7・9、第49図4・5)

c類：円筒下層c式 (第47図8・10～20、第48図1・15～18)

d類：円筒下層d式 (第49図6～8、第50図1～4)

a類またはb類 (第49図1～3)

b類またはc類 (第48図2～14)

第Ⅱ群土器：中期中葉から末葉の大木式、円筒上層式、北陸系の土器

a類：大木8b式 (なし)

b類：大木9式 (第50図5・6)

c類：大木10式 (なし)

d類：円筒上層式 (なし)

e類：北陸系新保・新崎式(なし)

第Ⅲ群土器：後期初頭から中葉の土器

a類：後期初頭の馬立式・沖附(2)式・蛭沢式に併行する土器(なし)

b類：十腰内Ⅰ式 (第50図7・8)

c類：十腰内Ⅱ式 (第50図9～12)

石鏃(第57図1・2)

図示した2点は、ともに無茎円基鏃である。KR58グリッドで近接して出土した。

縦型石匙(第57図3～5)

第57図3は右側縁に使用による光沢がある。

スクレイパー(第57図6・7)

素材剥片の末端に二次加工を施し急角度の凸刃を作出した石器で、用途は搔器である。

不定形石器(第57図8・9、第58図1～4)

素材剥片に二次加工を施し刃部を作出したもの、素材剥片の鋭い縁辺を刃部としその他の縁辺や表裏面に刃つぶしや整形のための二次加工を施したものである。用途は搔器、削器、カッター(ナイフ)である。第57図8・第58図1は左側縁、第57図9は左側縁末端側、第58図2は右側縁が刃部である。第58図3は素材剥片左側縁の鋭い縁辺をそのまま刃部としている。

微小剥離痕のある剥片(第58図4)

第58図4は礫皮面のある大型横長剥片の末端側に使用による微少剥離痕がある。

磨製石斧(第58図6・7、第59図1)

第58図6は側面に磨り切り痕が残る。

石錘(第59図2)

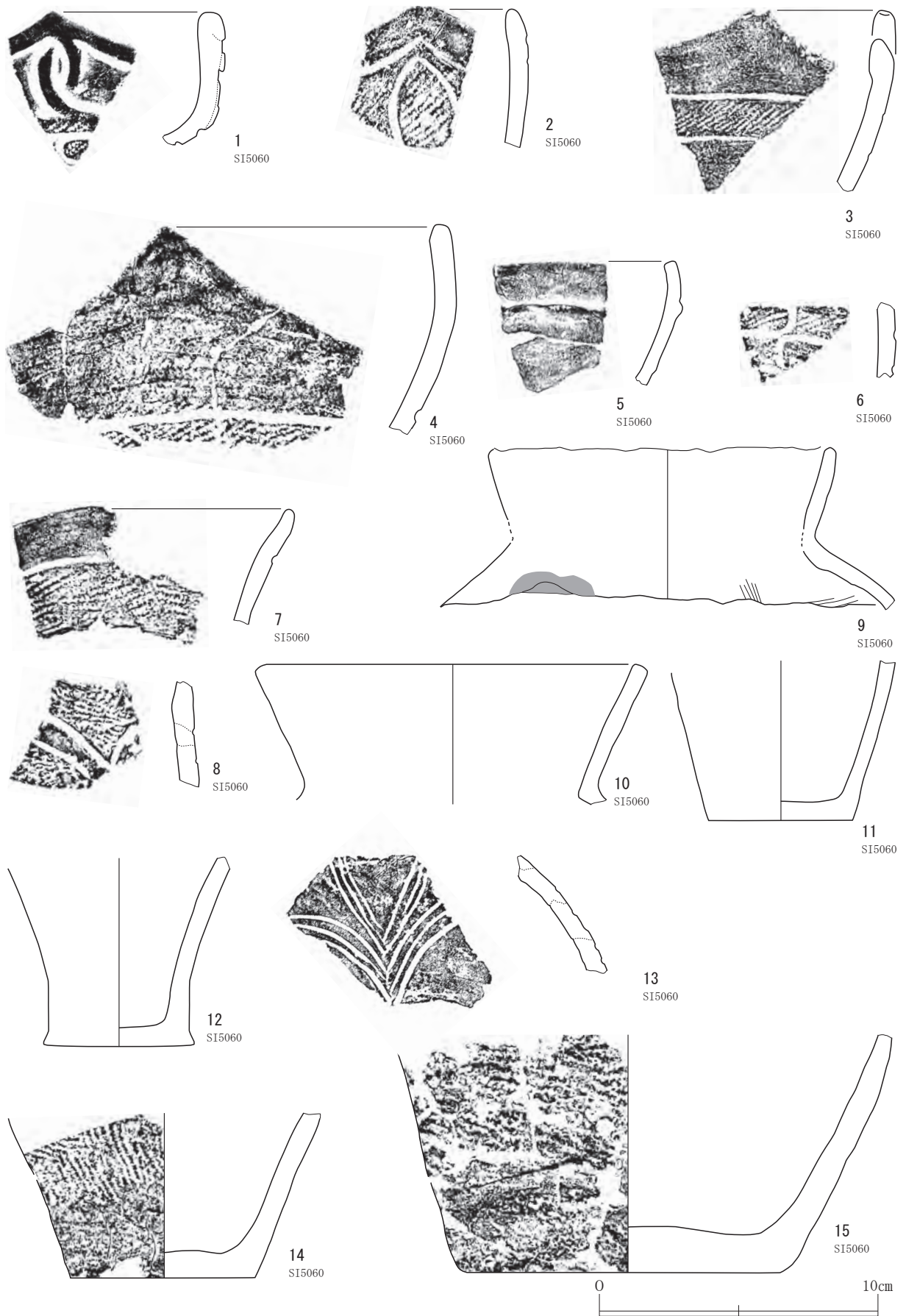
第59図2は楕円形の円礫の対辺2か所に打ち欠きがある。

半円状扁平打製石器(第59図3・4)

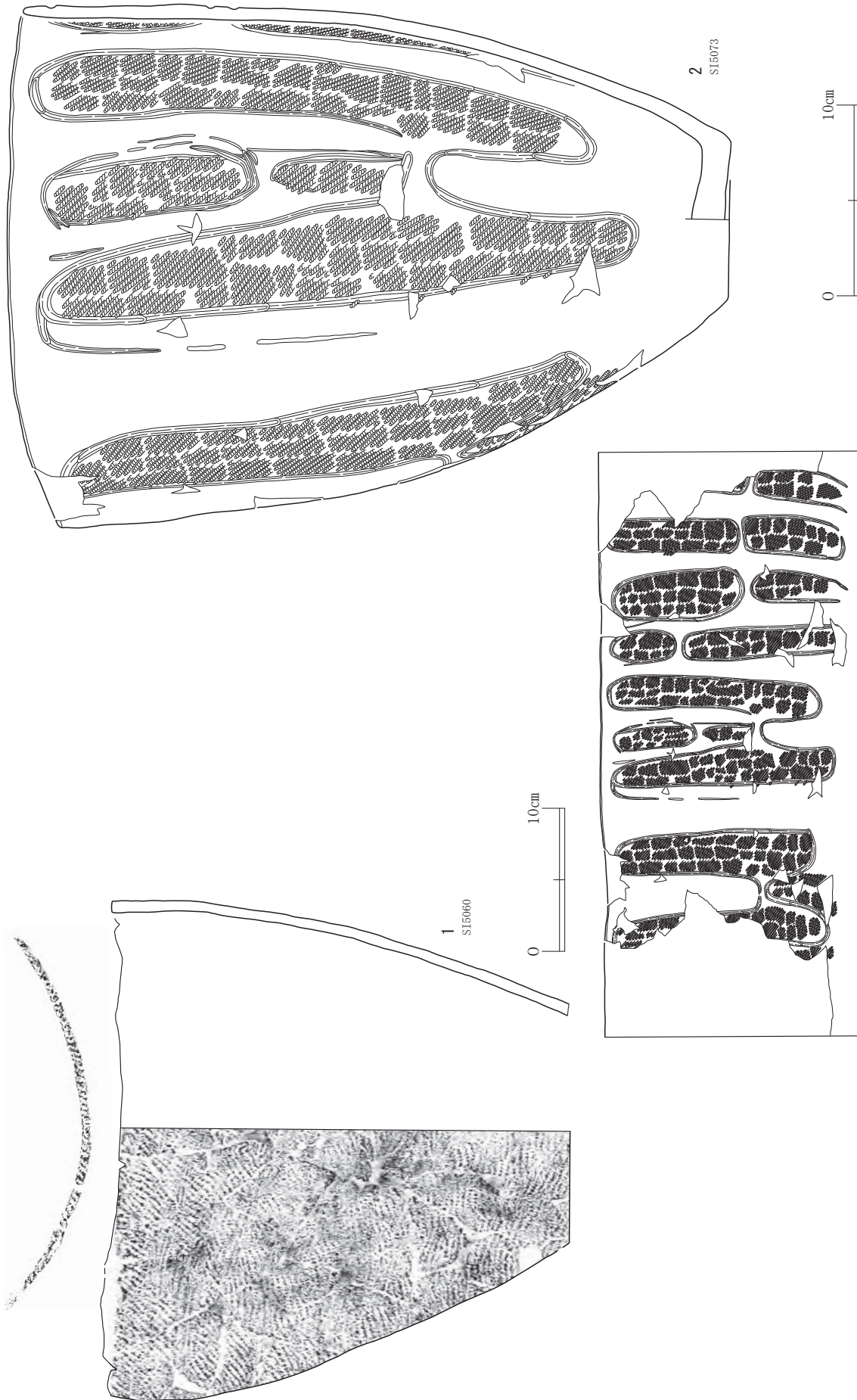
第59図3・4ともに下側縁は磨り面がある。

凹石(第59図5・6)

第59図5は細長い円礫を素材とし幅のやや広い部分の両面に各3か所の凹部がある。6は両面が磨り面である。



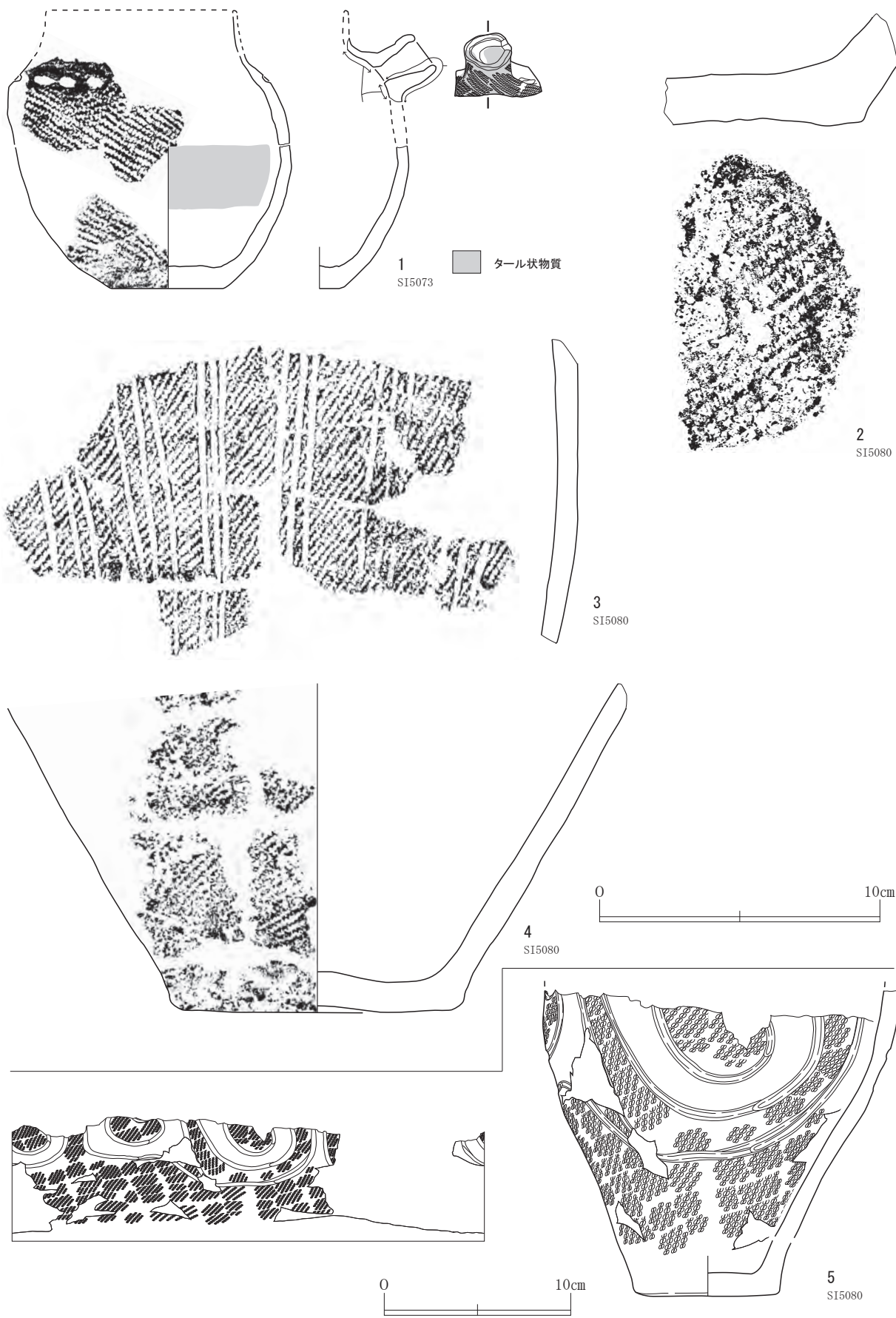
第34図 遺構内出土土器(1)



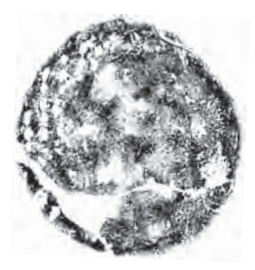
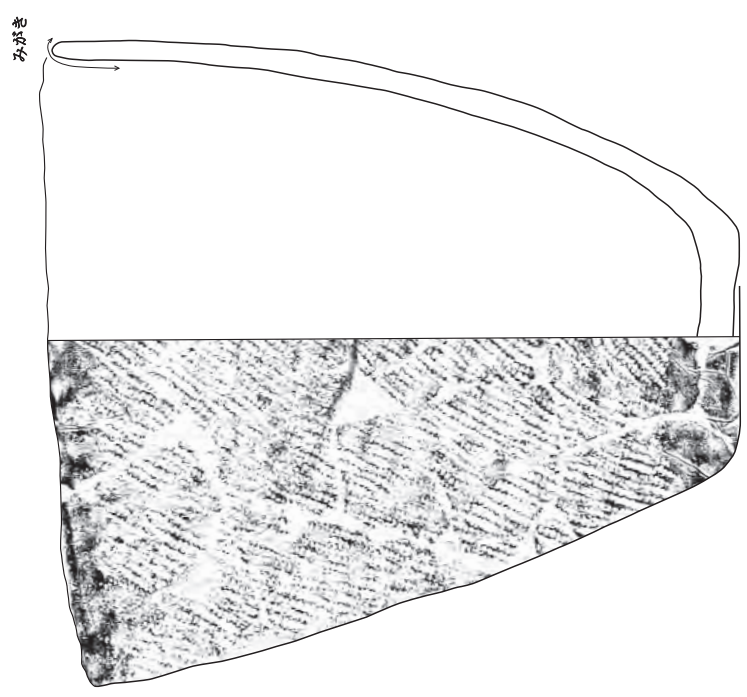
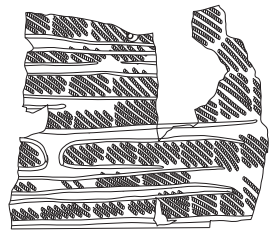
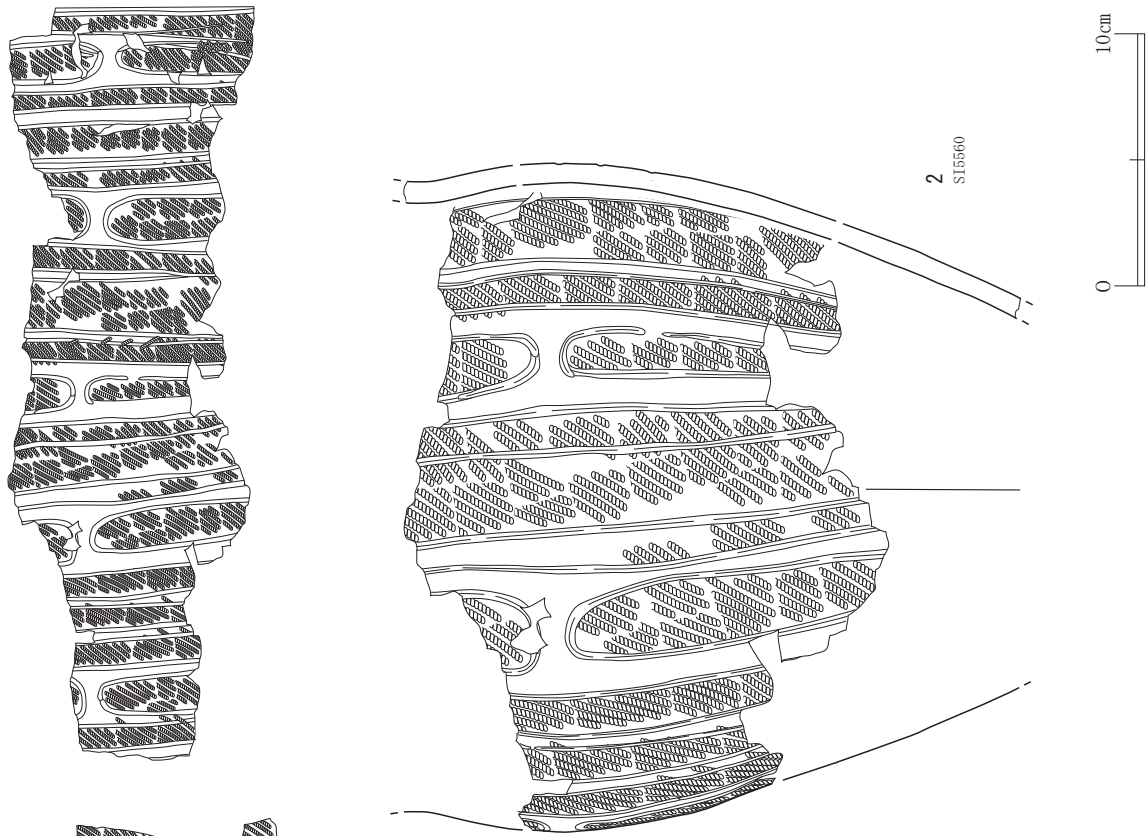
第35図 遺構内出土器(2)



第36図 遺構内出土土器(3)



第37図 遺構内出土土器(4)



第38図 遺構内出土土器(5)



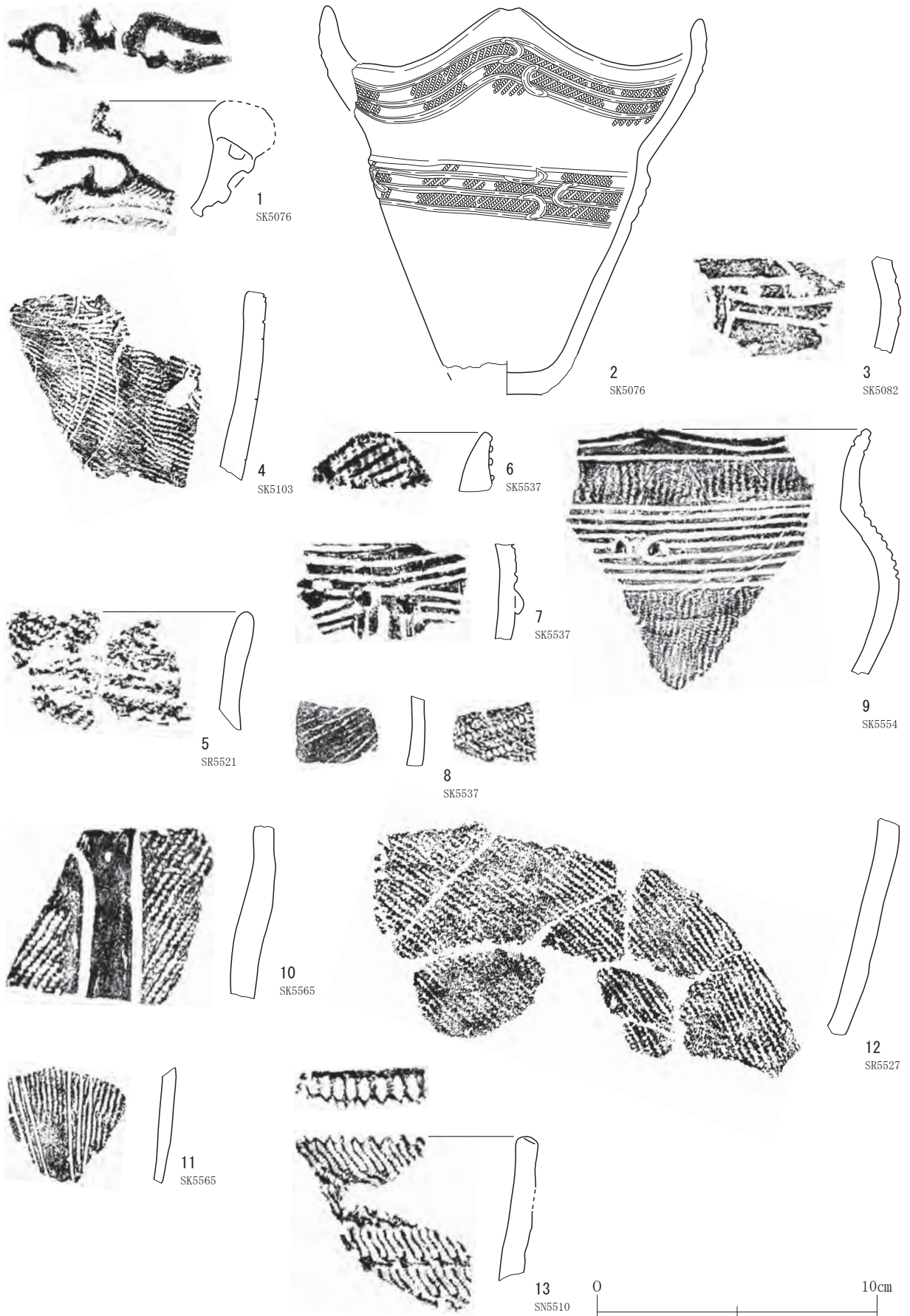
第39図 遺構内出土土器(6)



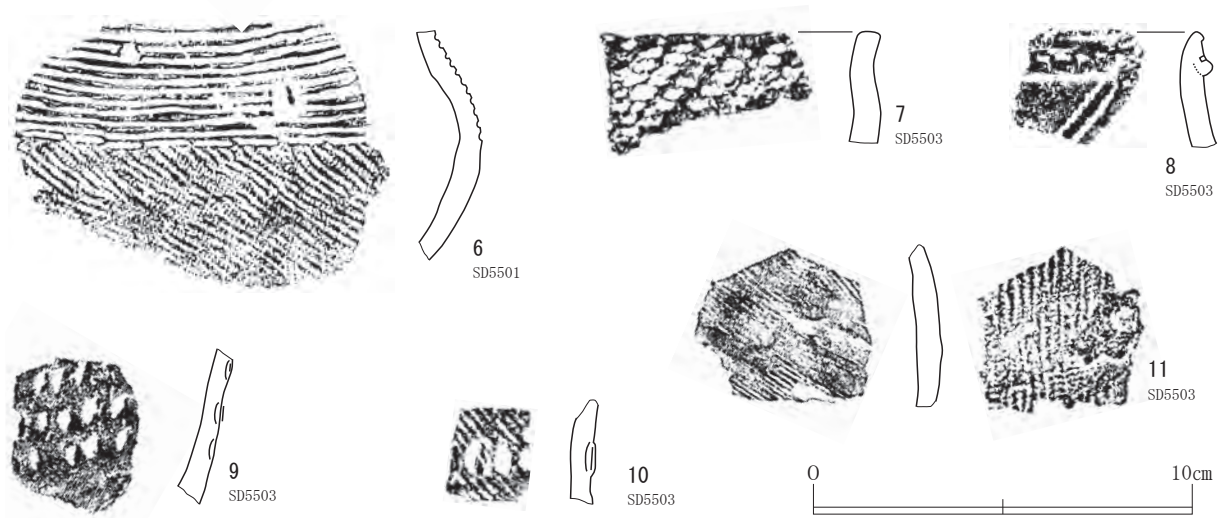
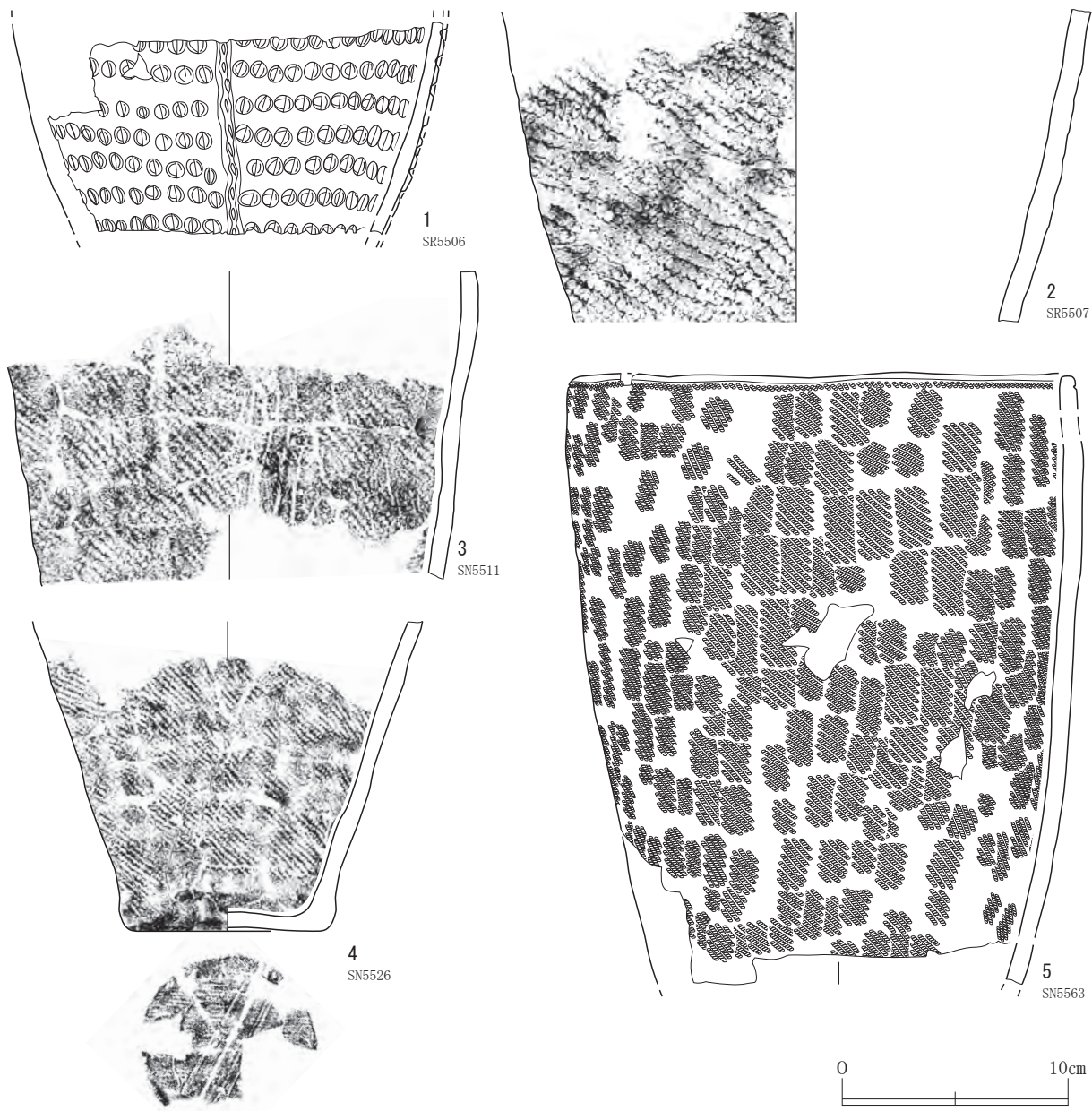
第40図 遺構内出土土器(7)



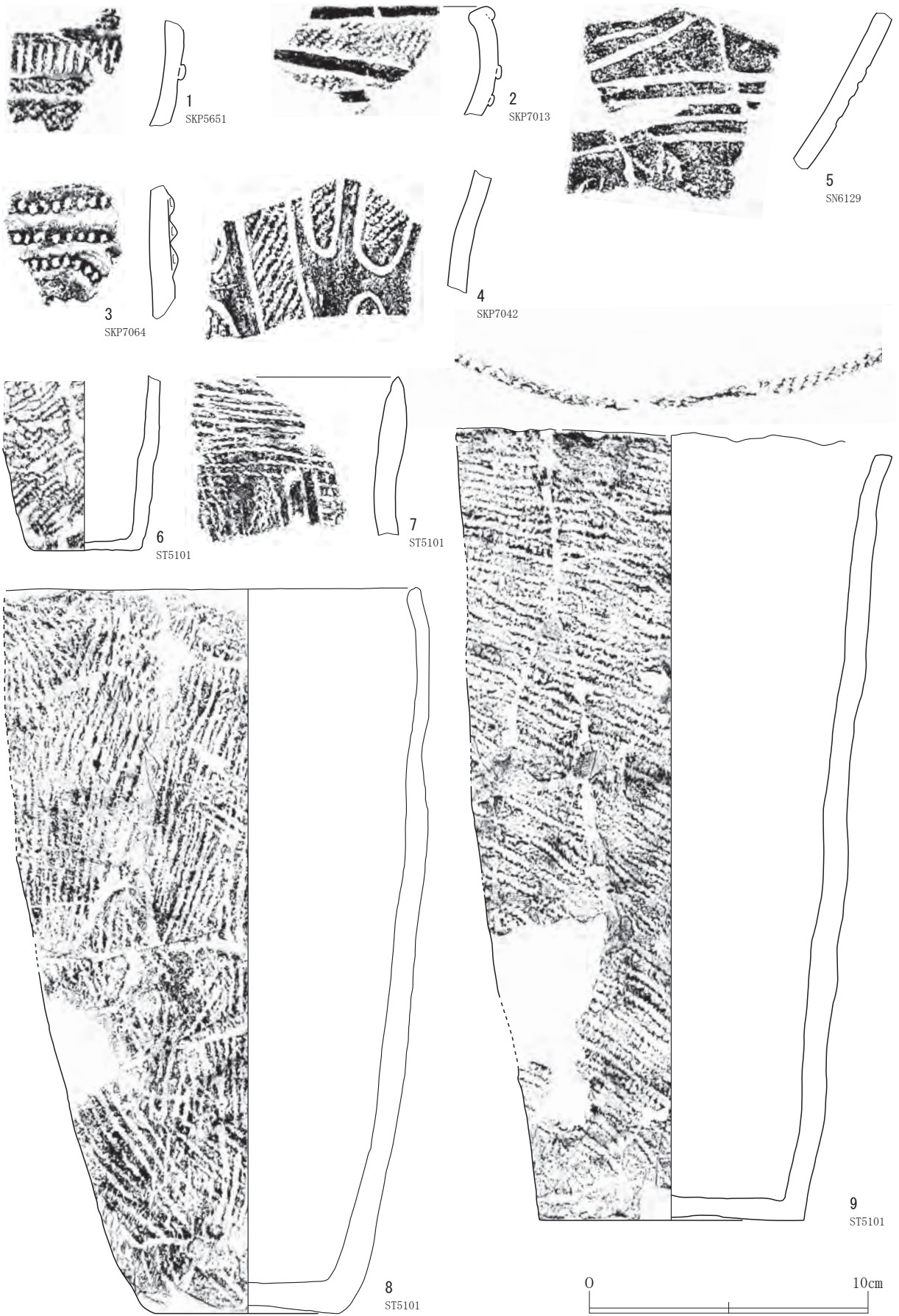
第41図 遺構内出土土器(8)



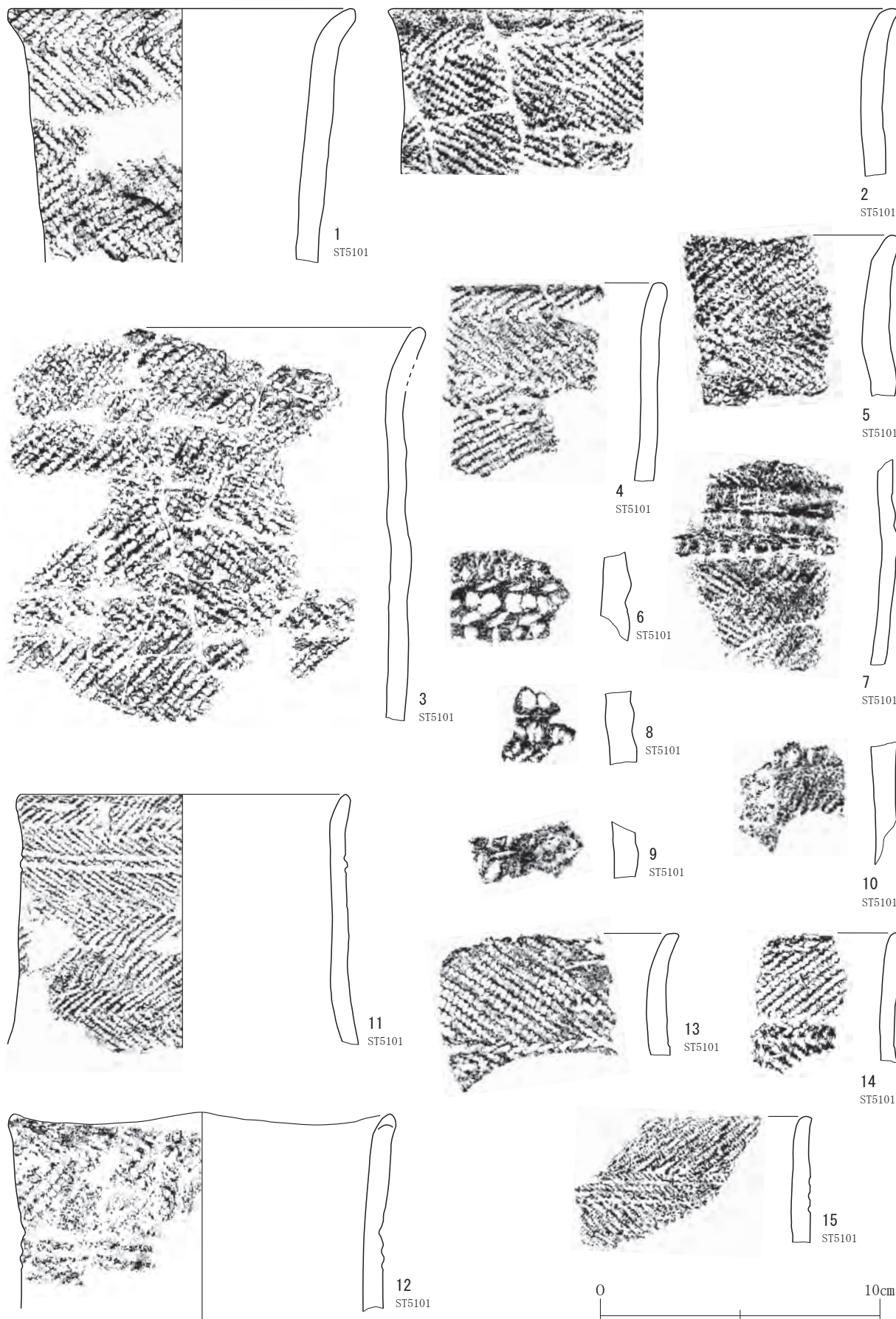
第42図 遺構内出土土器(9)



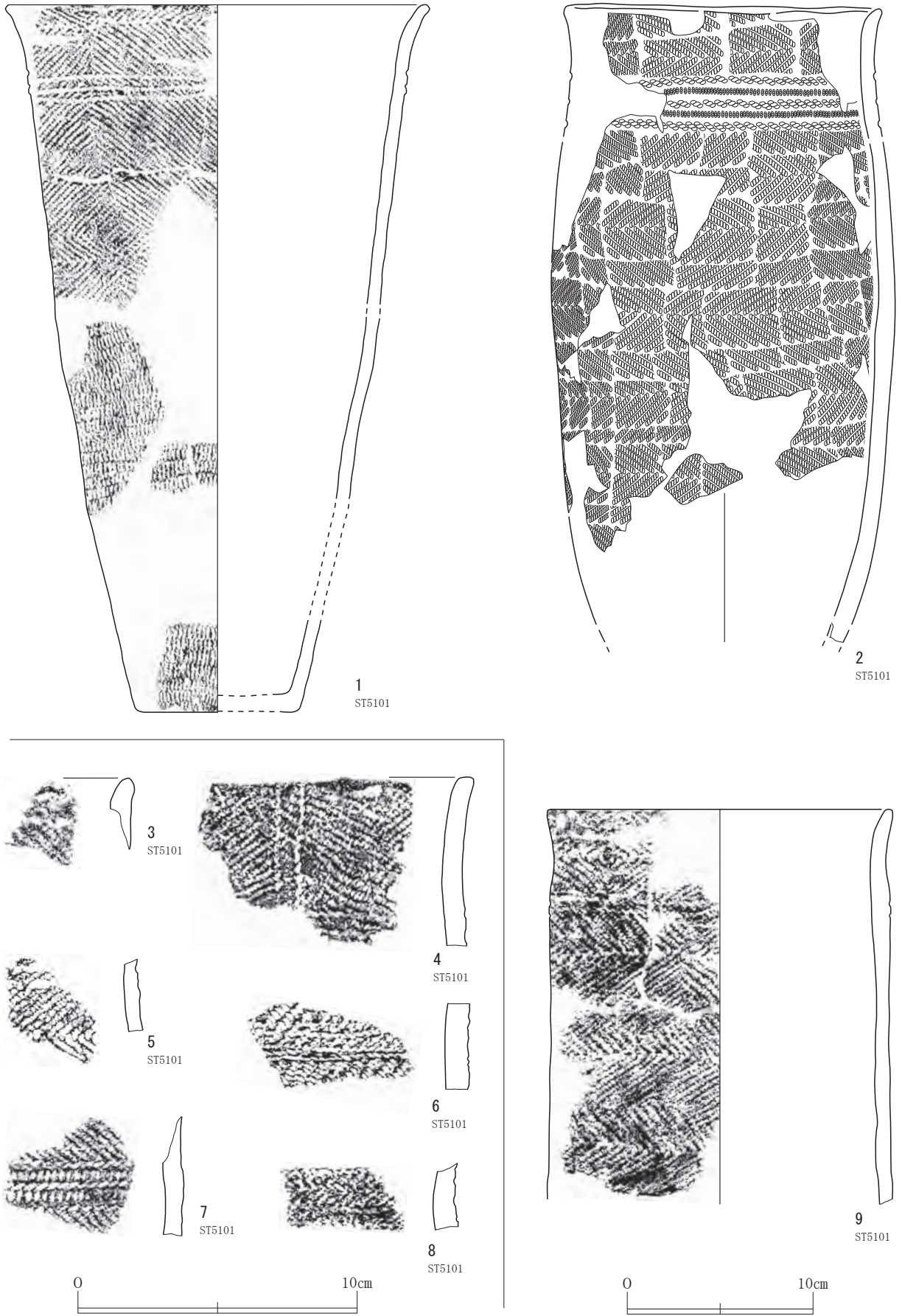
第43図 遺構内出土土器(10)



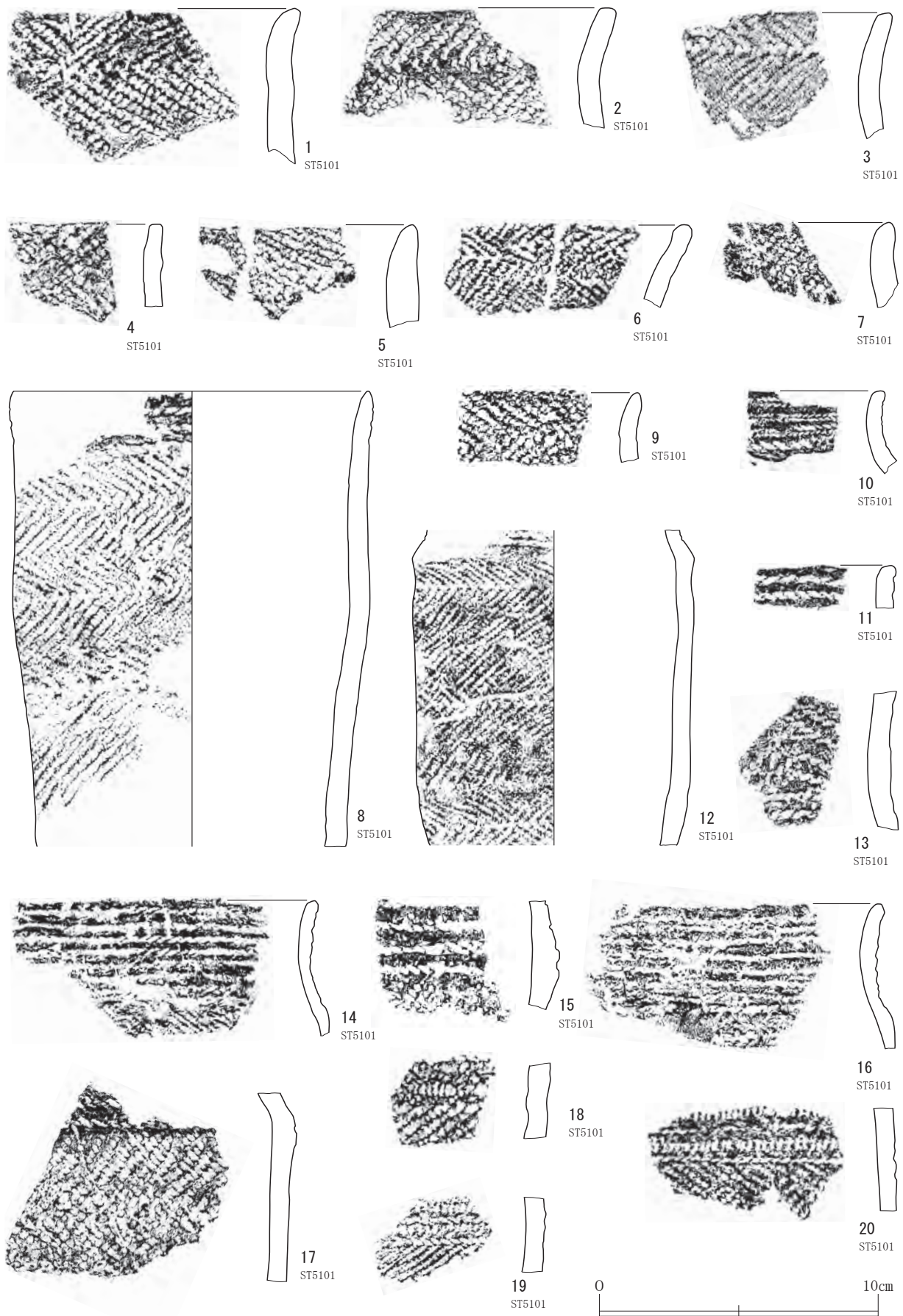
第44図 遺構内出土土器(11)



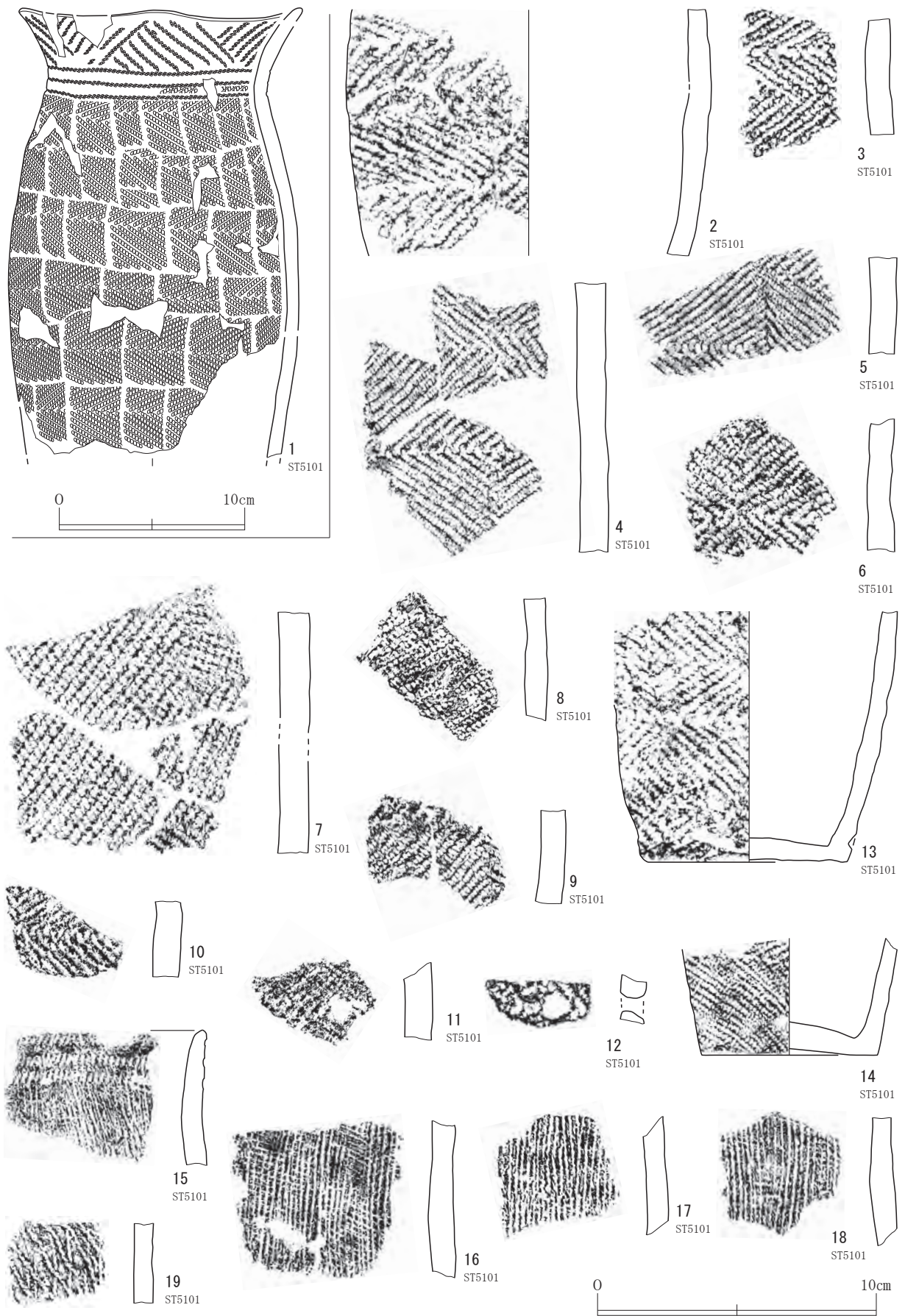
第45図 遺構内出土土器(12)



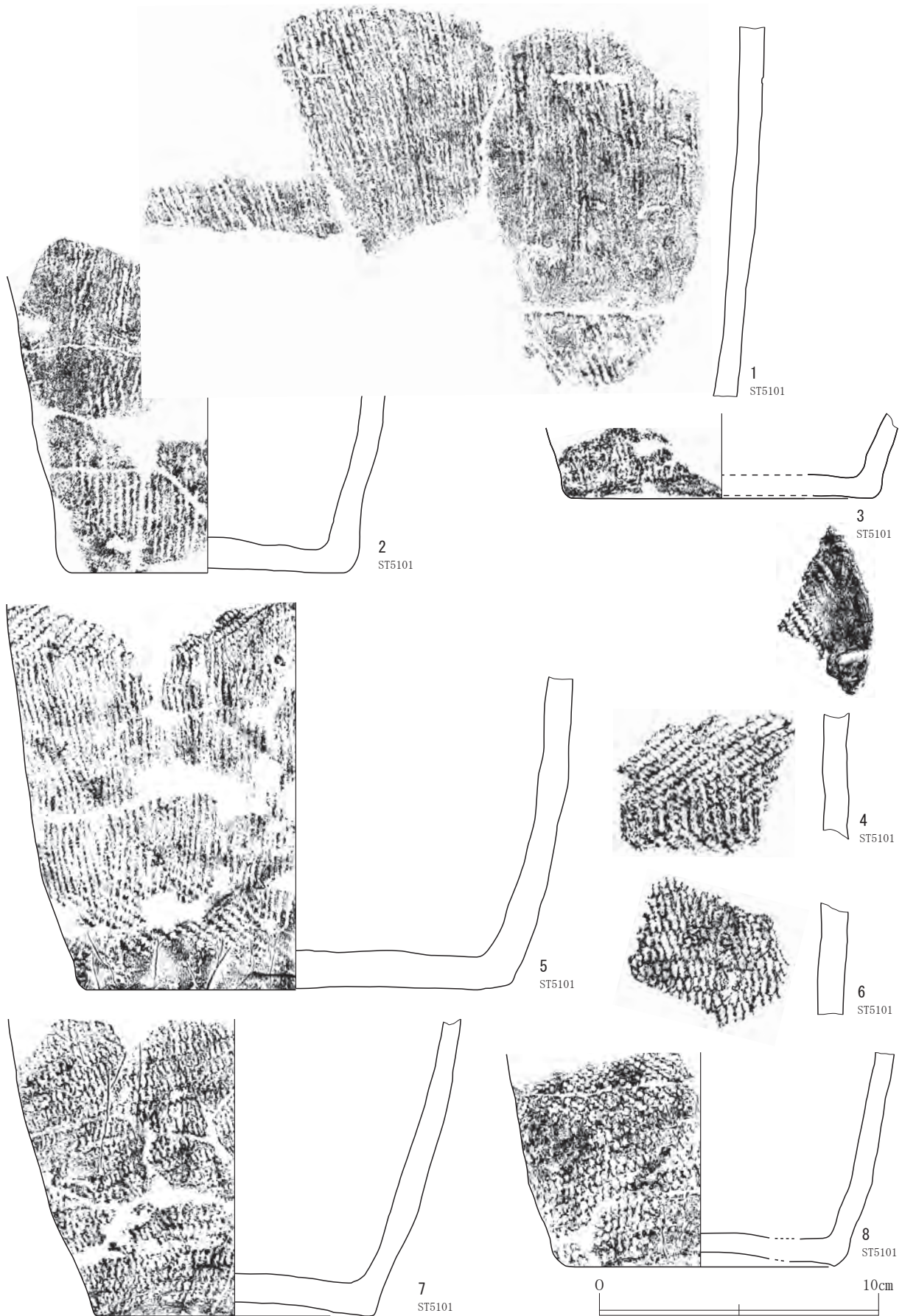
第46図 遺構内出土土器(13)



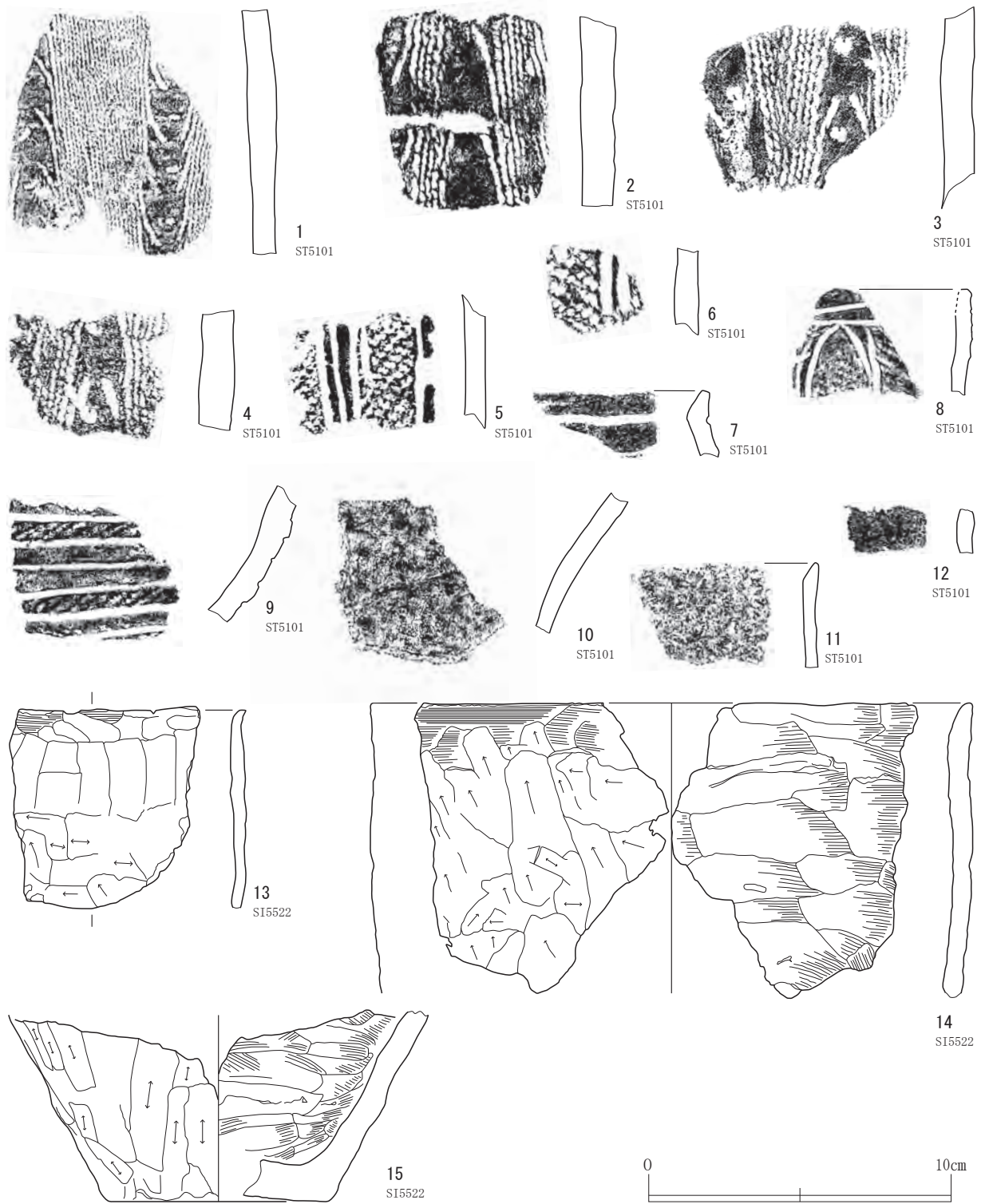
第47図 遺構内出土土器(14)



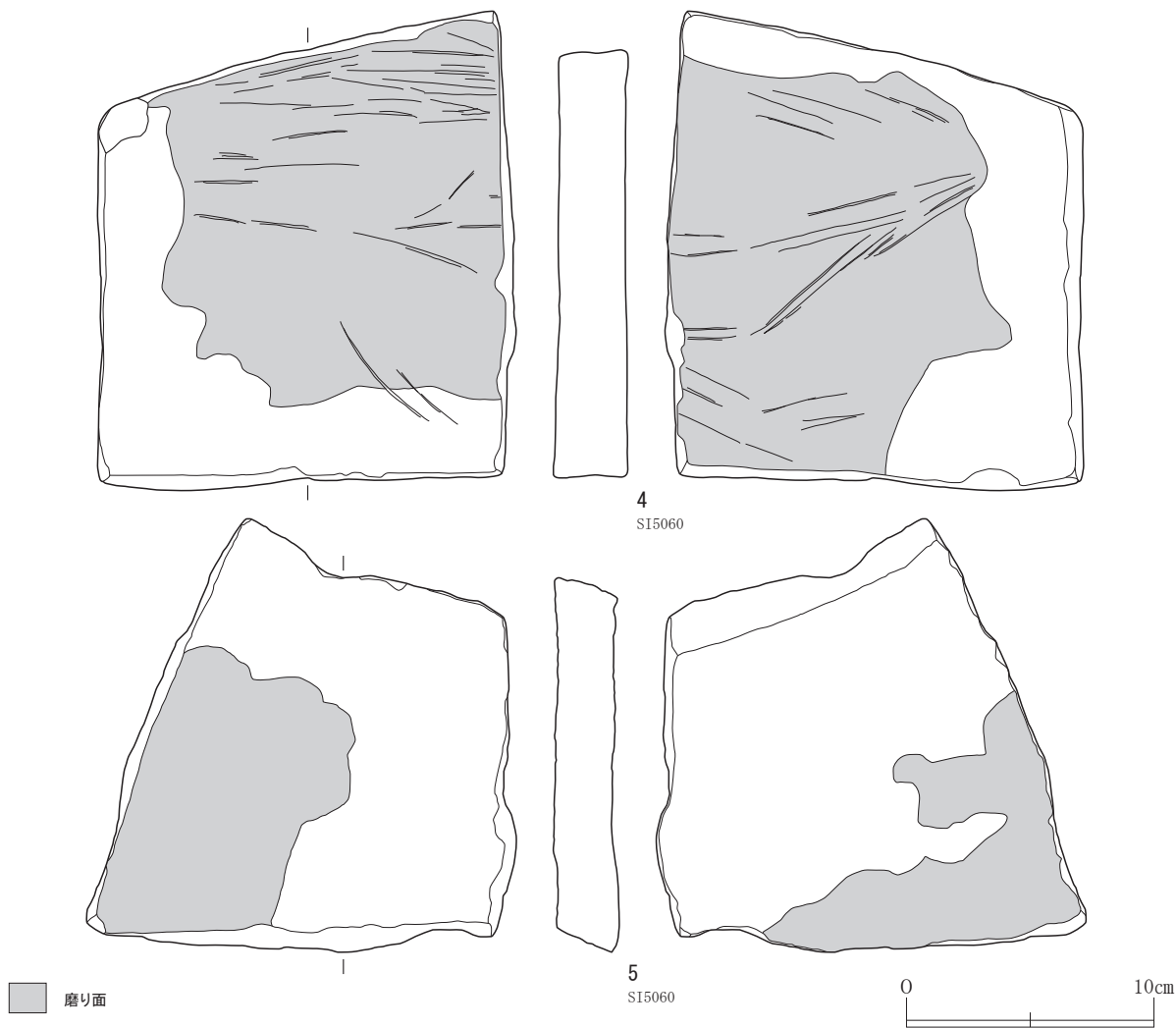
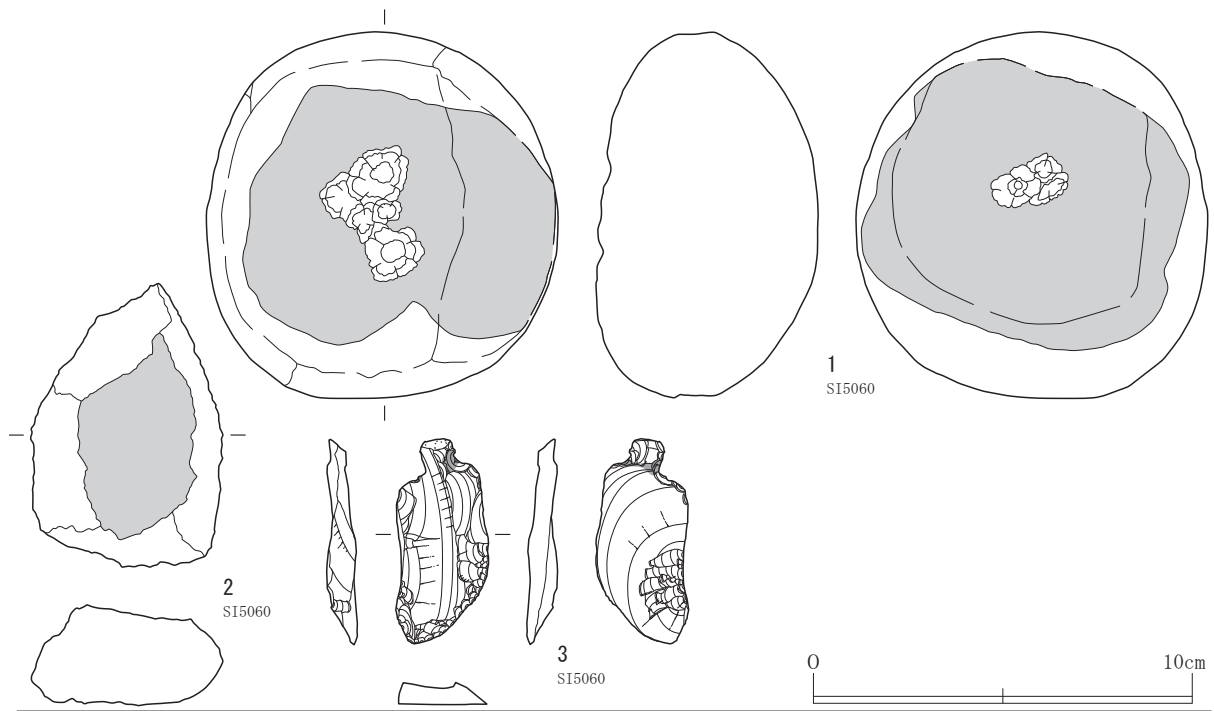
第48図 遺構内出土土器(15)



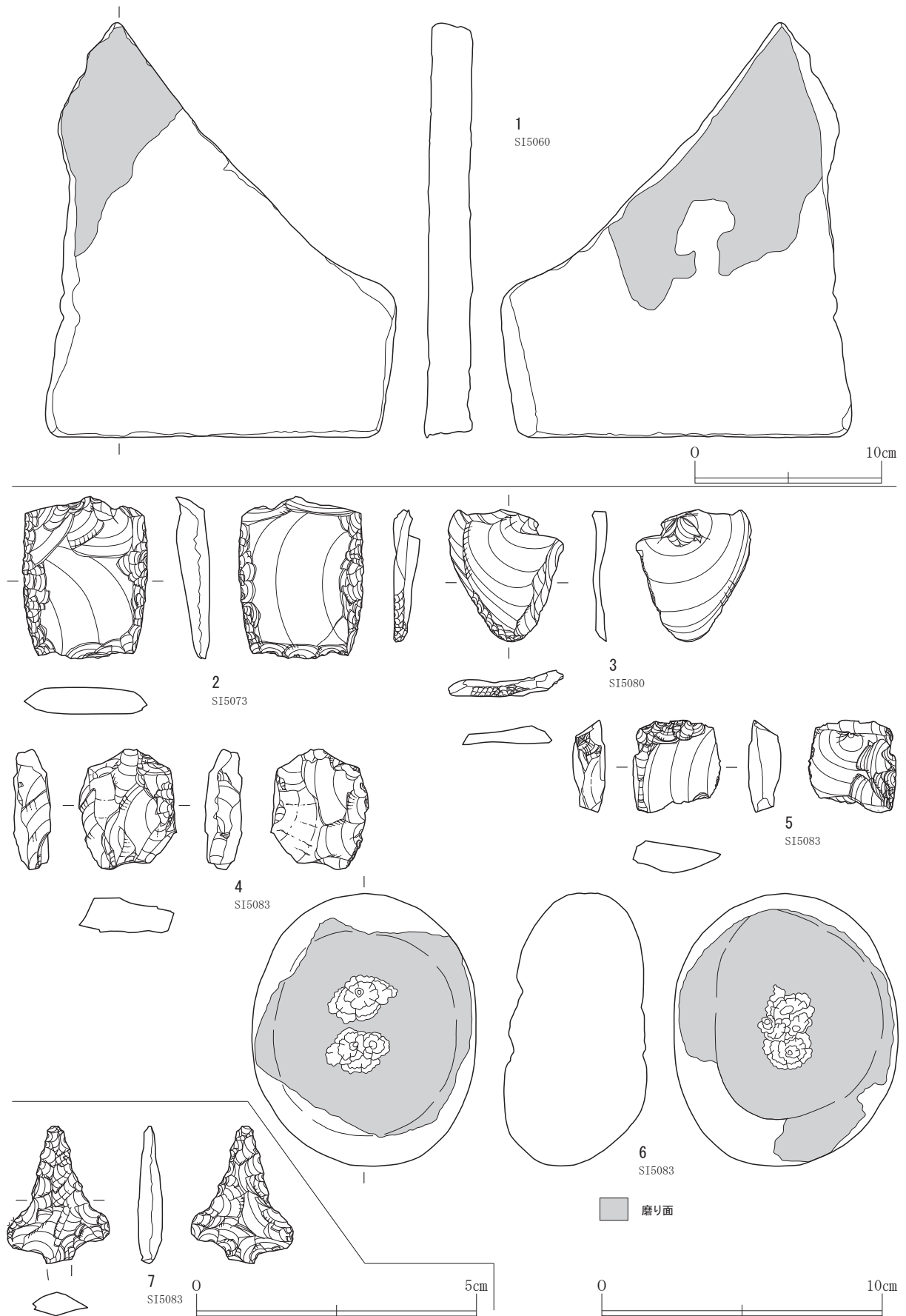
第49図 遺構内出土土器(16)



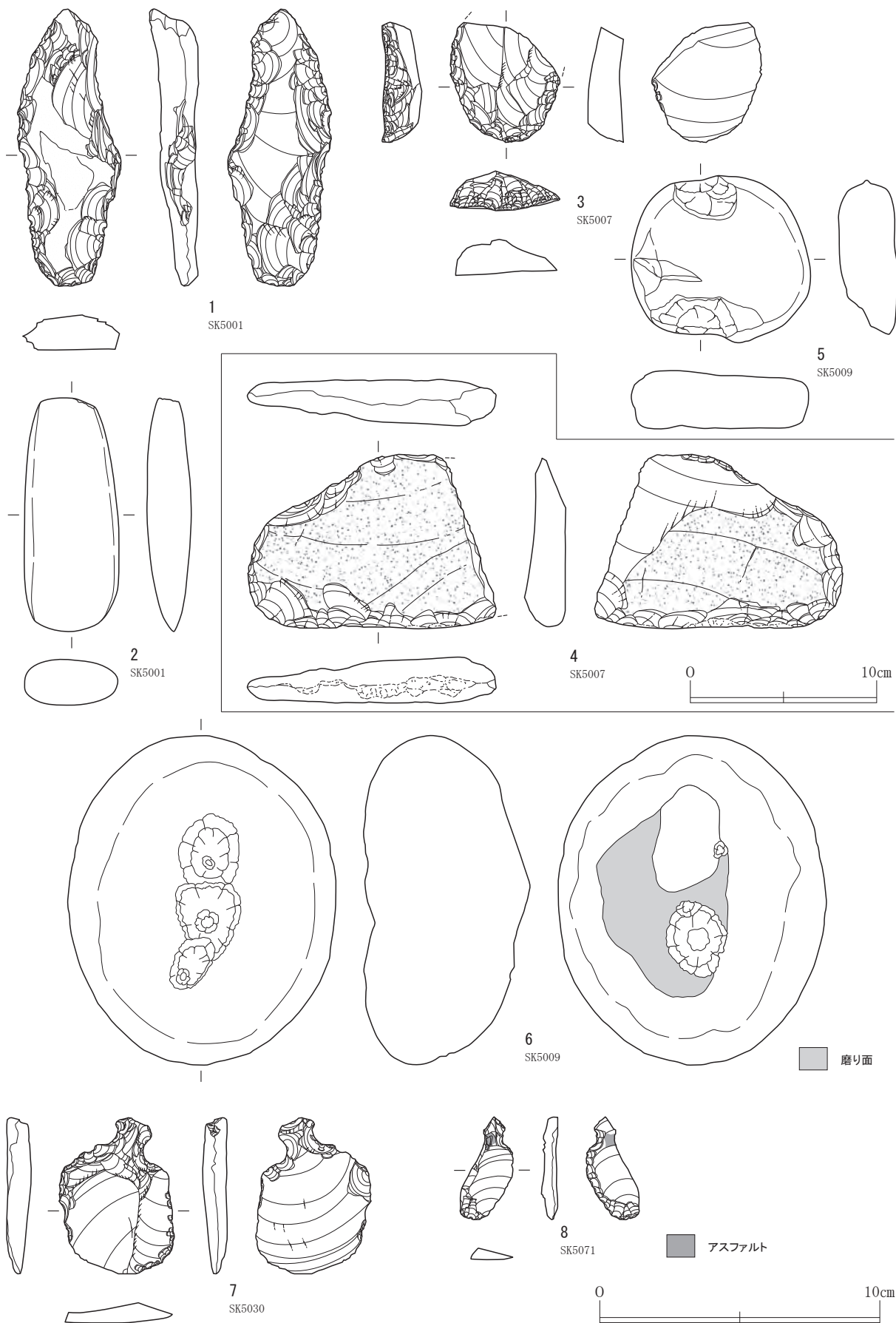
第50図 遺構内出土土器(17)



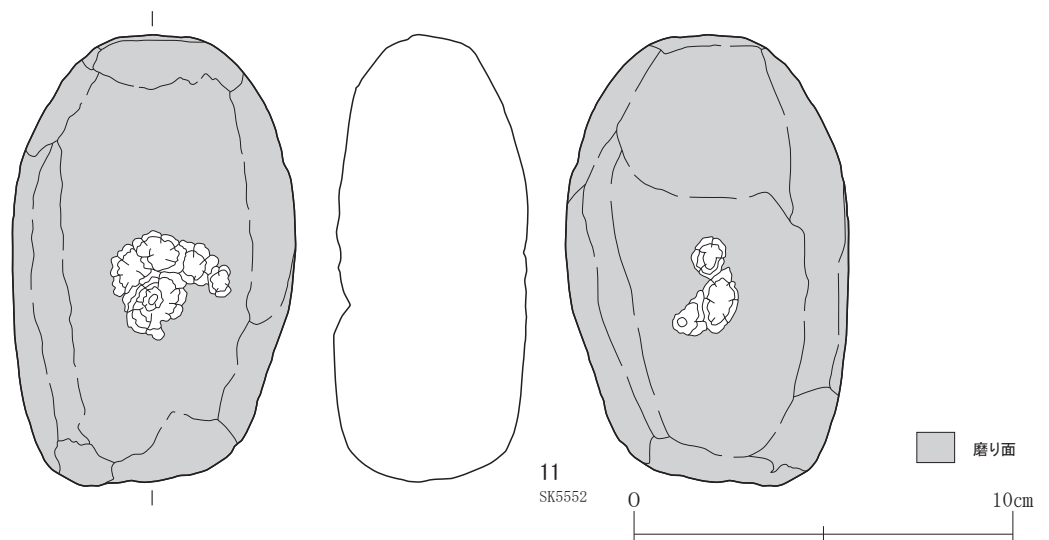
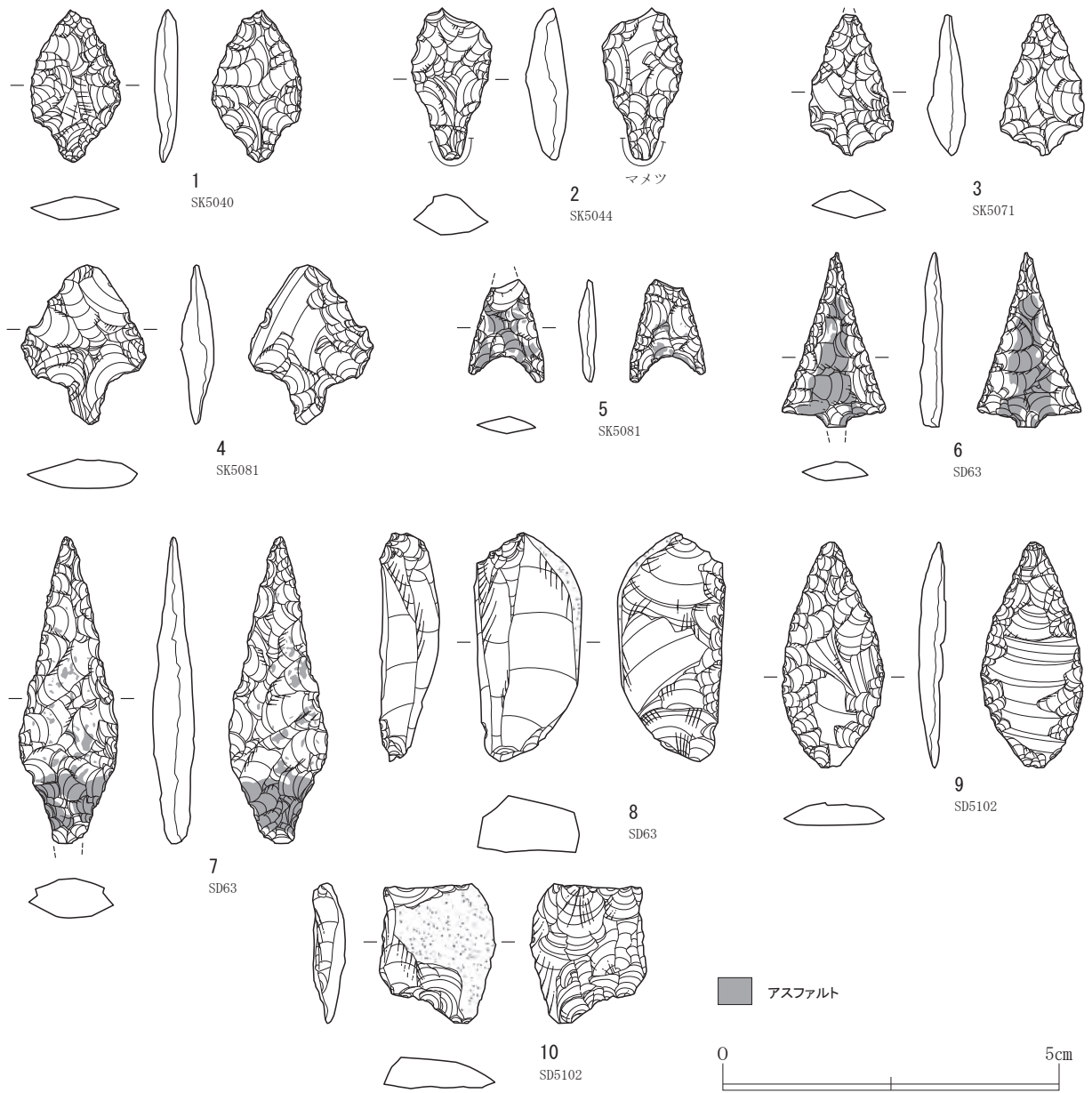
第51図 遺構内出土石器(1)



第52図 遺構内出土石器(2)



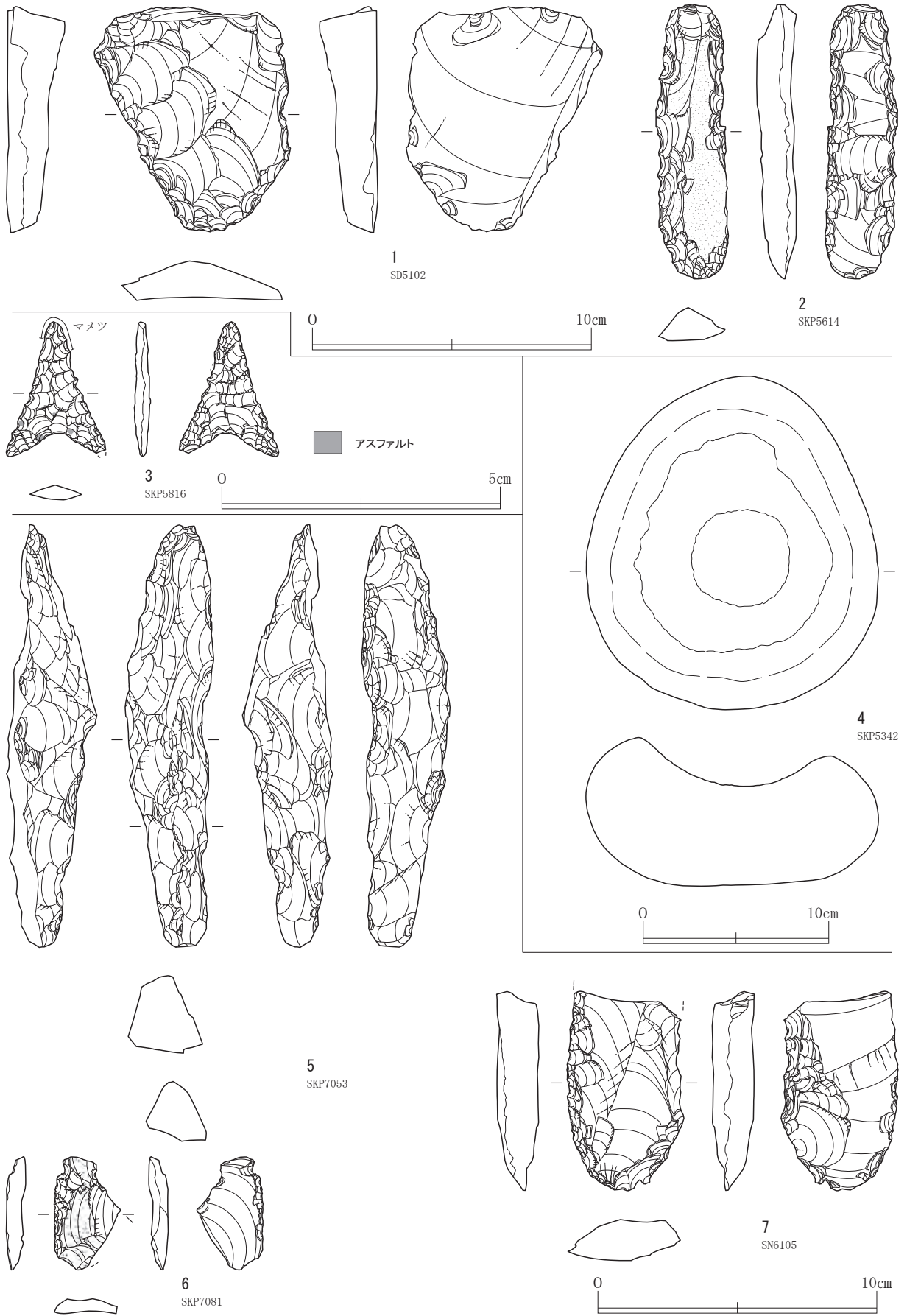
第53図 遺構内出土石器(3)



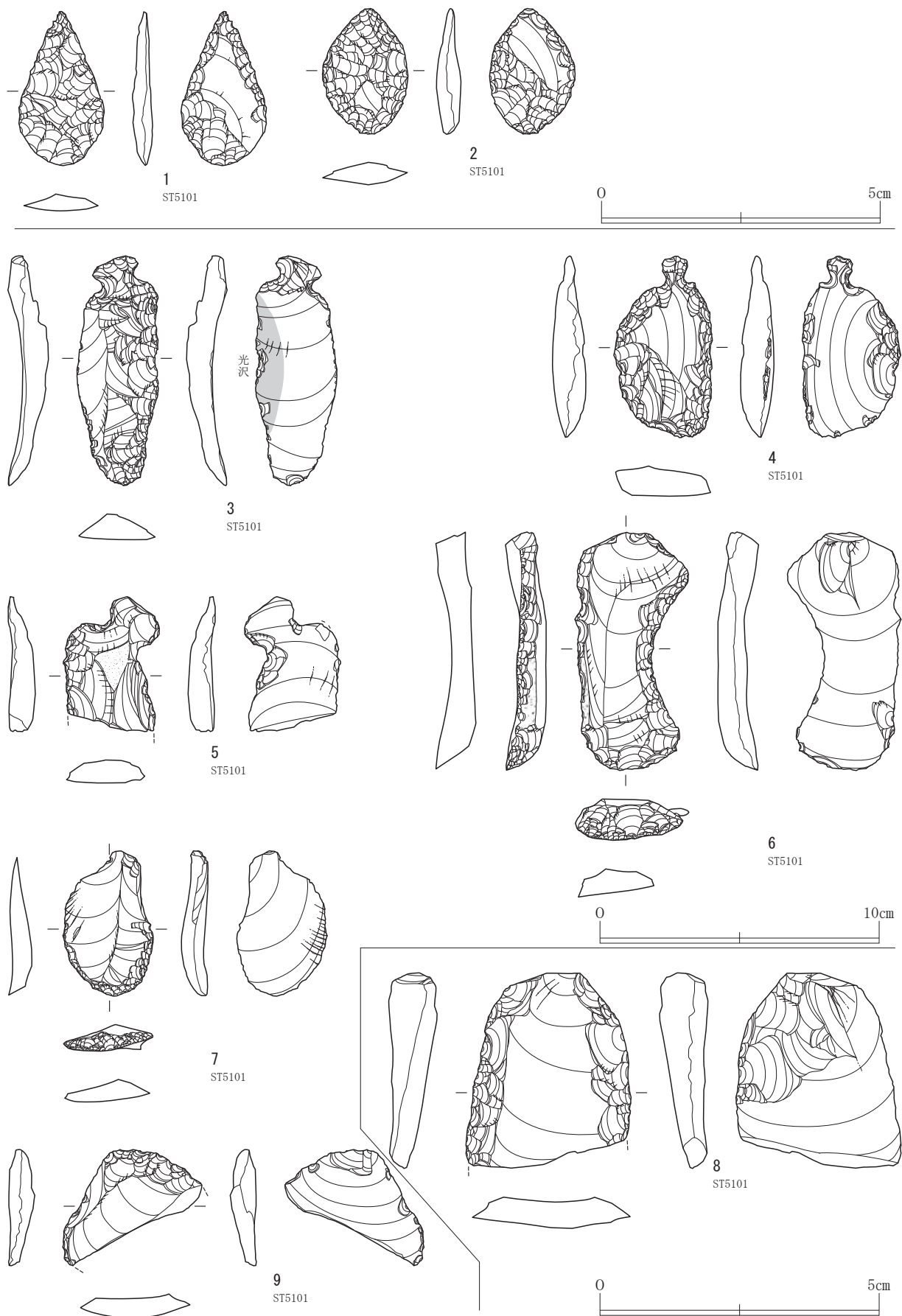
第54図 遺構内出土石器(4)



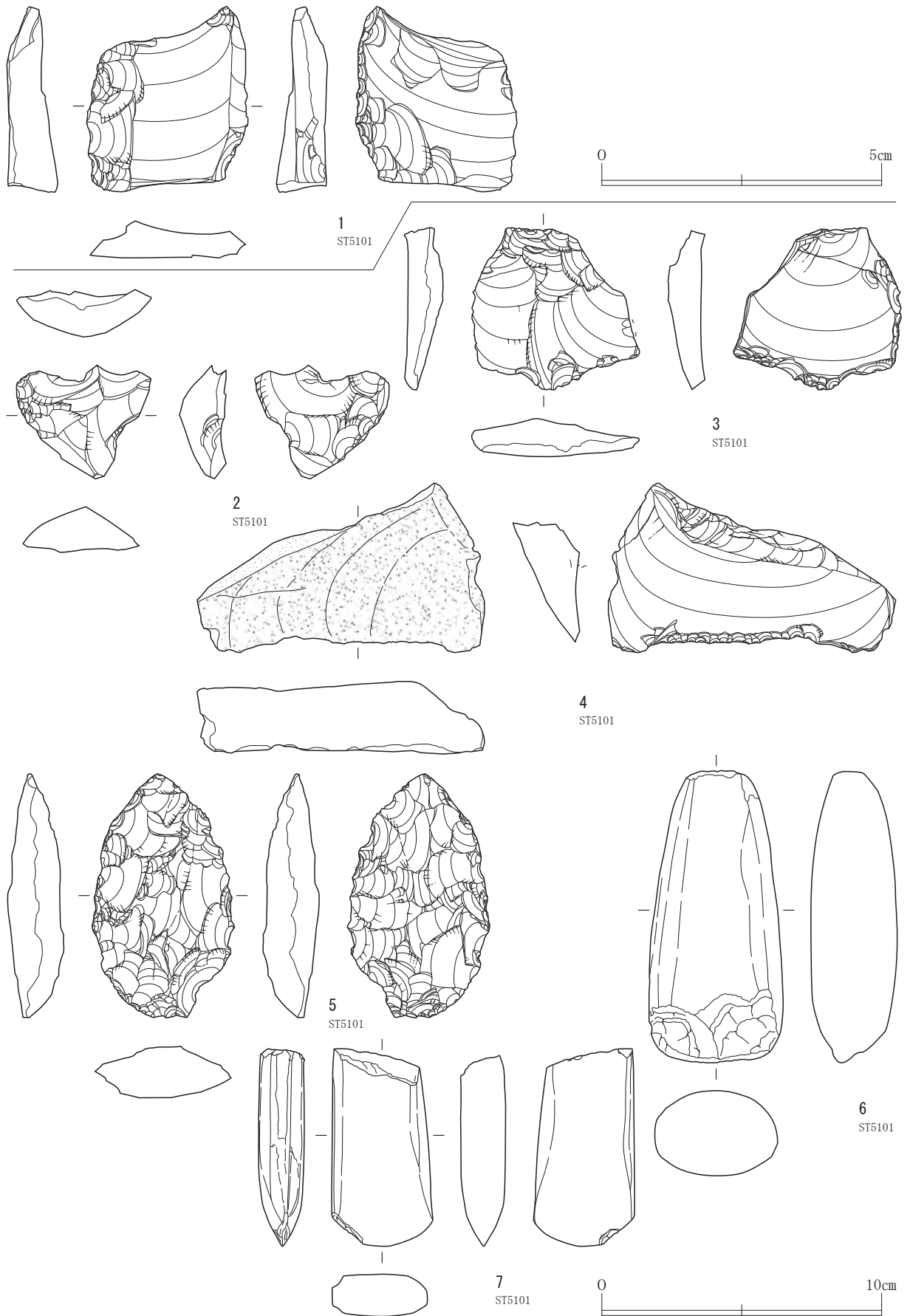
第55図 遺構内出土石器(5)



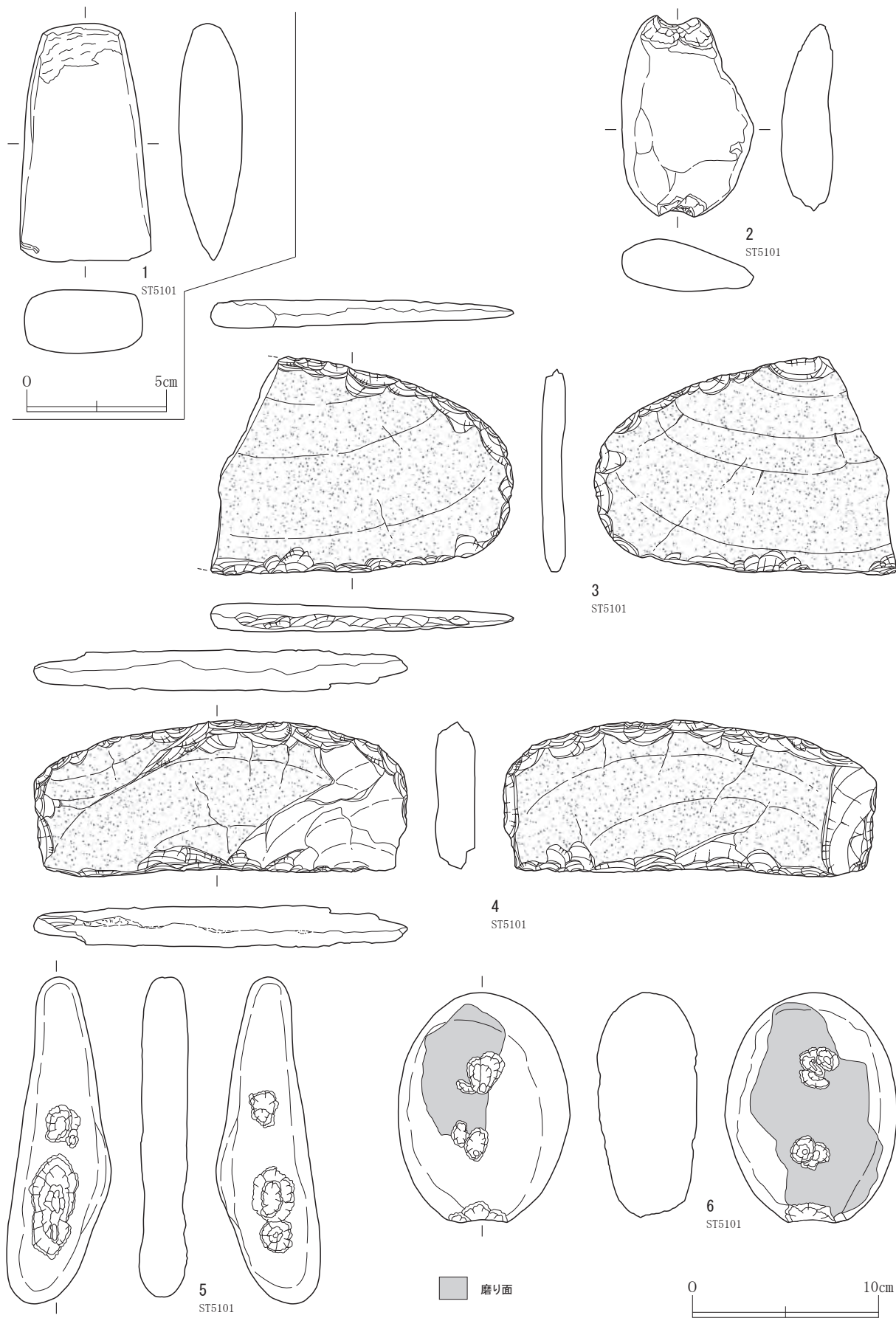
第56図 遺構内出土石器(6)



第57図 遺構内出土石器(7)



第58図 遺構内出土石器(8)



第59図 遺構内出土石器(9)

第3節 山側調査区の検出遺構と遺物

1 掘立柱建物跡

SB4043掘立柱建物跡(付図3)

桁行8間、梁行4間で内側に間仕切りを伴う大型の掘立柱建物跡である。規模は2.01m×7.84m、建物の長軸方向はN-54°-Eである。柱間寸法は桁行が8尺、8.5尺、9尺、梁行が7.5尺、8尺、8.5尺である。柱穴は平面形が隅丸方形、長軸50cm～26cm、深さ10cm～48cmである。第2次調査で未検出であった南西隅の柱穴(P31)を検出した。埋土の観察から柱は5～6寸の角柱と推定する。

SB4049掘立柱建物跡(付図3)

桁行3間、梁行2間の側柱建物跡である。規模は7.24m×5.28m、建物の長軸方向はN-51°-W、柱間寸法は桁行が7.5尺もしくは8尺、梁行が7.5尺または9尺である。第2次調査で未検出であった西側の柱穴(P6、7、8)を検出した。南西隅柱の想定位置は削平が著しく柱穴を検出できなかった。P6～8の平面形は隅丸方形で柱穴の長軸は34cm～56cm、深さは6cm～56cmである。P7の埋土の観察から柱は5～6寸の角柱と推定する。P6・P8は抜き取り後の埋め立てである。

SB6310掘立柱建物跡(付図3)

桁行4間、梁行3間の側柱建物跡である。規模は9.52m×8.32m、建物の長軸方向はN-57°-W、柱間寸法は桁行が7.5尺、8尺、梁行が9尺、9.5尺である。柱穴の平面形は隅丸方形もしくは円形、楕円形である。柱穴の長軸は26cm～42cm、深さは12cm～40cmである。今回の調査区内では柱穴3基(P1・2・3)を検出し、第2次調査の図面と照合して掘立柱建物跡と認定したものである。P9、P10はSB4046掘立柱建物跡の柱穴に切られており、本遺構が先行する。P1～P3の埋土の観察から柱は5～6寸の角柱と推定する。

SB6311掘立柱建物跡(第60図)

桁行3間、梁行1間の側柱建物跡である。規模は7.96m×2.60mである。建物の長軸方向はN-31°-W、柱間寸法は桁行、梁行ともに8.5尺である。柱穴の平面形は隅丸方形で一部は長方形、不整形である。長径は24cm～34cm、深さは4cm～10cmである。P4・P5・P7・P8の埋土の観察から柱は6寸の角柱と推定する。柱穴埋土は地山土や礫が混入する埋め立て土である。本建物跡の西側はほ場整備により大きく削平されている。本来はさらに西側へ建物跡が伸びていたものと考えられる。

SB6312掘立柱建物跡(第60図)

桁行2間、梁行1間の側柱建物跡である。規模は5.36m×2.84m、建物の長軸方向はN-32°-W、柱間寸法は桁行が8.5尺または9尺、梁行が8.5尺である。柱穴の平面形は隅丸方形で、長径は20cm～36cm、深さは6cm～28cmである。南東隅の柱穴は水路により消失している。北東隅の柱穴は第2次調査で検出したものである。P5・P6の埋土観察から柱は5～6寸の角柱と推定する。

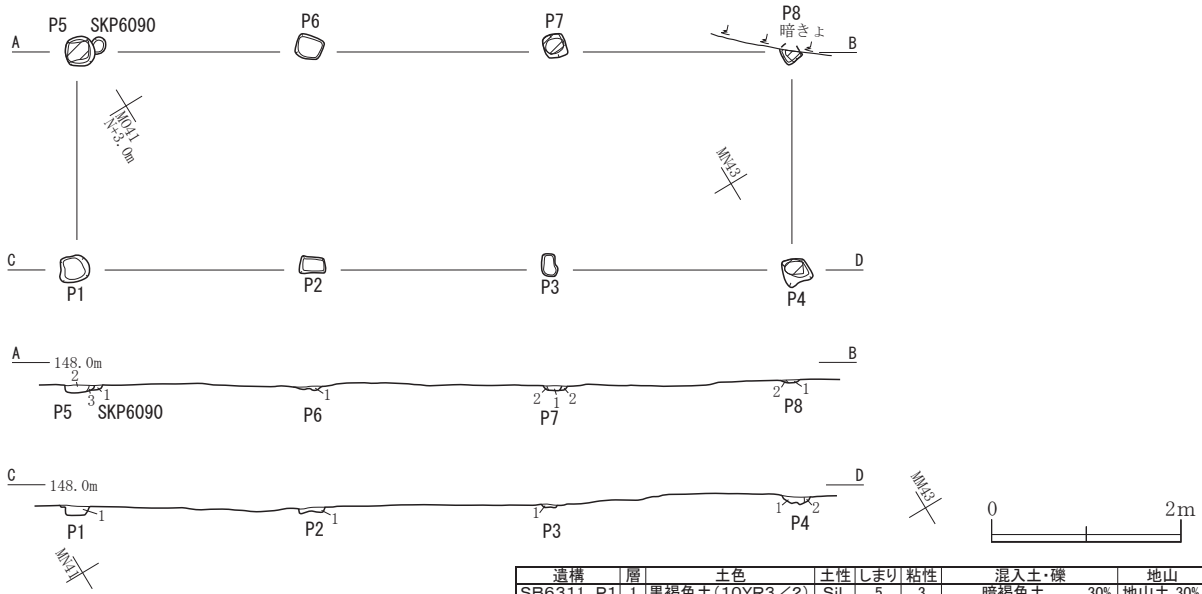
SB6313掘立柱建物跡(付図3)

桁行3間、梁行2間の間仕切りを伴う掘立柱建物跡である。規模は7.80m×5.16m、建物の長軸方向はN-34°-E、柱間寸法は桁行が8尺または8.5尺、梁行が8尺である。柱穴の平面形は隅丸方形で、一部は円形である。長径は22cm～36cm、深さは8cm～24cmである。西側の側柱と南側の柱の柱穴

第4章 調査の記録



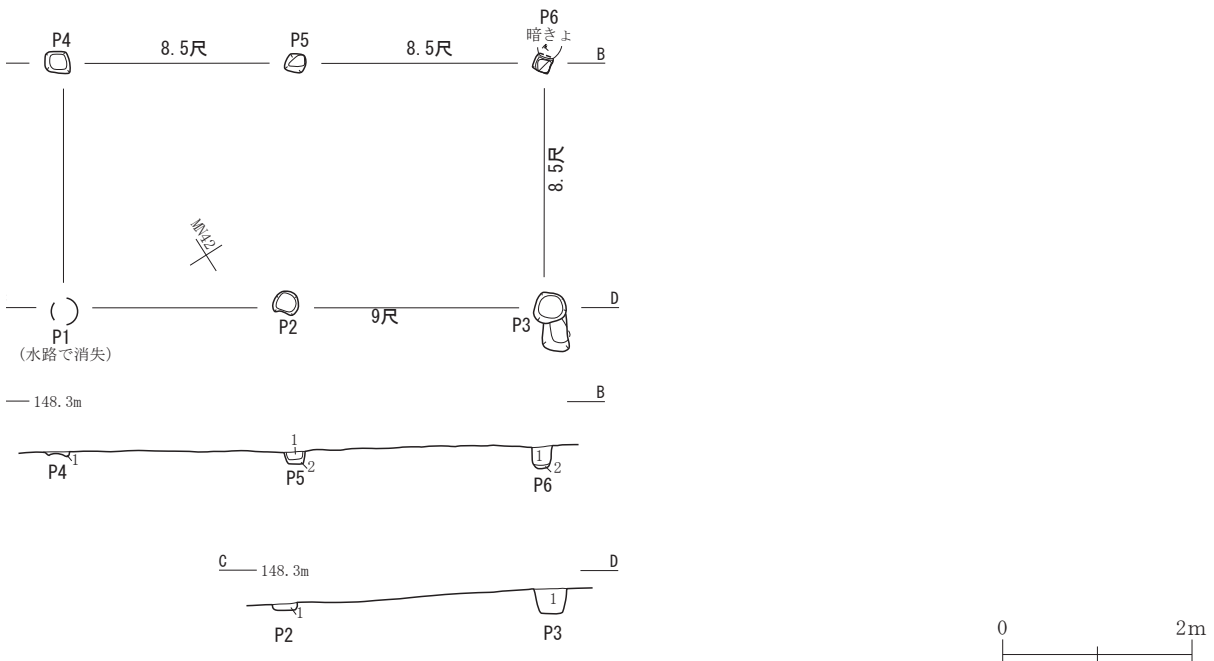
SB6311



遺構	層	土色	土性	しまり	粘性	混入土・礫	地山
SB6311 P1	1	黒褐色土(10YR3/2)	SiL	5	3	暗褐色土 30%	地山土 30%
SB6311 P2	1	黒褐色土(10YR2/2)	SiL	5	3		
SB6311 P3	1	暗褐色土(10YR3/3)	SiL	5	1	黒褐色土 20%	
SB6311 P4	1	黒褐色土(10YR2/2)	SiL	5	3		小塊 10%
	2	黒褐色土(10YR3/2)	S	5	1		小塊 30%
SB6311 P5	1	黒色土(10YR2/1)	SiL	5	3		小塊 20%
	2	黒色土(10YR2/1)	SiL	5	3	角礫 径30mm以下 6口	地山土 10%
	3	黒褐色土(10YR3/1)	SiL	5	3		大塊 40%
SB6311 P6	1	黒色土(10YR2/1)	SiL	5	3		大塊 40%
SB6311 P7	1	黒色土(10YR2/1)	SiL	5	3	角礫 径20mm以下 2口	地山土 60%
	2	黒色土(10YR2/1)	SiL	5	3		地山土 50%
SB6311 P8	1	黒色土(10YR2/1)	SiL	5	3		
	2	黒褐色土(10YR3/2)	SiL	5	3		地山土 10%



SB6312



遺構	層	土色	土性	しまり	粘性	混入土	地山	炭化物
SB6312 P2	1	黒褐色土(10YR2/2)	SiL	5	3		中塊 20%	
SB6312 P3	1	黒色土(10YR1.7/1)	SiL	3	5		中塊 5%	大粒 5%
SB6312 P4	1	黒色土(10YR2/1)	SiL	5	3		地山土 50%	
SB6312 P5	1	黒色土(10YR2/1)	SiL	5	3		地山土 30%	
	2	黒色土(10YR2/1)	SiL	5	3		地山土 80%	
SB6312 P6	1	黒褐色土(10YR3/1)	SiL	5	3	黒色土 30%		
	2	黒褐色土(10YR2/2)	SiL	5	3			

第60図 SB6311、SB6312掘立柱建物跡

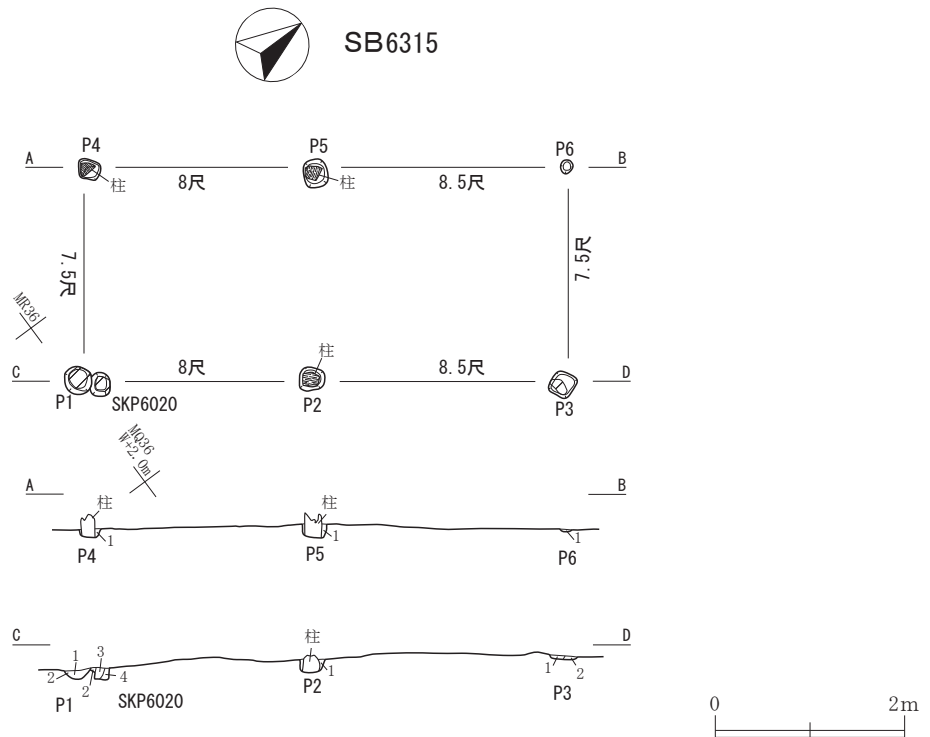
では柱痕跡が確認できた。P2の柱痕跡は平面で三角形であったことからミカン割り材と推測する。P4、P5の柱痕跡は円形、P6は5寸角の方形、P7は楕円形である。

SB6314掘立柱建物跡(付図3)

桁行5間、梁行1間の掘立柱建物跡である。規模は12.76m×2.36m、建物の長軸方向はN-32°-Eである。柱間寸法は桁行が7.5尺、8尺、8.3尺、9尺と統一されていない。梁行は7尺である。柱穴の平面形は隅丸方形である。長径は24cm~42cm、深さは10cm~40cmである。南東側のP1とP9の間は削平が大きく遺構が残存していない。P1、P3~P6の埋土観察から柱は4.5~5.5寸の丸柱もしくは角柱と推定する。SE6055井戸跡は本建物跡の北角の柱穴を掘り込んで構築されており、本遺構より新しい遺構と考える。本建物跡の西側はほ場整備により大きく削平されている。本来はさらに西側へ建物跡が延びていたものと考えられる。

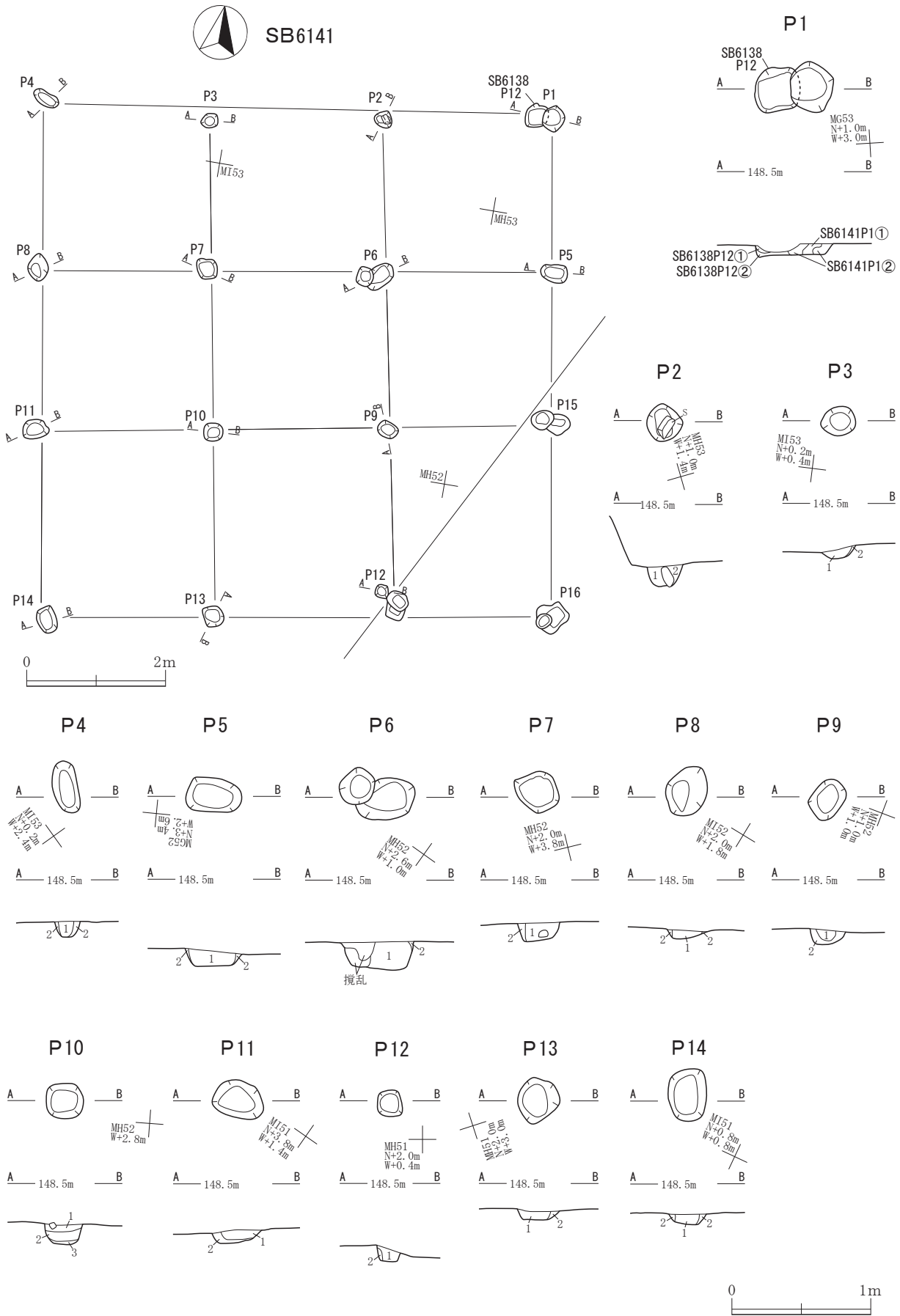
SB6315掘立柱建物跡(第61図、図版13)

桁行2間、梁行1間の側柱建物跡である。規模は5.44m×2.52m、建物の長軸方向はN-36°-W、柱間寸法は桁行が8尺、8.5尺、梁行が7.5尺である。柱穴の平面形は円形または隅丸方形である。長径は14cm~30cm、深さは4cm~14cmである。6基の柱穴のうち3基(P2、P4、P5)で柱根が残存していた。P2は6寸角の方形、P4は6寸前後のミカン割り、P5は5寸角の方形である。角柱は心去りミカン割り材である。

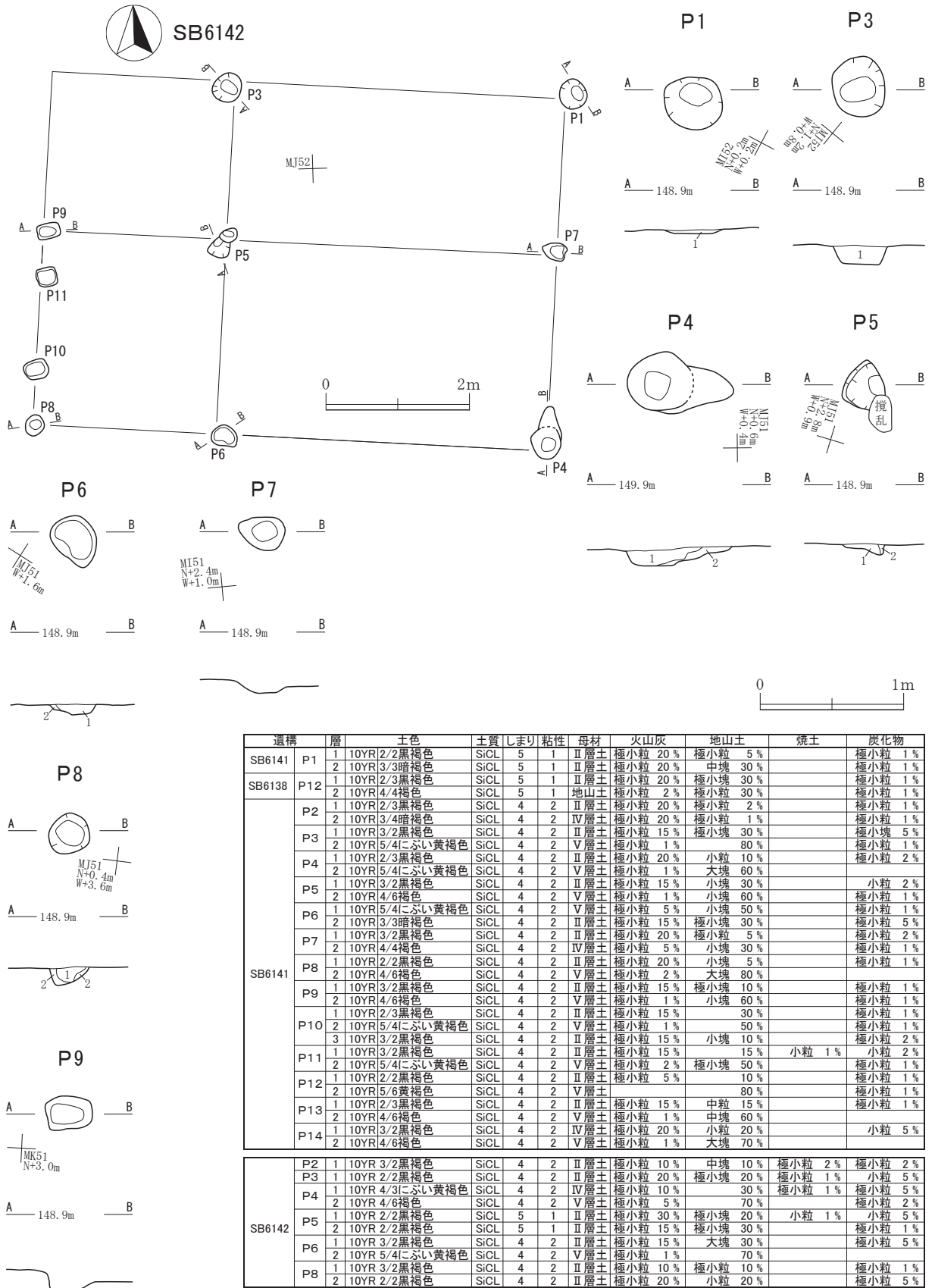


遺構	層	土色	土性	しまり	粘性	混入土	地山	焼土
SB6315 P1	1	黒褐色土(10YR2/2)	SiL	5	3	暗褐色砂 中塊 30%	中塊 10%	
	2	黒褐色土(10YR2/2)	SiL	5	3			
	3	黒色土(10YR2/1)	SiL	5	3			
	4	黒色土(10YR2/1)	SiL	5	3			黒褐色土 15%
SB6315 P2	1	黒褐色土(10YR2/2)	SiL	5	3		小塊 5%	小粒 1%
SB6315 P3	1	黒色土(10YR2/1)	SiL	5	3	黒褐色土 10%	地山土 10%	
	2	にぶい黄褐色土(10YR4/3)	SiL	5	3			
SB6315 P4	1	黒色土(10YR2/1)	SiL	5	3		中塊 10%	
SB6315 P5	1	黒色土(10YR2/1)	SiL	5	3			
SB6315 P6	1	黒色土(10YR2/1)	SiL	5	3		地山土 20%	

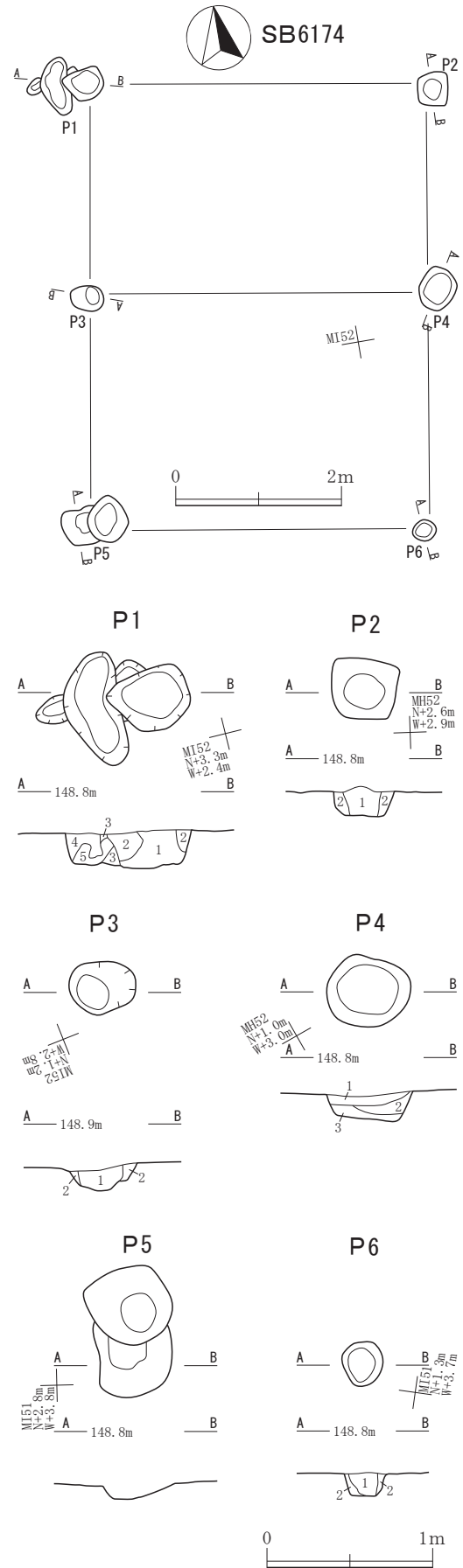
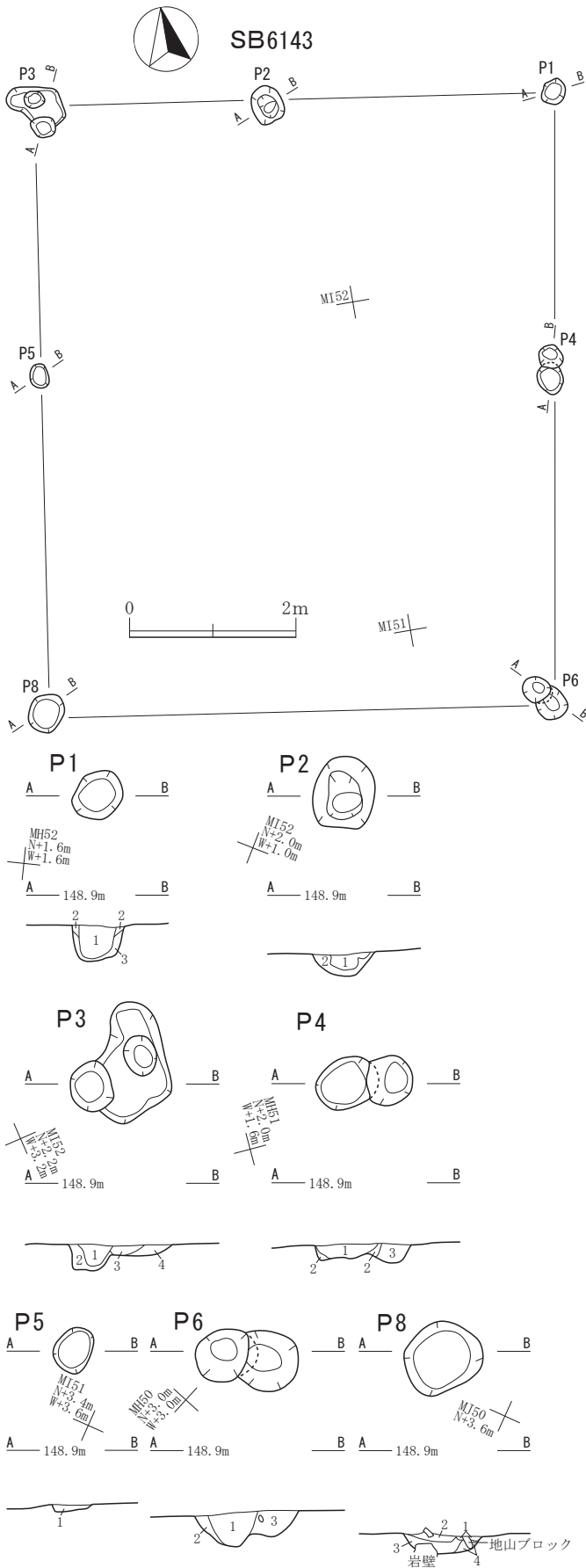
第61図 SB6315掘立柱建物跡



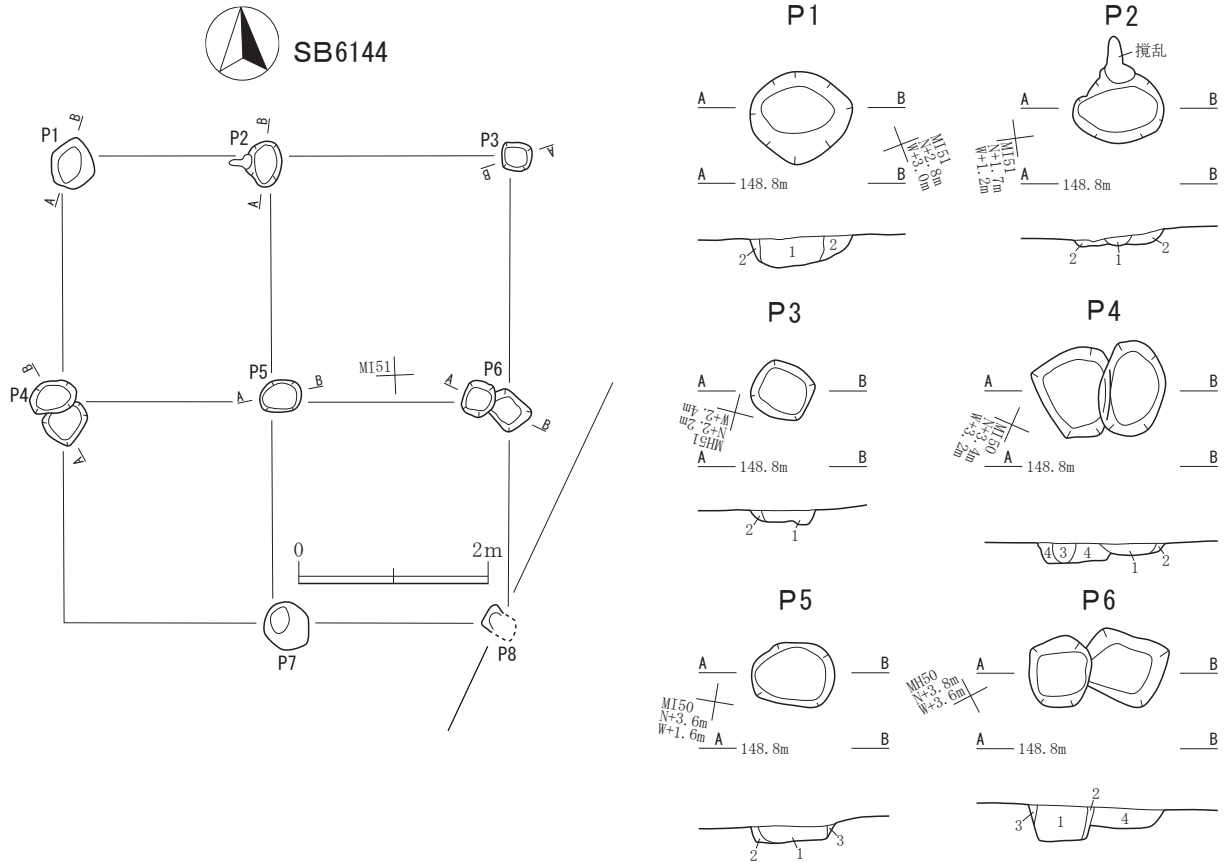
第62図 SB6141掘立柱建物跡



第63図 SB6142掘立柱建物跡



第64図 SB6143、SB6174掘立柱建物跡



遺構	層	土色	土質	しまり	粘性	母材	火山灰	地山土	焼土	炭化物	
SB6143	P1	1	10YR 2/2黒褐色	SiCL	4	2	II層土	極小粒 20%	小粒 10%		極小粒 5%
		2	10YR 4/4褐色	SiCL	4	2	IV層土	極小粒 5%	30%		
		3	10YR 4/6褐色	SiCL	4	2	V層土	極小粒 2%	中塊 70%		
	P2	1	10YR 2/3黒褐色	SiCL	4	2	II層土	極小粒 20%		極小粒 1%	極小粒 2%
		2	10YR 4/6褐色	SiCL	4	2	V層土		70%		
	P3	1	10YR 3/3暗褐色	SiCL	4	2	II層土	極小粒 20%	大粒 30%	極小粒 2%	極小粒 5%
		2	10YR 4/4褐色	SiCL	4	2	IV層土	極小粒 5%	小塊 30%		極小粒 1%
		3	10YR 2/3黒褐色	SiCL	4	2	II層土	極小粒 20%	極小塊 10%	極小粒 1%	極小粒 5%
		4	10YR 5/4にふい黄褐色	SiCL	4	2	IV層土	極小粒 20%	小塊 10%		極小粒 5%
	P4	1	10YR 2/2黒褐色	SiCL	4	2	II層土	極小粒 20%	中粒 20%	小塊 5%	極小粒 5%
		2	10YR 5/4にふい黄褐色	SiCL	4	2	V層土	極小粒 2%	70%		
		3	10YR 3/3暗褐色	SiCL	4	2	II層土	極小粒 10%	極小塊 30%	極小粒 1%	極小粒 2%
	P5	1	10YR 3/3暗褐色	SiCL	4	2	II層土	極小粒 20%	小塊 30%	極小粒 1%	極小粒 5%
		2	10YR 2/2黒褐色	SiCL	4	2	II層土	極小粒 20%	小塊 20%		極小粒 1%
	P6	1	10YR 4/4褐色	SiCL	4	2	IV層土	極小粒 5%	大塊 50%		
		3	10YR 2/3黒褐色	SiCL	4	2	II層土	極小粒 15%	小塊 30%		極小粒 1%
1		10YR 3/2黒褐色	SiCL	4	2	II層土	極小粒 10%	極小粒 10%		極小粒 1%	
P8	2	10YR 2/2黒褐色	SiCL	4	2	II層土	極小粒 20%	小粒 20%		極小粒 5%	
	3	10YR 3/4暗褐色	SiCL	4	2	IV層土	極小粒 10%	中塊 30%		極小粒 1%	
	4	10YR 4/4褐色	SiCL	4	2	V層土	極小粒 2%	中塊 70%			
	1	10YR 2/2黒褐色	SiCL	4	2	II層土	極小粒 20%	小粒 10%	極小粒 1%	極小粒 2%	
SB6144	P1	1	10YR 2/2黒褐色	SiCL	4	2	II層土	極小粒 20%	小粒 10%	極小粒 1%	極小粒 2%
		2	10YR 2/3黒褐色	SiCL	4	2	II層土	極小粒 20%	小塊 30%	極小粒 2%	小粒 5%
	P2	1	10YR 2/2黒褐色	SiCL	4	2	II層土	極小粒 10%	小粒 10%		極小粒 5%
		2	10YR 2/3黒褐色	SiCL	4	2	II層土	極小粒 5%	小塊 40%		極小粒 5%
	P3	1	10YR 2/3黒褐色	SiCL	4	2	II層土	極小粒 10%	小粒 15%		極小粒 2%
		2	10YR 5/4にふい黄褐色	SiCL	4	2	IV層土	極小粒 5%	極小塊 50%		
	P4	1	10YR 2/3黒褐色	SiCL	4	2	II層土	極小粒 10%	極小塊 10%		
		2	10YR 3/2黒褐色	SiCL	4	2	II層土	極小粒 1%	20%		
		3	10YR 3/2黒褐色	SiCL	4	2	II層土	極小粒 15%	小粒 5%	小粒 1%	小粒 2%
		4	10YR 3/3暗褐色	SiCL	4	2	II層土	極小粒 10%	小粒 15%	極小粒 1%	極小粒 5%
	P5	1	10YR 3/2黒褐色	SiCL	4	2	II層土	極小粒 15%	中粒 10%		小粒 2%
		2	10YR 5/4にふい黄褐色	SiCL	4	2	V層土	極小粒 2%	40%		極小粒 1%
	P6	3	10YR 3/4暗褐色	SiCL	4	2	IV層土	極小粒 1%	小粒 40%		
		1	10YR 2/2黒褐色	SiCL	4	2	II層土	極小粒 10%	中粒 15%	極小粒 1%	小塊 5%
		2	10YR 3/2黒褐色	SiCL	4	2	II層土	極小粒 10%	中塊 40%		中粒 1%
		3	10YR 2/3黒褐色	SiCL	4	2	II層土	極小粒 10%	極小塊 15%	小粒 1%	中塊 10%
4	10YR 3/2黒褐色	SiCL	4	2	II層土	極小粒 5%	大塊 30%		小粒 2%		
SB6174	P1	1	10YR 3/3暗褐色	SiCL	4	2	II層土	極小粒 15%	極小塊 15%		極小粒 1%
		2	10YR 3/2黒褐色	SiCL	4	2	II層土	極小粒 10%	中塊 40%		極小粒 2%
		3	10YR 3/4暗褐色	SiCL	4	2	II層土	極小粒 10%	中粒 10%		小粒 2%
		4	10YR 2/3黒褐色	SiCL	4	2	II層土	極小粒 15%	30%		小粒 5%
		5	10YR 4/6褐色	SiCL	4	2	II層土	極小粒 5%	40%		極小粒 1%
	P2	1	10YR 2/3黒褐色	SiCL	4	2	II層土	極小粒 15%	中塊 30%		小粒 2%
		2	10YR 5/4にふい黄褐色	SiCL	4	2	V層土	極小粒 1%	大塊 80%		極小粒 1%
	P3	1	10YR 3/2黒褐色	SiCL	4	2	II層土	極小粒 10%	中塊 10%	極小粒 2%	極小粒 2%
		2	10YR 3/2黒褐色	SiCL	4	2	II層土	極小粒 10%	小塊 30%		極小粒 1%
	P4	1	10YR 2/3黒褐色	SiCL	4	2	II層土	極小粒 15%	40%		
		2	10YR 5/4にふい黄褐色	SiCL	4	2	V層土		70%		
	P6	3	10YR 2/2黒褐色	SiCL	4	2	II層土	極小粒 5%	小粒 5%		
1		10YR 3/2黒褐色	SiCL	4	2	II層土	極小粒 10%	小塊 10%	極小塊 5%	小粒 2%	
2	10YR 5/4にふい黄褐色	SiCL	4	2	V層土	極小粒 1%	60%	極小粒 1%	極小粒 1%		

第65図 SB6144掘立柱建物跡

SB6138掘立柱建物跡(付図3、図版13)

桁行8間、梁行5間の総柱建物跡である。今回検出した17基の柱穴と第2次調査の図面とを照合し、第2次調査で検出した19基の柱穴を加えて認定した。本建物跡の柱穴配置は第2次調査で検出したSB4008掘立柱建物跡を取り込んだ配置である。SB4008掘立柱建物跡は桁行4間以上、梁行2間の建物跡としていたが、今回の調査で、桁行、梁行ともに2倍以上大型の総柱建物跡であることが判明したので、新たに遺構番号を付して掲載する。規模は18.88m×12.80m、建物の主軸方向はN-85°-W、柱間寸法は桁行が6.5尺、7.5尺、8.5尺、梁行が6尺、7尺、8尺、9尺、9.5尺である。柱穴の平面形は隅丸方形である。長径は28cm~48cm、深さは4cm~16cmである。南西側の柱穴は削平により岩盤が露出している区域にあたり欠失しているものが多い。P12はSB6141掘立柱建物跡P1に切られており本遺構が古い。外周の柱間寸法が短く柱穴がやや小さめであることから廂の可能性もある。柱穴の埋土に柱痕跡は見られない。柱を掘り抜いた後の埋め立て土と推測する。

SB6141掘立柱建物跡(第62図)

桁行3間、梁行3間の総柱建物跡である。規模は7.60m×7.32m、建物の長軸方向はN-80°-W、柱間寸法は桁行が8尺、9尺、梁行が8尺、8.5尺である。柱穴の平面形は円形または隅丸方形で、長径は26cm~48cm、深さは6cm~20cmである。北東隅柱のP1がSB6138掘立柱建物跡P12を切っており本遺構が新しい。柱穴の埋土に柱痕跡は見られない。柱を掘り抜いた後の埋め立て土と推測する。

SB6142掘立柱建物跡(第63図)

桁行2間、梁行2間の側柱建物跡である。規模は7.28m×4.96m、建物の長軸方向はN-85°-W、柱間寸法は桁行が8尺、梁行が7.5尺、9尺である。柱穴の平面形は円形である。直径は32cm~52cm、深さは4cm~14cmである。北東隅柱は削平により検出できなかった。柱穴の埋土に柱痕跡は見られない。柱を掘り抜いた後の埋め立て土と推測する。P5はSK6119土坑を切っている。

SB6143掘立柱建物跡(第64図)

桁行2間、梁行2間の側柱建物跡である。規模は7.44m×3.00m、建物の長軸方向はN-10°-E、柱間寸法は桁行が11尺、11.5尺、梁行が10尺である。柱穴の平面形は円形である。直径は32cm~52cm、深さは4cm~24cmである。南辺中央の柱は削平により検出できなかった。柱穴の埋土に柱痕跡は見られない。柱を掘り抜いた後の埋め立て土と推測する。

SB6144掘立柱建物跡(第65図)

桁行2間、梁行2間の側柱建物跡である。規模は4.72m×2.40m、建物の長軸方向はN-2°-E、柱間寸法は桁行が8尺、梁行が8尺である。柱穴の平面形は隅丸方形と推測する。長径32cm~46cm、深さは2cm~20cmである。南西隅柱は削平により検出できなかった。P1はSB6174掘立柱建物跡P5に、P5はSK6110土坑に切られておりいずれも本遺構が古い。柱穴の埋土に柱痕跡は見られない。柱を掘り抜いた後の埋め立て土と推測する。

SB6174掘立柱建物跡(第64図)

桁行2間、梁行2間の側柱建物跡である。規模は5.36m×4.24m、建物の長軸方向はN-8°-E、柱間寸法は桁行が8尺、9.5尺、梁行が7尺である。柱穴の平面形は円形または隅丸方形である。長径は36cm~56cm、深さは8cm~20cmである。P5はSB6144掘立柱建物跡P1を切っており本遺構が新しい。柱穴の埋土に柱痕跡は見られない。柱を掘り抜いた後の埋め立て土と推測する。

2 井戸跡

第2次調査で掘立柱建物跡多数と井戸跡8基を検出した遺跡西側の低地で、井戸跡13基を検出した。第3次調査区では山側調査区の中央部から南の区域である。

SE6011井戸跡(第66・84～87図・付図4、図版13)

平面形は長軸135cm、短軸117cmの隅丸長方形で、深さは90cmである。底面は平坦で段丘礫層が露出する。壁は底面から中位付近まではほぼ垂直に立ち上がり、中位から上位は外傾する。埋土最下層には井戸機能時の堆積層である砂層が底面に薄く堆積するが、それ以外は大礫や木材が多量に投入された埋め立て土である。礫は10cm～35cm程度の円礫と角礫で、木材は板材のほかに木片や炭化した木材も含まれる。井戸廃絶時には中位付近まで礫や木材を投入して埋め立て、井戸枠北西側の棧を抜き、縦板、北西隅柱、南西隅柱を倒した後にさらに礫や木材を投入して埋め立てたものと推定する。

井戸枠は方形縦板組型である。隅柱は幅約12cm、厚さ約4cmの桁目の厚板材を用い、下端から42cm～49cmの位置に縦約10cm、横約7cmのほぞ穴が貫通している。側板の縦板は横棧と掘形壁の間に二重に差し込まれている。

遺物は、南東面井戸枠裏込め土から漆器椀(第134図2)が出土した。また、埋土中から箸61点、曲物底板3点、柄6点、ヘラ状木製品2点など木製品77点が出土した(第84～87図、第14表)。これらは木材、木片とともに埋め立て土に投入されたものとする。また、埋土中からはモモ、スモモ、ブドウ属、カナムグラ、オニグルミ等の種実類が85点出土した。

SE6012井戸跡(第67図・付図4、図版13・14)

平面形は長軸120cm、短軸96cmの隅丸長方形で、深さは75cmである。底面は平坦で段丘礫層が露出する。壁は底面からほぼ垂直に立ち上がる。埋土最下層にはラミナが顕著な細砂層と黒色粘土層の互層が堆積し、井戸機能時の流入堆積土と推定する。上位は礫や木材が投入された埋め立て土である。礫は10cm～20cm程度の角礫である。木材は板材のほかに木片も含まれる。堆積した砂泥をさらわずに比較的長期に開口していたと推測する。井戸廃絶時には、北隅柱、北西側、北東側の側板を引き抜き棧をはずして井戸枠を破壊した後に礫や木材を投入して埋め立てたものと推定する。

井戸枠は方形縦板組型である。掘形に対し井戸枠はやや小さく底面付近では一辺約80cmである。北隅柱と北西横棧、北西面と北東面の縦板の大部分は残存しない。隅柱は幅約15cm、厚さ約8cm～11cmの心去りみかん割り材の角柱を用い、直角方向の2面の下端から14cm～23cmの位置に約7cm四方の貫通しないほぞ穴を穿っている。側板の縦板は横棧と裏込め土の間に二重から三重に差し込まれている。

遺物は、裏込め土中から箸2点出土した。また、埋土中からはモモ、スモモ、ブドウ属、カナムグラの種実類が12点出土した。

SE6051井戸跡(第67図・付図4、図版14)

平面形は長軸140cm、短軸126cmの隅丸長方形で、深さは47cmである。底面は平坦で岩盤が露出する。壁は底面から垂直に立ち上がる。井戸枠は残存しない。埋土は礫や木材が多量に投入された埋め立て土である。埋土7層の下面には板材が2段に敷き並べられた状態で出土した。5層には粘土塊が多量に混入する。礫は10cm～20cm程度の角礫で木材より上位に多い。木材はほとんどが6層からの出土で、板材のほか木片が多量に含まれる。井戸廃絶時には井戸枠を撤去し、裏込め土を掘り崩して井戸下部を埋め立て、井戸側板や他の木材を敷き並べた後、礫や木材を投入して埋め立てたものと推

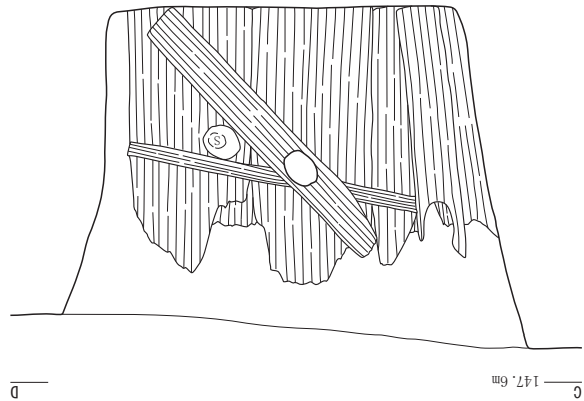
定する。木製品は出土しなかった。埋土中からモモ核が4点出土した。

SE6052井戸跡(第68図)

平面形は長軸113cm、短軸111cmの隅丸長方形で、深さは34cmである。底面は平坦で岩盤が露出する。壁は底面からやや開いて立ち上がる。井戸枠は残存していない。埋土は地山土が混じる埋め立て土である。礫や木材は投入されていない。井戸廃絶時には井戸枠を撤去し、裏込め土と掘形の一部を



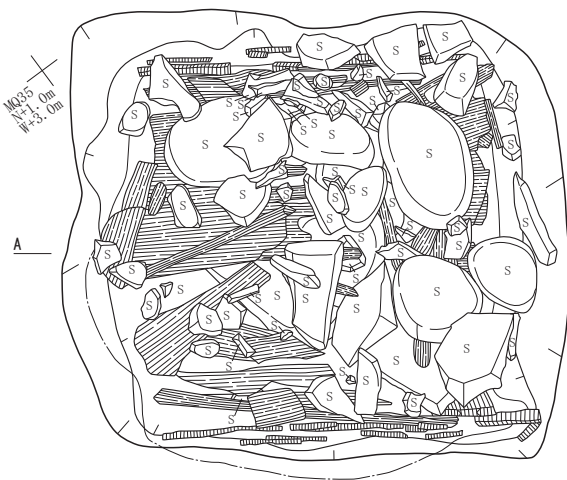
SE6011 (井戸枠南東面側面図)



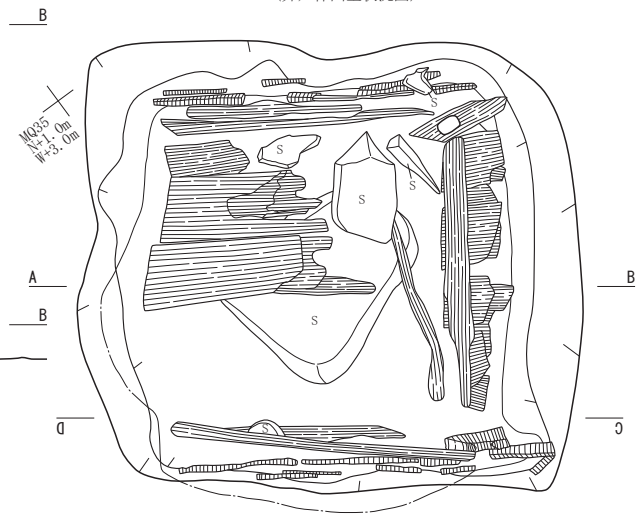
(井戸枠出土状況図)



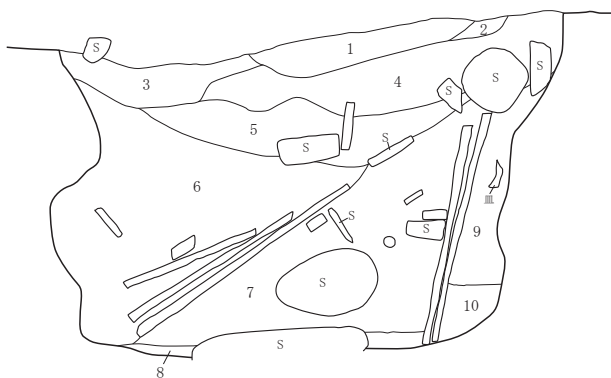
SE6011 (遺物出土図)



A 147.6m

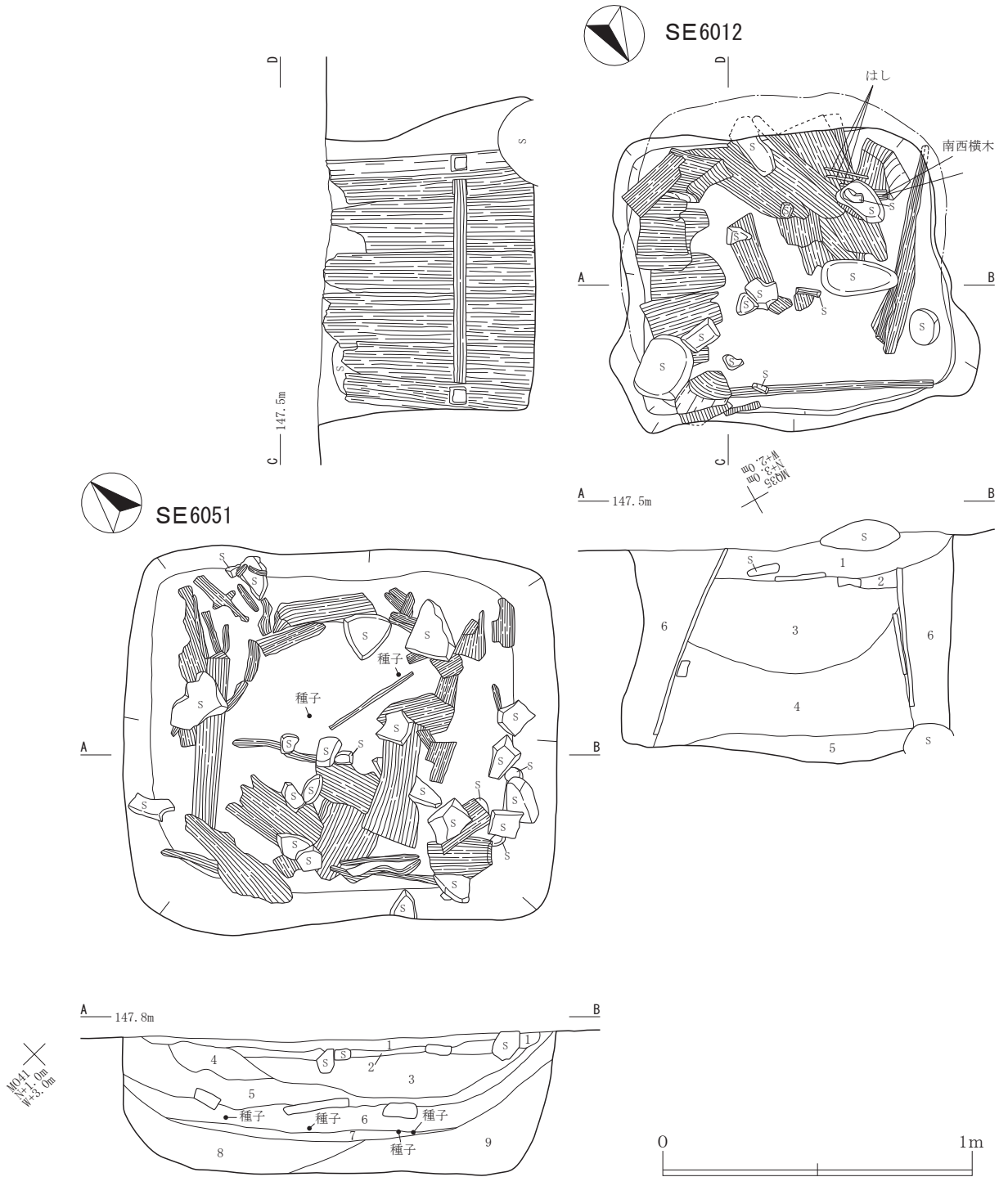


0 1m



遺構	層	土色	土性	しまり	粘性	礫	焼土	炭化物	混入土
SE6011	1	10YR2/1黒色	SiL	5	4	径50mm以下 少量		径1~2mm 1%	地山砂 3%
	2	10YR2/2黒褐色	SiL	5	3	径100mm以下 少量			地山砂 10%
	3	10YR2/1黒色	SiL	4	4	径50~20mm以下 多数	小粒 1%	径1~2mm 1%	地山砂 3%
	4	10YR2/1黒色	SiL	4	4			径1~10mm 1%	地山砂 5%
	5	10YR1.7/1黒色	SiL	3	3				地山砂 10%
	6	10YR1.7/1黒色	SiCL	3	4			径1~5mm 2%	粘土 20%
	7	10YR1.7/1黒色	SiCL	3	4			径1mm 0.5%	地山砂 10%
	8	10GY5/1緑灰色	S	3	0				
	9	2.5Y2/1黒色	SiCL	3	4	角礫多く含む			
	10	5Y3/1オリーブ黒色	S	4	2				

第66図 SE6011井戸跡



遺構	層	土色	土性	しまり	粘性	炭化物	混入土
SE6012	1	10YR2/1黒色	SiL	5	1	径5~10mm 2%	径1~10mm 5%
	2	5Y4/2灰オリーブ色	S(粗砂)	5	1		黒色粘質土径5~10mm 40%
	3	5Y4/3灰オリーブ色	S(粗砂)	5	1		黒色粘質土径5~30mm 10%
	4	5Y3/1オリーブ黒色	S(粗砂)	5	1		
	5	5Y4/2灰オリーブ色	S(粗砂)	5	1		
	6	7.5Y4/1灰色	S(粗砂)	5	1		黒色粘質土 20%

遺構	層	土色	土性	しまり	粘性	礫	地山	焼土	炭化物	混入土	
SE6051	1	10YR3/2黒褐色	SiCL	5	2	径30~100mm 10%				中粒 1% 白色粒 3%	
	2	10YR2/2黒褐色	SiCL	4	2	径30~100mm 5%				中粒 1% 白色粒 1%	
	3	10YR2/2黒褐色	SiCL	4	3	径30~100mm 3%	大粒 5%	極大粒 5%		中粒 3%	
	4	10YR2/2黒褐色	SiCL	4	3		大粒 5%			中粒 3%	
	5	10YR3/1黒褐色	SiL	5	3			極大粒 3%		中粒 3%	
	6	10YR2/1黒色	SiL	4	2	径5~10mm 3%				大粒 3%	
	7	8・9層上面に敷つめられた木材の層									粘土 40%
	8	10YR2/1黒色	SiL	5	2				中粒 1%	地山砂 10%	
	9	10YR2/1黒色	SiL	4	2	岩盤の礫 3%				中粒 5%	

第67図 SE6012、SE6051井戸跡

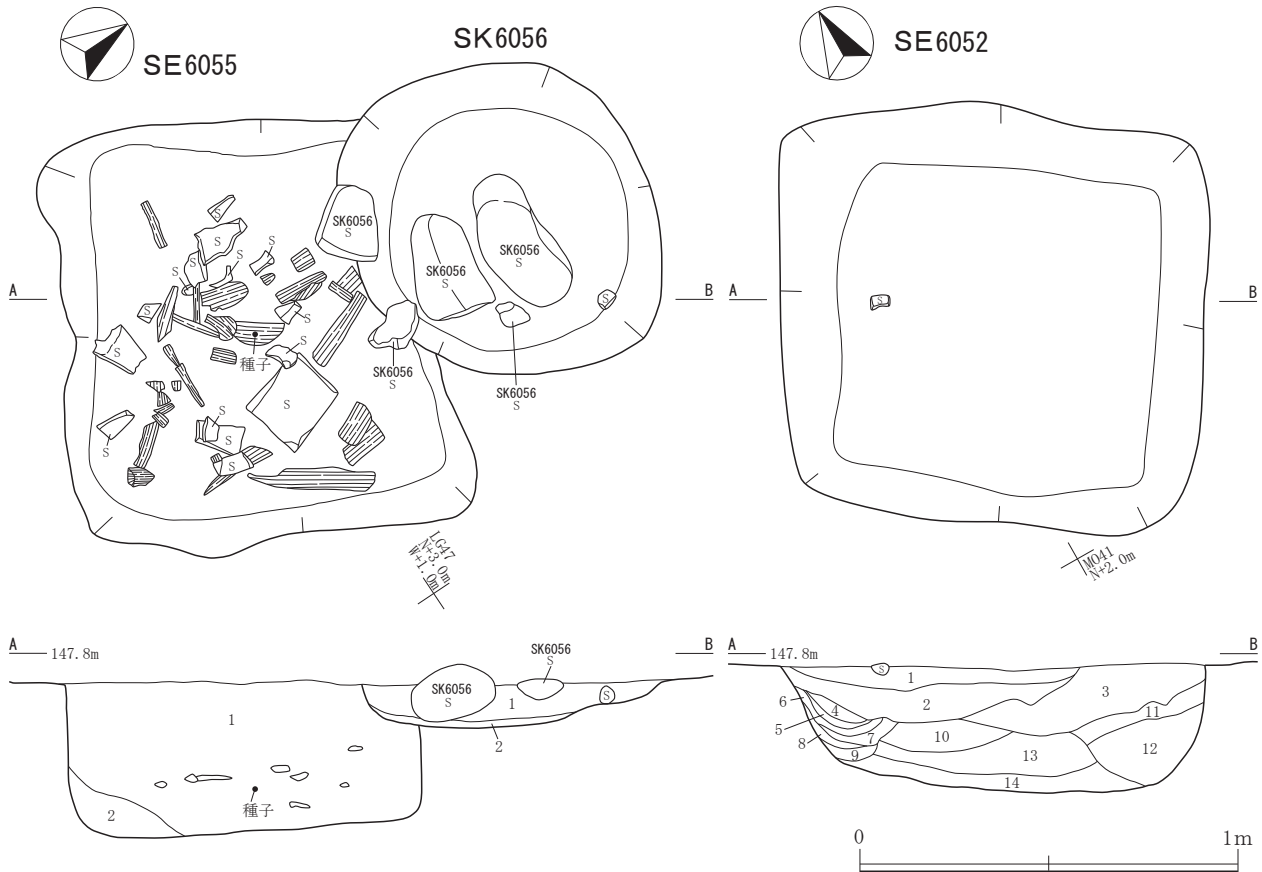
掘り崩して埋め立てたものと推定する。木製品は出土しなかった。埋土中からモモ核が6点出土した。

SE 6055井戸跡(第68・87図、図版14)

平面形は長軸116cm、短軸108cmの隅丸長方形で、深さは41cmである。底面は平坦で岩盤が露出する。壁は底面から垂直に立ち上がる。井戸枠は残存していない。北側の埋土上部をSK6056土坑が切っている。埋土は礫や木材が投入された埋め立て土である。埋土下位には5cm~35cmの木片が多く中位には板状礫が多い。井戸廃絶時には井戸枠を撤去し、裏込め土を掘り崩して埋め立てたものと推定する。遺物は埋土中から曲物底板(第87図9)が出土した。また、底面付近からモモ核が1点出土した。

SE 6057井戸跡(第69・87・88図・付図4・5、図版15)

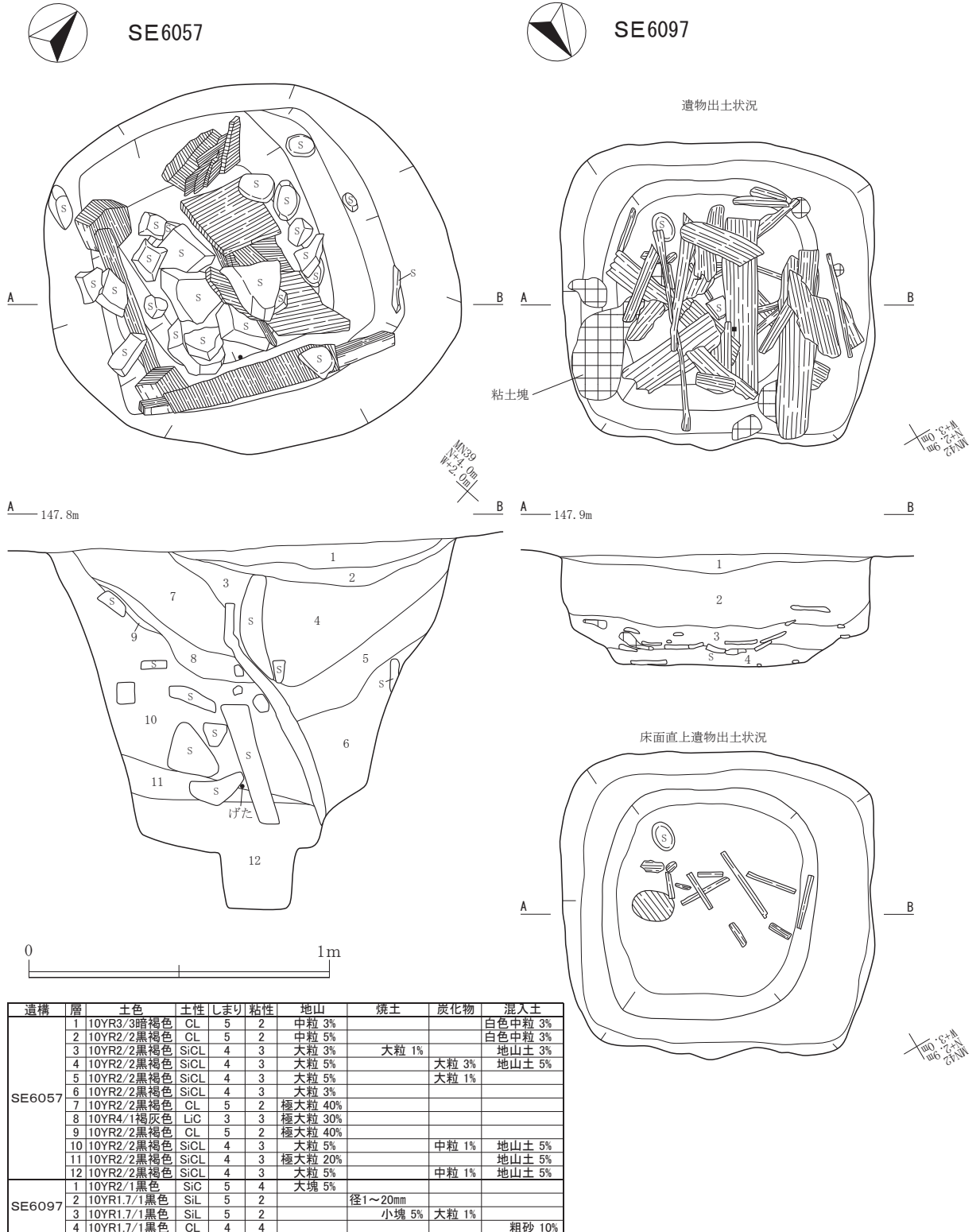
上端の平面形は長軸136cm、短軸122の楕円形であるが、約50cm下位付近で長軸99cm、短軸97cmの隅丸方形となる。深さは106cmである。底面は平坦で基盤の岩盤層は露出しない。底面の東寄りには



遺構	層	土色	土性	しまり	粘性	地山	焼土	炭化物	混入土
SE6052	1	10YR2/2黒褐色	CL	4	2	中粒 5%			白色大粒 3%
	2	2.5Y3/2暗赤褐色	SiCl	4	2	大粒 10%	極大粒 1%		
	3	2.5Y2/2極暗赤褐色	SiCl	4	2	大塊 30%			
	4	10YR2/2黒褐色	CL	4	2	大粒 5%			
	5	10YR2/2黒褐色	CL	4	2	大粒 30%			
	6	10YR2/2黒褐色	CL	4	2	大粒 5%			
	7	10YR2/2黒褐色	CL	4	2	大粒 30%			
	8	10YR2/2黒褐色	CL	4	2	大粒 5%			
	9	10YR2/2黒褐色	CL	4	2	大粒 30%			
	10	2.5Y3/2暗赤褐色	SiCl	4	2	極大 15%			
	11	2.5Y3/2暗赤褐色	L	4	1				地山粒 40%
	12	10YR2/2黒褐色	SiCl	3	2	中粒 3%		大粒 1%	
	13	2.5Y3/2暗赤褐色	CL	4	1	極大 40%			
	14	5YR3/2暗赤褐色	SL	3	3				
SE6055	1	10YR2/1黒色	SiL	5	3	小塊 5%	中粒 1%	中粒 2%	
	2	10YR2/1黒色	SiL	5	3	大塊 30%		中粒 2%	
SK6056	1	10YR1.7/1黒色	SiL	5	4			大粒 3%	
	2	炭化物層							

第68図 SE6052井戸跡、SE6055井戸跡・SK6056土坑

ピット状の落ち込みがあり、井戸枠の縦板の一枚が深く埋め込まれている。壁はなだらかに開いて立ち上がる。埋土は大礫や木材が多量に投入された埋め立て土である。北東側の側板が内側に倒れ込み、その上に長さ約40cmの角礫が投入されている。井戸廃絶時には裏込め土と掘形の上部を掘り崩し、井戸の中位付近までを礫や木材を投入して埋め立て、井戸枠北隅柱、東隅柱、北西側、北東側の



第69図 SE6057、SE6097井戸跡

棧と北西側板を抜いて、北東側の側板を倒した後にさらに礫や木材を投入して埋め立てたものと推定する。

井戸枠は方形縦板組型である。隅柱は幅約13cm～15cm、厚さ約8cmの心去りみかん割り材の角柱を用い、柱目面の下端から約40cmの位置に約9cm四方の貫通しないほぞ穴を穿っている。南西面は西隅柱と南隅柱のほぞ穴に横棧の両端をはめ込んだ状態であった。側板の縦板は横棧と掘形の上に差し込まれている。

遺物は、底面付近および埋土中位から小型の下駄が1足(第88図3・4)出土した。また漆器破片(第88図1・2)、砧(第87図10)も出土した。これらは木材、木片とともに埋め立て土に投入されたものとする。また、埋土中からはモモ、スモモ、ブドウ属、ミズキの種実類が30点出土した。

SE6097井戸跡(第69・89・90図、図版15)

平面形は長軸105cm、短軸103cmの隅丸長方形で、深さは38cmである。底面は中央が長軸77cm、短軸73cmの隅丸方形に一段低くなっている。その内側は平坦で基盤の岩盤が露出する。井戸枠は残存しないが、この範囲に井戸枠が設置されていたものと推測する。壁は底面から垂直に立ち上がる。埋土最下層はラミナ状に砂が堆積することから井戸機能時の流入堆積土と推定する。2層・3層は地山土や木材が投入された埋め立て土である。3層と4層の層界から1cm～2cm上面には木材が2重に敷き詰められている。さらに下位では周縁付近から白色粘土塊、中央付近から木材が出土した。井戸廃絶時には裏込め土を掘り崩し井戸枠を撤去した後、白色粘土塊や木材を投入して埋め立てたものと推定する。遺物は主に中央部底面直上から曲物の底板1点(第89図13)と箸(第89図1～12)が22点出土した。また、埋土中からスモモ核が2点出土した。

SE6098井戸跡(第70・91図・付図6、図版15・16)

平面形は長軸149cm、短軸147cmの隅丸長方形で、深さは54cmである。底面は平坦で岩盤が露出する。壁は底面からはほぼ垂直に立ち上がり上端付近で外傾する。埋土は板状礫や木材が多量に投入された埋め立て土である。埋土2層・3層は井戸枠の裏込め土である。井戸廃絶時には井戸枠を破壊せずに礫や木材を投入して埋め立てたものと推測する。

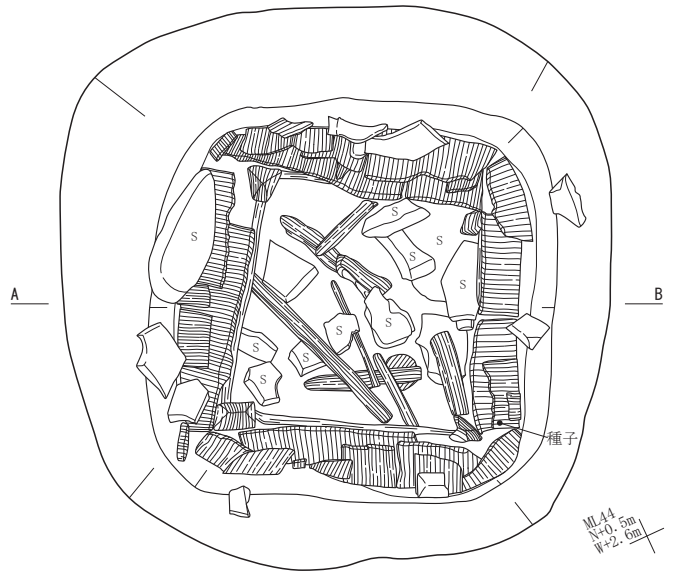
井戸枠は一辺約70cmの方形縦板組型である。隅柱は一片10cm～12cmの心去りみかん割り材の角柱を用い、直角方向に2か所のほぞ穴が穿たれている。北東－南西方向の横棧を受けるほぞ穴は底面から16cm～20cmの位置に貫通する。北西－南東方向の横棧を受けるほぞ穴はそれより低く、底面から約10cmの位置に設けられ貫通していない。横棧は一片4cm～6cmの角棒を用い、ほぞ穴に差し込まれる両端が細く削られている。側板の縦板は横棧と掘形壁の間に内側に傾けて二重に差し込まれている。各面の内側に幅約55cmの割板材(付図6－9・10・13・22・35)が配されている。井戸枠と掘形の大きさがほぼ同じであることから、隅柱と横棧を組んだ状態で掘形内に設置し、その後、側板を横棧と掘形壁の間に差し込んだものと推測する。隅柱と横棧を掘形に入れる際には隅柱の下に黒色土を薄く敷いて安定を図っている。

遺物は、埋土中から箸(第91図1～3)、すりこぎ(第91図4)等が出土した。掘形埋土から桜皮の小片が出土した。また、埋土中からモモ・スモモ・ブドウ属・クマノミズキ・アサ・カナムグラの種実類が約60点出土した。



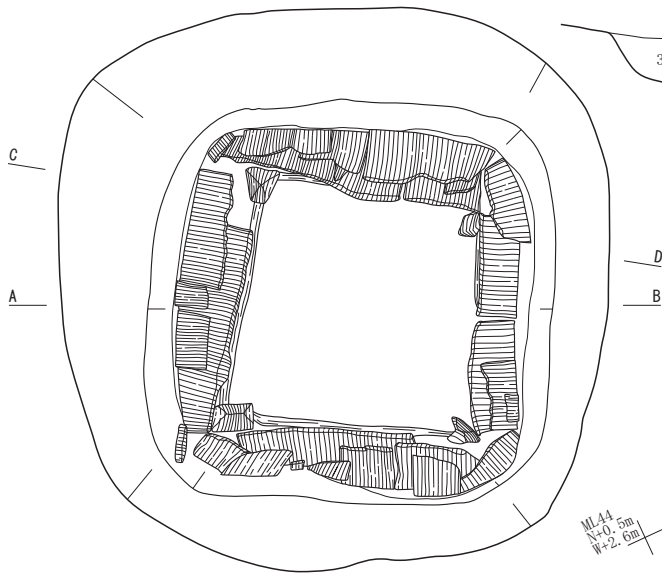
SE6098

遺物出土状況

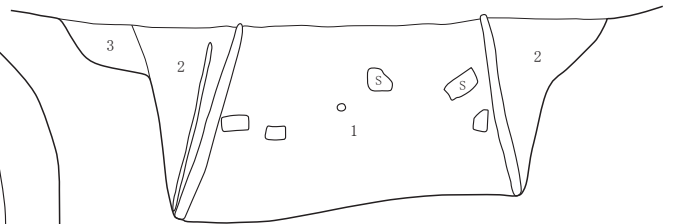


井戸枠検出状況

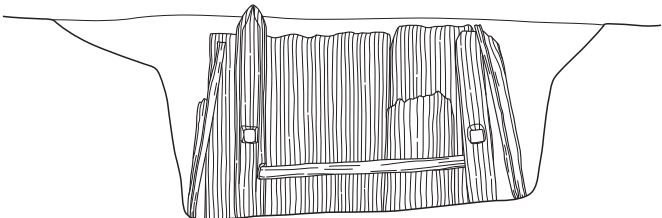
A 148.0m B



C 148.0m D



ML.44
N=0.5m
W=2.6m



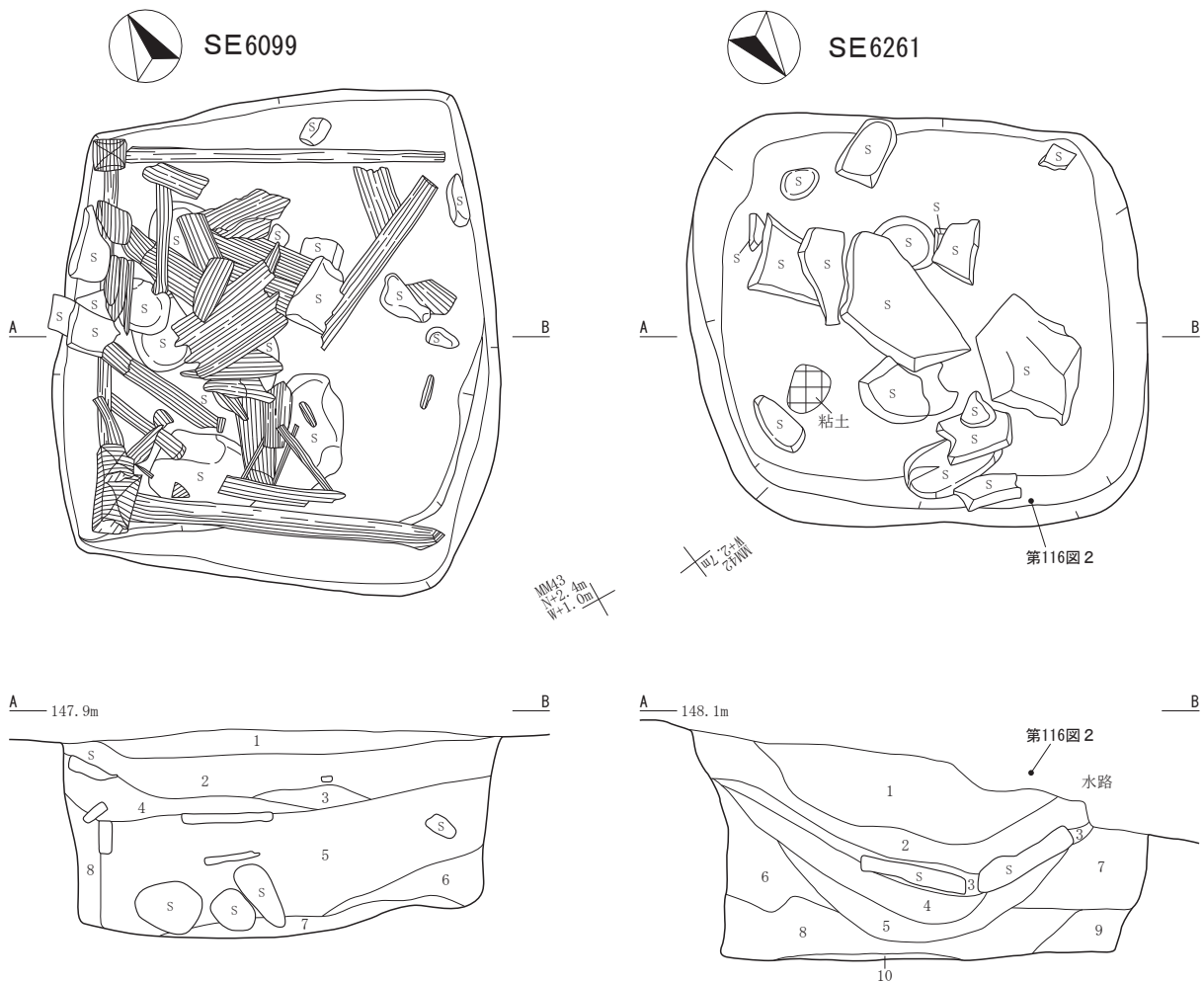
遺構	層	土色	土性	しまり	粘性	礫	地山	炭化物
SE6098	1	10YR2/2黒褐色	SiC	3	3		大粒 3%	中粒 2%
	2	10YR1.7/1黒色	SiL	5	2	角礫 10%	稜小塊 5%	中粒 2%
	3	10YR1.7/1黒色	SiL	5	2	大塊 10%	小塊 20%	

第70図 SE6098井戸跡

SE6099井戸跡(第71・92図・付図5、図版16)

平面形は長軸135cm、短軸120cmの隅丸長方形で、深さは56cmである。底面は平坦で岩盤が露出する。壁は底面からほぼ垂直に立ち上がる。埋土は礫や木材が投入された埋め立て土である。礫は円礫と板状礫が混じる。木材は板材、木片の他に木枝も多く含まれている。

井戸枠は方形縦板組型である。掘形に対し井戸枠はやや小さく、底面付近では一辺約80cmである。北隅柱、西隅柱および北東面・北西面・南西面の横棧が残存するのみである。井戸廃絶時には裏込め土を掘り崩し、井戸枠の棧をはずして東隅柱、南隅柱、側板を抜き去った後に礫や木材を投入して埋め立てたものと推定する。井戸枠の隅柱は幅10cm～約16cm、厚さ約9cm～12cmの心去りみかん割り材の角柱を用い、各角柱の直角方向の2面の下端から約20cmの位置に6cm～8cm四方の貫通しないほど



遺構	層	土色	土性	しまり	粘性	地山	焼土	炭化物	混入土
SE6099	1	10YR3/1黒褐色	SiL	4	2	大粒 10%		中粒 1%	白色中粒 1%
	2	10YR2/1黒色	SiC	4	3	大粒 3%		中粒 1%	
	3	10YR3/1黒褐色	SiCL	4	3				地山土 10%
	4	10YR3/1黒褐色	SiCL	4	4			中粒 1%	地山土 3%
	5	10YR3/1黒褐色	SiCL	4	3			中粒 1%	地山土 20%
	6	10YR3/1黒褐色	SiCL	4	3				地山土 10%
	7	10YR1.7/1黒色	SiCL	4	4				
	8	10YR2/2黒褐色	SiL	4	4				地山土 20%
SE6261	1	10YR2/1黒色	SiL	5	3		中粒 3%	中粒 2%	
	2	10YR2/1黒色	SiL	5	3		大塊 10%	中粒 2%	地山砂 5%
	3	10YR1.7/1黒色	CL	5	4			極小粒 0.5%	
	4	10YR2/2黒褐色	SiL	5	3		大塊 10%	中粒 1%	細砂 5%
	5	10YR2/2黒褐色	SiL	5	3				地山砂 5%
	6	10YR2/1黒色	SiL	5	3				地山砂 60%
	7	10YR2/2黒褐色	SiL	3	3				地山土 60%
	8	10YR2/1黒色	SiL	5	3	大塊 20%			
	9	10YR3/3暗褐色	S	5	1				地山土 60%
	10	10YR1.7/1黒色	CL	5	4				

第71図 SE6099、SE6261井戸跡

穴が穿たれている。板目面のほぞ穴は角柱を貫通し、柱目面から穿たれたほぞ穴は板目面のほぞ穴まで貫通している。横棧の角棒は両端のほぞ穴に差し込まれる部分が細く削られている。西隅柱に差し込まれた南側横棧(付図5-15)の一端だけは、小口中央にV字形の切れ込みを入れ、端部に木片の楔(第92図1)を打ち込んで隅柱のほぞ穴に固定してる。

遺物は、埋土中から板材、木片、枝が多く出土した。木製品は出土しなかった。また、埋土中からはスモモ、ブドウ属の種実類が3点出土した。

SE6139井戸跡(第72・93~96・116図・付図5、図版16・17・25)

本遺構の南東隅をSE6140井戸跡北辺が切っており(付図1基本土層山側F-G)、SE6139井戸跡→SE6140井戸跡の新旧関係が認められる。平面形は長軸155cm、短軸105cmで、南側は隅丸方形で、北側に円形の張り出しがある。本来の掘形は一辺155cm前後の隅丸方形で、北側の張り出しは廃絶時の掘削と考える。深さは74cmである。底面は基盤の岩盤が露出する。方形部分は底面が平坦であるが、張り出しは基盤の岩盤の傾斜に沿って、北側になだらかに高くなる。壁は底面からほぼ垂直に立ち上がる。埋土は礫や木材が多量に投入された埋め立て土である。礫は円礫と板状礫が混じる。木材は板材のほか、比較的小さい木片が多く含まれている。

井戸枠の残存状況は悪いが、方形縦板組型と推定する。隅柱4本と西面、北面の横棧は残存しない。側板は北面6枚、東面2枚、南面6枚、西面7枚が内側に倒された状態で出土した。井戸廃絶時には裏込め土を掘り崩し、隅柱、横棧2本、半数程度の縦板を抜き去り、残存部材を内側へ倒した後、礫や木材を投入して埋め立てたものと推定する。

遺物は、埋土4層から珠洲系陶器の片口鉢口縁部(第116図1)が出土した。珠洲系陶器編年第V期、15世紀前半と考える。埋土中からは箸40点、曲物の破片6点、曲物底板1点など多数の木製品(第93図)、一端が炭化した棒状の小木片21点(第94図)などが出土した。また、モモ、スモモ、ブドウ属、トチノキの種実類が28点出土した。

SE6140井戸跡(第72・93・94・97~104・118図、図版16・17)

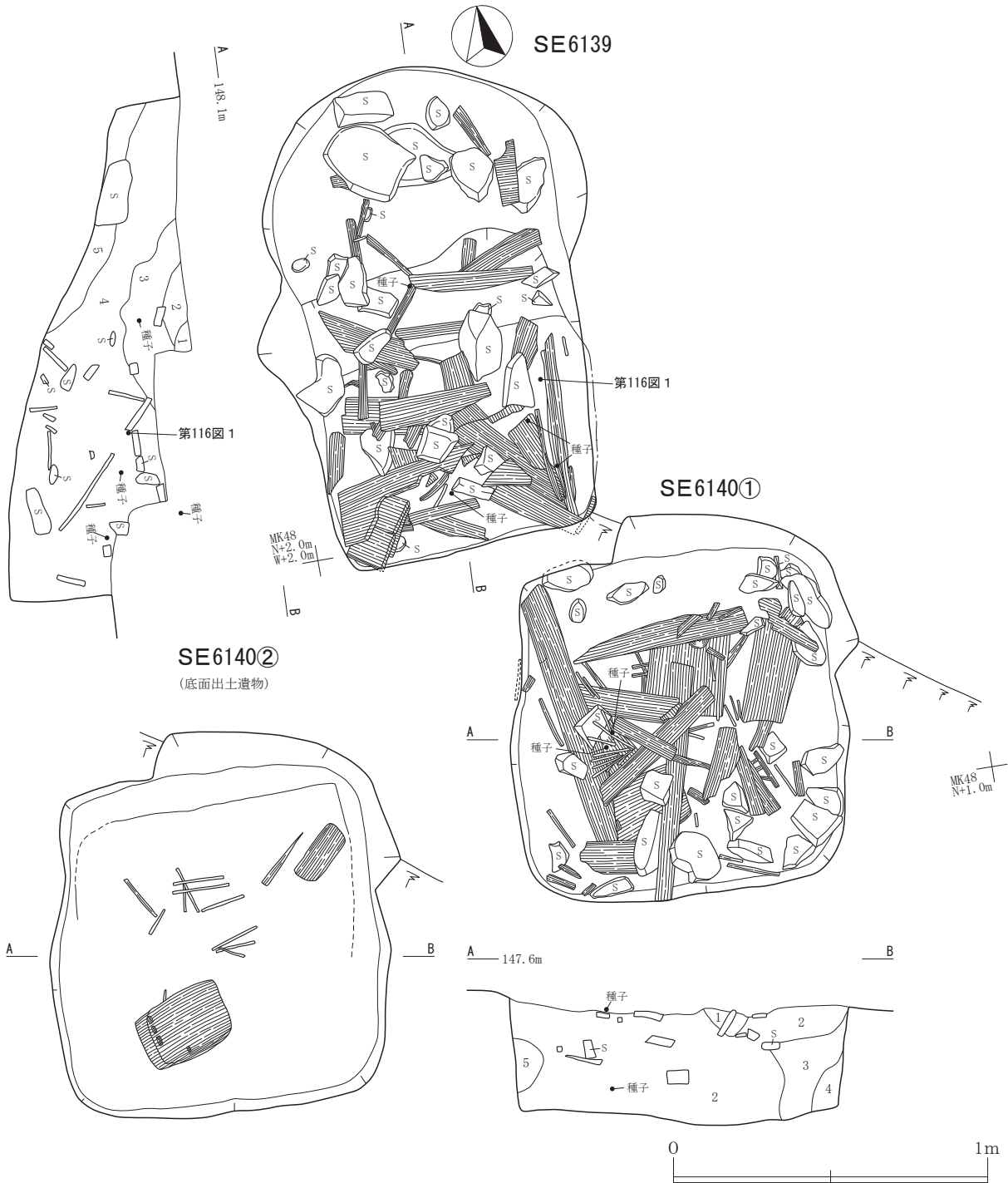
本遺構の北辺がSE6139井戸跡南東隅を切っており(付図1基本土層山側F-G)、SE6139井戸跡→SE6140井戸跡の新旧関係が認められる。平面形は長軸140cm、短軸107cmの隅丸方形である。深さは40cmである。底面は基盤の岩盤が露出する。壁は底面からほぼ垂直に立ち上がる。埋土は礫や木材が多量に投入された埋め立て土である。

井戸枠は残存しないが、掘形内下部に井戸枠裏込土が残存していたため、北半部分で井戸枠の範囲を知ることができた。井戸枠範囲は一辺約90cmの方形で、井戸枠は隅柱と横棧を伴う方形縦板組型と推測する。井戸廃絶時には裏込め土を掘り崩し、井戸枠を撤去した後、礫や木材を投入して埋め立てたものと推定する。

遺物は、底面から曲物(第98図12)、曲物底板(第99図1)、箸10点(第98図1~10)が出土した。埋土中からは箸83点、折敷(第99図2)、ヘラ状木製品(第100図2)など多数の木製品、一端が炭化した棒状の小木片(第100図8~16・第101図1~20)52点、桜皮(第101図21)40点、木枝23点、フィゴの羽口(第118図1)などが出土した。また、モモ、スモモ、ブドウ属、サンショウ、オオムギ、カナムグラ、オニグルミの種実類が84点出土した。

SE6164井戸跡(第73・104図、図版17)

平面形は長軸138cm、短軸117cmの方形で、深さは76cmである。底面は基盤の岩盤が露出する。壁は底面から垂直に立ち上がる。埋土11~14層は井戸枠の裏込め土である。10層は均質な水平堆積で井戸



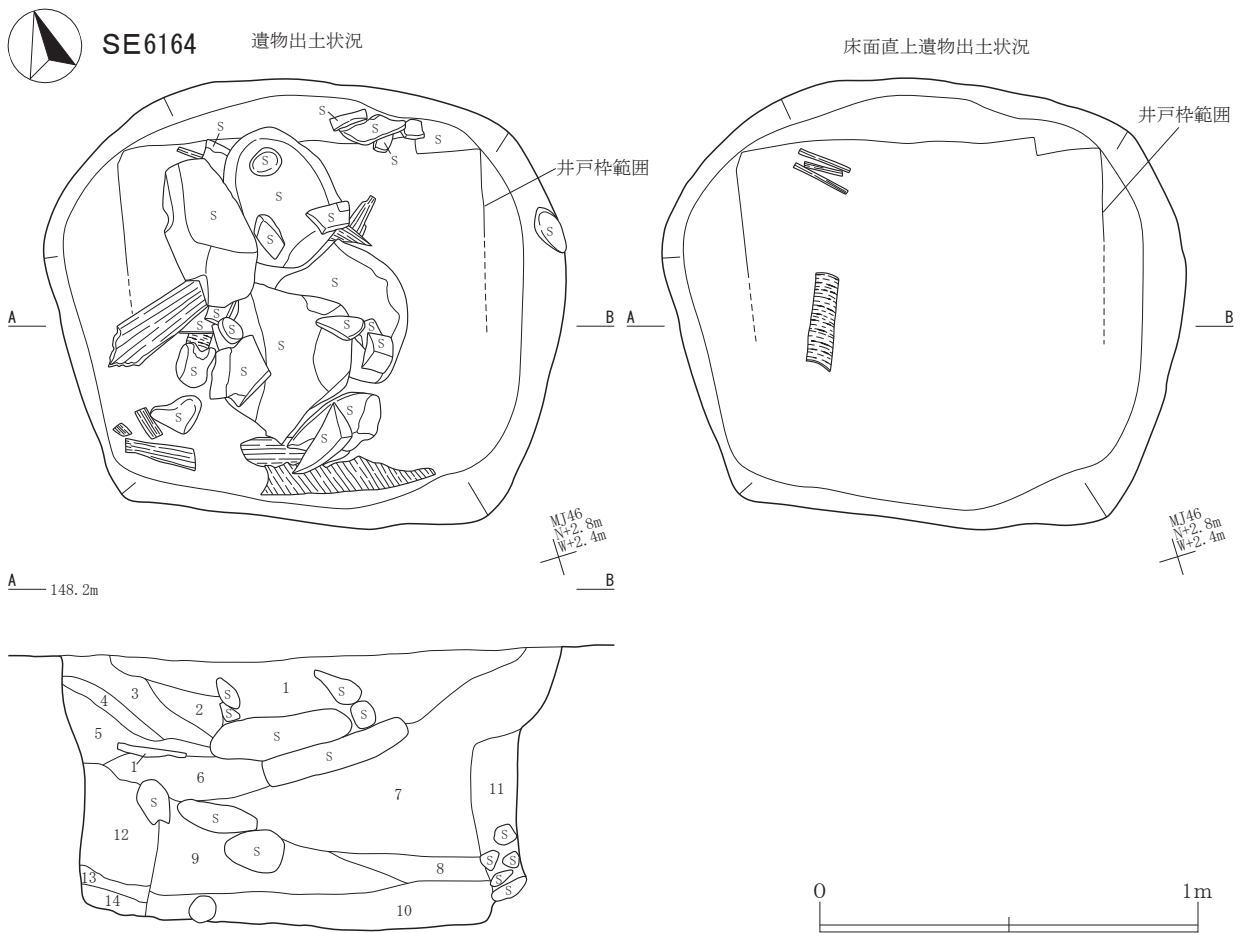
遺構	層	土色	土性	しまり	粘性	母材	火山灰	礫	地山	炭化物	混入土
SE6139	1	10YR2/1黒色	SIL	4	2	II	極小粒 2%	3%		小粒 3%	
	2	10YR2/1黒色	SIL	4	2	II	極小粒 2%	1%	40%	小粒 1%	
	3	10YR2/1黒色	SIL	4	3	II	極小粒 2%		中粒 10%		
	4	10YR2/1黒色	SIL	4	2	II	極小粒 2%	多量	40%		
	5	10YR1.7/1黒色	SiCL	4	4	II					
SE6140	1	5Y4/2灰オリーブ	CL	4	4	IV層		径5~10mm			
	2	10YR1.7/1黒色	SiCl	4	3	III層		径100~300mm	中粒 5%	極小粒 2%	
	3	7.5Y4/1灰色	SIL	4	2	IV層		径100~200mm			黒色土 30%
	4	10YR1.7/1黒色	SIL	4	2	III層			中粒 40%		
	5	7.5Y4/1灰色	SIL	4	2	IV層					

第72図 SE6139、SE6140井戸跡

機能時の流入堆積土と推定する。1層～9層は大礫や木材が投入された埋め立て土である。井戸枠は残存しないが、裏込め土が残存していたため北半部で井戸枠の範囲を知ることができた。井戸枠範囲は一辺約95cmの方形で、方形縦板組型の井戸枠と推測する。井戸廃絶時には裏込め土を掘り崩し、井戸枠を撤去した後、礫や木材を投入して埋め立てたものと推定する。遺物は底面付近の10層中から箸(第104図1・2)、桜皮(第104図4)が出土した。また、モモ、ブドウ属、サンショウ、カナムグラの種実類が40点出土した。

SE6261井戸跡(第71図、図版25)

平面形は長軸122cm、短軸109cmの隅丸長方形で、深さは62cmである。底面は平坦で岩盤が露出する。壁は底面からほぼ垂直に立ち上がる。井戸枠は残存しない。埋土最下層には粘性の強い黒色土が薄く堆積し、井戸機能時の流入土と推定する。埋土6層～9層は地山土が混じる埋め立て土である。



遺構	層	土色	土性	しまり	粘性	母材	火山灰	礫	地山	炭化物	混入土
SE6164	1	10YR2/1黒褐色	SiCL	4	3	II層		極小粒 10% 径400mm以下 10%	中塊 20%	小粒 1%	
	2	10YR3/2黒褐色	SiCL	4	2	II層		極小粒 5%	大塊 30%	小粒 2%	
	3	10YR3/3暗褐色	細砂混シルト	4	3	地山土		極小粒 10%	50%	小粒 10%	
	4	10YR3/2黒褐色	SiCL	4	2	III層		極小粒 5%	中塊 10%	極小粒 1%	
	5	10YR4/6褐色	シルト混細砂	4	2	地山土			80%		径30mm以下 20%
	6	10YR2/2黒褐色	SiCL	4	3	II層			大塊 30%		
	7	10YR2/2黒褐色	SiCL	4	2	III層		極小粒 10%	小塊 10%	小粒 1%	
	8	2.5YR2/1赤黒色	C	4	4						
	9	7.5Y4/2灰オリーブ	SiCL	4	3	地山土					
	10	2.5YR2/1赤黒色	SiCL	4	2					小粒 10%	
	11	2.5YR2/1赤黒色	SiCL	3	2	II層	極小粒 10%	径50mm以下 10%	大塊 40%		
	12	2.5YR2/1赤黒色	SiCL	4	2	地山土					径10~20mm以下 10%
	13	10YR1.7/1黒色	CL	3	4	I層					
	14	2.5YR2/1赤黒色	SiCL	4	2	地山土					

第73図 SE6164井戸跡

礫や木材は投入されていない。井戸廃絶時には井戸枠を撤去し、裏込め土と掘形の一部を掘り崩して埋め立てたものと推定する。木製品・種実類は出土しなかった。埋土1層～5層は井戸埋め立て後に掘り返して再度埋め立てた部分である。平面形がほぼ井戸跡掘形と同様で丸底状の土坑が掘削され、焼土塊と10～40cm程度の礫を約20個多量に投入して埋め戻されている。埋土1層中から珠洲系陶器の鉢口縁部破片(第116図2)が出土した。珠洲系陶器編年第V期、15世紀前半と考える。

3 土坑

山側調査区全体が圃場整備の影響で地山層まで削平されており、遺構検出は削平を受けた地山面であった。合計56基を検出した。各土坑の属性は第6表に掲載した。

SK6010土坑(第74・105図、図版17)

SK6058土坑を切っている。平面形は楕円形で、底面は丸みを帯びる。埋土は多量の木材と礫が投入された埋め立て土で、井戸跡の埋め立て土に類似する。時期は中世と推定する。性格は不明である。埋土中から下駄(第105図1)が出土した。

SK6050土坑(第74図、図版17)

平面形は楕円形で、底面は丸みを帯びる。埋土下位は木材、礫、地山土塊が投入された埋め立て土である。埋土上位は流入土と推定する。他の土坑や井戸跡との類似性から時期は中世と推定する。性格は不明である。

SK6053土坑(第74図)

平面形は楕円形で、底面は丸みを帯びる。埋土は黒褐色土の地山土塊が混じる単層の埋め立て土である。時期、性格は不明である。

SK6056土坑(第68図、図版14)

SE6055井戸跡を切っている。平面形は円形で、底面は丸みを帯びる。埋土は炭化物と地山土粒が混じる埋め立て土である。底面には薄い炭化物層が認められる。埋土中から大礫が4個出土した。時期、性格は不明である。

SK6058土坑(第74・105図、図版17)

SK6010土坑に切られている。平面形は円形で、底面は丸みを帯びる。埋土は多量の木材と礫が投入された埋め立て土で、井戸跡の埋め立て土に類似する。時期は中世と推定する。性格は不明である。

SK6059土坑(第74図)

平面形は楕円形で、底面は平坦である。埋土は地山土流が混じる埋め立て土である。時期、性格は不明である。

SK6060土坑(第74図)

平面形は楕円形または円形と推定する。底面は丸みを帯びる。埋土は礫を多量に投入した埋め立て土である。時期、性格は不明である。

SK6103土坑(第75図)

平面形は円形で、底面は岩盤が露出し凹凸がある。埋土はⅡ層土が母材の黒色土で埋め立て土と推測する。時期は中世と推定する。性格は不明である。

SK6104土坑(第75図)

平面形は楕円形で、底面は岩盤が露出し凹凸がある。埋土はⅡ層土が母材の黒褐色土で埋め立て土

と推測する。時期は中世と推定する。性格は不明である。

SK6106土坑(第75図)

平面形は不整楕円形で、底面は丸みを帯びる。埋土は地山土塊が混じり石器も混入するⅡ層土が母材の暗褐色土で、埋め立て土と推測する。時期は中世と推定する。性格は不明である。

SK6107土坑(第75・118図、図版17)

平面形は円形で、底面は岩盤が露出し凹凸がある。検出面に円礫と角礫が多数出土したが、覆土の水田造成土からめり込んだものである。埋土は地山土塊が混じり、石器と陶磁器片が混入するⅡ層土が母材の黒褐色土で、埋め立て土である。時期は中世以降、性格は不明である。

SK6108土坑(第75図)

SKP 6406・6407柱穴様ピットに切られ、SKP 6704柱穴様ピットを切っている。平面形は円形で、底面は岩盤が露出し凹凸がある。埋土は地山土塊が混じるⅡ層土が母材の暗褐色土で、埋め立て土と推測する。時期は中世以降、性格は不明である。

SK6109土坑(第75図、図版17)

SKP 6409柱穴様ピットを切っている。平面形は円形で、底面は岩盤が露出し凹凸がある。埋土は岩盤由来の角礫、地山土塊、焼土ブロックが混じるⅡ層土が母材の埋め立て土である。川側調査区北端部で検出した土坑と類似し、中世の土坑墓と推定する。

SK6110土坑(第75図)

SB6144掘立柱建物跡P5、SKP 6703柱穴様ピットを切っている。平面形は楕円形で、底面は平坦である。埋土は焼土塊、地山土塊が混じるⅡ層土が母材の埋め立て土である。時期は中世以降、性格は不明である。

SK6111土坑(第75図)

平面形は円形で、底面は岩盤が露出し凹凸がある。埋土は岩盤由来の角礫、地山土塊が混じるⅡ層土が母材の暗褐色土で、埋め立て土と推測する。周辺には近接するSN6105焼土遺構由来の焼土が広範囲に散布するが、本土坑の埋土には焼土が混じらないことから、SN6105焼土遺構よりも古い遺構と推定する。中世の遺構と考える。性格は不明である。

SK6112土坑(第76図)

平面形は不整楕円形で、底面はやや丸みを帯びる。検出面に円礫と角礫が多数出土したが、覆土の水田造成土からめり込んだものである。埋土は地山土塊が混じり石器も混入するⅡ層土が母材の暗褐色土で、埋め立て土と推測する。時期は中世以降、性格は不明である。

SK6113土坑(第76図)

SK6114土坑、SKP 6411・6418・6491・6492柱穴様ピットに切られている。平面形は隅丸方形と推測する。底面はやや丸みを帯びる。埋土は地山土塊が混じるⅡ層土が母材の埋め立て土である。時期は中世以降、性格は不明である。

SK6114土坑(第76図)

SK6113土坑を切り、SKP 6492柱穴様ピットに切られている。平面形は円形で、底面はやや丸みを帯びる。埋土は地山土塊が混じるⅡ層土が母材の埋め立て土である。川側調査区北端部で検出した土坑と類似し、中世の土坑墓と推定する。

SK6115土坑(第76図)

平面形は隅丸方形と推測する。底面はやや丸みを帯びる。埋土は地山土塊が混じるⅡ層土が母材の埋め立て土である。時期は中世以降、性格は不明である。

SK6118土坑(第76図)

平面形は円形で、底面は平坦である。埋土は地山土塊が混じるⅡ層土が母材の埋め立て土である。時期は中世以降、性格は不明である。

SK6119土坑(第76図、図版18)

SB6142掘立柱建物跡P5、SKP6489柱穴様ピットに切られる。平面形は円形で、底面は岩盤が露出し凹凸がある。埋土は地山土塊、焼土粒が混じるⅡ層土が母材の埋め立て土である。底面から円礫が4個出土した。川側調査区北端部で検出した土坑と類似し、中世の土坑墓と推定する。

SK6120土坑(第77図)

SK6121土坑を切る。平面形は隅丸方形で、底面は岩盤が露出し凹凸がある。埋土は地山土塊、焼土粒が混じるⅡ層土が母材の埋め立て土である。時期は中世以降、性格は不明である。

SK6121土坑(第77図・118図、図版18)

SK6172土坑、SKP6598・6599・6660柱穴様ピットを切り、SK6120土坑・SK6122土坑に切られる。平面形は不整形円形で、底面は丸みを帯びる。埋土下位は地山土塊が混じるⅡ層土が母材の埋め立て土である。埋土上位はⅣ層(地山漸移層)が母材で大小の礫が含まれる埋め立て土である。中央付近に30cm～45cmの円礫を3個並べ、その周囲にやや小さい円礫、角礫が投入されている。埋土中位から15世紀代と推定する灰釉の破片が出土した。中世の土坑墓と推定する。

SK6122土坑(第77図、図版18)

SN6117焼土遺構、SK6121土坑を切っている。平面形は円形で、丸みを帯びる。埋土は地山土塊が混じるⅡ層土が母材の埋め立て土である。埋土中位より上に多量の角礫を集積している。中世の土坑墓と推定する。

SK6124土坑(第77図)

平面形は不整形楕円形で、底面は岩盤が露出し凹凸がある。埋土は地山土塊が混じるⅡ層土が母材の埋め立て土である。埋土中から焼骨片が出土した。中世の火葬骨を埋納した土坑墓と推定する。

SK6125土坑(第76図)

SK6147土坑を切り、SKP6597柱穴様ピットに切られる。平面形は隅丸方形で、底面は岩盤が露出し凹凸がある。埋土は地山土塊が混じるⅡ層土が母材の埋め立て土である。時期は中世以降、性格は不明である。

SK6126土坑(第76図)

平面形は楕円形で、底面は岩盤が露出し凹凸がある。埋土は地山土粒、焼土粒が混じるⅡ層土が母材の埋め立て土である。時期は中世以降、性格は不明である。

SK6128土坑(第77図)

SKP6742柱穴様ピットを切り、SKP6725柱穴様ピットに切られる。平面形は円形で、底面はやや凹凸がある。埋土は地山土塊、焼土粒が混じるⅡ層土が母材の埋め立て土である。時期は中世以降、性格は不明である。

SK6130土坑 (第77図)

平面形は不整楕円形で、底面は岩盤が露出し凹凸がある。埋土は地山土塊が多量に混じるⅡ層土が母材の埋め立て土である。中世の土坑墓と推定する。

SK6131土坑 (第78図、図版18)

平面形は不整楕円形で、底面は岩盤が露出しやや凹凸があるが概ね平坦である。埋土は地山土塊が多量に混じるⅡ層土が母材の埋め立て土である。中央に約45cmの扁平な円礫が置かれている。中世の土坑墓と推定する。

SK6132土坑 (第78図・116図、図版18・25)

平面形は隅丸長方形で、底面は平坦である。埋土は粘性がきわめて強く固く締まった粘土を充填している。底面付近から珠洲系陶器の片口鉢破片(第118図2)が出土した。珠洲系陶器編年第Ⅴ期、15世紀前半と考える。本遺構は中世の遺構であるが、性格は不明である。

SK6133土坑 (第78図)

SKP6706柱穴様ピットに切られる。平面形は楕円形で、底面は平坦である。埋土は地山土塊が多量に混じるⅡ層土が母材の埋め立て土である。時期は中世以降、性格は不明である。

SK6134土坑 (第78図)

土坑の平面形は楕円形で、底面は凹凸がある。埋土上位には焼土が粒、地山塊が混じるⅡ層土が母材の埋め立て土である。この土は、削平により埋土上位から検出面の土坑周辺にかけて広く拡散している。埋土中には焼骨片が含まれている。中世の火葬骨を埋納した土坑墓と推定する。

SK6135土坑 (第78図)

平面形は円形で、底面は平坦である。埋土は地山土塊が混じるⅡ層土が母材の埋め立て土である。時期は中世以降、性格は不明である。

SK6137土坑 (第78図、図版18)

平面形は円形で、底面は丸みを帯びる。埋土は地山土塊が多量に混じるⅡ層土が母材の埋め立て土である。検出面上から45cmの角礫を含む角礫と円礫がまとまって出土した。川側調査区北端部で検出した土坑と類似し、中世の土坑墓と推定する。

SK6145土坑 (第78図・118図)

SN6116焼土遺構を切る。平面形は楕円形と推測する。底面は岩盤が露出しやや凹凸がある。埋土は地山土塊が多量に混じるⅡ層土が母材の埋め立て土である。北東側底面付近から埋土下位で扁平な角礫等が6個が出土した。川側調査区北端部で検出した土坑と類似し、中世の土坑墓と推定する。

SK6146土坑 (第79図)

SK6147土坑を切っている。平面形は楕円形で、底面は岩盤が露出し凹凸がある。埋土は地山土塊が混じるⅡ層土が母材の埋め立て土である。時期は中世以降、性格は不明である。

SK6147土坑 (第79図)

SK6125土坑・SK6146土坑に切られる。平面形は不整楕円形で、底面は岩盤が露出し凹凸がある。埋土は地山土塊が混じるⅡ層土が母材の埋め立て土である。時期は中世以降、性格は不明である。

SK6149土坑(第78図、図版18)

平面形は楕円形で、底面は岩盤が露出し凹凸がある。埋土は地山土塊が多量に混じるⅡ層土が母材の埋め立て土である。底面の周縁から礫がまとまって出土した。川側調査区北端部で検出した土坑と類似し、中世の土坑墓と推定する。

SK6150土坑(第79図)

SN6123焼土遺構由来の焼土層を切っており、SN6123焼土遺構より新しい。平面形は楕円形で、底面は岩盤が露出し凹凸がある。埋土は焼土粒、地山土が混じるⅡ層土が母材の埋め立て土である。検出面で礫が3個出土した。時期は中世以降、性格は不明である。

SK6151土坑(第79図)

SN6123焼土遺構由来の焼土層、SK6152土坑、SKP6702柱穴様ピットを切り、SK6150土坑に切られている。平面形は楕円形で、底面は岩盤が露出し凹凸がある。埋土は焼土粒、地山土が混じるⅡ層土が母材の埋め立て土である。時期は中世以降、性格は不明である。

SK6152土坑(第79図)

SK6151土坑、SKP6472柱穴様ピットに切られている。平面形は楕円形で、底面は平坦である。埋土は地山土塊が混じるⅡ層土が母材の埋め立て土である。時期は中世以降、性格は不明である。

SK6153土坑(第79図)

SK6172土坑に切られる。平面形は楕円形で、底面は平坦である。埋土は地山土塊が混じるⅡ層土が母材の埋め立て土である。時期は中世以降、性格は不明である。

SK6155土坑(第79図)

SK6156土坑を切っている。平面形は楕円形で、底面は岩盤が露出し凹凸がある。埋土は地山土塊、焼土粒が混じるⅡ層土が母材の埋め立て土である。時期は中世以降、性格は不明である。

SK6156土坑(第79図)

SKP6701柱穴様ピットを切り、SK6155土坑に切られている。平面形は円形と推定する。底面は平坦である。埋土は地山土塊、焼土粒が混じるⅡ層土が母材の埋め立て土である。時期は中世以降、性格は不明である。

SK6157土坑(第79図)

SK6158土坑を切り、SKP6566柱穴様ピットに切られている。平面形は円形で、底面は平坦である。埋土は地山土塊、焼土粒が混じるⅡ層土が母材の埋め立て土である。時期は中世以降、性格は不明である。

SK6158土坑(第80図)

SK6157土坑、SKP6569柱穴様ピットに切られている。平面形は円形と推定する。底面は丸みを帯びる。埋土は地山土塊、焼土粒が混じるⅡ層土が母材の埋め立て土である。時期は中世以降、性格は不明である。

SK6159土坑(第80図、図版18)

SK6160土坑に切られている。平面形は楕円形と推定する。底面は平坦である。埋土は地山土塊、焼土粒が混じるⅡ層土が母材の埋め立て土である。底面に一辺約25cm、厚さ約10cmの扁平な礫が置かれていた。時期は中世以降、性格は不明である。

SK6160土坑(第80図、図版18)

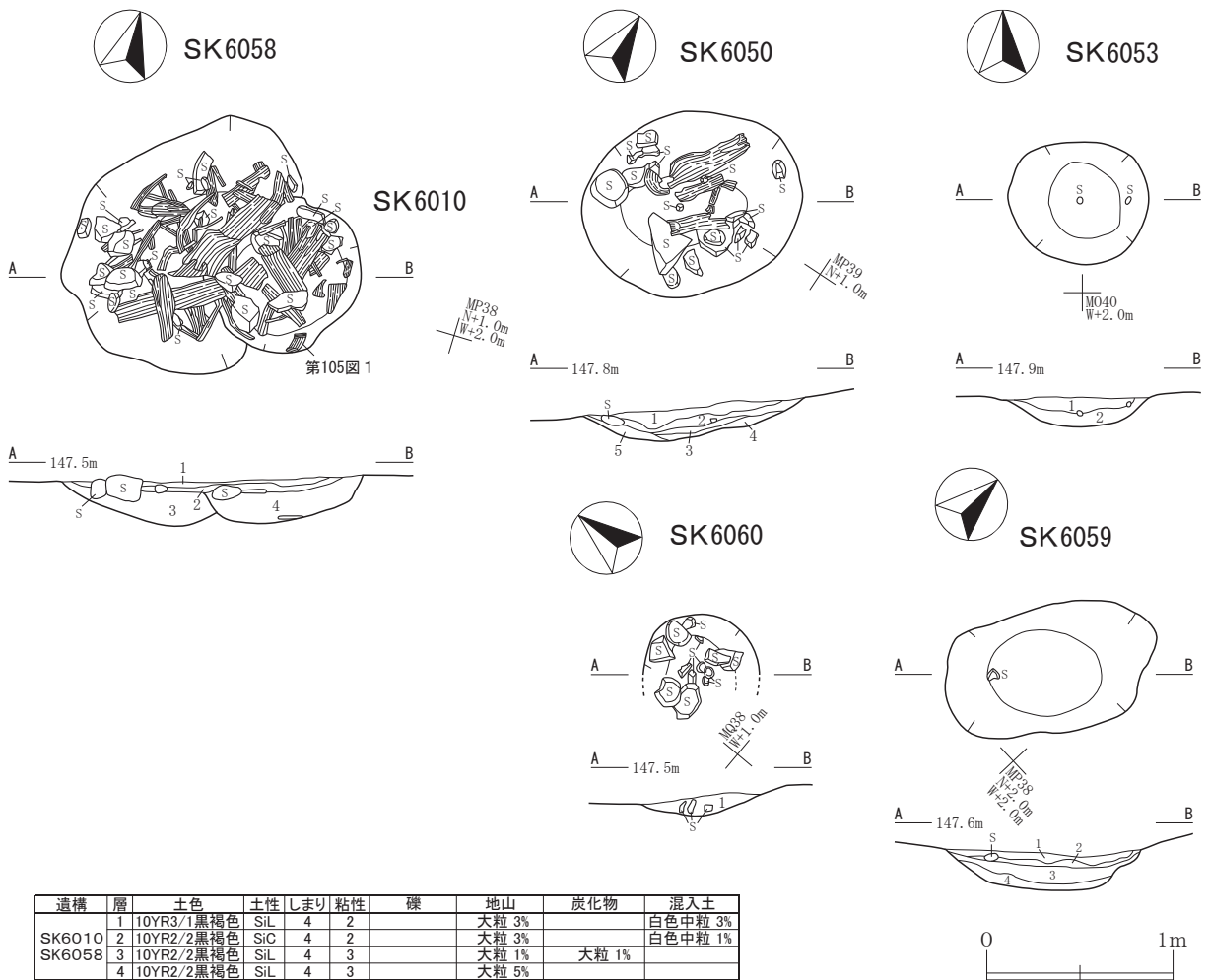
SK6159土坑を切っている。平面形は円形である。岩盤が露出している東側の底面は凹凸があり、岩盤が露出していない西側は一段深く掘り込まれている。埋土は地山土塊が混じるII層土が母材の埋め立て土である。時期は中世以降、性格は不明である。

SK6162土坑(第80図)

SKP6580柱穴様ピットに切られている。平面形は楕円形である。底面中央に岩盤が露出し高まりとなっている。埋土は地山土塊、焼土粒が混じるII層土が母材の埋め立て土である。時期は中世以降、性格は不明である。

SK6165土坑(第80図)

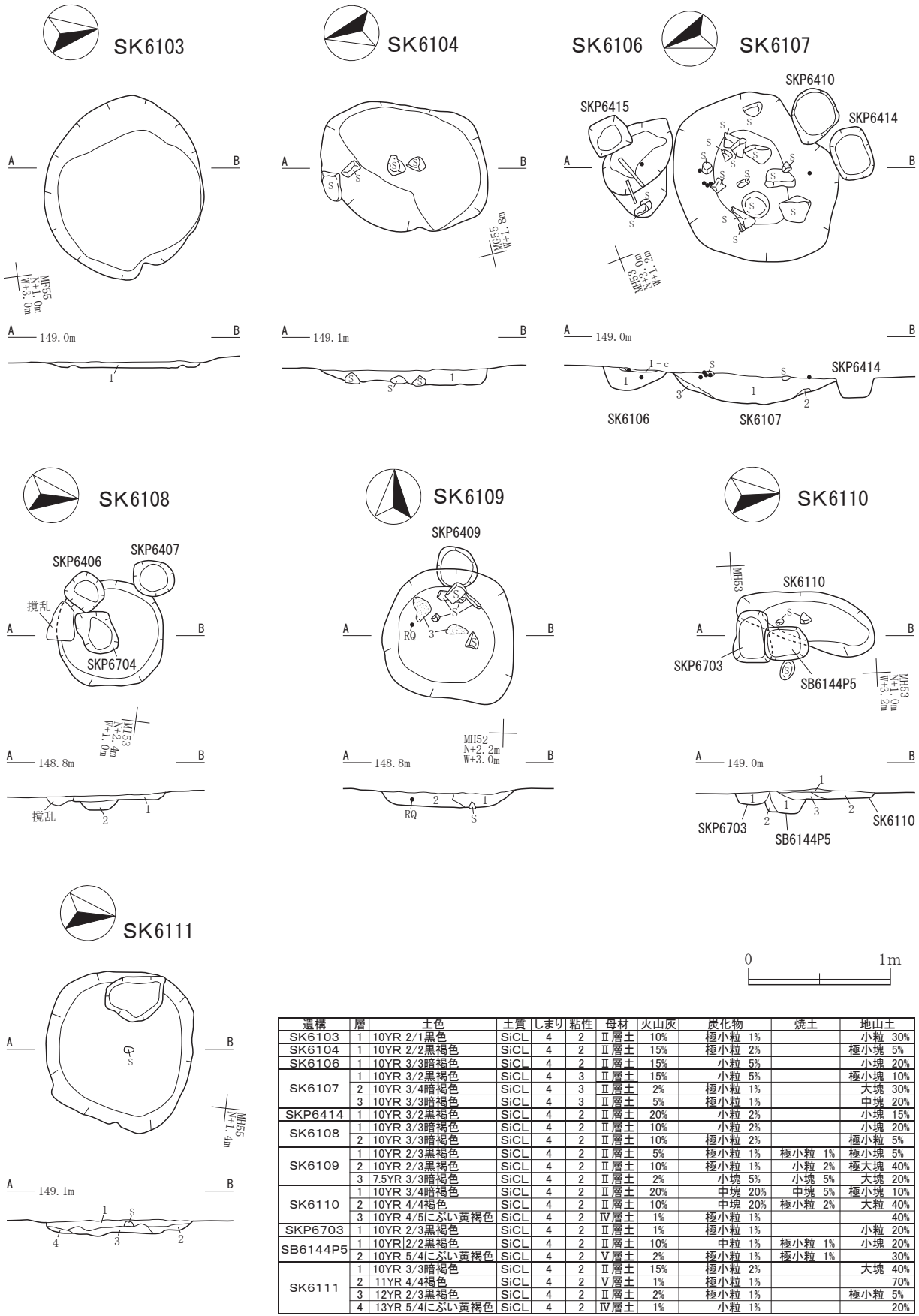
平面形は円形で、底面は平坦である。埋土は地山土塊が混じるII層土が母材の埋め立て土である。時期は中世以降、性格は不明である。



遺構	層	土色	土性	しまり	粘性	礫	地山	炭化物	混入土
SK6010	1	10YR3/1黒褐色	SiL	4	2		大粒 3%		白色中粒 3%
	2	10YR2/2黒褐色	SiC	4	2		大粒 3%		白色中粒 1%
SK6058	3	10YR2/2黒褐色	SiL	4	3		大粒 1%	大粒 1%	
	4	10YR2/2黒褐色	SiL	4	3		大粒 5%		
SK6050	1	10YR2/2黒褐色	SiCL	4	2	極小粒 5%			白色中粒 3%
	2	10YR3/2黒褐色	SiCL	3	4				
	3	10YR3/2黒褐色	SiL	3	4			30%	
	4	10YR3/3暗褐色	SiL	4	2		大粒 30%		
	5	10YR3/3暗褐色	SiL	4	2		大粒 10%		
SK6053	1	10YR2/2黒褐色	SCL	4	2	大塊 5%	極大粒 5%		大粒 3%
	2	10YR2/2黒褐色	SiL	4	3	大塊 3%	極大粒 10%		
SK6059	1	10YR3/2黒褐色	SiL	4	2		大粒 5%		白色中粒 3%
	2	10YR2/2黒褐色	SiL	4	2		大粒 1%		白色中粒 1%
	3	10YR2/1黒色	SiCL	4	2		大粒 3%		
	4	10YR2/1黒色	SiCL	4	2		大粒 30%		
SK6060	1	10YR1.7/1黒色	SiL	5	4	角礫 30%			小粒 2%

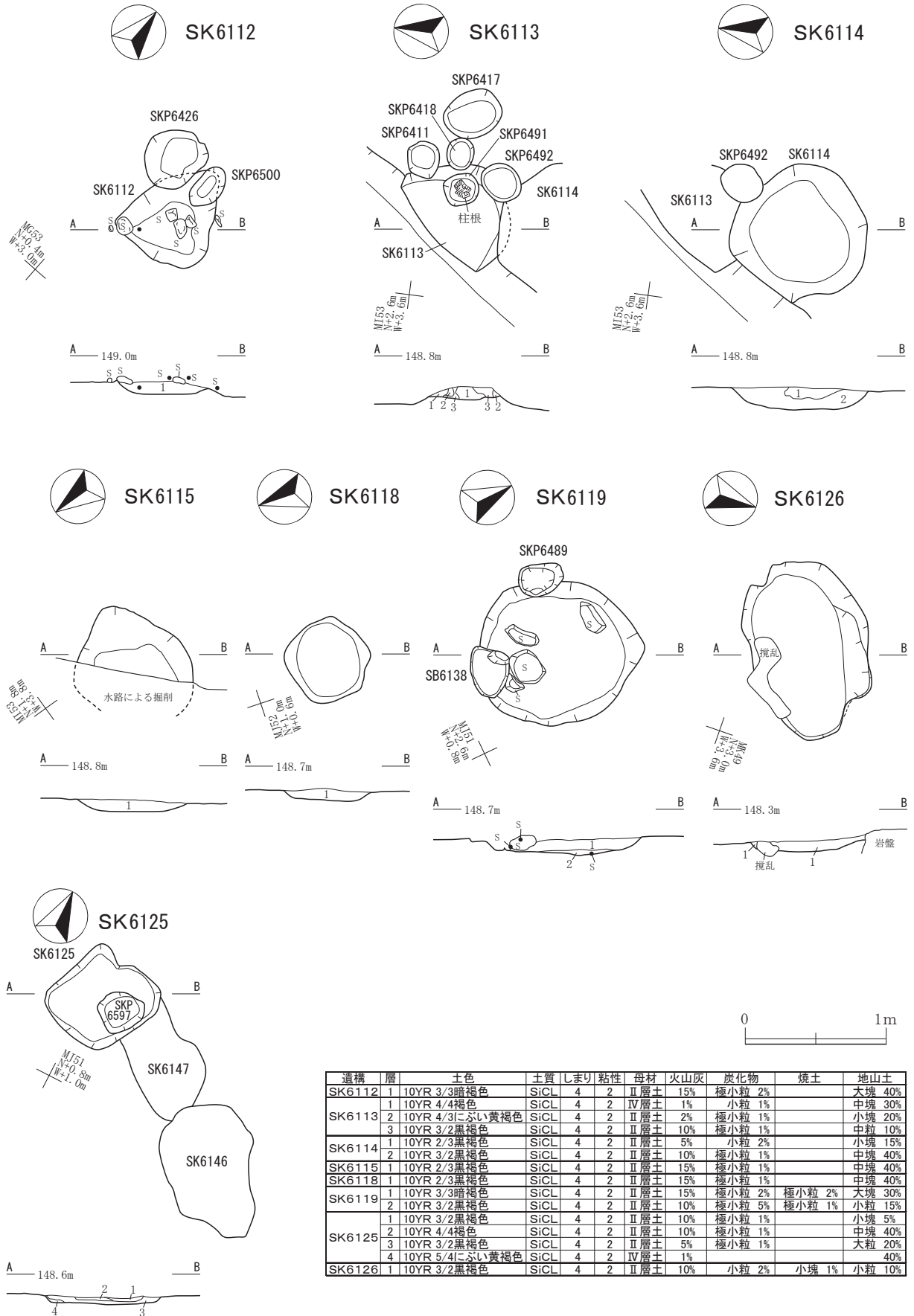
第74図 SK6010・SK6058、SK6050、SK6053、SK6059、SK6060土坑

第4章 調査の記録



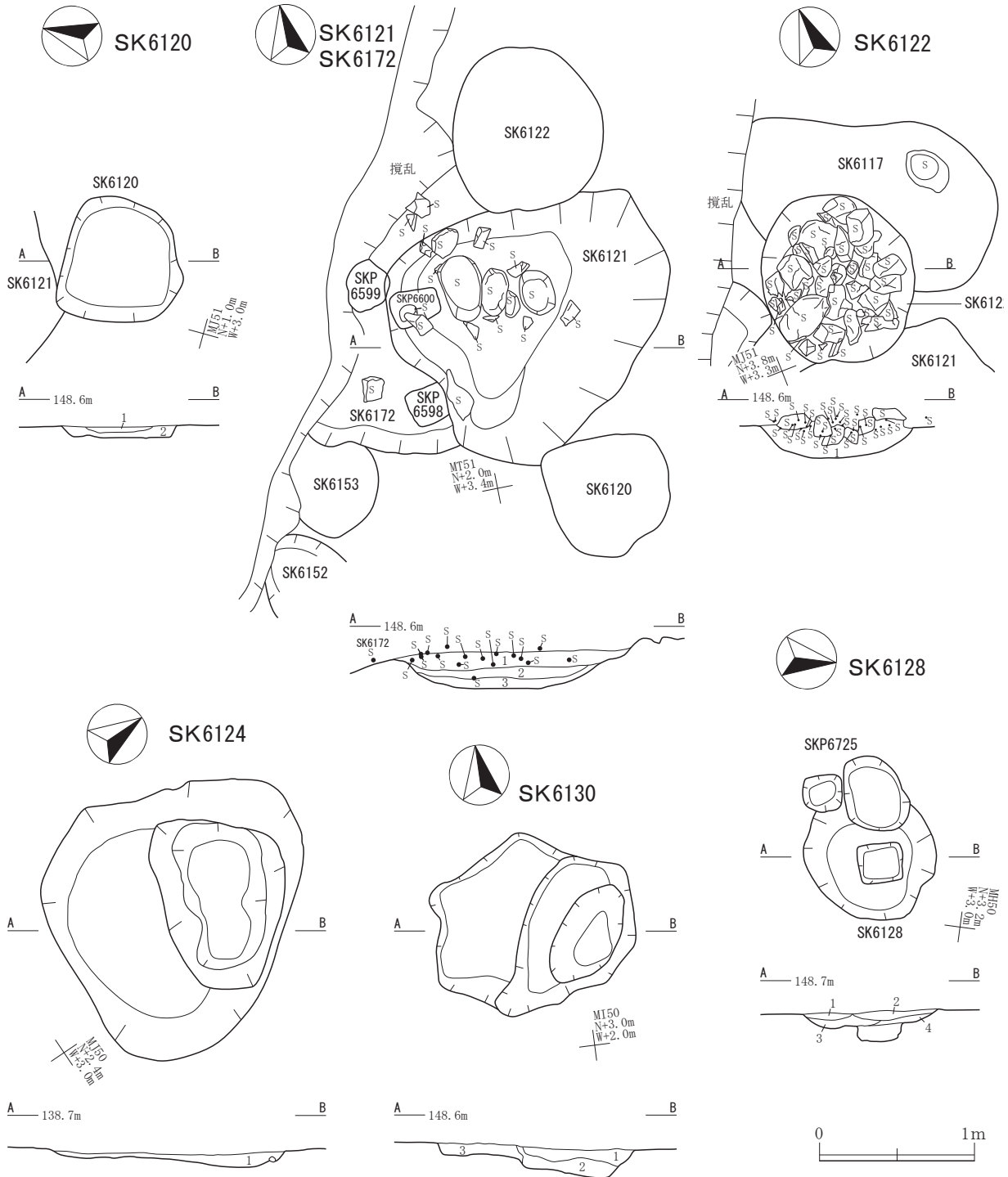
遺構	層	土色	土質	しまり	粘性	母材	火山灰	炭化物	焼土	地山土
SK6103	1	10YR 2/1黒色	SiCL	4	2	II層土	10%	極小粒 1%		小粒 30%
SK6104	1	10YR 2/2黒褐色	SiCL	4	2	II層土	15%	極小粒 2%		極小塊 5%
SK6106	1	10YR 3/3暗褐色	SiCL	4	2	II層土	15%	小粒 5%		小塊 20%
SK6107	1	10YR 3/2黒褐色	SiCL	4	3	II層土	15%	小粒 5%		極小塊 10%
	2	10YR 3/4暗褐色	SiCL	4	3	II層土	2%	極小粒 1%		大塊 30%
	3	10YR 3/3暗褐色	SiCL	4	3	II層土	5%	極小粒 1%		中塊 20%
SKP6414	1	10YR 3/2黒褐色	SiCL	4	2	II層土	20%	小粒 2%		小塊 15%
SK6108	1	10YR 3/3暗褐色	SiCL	4	2	II層土	10%	小粒 2%		小塊 20%
	2	10YR 3/3暗褐色	SiCL	4	2	II層土	10%	極小粒 2%		極小粒 5%
SK6109	1	10YR 2/3黒褐色	SiCL	4	2	II層土	5%	極小粒 1%	極小粒 1%	極小塊 5%
	2	10YR 2/3黒褐色	SiCL	4	2	II層土	10%	極小粒 1%	小粒 2%	極大塊 40%
	3	7.5YR 3/3暗褐色	SiCL	4	2	II層土	2%	小塊 5%	小塊 5%	大塊 20%
SK6110	1	10YR 3/4暗褐色	SiCL	4	2	II層土	20%	中塊 20%	中塊 5%	極小塊 10%
	2	10YR 4/4褐色	SiCL	4	2	II層土	10%	中塊 20%	極小粒 2%	大粒 40%
	3	10YR 4/5にぶい黄褐色	SiCL	4	2	IV層土	1%	極小粒 1%		40%
SKP6703	1	10YR 2/3黒褐色	SiCL	4	2	II層土	1%	極小粒 1%		小粒 20%
SB6144P5	1	10YR/2/2黒褐色	SiCL	4	2	II層土	10%	中粒 1%	極小粒 1%	小塊 20%
	2	10YR 5/4にぶい黄褐色	SiCL	4	2	V層土	2%	極小粒 1%	極小粒 1%	30%
SK6111	1	10YR 3/3暗褐色	SiCL	4	2	II層土	15%	極小粒 2%		大塊 40%
	2	11YR 4/4褐色	SiCL	4	2	V層土	1%	極小粒 1%		70%
	3	12YR 2/3黒褐色	SiCL	4	2	II層土	2%	極小粒 1%		5%
	4	13YR 5/4にぶい黄褐色	SiCL	4	2	IV層土	1%	小粒 1%		20%

第75図 SK6103、SK6104、SK6106、SK6107、SK6108、SK6109、SK6110、SK6111土坑



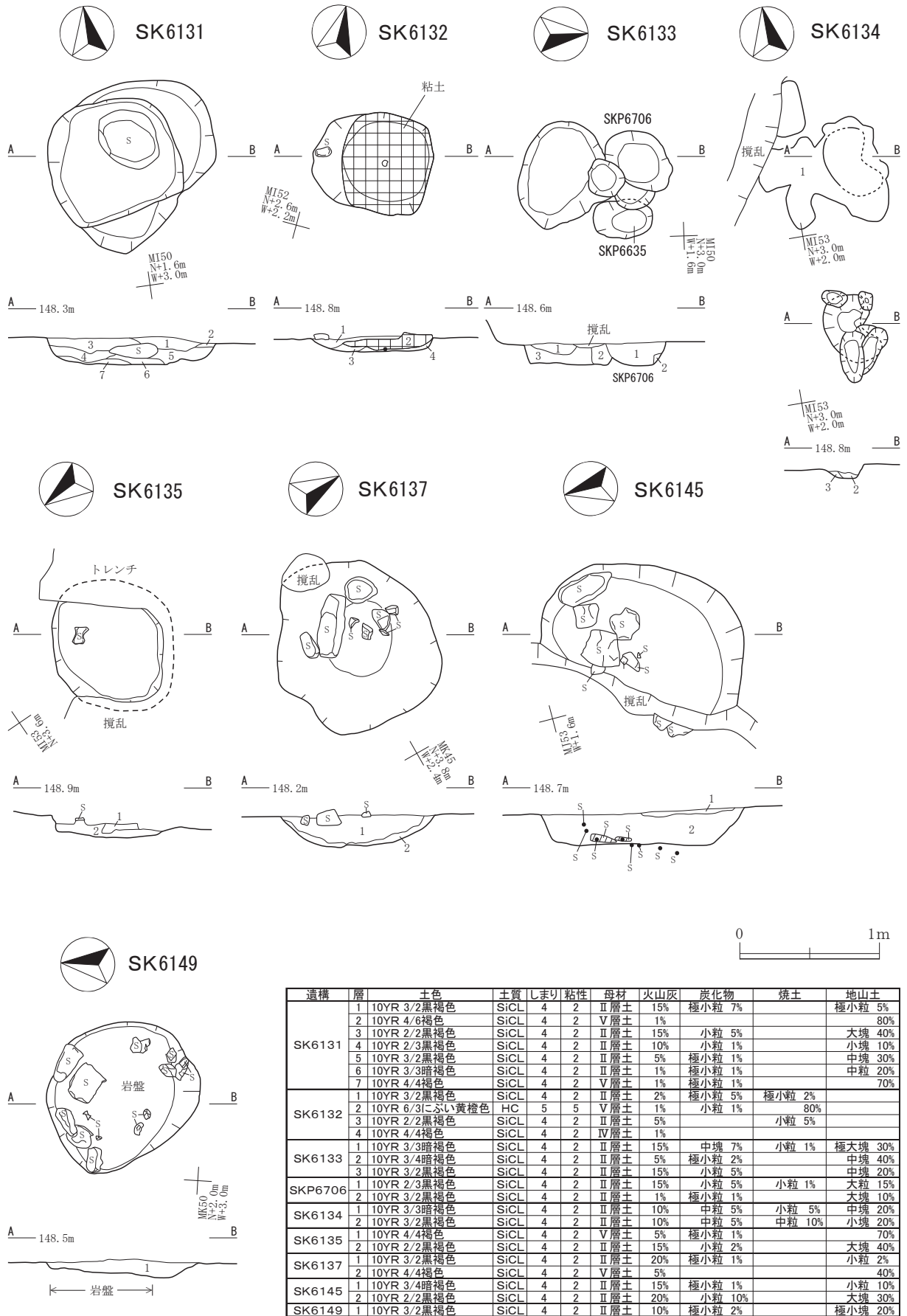
遺構	層	土色	土質	しまり	粘性	母材	火山灰	炭化物	焼土	地山土
SK6112	1	10YR 3/3暗褐色	SiCL	4	2	II層土	15%	極小粒 2%		大塊 40%
	2	10YR 4/4褐色	SiCL	4	2	IV層土	1%	小粒 1%		中塊 30%
SK6113	2	10YR 4/3にぶい黄褐色	SiCL	4	2	II層土	2%	極小粒 1%		小塊 20%
	3	10YR 3/2黒褐色	SiCL	4	2	II層土	10%	極小粒 1%		中粒 10%
SK6114	1	10YR 2/3黒褐色	SiCL	4	2	II層土	5%	小粒 2%		小塊 15%
	2	10YR 3/2黒褐色	SiCL	4	2	II層土	10%	極小粒 1%		中塊 40%
SK6115	1	10YR 2/3黒褐色	SiCL	4	2	II層土	15%	極小粒 1%		中塊 40%
	2	10YR 2/3黒褐色	SiCL	4	2	II層土	15%	極小粒 1%		中塊 40%
SK6118	1	10YR 2/3黒褐色	SiCL	4	2	II層土	15%	極小粒 1%		中塊 40%
	2	10YR 3/3暗褐色	SiCL	4	2	II層土	15%	極小粒 2%	極小粒 2%	大塊 30%
SK6119	2	10YR 3/2黒褐色	SiCL	4	2	II層土	10%	極小粒 5%	極小粒 1%	小粒 15%
	1	10YR 3/2黒褐色	SiCL	4	2	II層土	10%	極小粒 1%		小塊 5%
SK6125	1	10YR 3/2黒褐色	SiCL	4	2	II層土	10%	極小粒 1%		小塊 5%
	2	10YR 4/4褐色	SiCL	4	2	II層土	10%	極小粒 1%		中塊 40%
	3	10YR 3/2黒褐色	SiCL	4	2	II層土	5%	極小粒 1%		大粒 20%
SK6126	4	10YR 5/4にぶい黄褐色	SiCL	4	2	IV層土	1%			40%
	1	10YR 3/2黒褐色	SiCL	4	2	II層土	10%	小粒 2%	小塊 1%	小粒 10%

第76図 SK6112、SK6113、SK6114、SK6115、SK6118、SK6119、SK6125、SK6126土坑

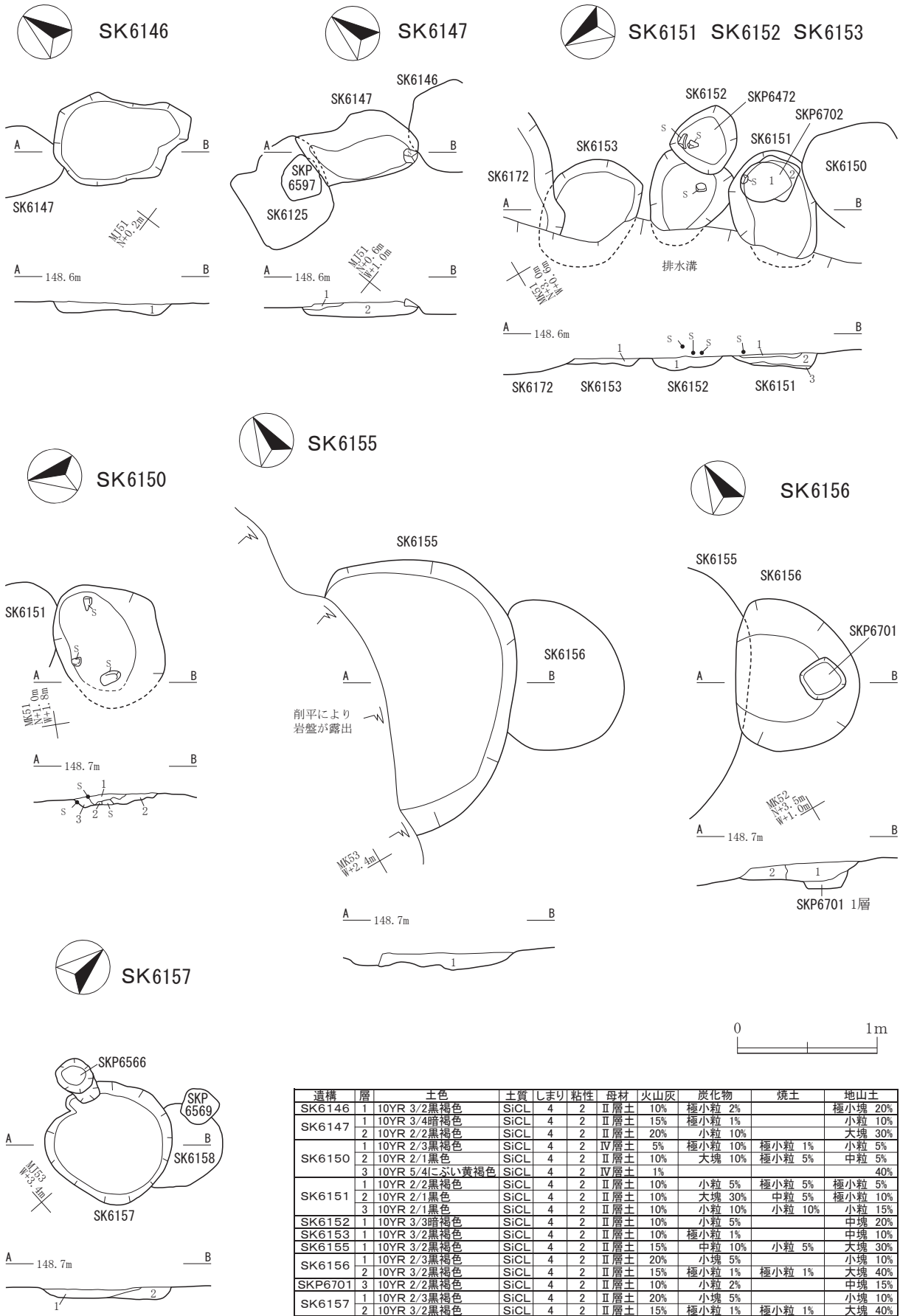


遺構	層	土色	土質	しまり	粘性	母材	火山灰	炭化物	焼土	地山土
SK6120	1	10YR 2/2黒褐色	SiCL	4	2	II層土	10%	小粒 2%	極小粒 1%	小塊 15%
	2	10YR 2/2黒褐色	SiCL	4	2	II層土	15%	小粒 2%	極小粒 1%	中塊 30%
SK6121	1	10YR 4/4褐色	SiCL	4	2	IV層土	1%	小粒 1%		中塊 30%
	2	10YR 4/3にぶい黄褐色	SiCL	4	2	II層土	2%	極小粒 1%		小塊 20%
	3	10YR 3/2黒褐色	SiCL	4	2	II層土	10%	極小粒 1%		中粒 10%
SK6122	1	10YR 2/3黒褐色	SiCL	4	2	II層土	15%	極小粒 1%		中塊 40%
SK6124	1	10YR 2/1黒色	SiCL	4	2	II層土	15%	小粒 5%	小粒 5%	30%
	1	10YR 3/2黒褐色	SiCL	4	2	II層土	10%	極小粒 1%		小塊 5%
SK6128	2	10YR 4/4褐色	SiCL	4	2	II層土	10%	極小粒 1%		中塊 40%
	3	10YR 3/2黒褐色	SiCL	4	2	II層土	10%	極小粒 2%	極小粒 1%	極小塊 20%
	4	10YR 5/4にぶい黄褐色	SiCL	4	2	V層土	1%			70%
SK6130	1	10YR 3/3暗褐色	SiCL	4	2	II層土	15%	中塊 7%	小粒 1%	極大塊 30%
	2	10YR 3/4暗褐色	SiCL	4	2	II層土	5%	極小粒 2%		中塊 40%
	3	10YR 3/2黒褐色	SiCL	4	2	II層土	15%	小粒 5%		中塊 20%

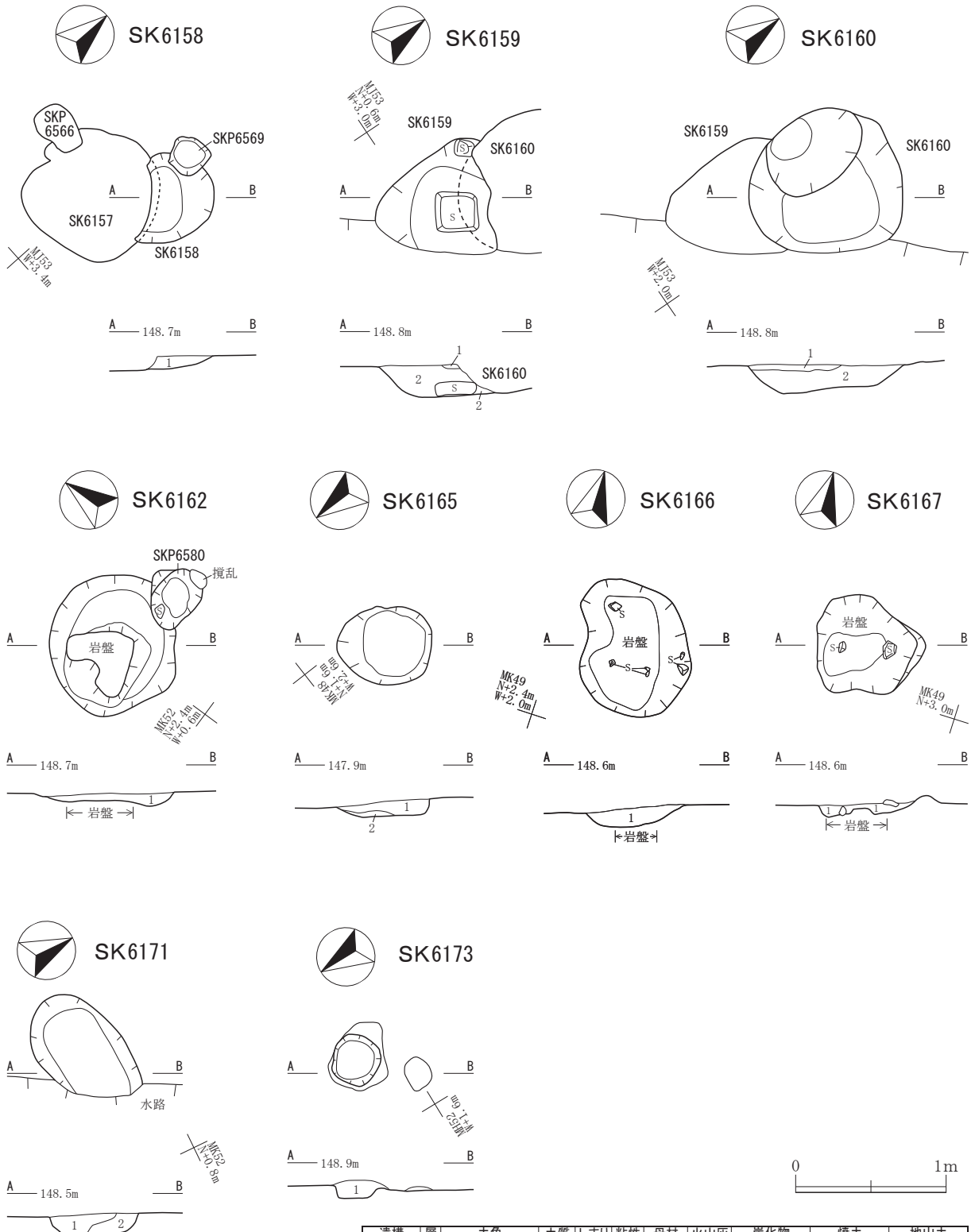
第77図 SK6120、SK6121、SK6122、SK6124、SK6128、SK6130、SK6172土坑



第78図 SK6131、SK6132、SK6133、SK6134、SK6135、SK6137、SK6145、SK6149土坑



第79図 SK6146、SK6147、SK6150、SK6151・SK6152・SK6153、SK6155、SK6156、SK6157土坑



遺構	層	土色	土質	しまり	粘性	母材	火山灰	炭化物	焼土	地山土
SK6158	1	10YR 3/2黒褐色	SiCL	4	2	II層土	15%	中粒 10%	小粒 5%	大塊 30%
SK6159	1	10YR 3/2黒褐色	SiCL	4	2	II層土	15%	中粒 10%		大塊 40%
	2	10YR 2/3黒褐色	SiCL	4	2	II層土	15%	中粒 10%	極小粒 1%	大塊 30%
SK6160	1	10YR 2/2黒褐色	SiCL	4	2	II層土	5%	極小粒 1%		中塊 20%
	2	10YR 2/3黒褐色	SiCL	4	2	II層土	20%	中粒 7%		中塊 20%
SK6162	1	10YR 3/2黒褐色	SiCL	4	2	II層土	15%	中粒 10%	小粒 5%	大塊 30%
SK6165	1	10YR 1.7/1黒色	SiCL	4	2	II層土	15%	極小塊 10%		極小粒 5%
	2	10YR 4/4褐色	SiCL	4	2	V層土	5%	なし		70%
SK6166	1	10YR 3/2黒褐色	SiCL	4	2	II層土	15%	中粒 10%	小粒 5%	大塊 30%
SK6167	1	10YR 3/2黒褐色	SiCL	4	2	II層土	15%	中粒 10%	小粒 5%	大塊 30%
SK6171	1	10YR 3/2黒褐色	SiCL	4	2	II層土	10%	中塊 5%		大塊 20%
	2	10YR 2/2黒褐色	SiCL	4	2	II層土	5%	極小塊 2%		小粒 10%
SK6173	1	7.5YR 2/2黒褐色	SiCL	4	2	II層土	10%	中塊 10%	大塊 15%	中粒 7%

第80図 SK6158、SK6159、SK6160、SK6162、SK6165、SK6166、SK6167、SK6171、SK6173土坑

SK6166土坑(第80図)

平面形は楕円形で、底面は岩盤が露出しやや凹凸がある。埋土は地山土塊、焼土粒が混じるⅡ層土が母材の埋め立て土である。時期は中世以降、性格は不明である。

SK6167土坑(第80図)

平面形は不整形で、底面は岩盤が露出し凹凸が著しい。埋土は地山土塊、焼土粒が混じるⅡ層土が母材の埋め立て土である。時期は中世以降、性格は不明である。

SK6171土坑(第80図)

平面形は楕円形で、底面は平坦である。埋土は地山土塊が混じるⅡ層土が母材の埋め立て土である。時期は中世以降、性格は不明である。

SK6172土坑(第77図)

SK6153土坑を切り、SK6121土坑に切られている。残存する底面は土坑全体の約6分の1である。平面形は円形と推定する。底面は平坦である。埋土は地山土塊が混じるⅡ層土が母材の埋め立て土である。時期は中世以降、性格は不明である。

SK6173土坑(第80図)

平面形は円形で、底面は平坦である。埋土は焼土塊、地山土塊が混じるⅡ層土が母材の埋め立て土である。時期は中世以降、性格は不明である。

4 焼土遺構

山側調査区では中央より南側で1基(SN6054焼土遺構)、北側で10基(SN6105焼土遺構～SN6168焼土遺構)、計11基の焼土遺構を検出した。各焼土遺構の属性は第5表に掲載した。

SN6054焼土遺構(第81図)

本遺構は倒木痕の地山土の隆起部上に構築されており、倒木痕の凹部には大湯浮石層が堆積している。焼土の平面形は隅丸長方形、掘形は楕円形で底面は丸みを帯びる。焼土は掘形の中央部に形成されている。中央部には炭化物も集中して堆積している。掘形の内側に粘土で構築した側壁下部が幅10cm～20cm、厚さ約5cm残存し、その内側は強く被熱している。側壁間の間隔は約40cmである。北西側が焚き口部と推定する。焼土層を覆う埋土は焼土塊、炭化物粒、焼粘土塊が多量に混じる。焼骨片は含まれていない。掘形最下層の7層に火山灰を含む。

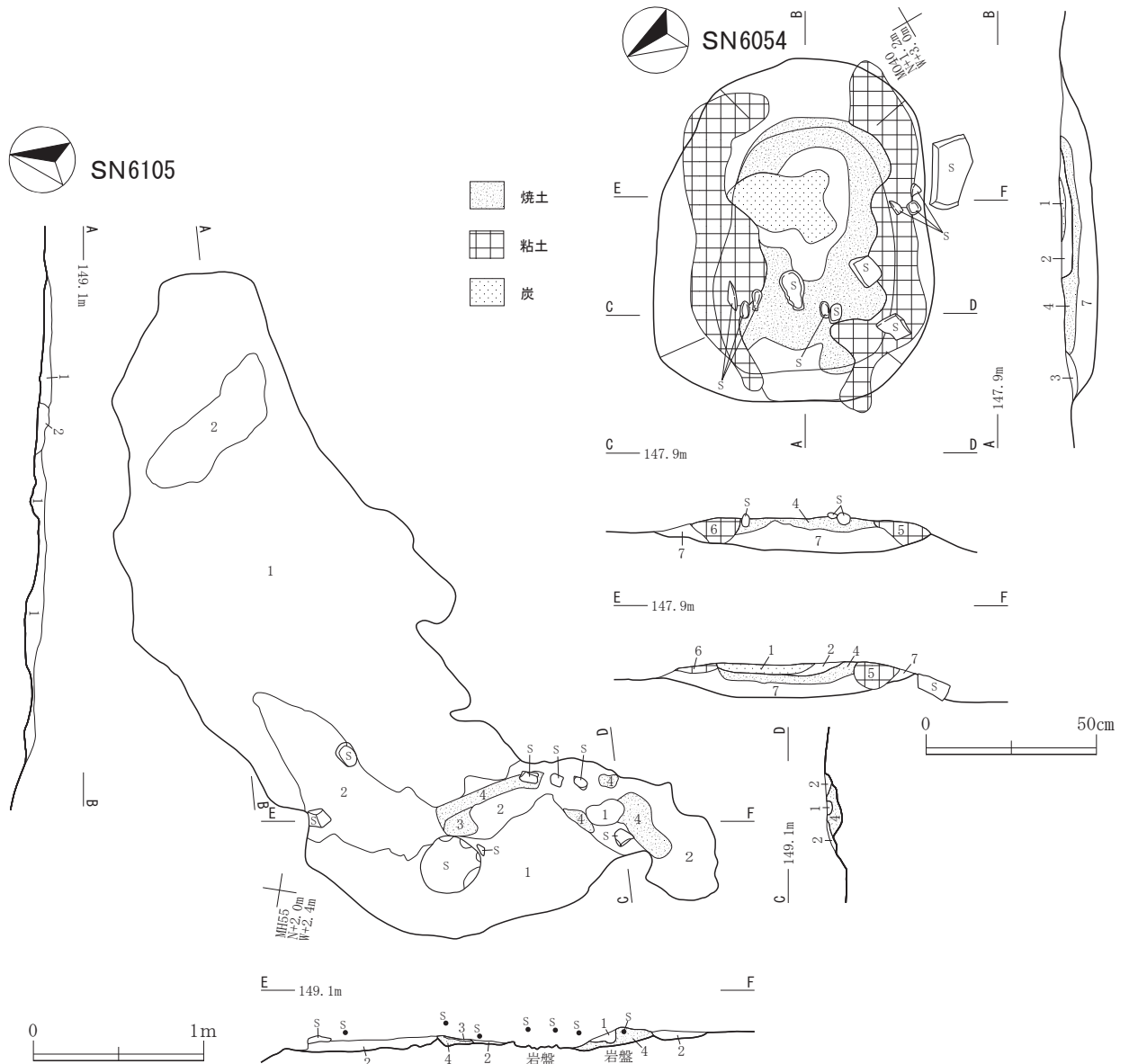
本遺構は、掘形内に黒色土を充填して火焼面を整形し側壁と天井部を粘土で構築したカマド状遺構と考える。周辺に竪穴住居跡の痕跡がないこと、本遺跡内で検出した焼土遺構との対比から屋外カマド状遺構と考える。廃絶後、天井部と側壁を崩しその残骸で埋め立てたと推測する。時期は中世と推定する。

SN6105焼土遺構(第81・56図、図版24)

岩盤上に焼土が形成されている焼土遺構である。削平により焼土の半分以上が消失している。残存する焼土から推定した燃焼部の推定平面形は楕円形で、岩盤を覆う地山土が赤変硬化し厚さ約5cmの焼土が形成されている。焼土の周辺には岩盤由来の角礫や円礫が散在するが被熱礫はなく、側壁心材として用いられた礫もない。側壁と天井部の有無は不明である。燃焼部から北東に広い範囲で焼土粒、炭化物粒を含む土が堆積している。

SN6116焼土遺構(第82図、図版19)

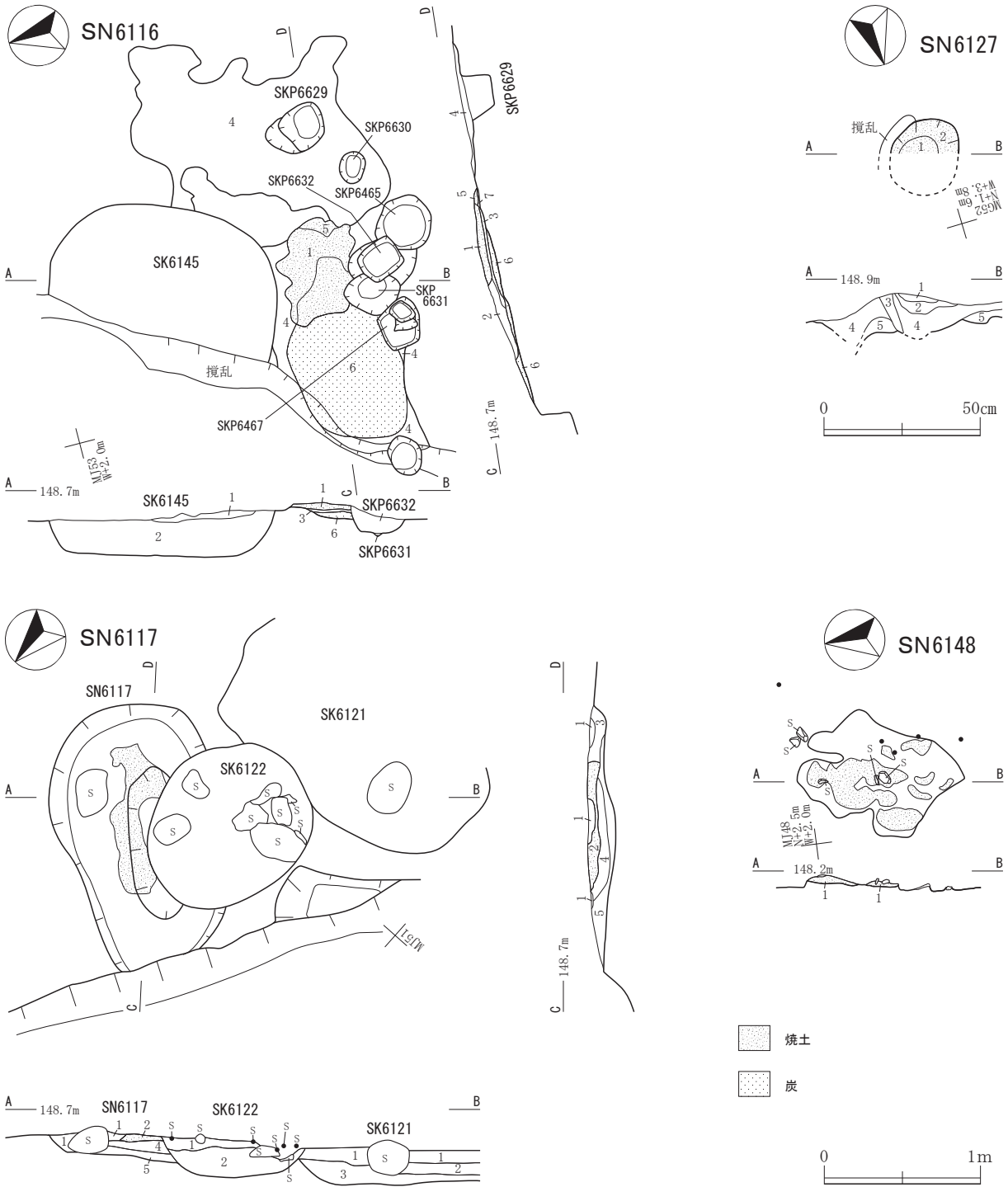
SK6145土坑、SKP6629・6630・6465・6632・6631・6467柱穴様ピットに切られている。焼土、掘形ともに平面形は楕円形で、掘形底面は丸みを帯びる。赤変硬化が著しい部分の焼土層の厚さは約4cmである。その西側に炭化物層が堆積している。焼土層が燃烧部、炭化物層が焚き口部と推定する。検出面では東側に焼土塊の散布域が広がっている。焼土中には火山灰を含むが、焼骨片は含まれていない。焼土を覆う埋土は焼土塊、炭化物粒、焼粘土塊が多量に混じる。側壁や天井部の痕跡はな



遺構	層	土色	土性	しまり	粘性	母材	火山灰	炭化物	焼土	地山土	混入土
SN6105	1	10YR2/2黒褐色	SiCL	4	2	I層	10%	小塊 10%	中粒 5%	中粒 10%	
	2	10YR3/3暗褐色	SiCL	4	2	I層	5%	中塊 10%	中塊 15%	中塊 30%	
	3	10YR2/2黒褐色	SiCL	4	2	V層土	5%	中塊 20%	小粒 10%	小塊 40%	
	4	5YR4/3赤褐色	SiCL	5	2	V層土		小粒 2%	90%	粒 30%	
SN6054	1	10YR3/3暗褐色	SiCL	4	2			大塊 20%	中粒 10%		白色粘土 10%
	2	2.5YR3/3暗赤褐色	C	5	4						
	3	10YR1.7/1黒色	SiL	5	2			大塊 5%	大塊 30%		
	4	7.5YR4/4褐色	SiL	5	1				100%		
	5	2.5YR3/3暗赤褐色	C	5	4				中粒 3%		白色粘土 20%
	6	2.5YR3/3暗赤褐色	C	5	4				中粒 1%		白色粘土 10%
	7	10YR2/1黒色	SiL	5	2						白色小粒 1%

第81図 SN6054、SN6105焼土遺構

第4章 調査の記録



遺構	層	土色	土性	しまり	粘性	母材	火山灰	炭化物	焼土	地山土	混入土
SN6116	1	7.5YR5/4にふい褐色	HC	5	2		2%	極小粒 5%	中塊 5%		
	2	7.5YR2/2黒褐色	SiCL	4	2		15%	小粒 5%	大塊 30%		
	3	10YR1.7/1黒色	SiCL	4	2				大塊 50%	中塊 20%	地山小粒 10%
	4	7.5YR2/2黒褐色	SiCL	4	2			15%	小粒 5%	小粒 1%	
	5	7.5YR2/2黒褐色	SiCL	4	2			15%	極小粒 5%	大塊 20%	
	6	10YR3/2黒褐色	SiCL	4	2				小塊 10%	小塊 20%	地山小粒
	7	10YR3/4暗褐色	SiCL	4	2		2%	小粒 2%	中塊 20%		地山小塊 10%
SN6117	1	10YR2/2黒褐色	SiCL	4	3	II層土	極小粒 15%	小粒 2%			III層土小塊 10%
	2	10YR7/4にふい黄橙色	HC	5	5	搬入土					
	3	10YR2/3黒褐色	SiCL	4	3	II層土	極小粒 5%	小粒 5%			III層土小粒 10%
	4	10YR3/2黒褐色	SiCL	4	3	II層土	極小粒 5%	小塊 7%			III層土中塊 30%
	5	10YR3/2黒褐色	SiCL	3	3	II層土	極小粒 10%	小粒 5%			
SN6127	1	10YR3/4暗褐色	SiCL	4	2	II層土		15%	極小塊 10%	極小粒 5%	極小粒 2%
	2	5YR4/8赤褐色	SiCL	4	2	II層土	2%	極小粒 1%		90%	
	3	10YR3/4暗褐色	SiCL	4	2	IV層	1%	極小粒 1%	小粒 2%	極小塊 40%	
	4	10YR3/3暗褐色	SiCL	4	2	III層		小粒 1%	極小粒 1%	極小粒 5%	
	5	10YR3/4暗褐色	SiCL	4	2	IV層					50%
SN6148	1	5YR5/8明赤褐色	SiCL	4	1	II層土	極小粒 2%	中塊 20%			

第82図 SN6116、SN6117、SN6127、SN6148焼土遺構

いが、焼粘土塊が多量に散乱することから、粘土で側壁と天井部を構築したカマド状遺構であったと考える。周辺に竪穴住居跡の痕跡がないことから、中世の屋外カマド状遺構と推定する。

SN6117焼土遺構(第82図)

SK6122土坑に切られている。焼土、掘形ともに平面形は楕円形で、掘形底面はやや丸みを帯びる。燃焼部の焼土層の厚さは約4cmで、赤変硬化が著しい。検出面での焼土塊、炭化物粒の散布域は掘形の範囲程度である。焼土中には火山灰を含むが、焼骨片は含まれていない。焼土を覆う埋土は焼土塊、炭化物粒、焼粘土塊が多量に混じる。側壁や天井部の痕跡はないが、焼粘土塊が多量に散乱することから、粘土で側壁と天井部を構築したカマド状遺構であったと考える。周辺に竪穴住居跡の痕跡がないことから、中世の屋外カマド状遺構と推定する。

SN6123焼土遺構(第83図)

岩盤上に焼土が形成されている焼土遺構である。岩盤上に残存する厚さ約10cmの地山土が強い被熱により硬化赤変している。焼土範囲は広いが、断面土層から燃焼部は中央から北東側、長軸約80cm、短軸約60cmの楕円形の範囲と推測する。南西側には炭化物層があり焚き口部と推定する。燃焼部の掘形はないが、焚き口部では浅い掘形があり最下層は暗褐色土で、それより上位に焼土と炭化物の堆積層がある。焼土中には火山灰を含むが、焼骨片は含まれていない。焼土を覆う埋土は焼土塊、炭化物粒、焼粘土塊が多量に混じる。側壁や天井部の痕跡はないが、焼粘土塊が多量に散乱することから、粘土で側壁と天井部を構築したカマド状遺構であったと考える。周辺に竪穴住居跡の痕跡がないことから、中世の屋外カマド状遺構と推定する。

SN6127焼土遺構(第82図)

IV層(地山漸移層)上に形成された地床炉である。焼土の平面形は径20cm～30cmの円形と推測する。周辺からは縄文後期の土器片が出土しているが、上部が削平されており、時期は不明である。

SN6129焼土遺構(第83図、図版19)

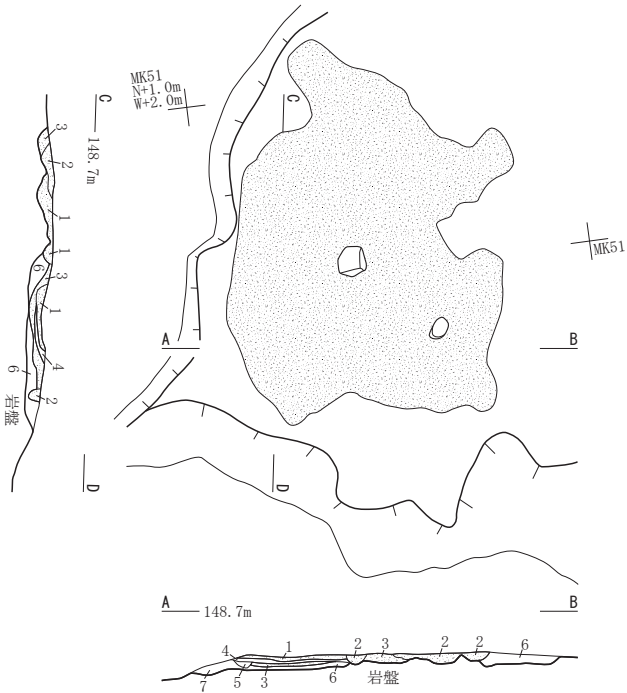
II層(黒褐色土)中に形成された焼土遺構である。SKP6741柱穴様ピットに切られている。焼土の平面形は隅丸長方形、掘形は隅丸方形である。掘形底面は平坦である。赤変硬化が著しい部分の焼土層の厚さは約10cmである。焼土範囲の断面土層から、燃焼部は主に中央から南側、長軸約1m、短軸約80cmの隅丸長方形の範囲と推定する。北側は焼土層と炭化物層の互層になっており、焚き口部があったと考える。掘形と検出した赤変硬化範囲が一致しないのは、当初、掘形内の北側が焚き口部、南側が燃焼部であったものが、次第に燃焼部の位置を南北に移動させた結果、赤変硬化範囲が広がったことによると推測する。焼土中には火山灰を含むが、焼骨片は含まれていない。焼土を覆う埋土は焼土塊、炭化物粒、焼粘土塊、被熱礫が多量に混じる。側壁や天井部の痕跡はないが、焼粘土塊が多量に散乱することから、粘土で側壁と天井部を構築したカマド状遺構であったと考える。燃焼部の移動はカマドの作り替えによるものと考え。本遺構の構築時期は検出層位から中世で、屋外カマド状遺構と推定する。

SN6148焼土遺構(第82図、図版19)

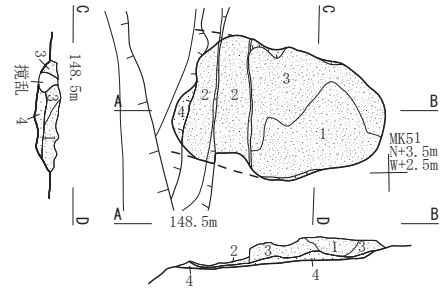
II層(黒褐色土)中に形成された焼土遺構である。掘形はない。赤変硬化している範囲の平面形は不整形で、厚さは5cm～7cmである。本遺構と同一層位の隣接グリッド(MI49)では銭貨が5点(第120図5・6・8・16・17)出土し、永楽通宝が含まれることから、本遺構は中世(15世紀以降)の地床炉と



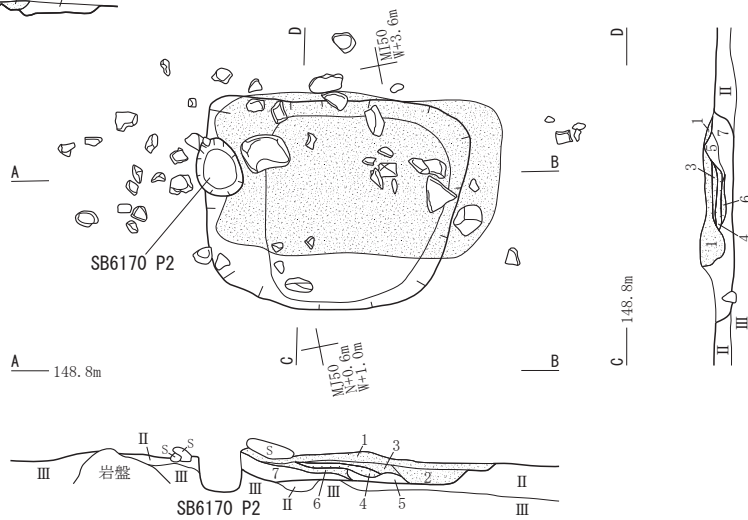
SN6123



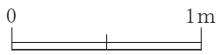
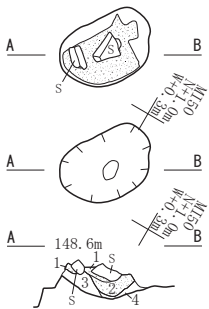
SN6163



SN6129



SN6168



遺構	層	土色	土性	しまり	粘性	母材	火山灰	炭化物	焼土	地山
SN6123	1	10YR2/3黒褐色	SiCL	4	2	II層土	極小粒 15%	小粒 10%	小塊 15%	中塊 5%
	2	7.5YR2/3暗褐色	SiCL	4	2	II層土	極小粒 10%	小粒 10%	中塊 5%	中塊 2%
	3	7.5YR3/3暗褐色	SiCL	4	2	II層土	極小粒 1%	中塊 20%	大塊 60%	
	4	10YR 2/1黒色	SiCL	4	2	II層土	極小粒 1%	塊 40%	小粒 10%	小塊 5%
	5	10YR3/3暗褐色	SiCL	4	2	II層土	極小粒 5%	極小粒 1%	極小粒 1%	小塊 20%
	6	10YR2/3黒褐色	SiCL	4	2	II層土	極小塊 2%	極小塊 5%	極小塊 1%	小粒 5%
	7	10YR2/3黒褐色	SiCL	4	2	II層土	極小粒 5%	極小粒 1%		小塊 5%
SN6129	I	10YR3/3暗褐色	SiCL	4	2	2層土	極小粒 12%	小粒 1%	中塊 10%	土 15%
	2	10YR 2/2黒褐色	SiCL	4	2	2層土	極小粒 15%	大塊 15%	大塊 30%	中塊 10%
	3	5YR4/8赤褐色	SiCL	4	2	地山		極小粒 2%	塊 90%	土 90%
	4	10YR 2/2黒褐色	SiCL	4	2	2層土	極小粒 5%	極小粒 1%	極小粒 1%	小塊 15%
	5	10YR 2/2黒褐色	SiCL	4	2	2層土	極小粒 10%	小塊 5%	極小粒 1%	小粒 5%
	6	10YR6/2灰黄褐色	SiCL	4	2	地山	極小粒 1%	極小粒 5%	小塊 10%	小塊 50%
	7	10YR 2/3黒褐色	SiCL	4	2	2層土	極小粒 20%	極小粒 1%		
	II	10YR2/1黒色	SiCL	4	2	2層土	極小粒 15%	小粒 2%		小塊 5%
	III	10YR2/1黒色	SiCL	4	2	2層土	極小粒 20%			中塊 5%
	SN6163	1	5YR6/8棕色	SiCL	5	1	II層土	極小粒 1%	中粒 10%	
2		5YR5/6明赤褐色	SiCL	4	2	IV層	極小粒 1%	中塊 15%		
3		7.5YR6/6明赤褐色	SiCL	4	2	II層土	極小粒 2%	大塊 20%		小塊 10%
4		10YR2/1黒色	SiCL	3	2	II層土	極小粒 1%	大塊 40%	中塊 10%	小塊 10%
SN6168	1	5YR5/8明赤褐色	SiCL	5	2	II層土	5%	中塊 10%	大塊 70%	小粒 5%
	2	7.5YR2/1黒色	SiCL	5	2	II層土	10%	中塊 10%	大塊 50%	小粒 10%
	3	7.5YR2/1黒色	SiCL	4	2	II層土	20%	極小粒 1%		
	4	10YR2/2黒褐色	SiCL	4	2	II層土	15%	小粒 2%		極小粒 5%

第83図 SN6123、SN6129、SN6163、SN6168焼土遺構

推定する。

SN6163焼土遺構(第83図、図版19)

焼土、掘形ともに平面形は楕円形で、掘形底面は岩盤が露出しやや凹凸がある。赤変硬化が著しい部分の焼土層の厚さは約10cmである。焼土層の下部西側寄りに炭化物層が堆積している。焼土層が燃焼部、西側が焚き口部と推定する。焼土中には火山灰を含むが、焼骨片は含まれていない。焼土を覆う埋土は焼土塊、炭化物粒、焼粘土塊が混じる。側壁や天井部の痕跡はないが、焼粘土塊が散乱することから、粘土で側壁と天井部を構築したカマド状遺構であったと推測する。周辺に竪穴住居跡の痕跡がないことから、中世の屋外カマド状遺構と推定する。

SN6168焼土遺構(第83図)

Ⅱ層(黒褐色土)中に形成された小規模な焼土遺構である。掘形は楕円形で底面は丸みを帯びる。赤変硬化している焼土の範囲は平面形が楕円形で、中心部の厚さは約12cmである。検出層位から中世の地床炉と推定する。

5 柱穴様ピット(付図2、第105図、図版19)

掘立柱建物を構成する柱穴と推測するが掘立柱建物跡のプランが判明しなかったものを柱穴様ピットとして掲載する。山側調査区では合計391基である。個別の属性は第7表に掲載した。

山側調査区の北部では岩盤が露出する比較的標高の高い区域に柱穴様ピットも含めた遺構が密集する。南部では、低地になる南端を除き全体に遺構が分布し、柱穴様ピットも同様である。これら北部と南部では水田造成等により削平が地山面まで達し、遺構の上半は失われている。掘立柱建物跡の柱穴が本来あるはずと想定した地点が削平により岩盤が露出していたり、柱穴底面のレベルより深い削平により検出できない地点があつて、明確な方形プランが認定できなかったものも多数ある。それらは柱穴様ピットとして単独遺構扱いとしたが、今後検討を重ねることにより組み合わせとなる柱穴を抽出することができる可能性がある。

山側調査区中央付近には埋没谷があり、Ⅱ層、Ⅲ層が厚く堆積する小低地となっている。この区域では井戸跡、土坑、焼土遺構の分布は比較的希薄である。柱穴様ピットは密集する範囲の南端付近に当たり、Ⅱ層下位で大湯布石層を切る柱穴様ピットを多数検出した。断面土層(付図1 基本層序山側F-G)から、多くの柱穴様ピットがⅡ層中から掘り込まれていると推測する。Ⅱ層中出土珠洲系陶器、銭貨、和鏡からⅡ層の年代は概ね15世紀を中心とする年代と考える。

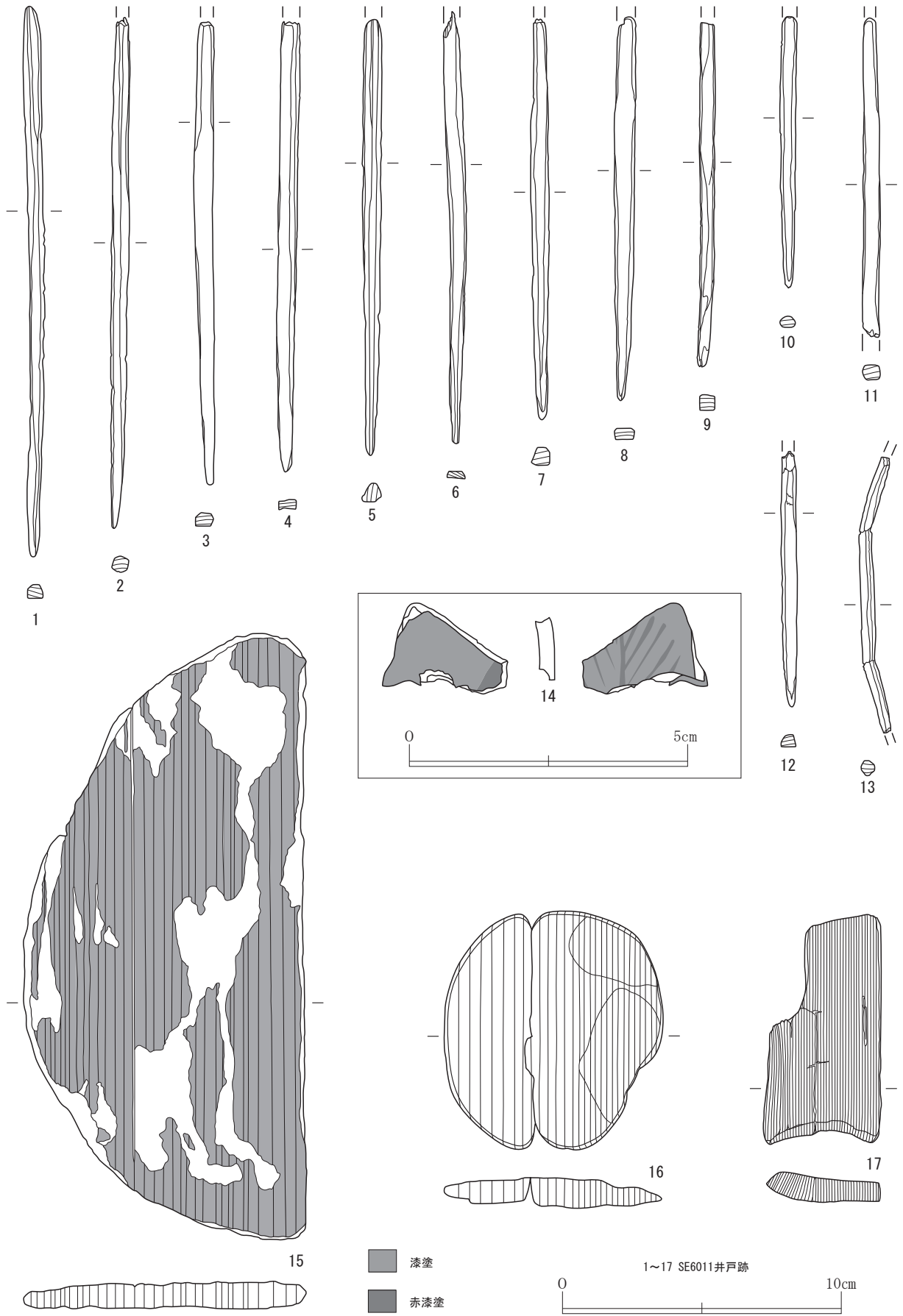
柱穴様ピットの中には柱根や礎板が腐朽せずに残っているものがあつた。特に山側調査区中央付近でⅡ層から掘り込まれ、底面がⅢ層中からⅤ層(地山)上面付近となる柱穴様ピットで木材が遺存しているものがあつた。

SKP6737・6738・6739・6740・6741柱穴様ピットは柱根が残存している。SKP6737柱穴様ピットは長さ64cmのみかん割り材で断面三角形の角柱が出土した。SKP6738柱穴様ピットは心去りみかん割り材の角柱を立て、柱穴掘形の裏込め土に木材片を2個突き刺して根固めをしている。SKP6676柱穴様ピットは四方桁の角柱、SKP6739・SKP6741柱穴様ピットは心去りみかん割り材の角柱、である。これらは概ね一辺5寸の寸法である。SKP6740柱穴様ピットは直径約4寸の丸木材の柱根が残存していた。

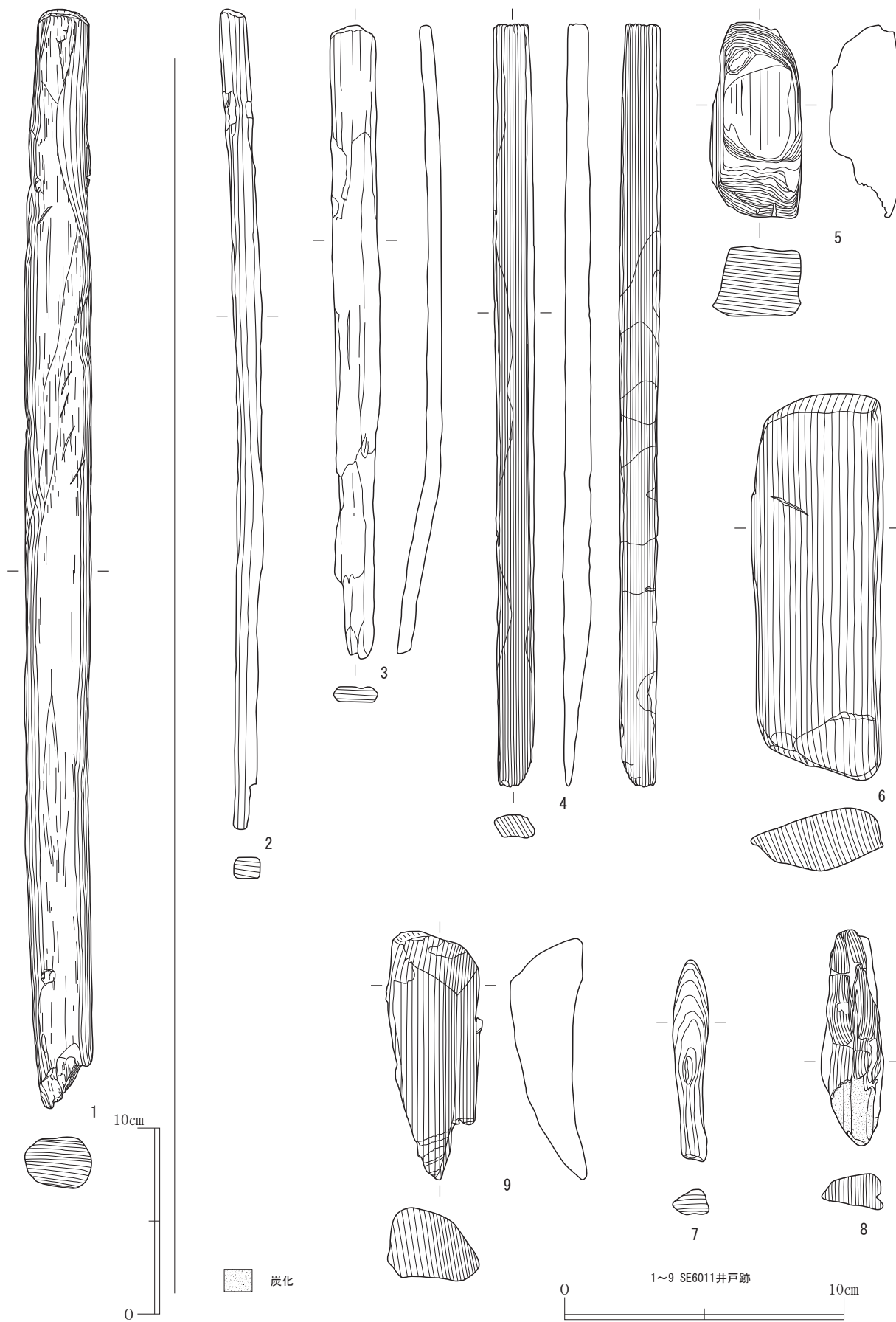
SKP6603・6609・6613・6677柱穴様ピットは厚板の礎板が残っている(第105図2～4)。

SKP6609・6613柱穴様ピットでは2枚重ねである。SKP6677柱穴様ピットは2枚の礎板の間に扁平な礫を挟み込み3枚重ねになっている。SKP6651・6657柱穴様ピットも礎板があるが、腐朽が進み小木片となっていた。

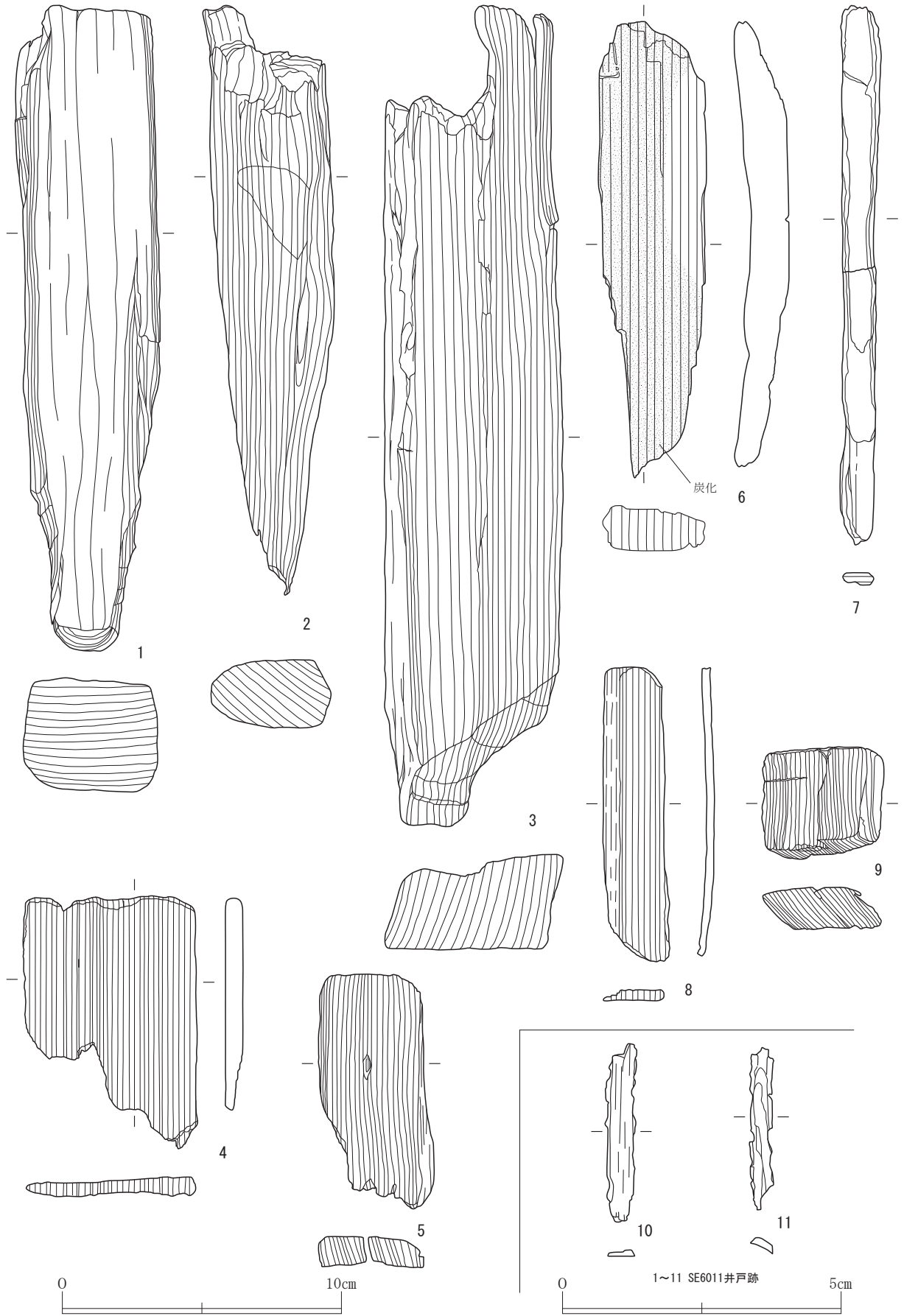
柱穴様ピットと他の遺構群との前後関係については、遺構を柱穴様ピットが切っていることが多い。逆に土坑や焼土遺構より古い柱穴様ピットも散見されることから、遺構群の変遷は、掘立柱建物跡群と土坑、焼土遺構が同時並存しつつ変遷していくと考える。



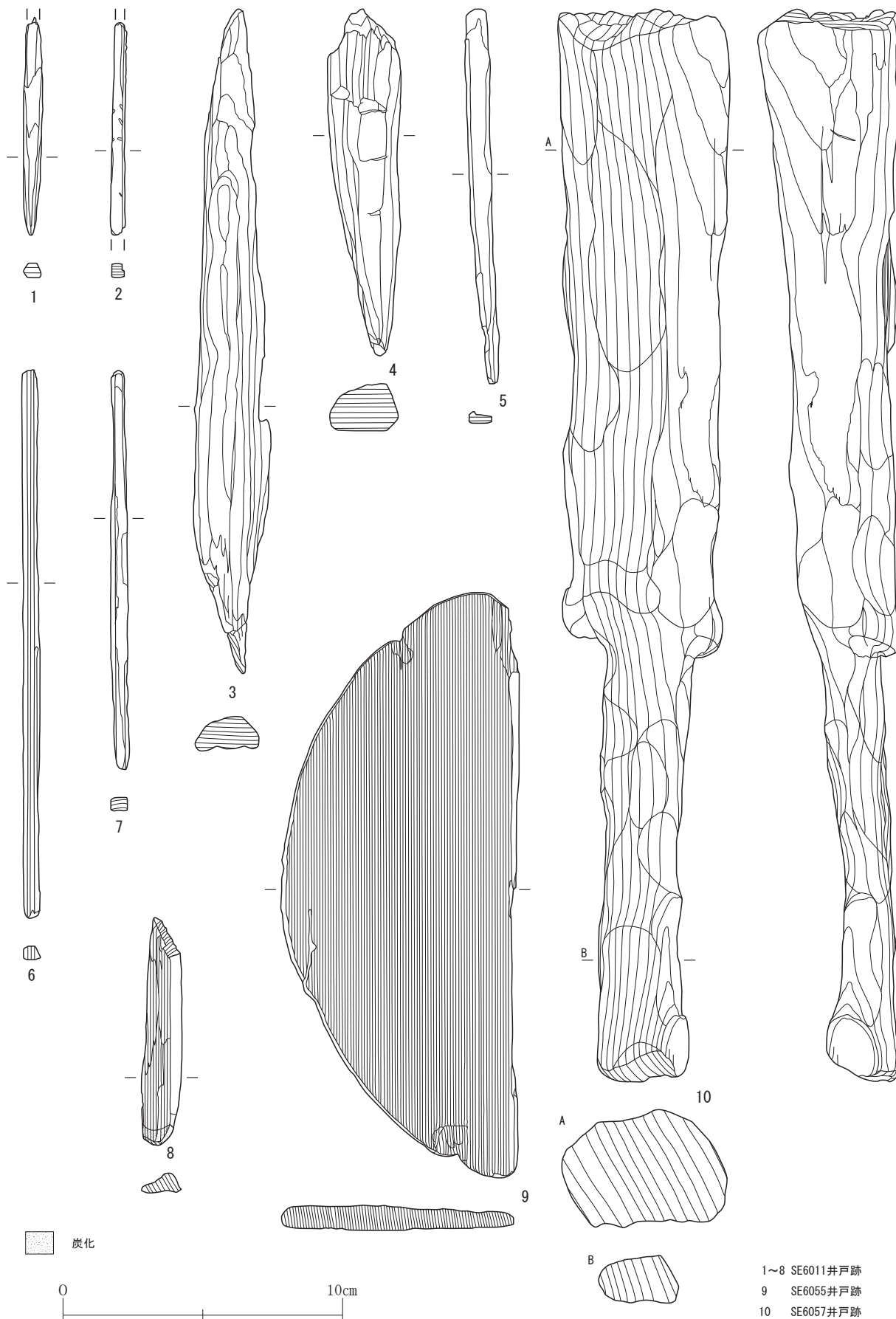
第84図 遺構内出土木製品(1)



第85図 遺構内出土木製品(2)

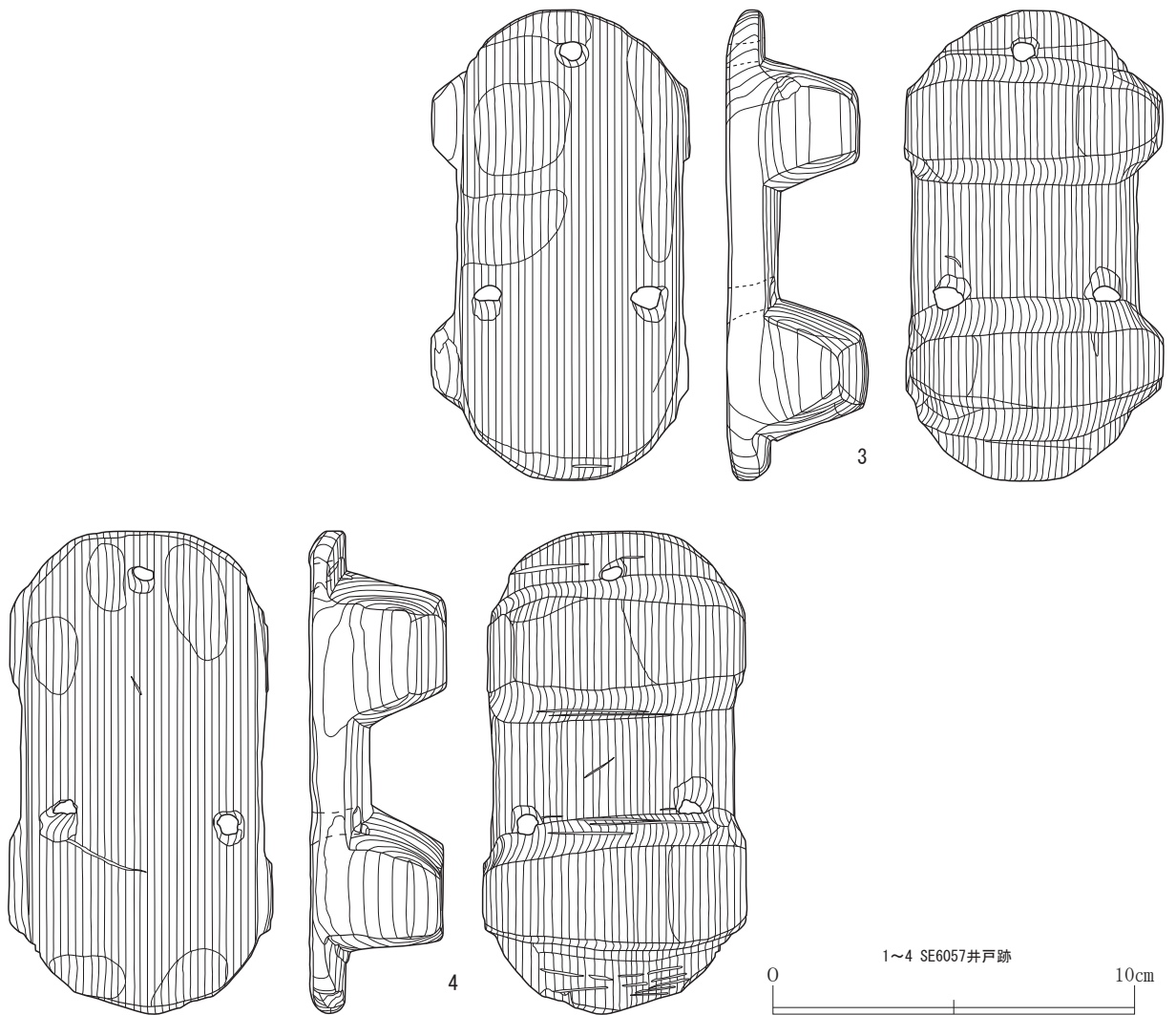
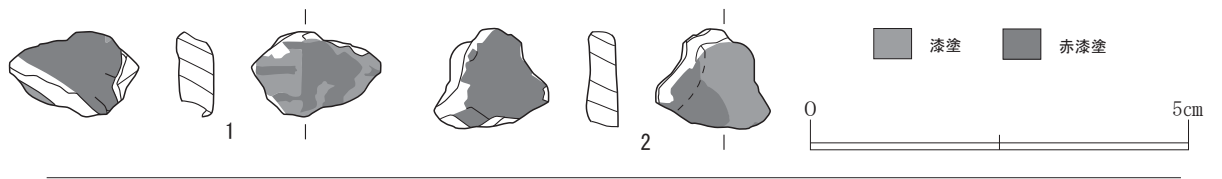


第86図 遺構内出土木製品(3)

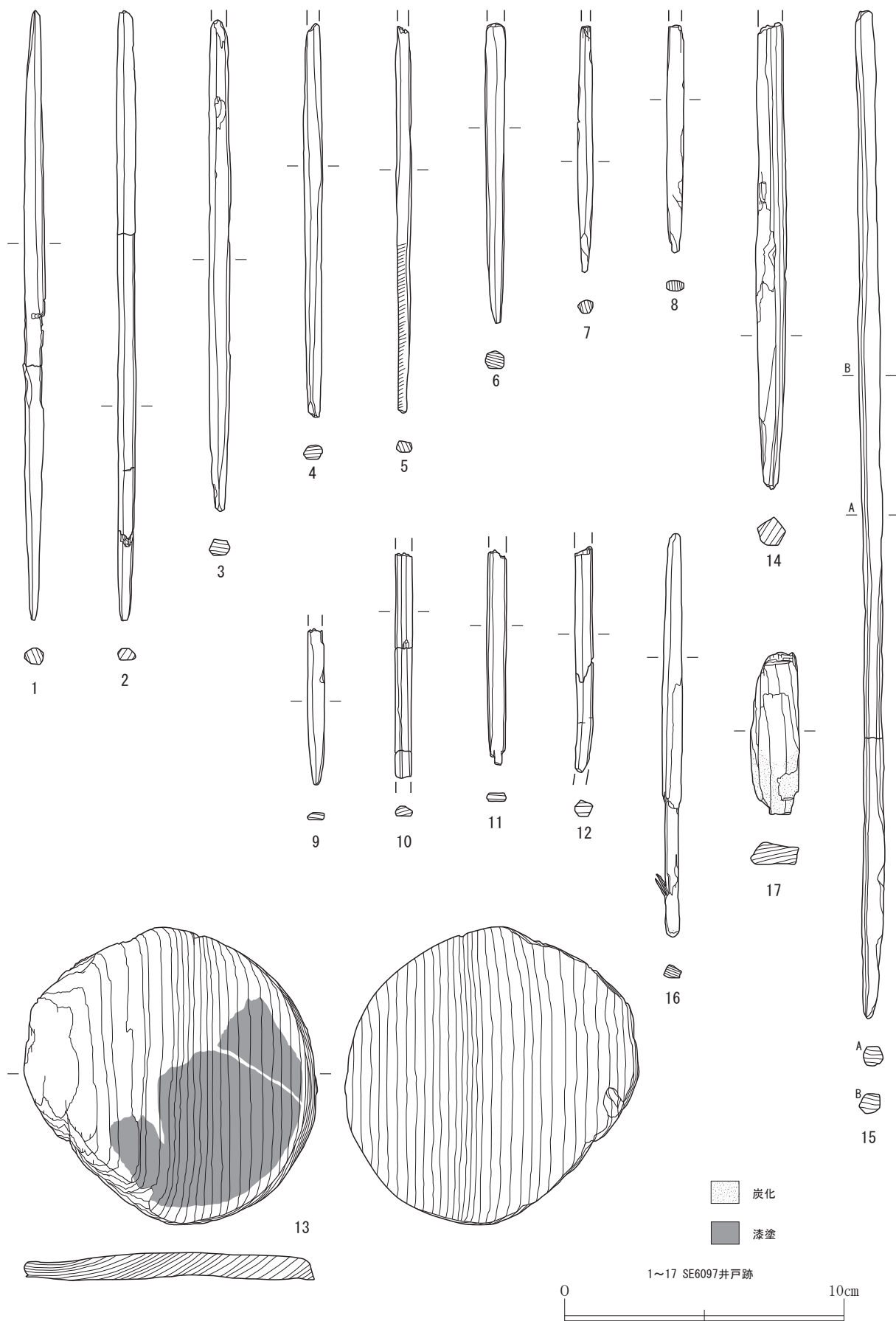


第87図 遺構内出土木製品(4)

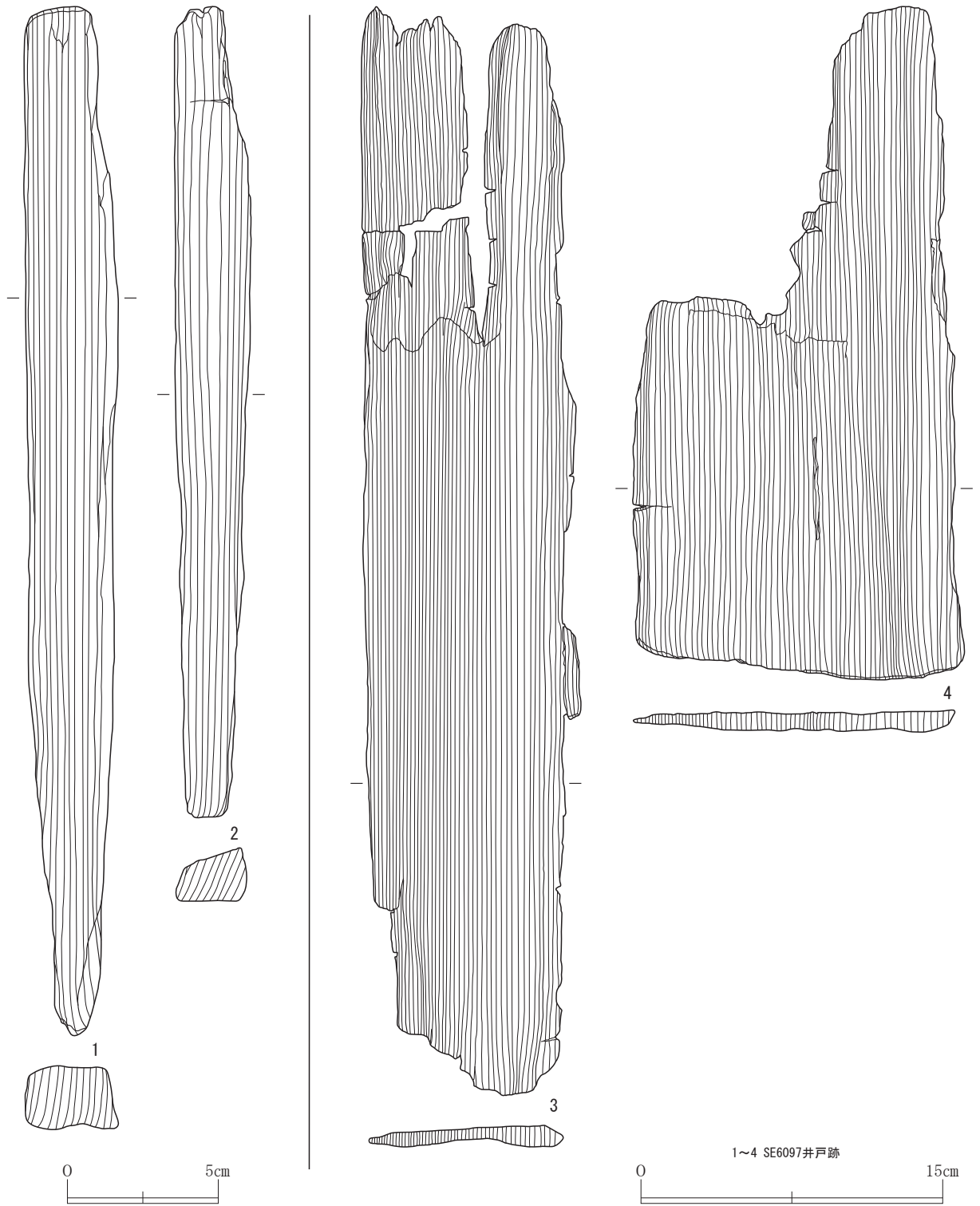
1~8 SE6011井戸跡
 9 SE6055井戸跡
 10 SE6057井戸跡



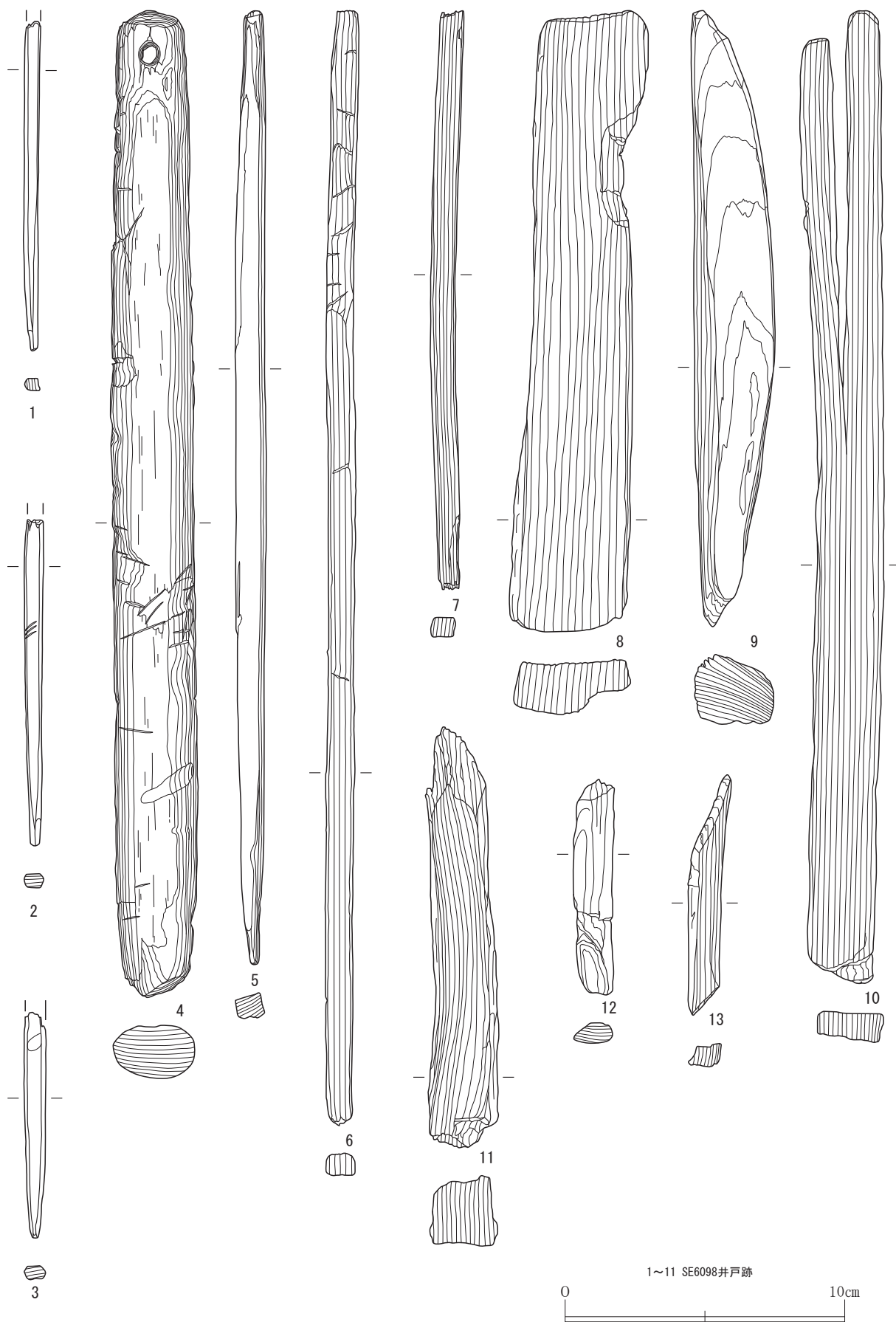
第88図 遺構内出土木製品(5)



第89図 遺構内出土木製品(6)



第90図 遺構内出土木製品(7)



第91図 遺構内出土木製品(8)

第4節 遺構外出土遺物

調査範囲のほとんどで地山土まで水田造成等の削平を受けており、遺物包含層が保存されていたのは、小又川沿いの川側調査区北端部低地と山側調査区中央付近の埋没谷上の小低地のみであった。それ以外の範囲では削平された地山土上を覆う造成土(盛土)中に遺物が包含されていた。本節では表土、盛土中から採集した遺物を中心に、適宜遺構内出土遺物も加えて記述する。縄文土器の分類は第1次・第2次調査報告書43・44頁の分類に拠るが、古代以降の土師器、珠洲系陶器等の陶磁器は別項とした。個々の遺物の属性は第8表～第12表に記載した。

1 土器

縄文土器の多くは、川側調査区北端部ST5101捨て場と平坦部の遺構群から出土した。遺構内遺物として掲載してものも含めて分類と特徴を記載する。

第I群土器：前期の円筒下層式土器

a類：円筒下層a式

第44図6～9(ST5101捨て場)

第44図7は同一原体の撚糸文を口縁部に横位、胴部に縦位に回転施文し口縁部文様帯を形成しているが、隆線や原体側面押圧痕による口縁部と胴部の境界がないことから本類に含める。

b類：円筒下層b式

第40図1(SK5001土坑)、第45図1～15、第46図1～9、第47図1～7・9、第49図4・5(ST5101捨て場)、第106図2(遺構外)

第106図2、第45図6～10は口縁部と胴部の境界に多段の連続爪形刺突文を巡らしている。この部位に1～3条の隆帯を貼り付け連続指頭押圧文を施す破片は出土しなかった。

c類：円筒下層c式

第42図5(SR5521土器埋設遺構)、第40図8(SK5013土坑)、第47図8・10～20、第48図1・15～18(ST5101捨て場)、第106図1(遺構外)

第106図1は口縁部文様帯に格子状、第40図8は横位平行に撚紐原体側面圧痕文を施文する。

d類：円筒下層d式

第40図9(SK5030土坑)、第40図7(SK5009土坑)、第49図6～8、第50図1～4(ST5101捨て場)

a類またはb類

第49図1～3(ST5101捨て場)

b類またはc類

第48図2～14(ST5101捨て場)

第II群土器：中期中葉から末葉の大木式、円筒上層式、北陸系の土器

a類：大木8b式(なし)

b類：大木9式

第35図2、第36図1、第37図1 (SI 5073 堅穴住居跡)、第36図2、第37図3・4、第38図1 (SI 5080 堅穴住居跡)、第38図2 (SI 5560 堅穴住居跡)、第39図2～4 (SI 5522 堅穴住居跡)、第39図5～7 (SI 5560 堅穴住居跡)、第42図10～12 (SK 5665 土坑)、第44図4 (SKP 7042 柱穴様ピット)、第50図5・6 (ST 5101 捨て場)

第36図2、第37図1は大木9式並行の中ノ平Ⅲ式(最花式)である。

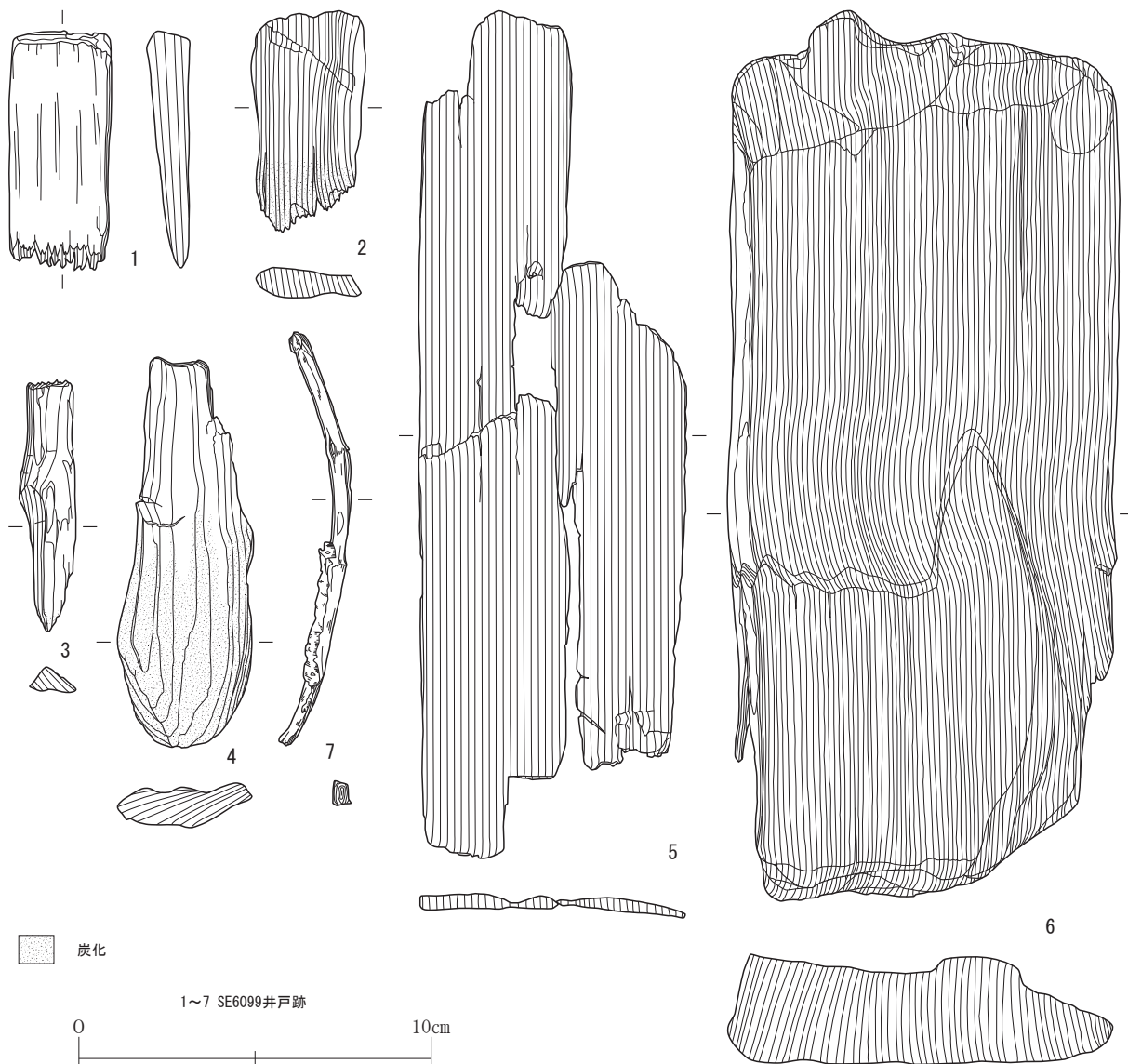
c類：大木10式並行

第37図5 (SI 5080 堅穴住居跡)、第39図8 (SI 5560 堅穴住居跡)、第40図2 (SK 5002 土坑)、第43図2 (SR 5507 土器埋設遺構)、第43図7 (SD 5503 溝跡)、

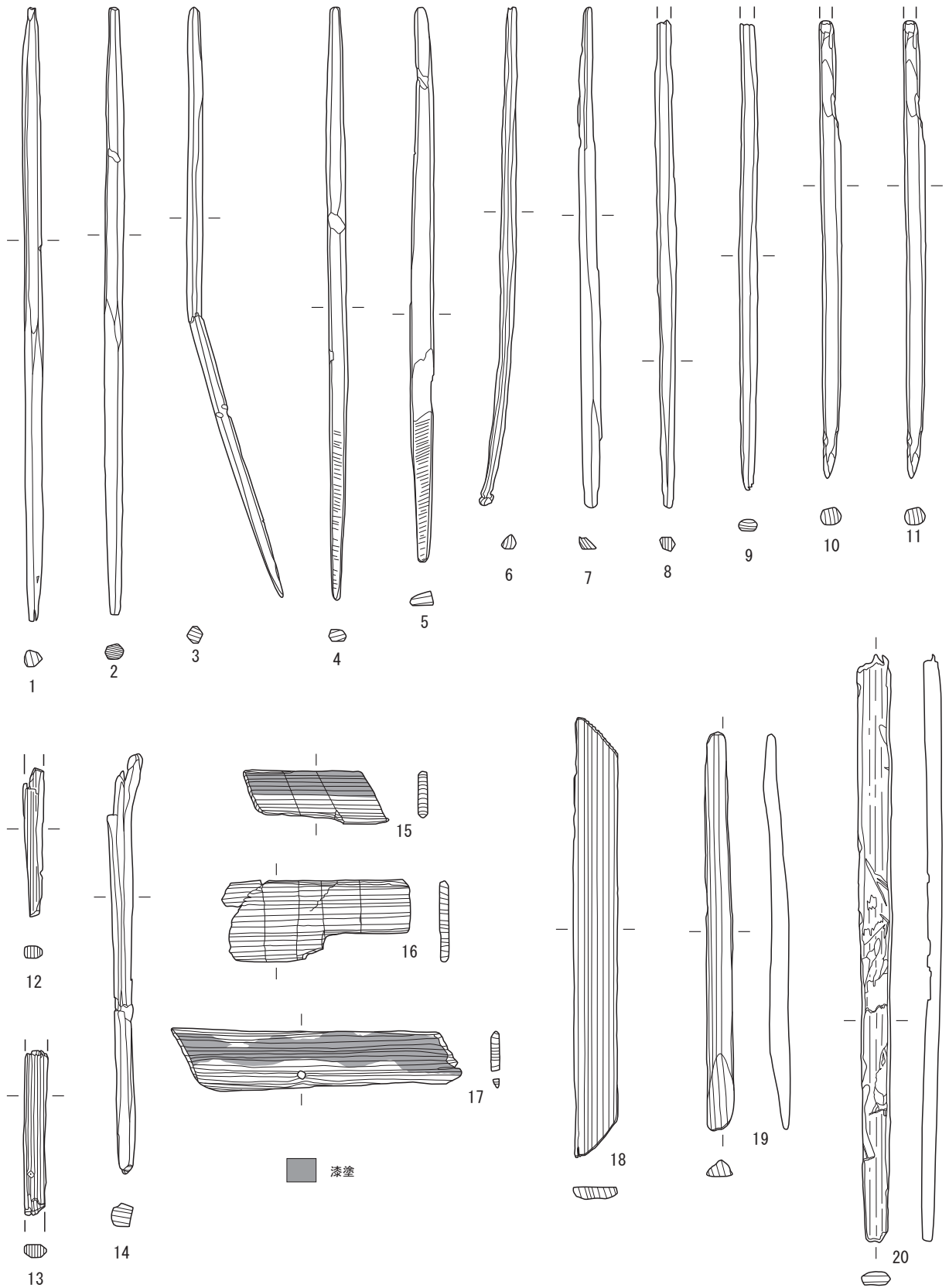
d類：円筒上層式

第44図1 (SKP 5651 柱穴様ピット)、第44図2 (SKP 7013 柱穴様ピット)、第44図3 (SKP 7064 柱穴様ピット)

(136頁に続く)

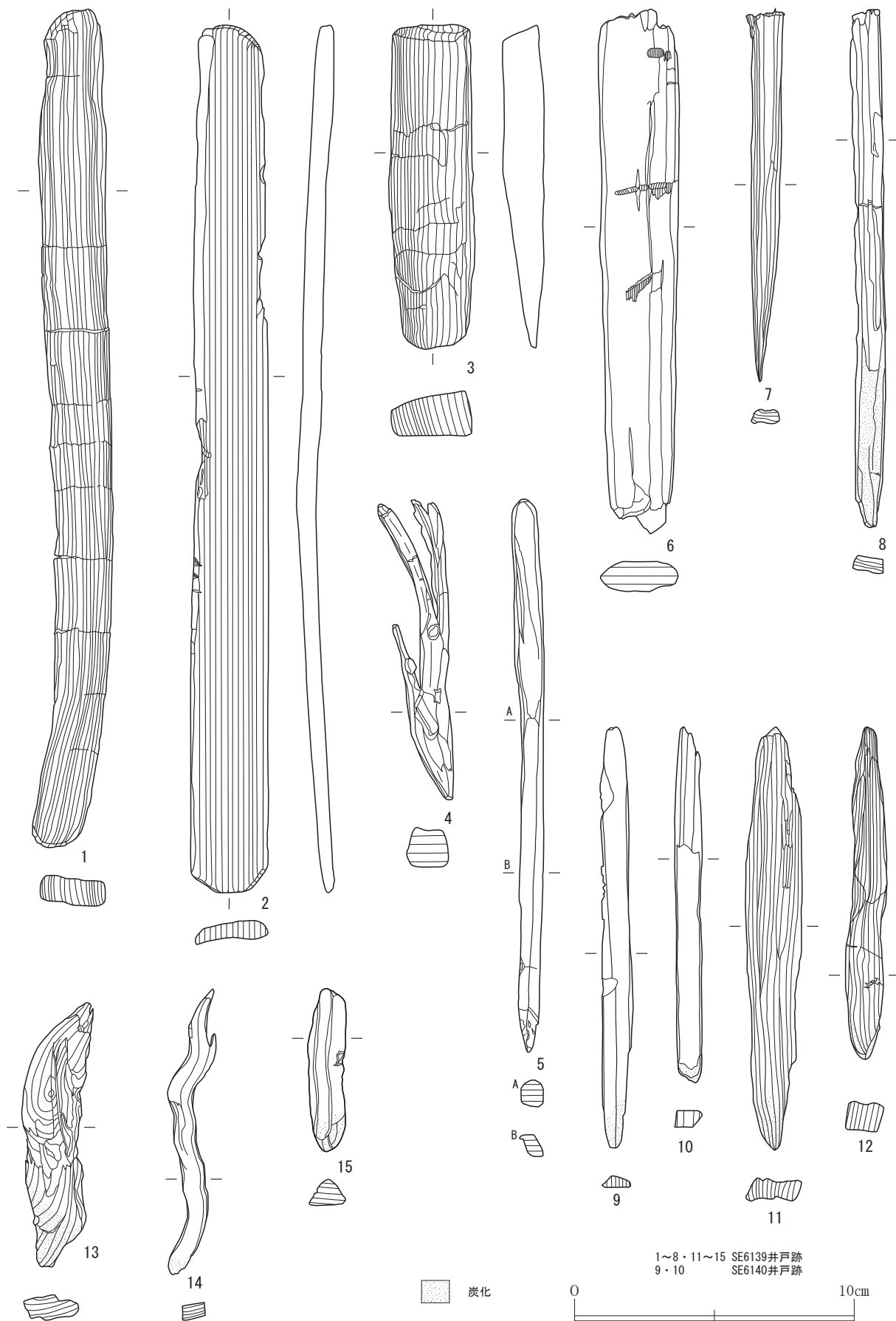


第92図 遺構内出土木製品(9)

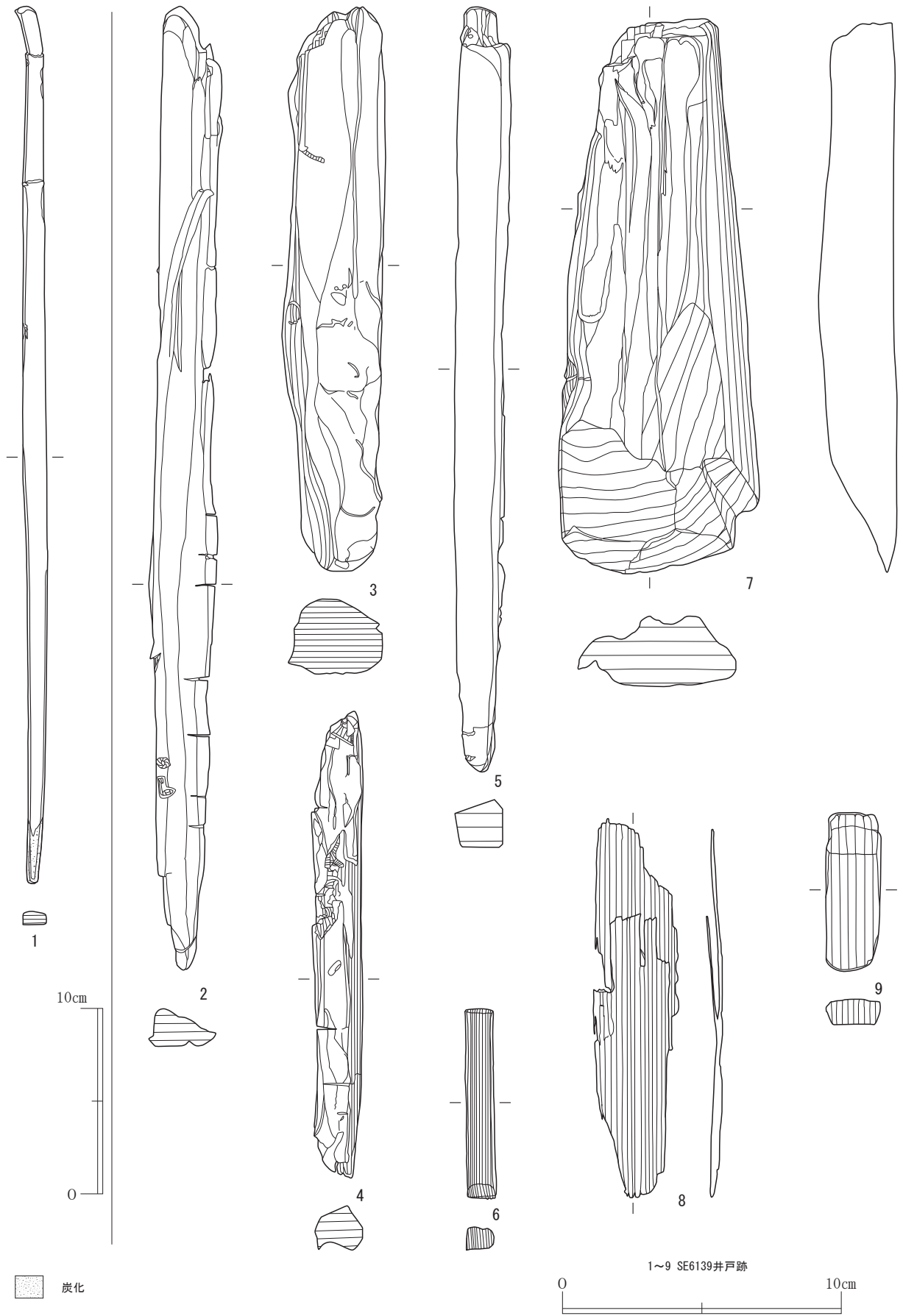


1~5・7・10・18 SE6140井戸跡
6・8・9・11~17・19・20 SE6139井戸跡

第93図 遺構内出土木製品(10)



第94図 遺構内出土木製品(11)



第95図 遺構内出土木製品(12)

e類：北陸系新保・新崎式

第42図6 (SK5537土坑)

第Ⅲ群土器：後期初頭から中葉の土器

a類：後期初頭の馬立式・沖附(2)式・蛭沢式に併行する土器

第40図6 (SK5007土坑)、第41図4 (SK5057土坑)、第41図8 (SK5059土坑)、第42図4 (SK5103土坑)、第43図1 (SR5506土器埋設遺構)、第43図3 (SN5511焼土遺構)、第43図4 (SN5526焼土遺構)、第43図5 (SN5563焼土遺構)、第43図9・10 (SD5503溝跡)

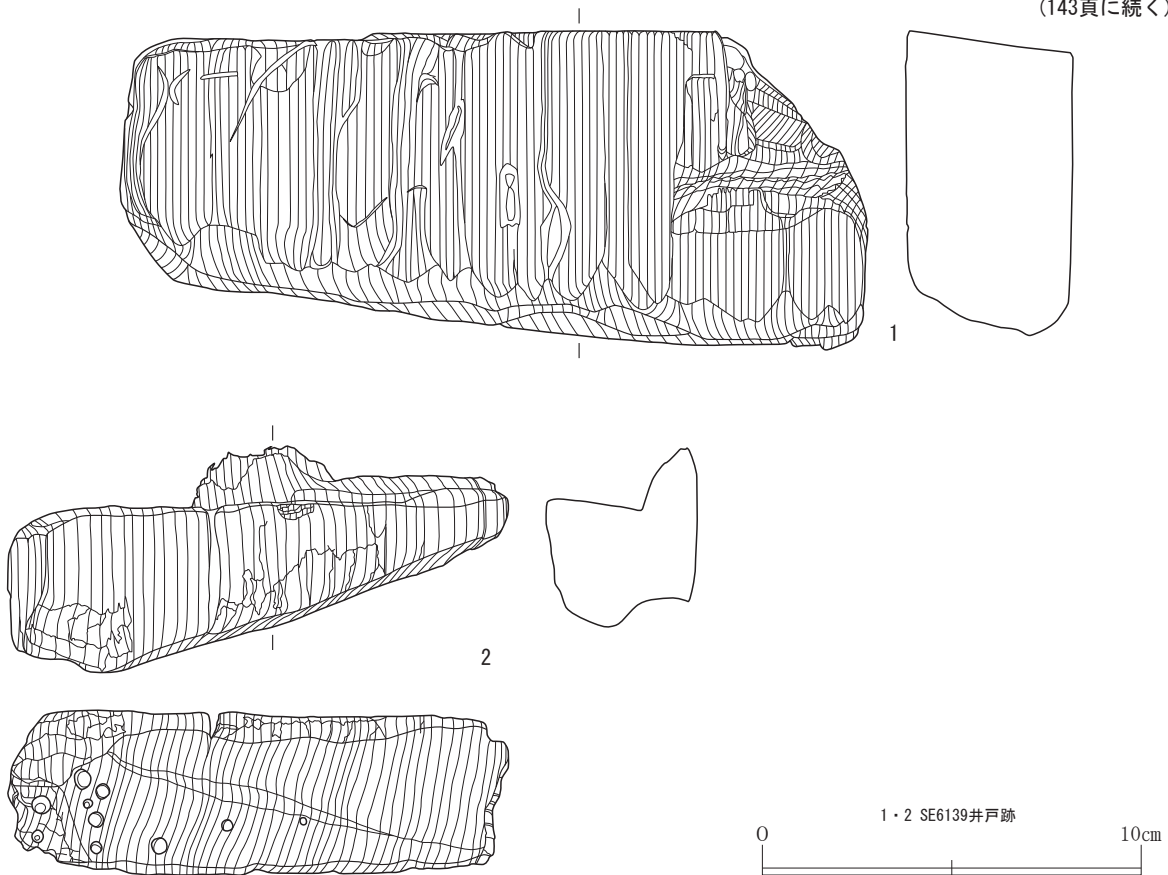
第43図1は縦位隆線上に縦長の連続刺突を加え、チェーン状の垂下隆線としている。爪で横に抉って粘土瘤を残した連続刺突文が施文されている。第43図9・10も同様の連続刺突文である。第43図10は縄文の上から連続刺突文を施文している。第43図3・第43図5は撚紐原体側面押圧痕が施文されている。これらは後期初頭の土器と推定し本類に含めた。

b類：十腰内I式

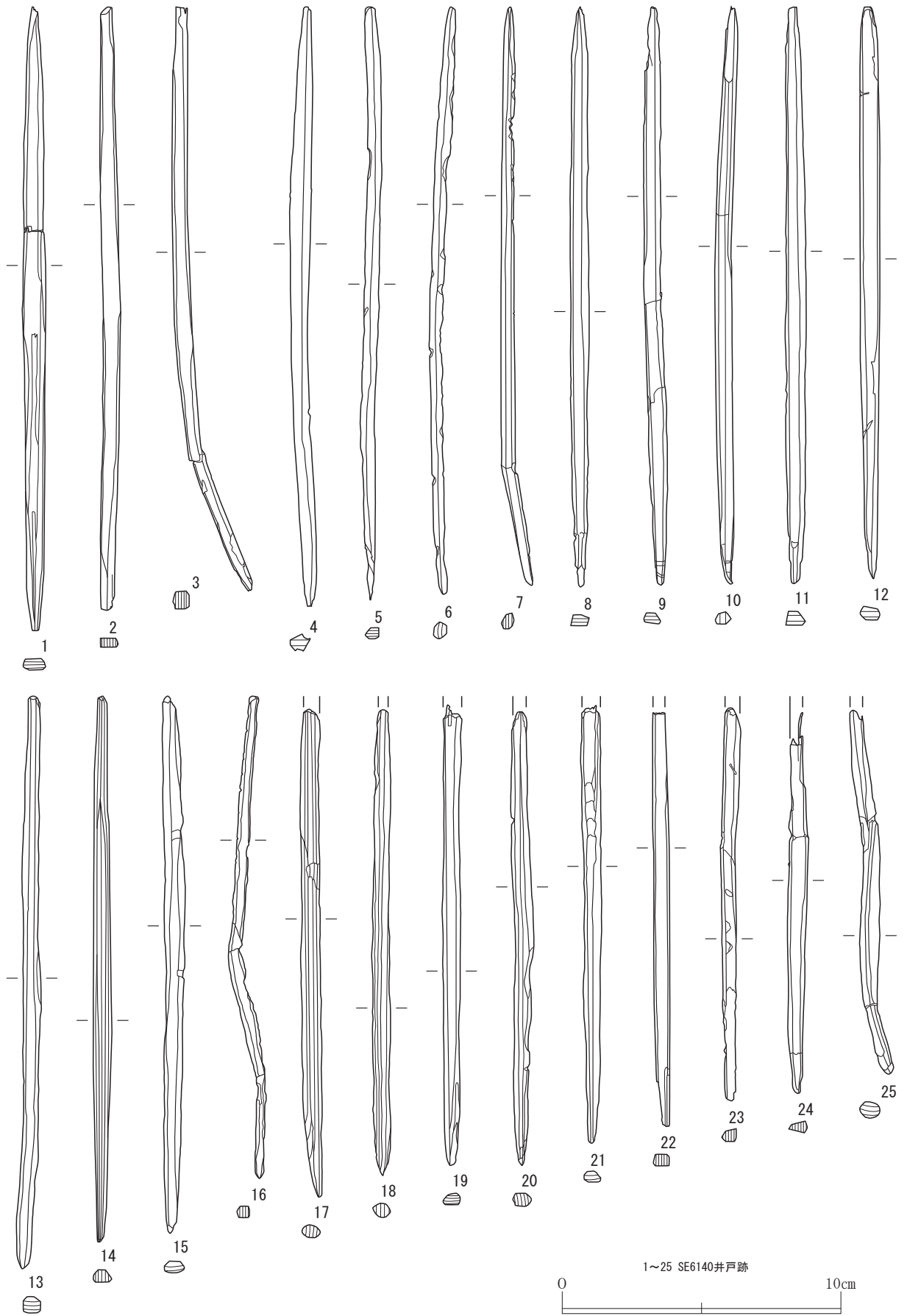
第34図1・2・5・7・9～15 (SI5060竪穴住居跡)、第35図1 (SI5060竪穴住居跡)、第39図1 (SI5083竪穴住居跡)、第39図9 (SI5560竪穴住居跡)、第40図3 (SK5006土坑)、第40図4・5 (SK5007土坑)、第40図10～14 (SK5040土坑)、第40図15・16 (SK5047土坑)、第40図17 (SK5053土坑)、第41図5～7 (SK5057土坑)、第41図9 (SK5071土坑)、第42図3 (SK5082土坑)、第43図11 (SD5503溝跡)、第50図7・8 (ST5101捨て場)

第34図14・15、第35図1、第39図1、第39図9、第40図3、第40図17、第41図5～7は縄文のみが

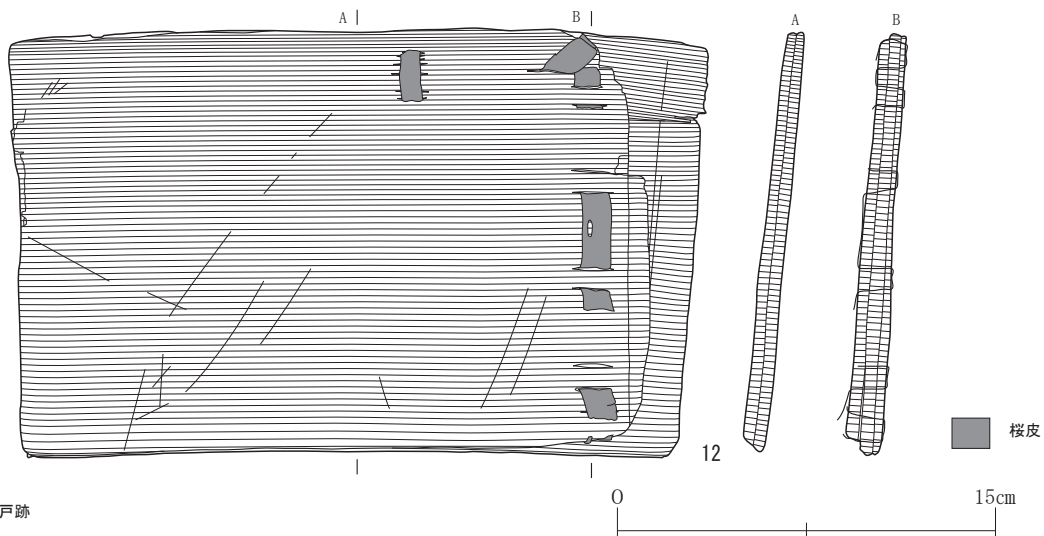
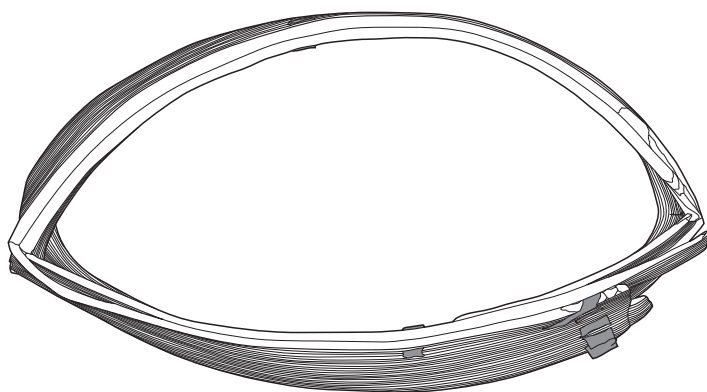
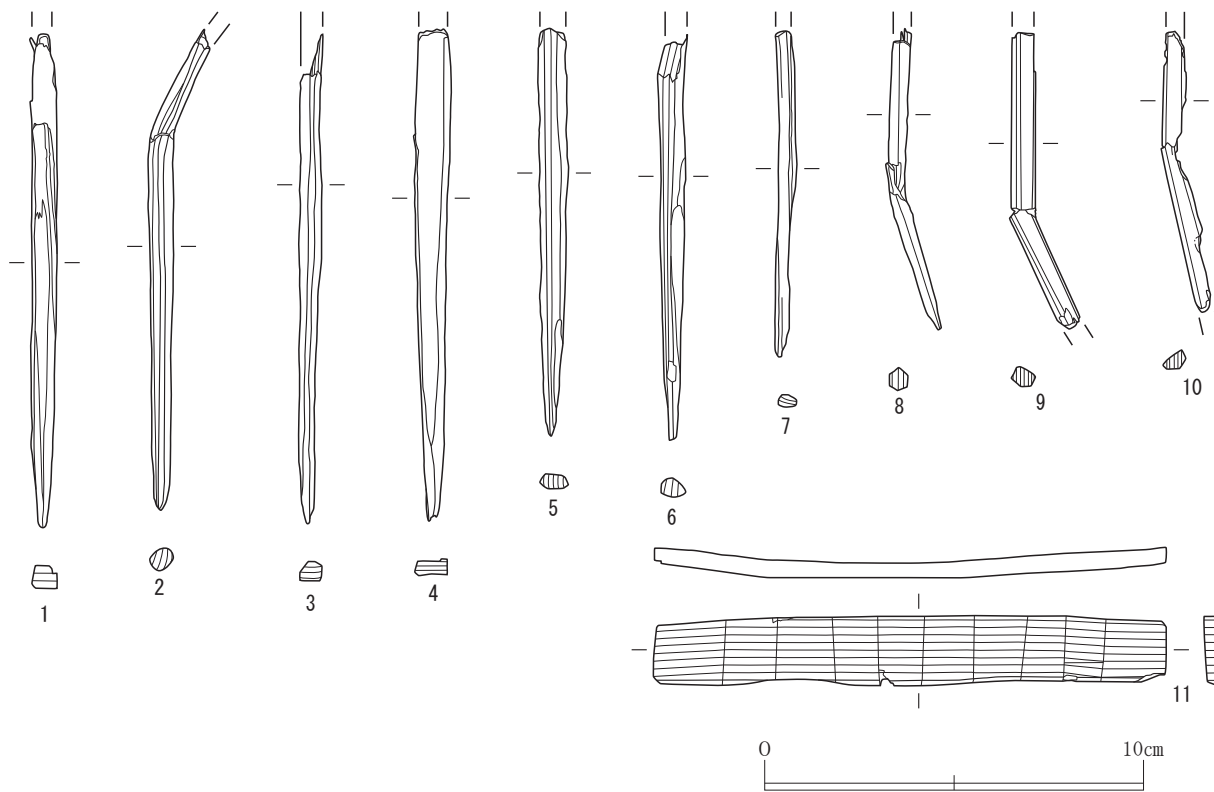
(143頁に続く)



第96図 遺構内出土木製品(13)

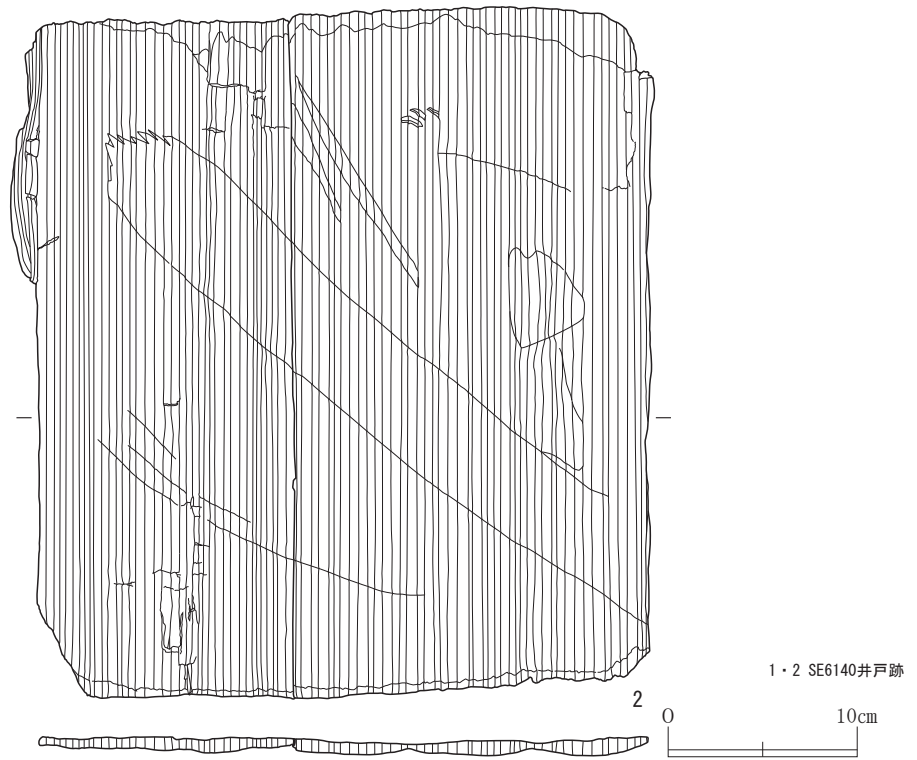
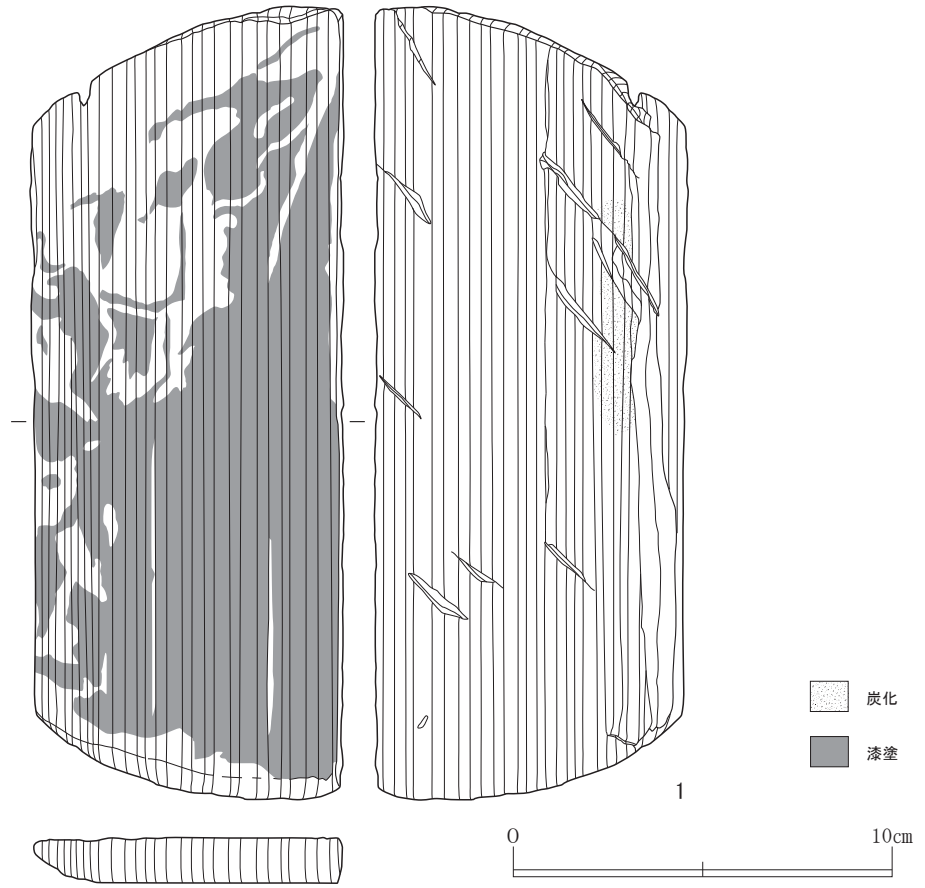


第97図 遺構内出土木製品(14)



1~12 SE6140井戸跡

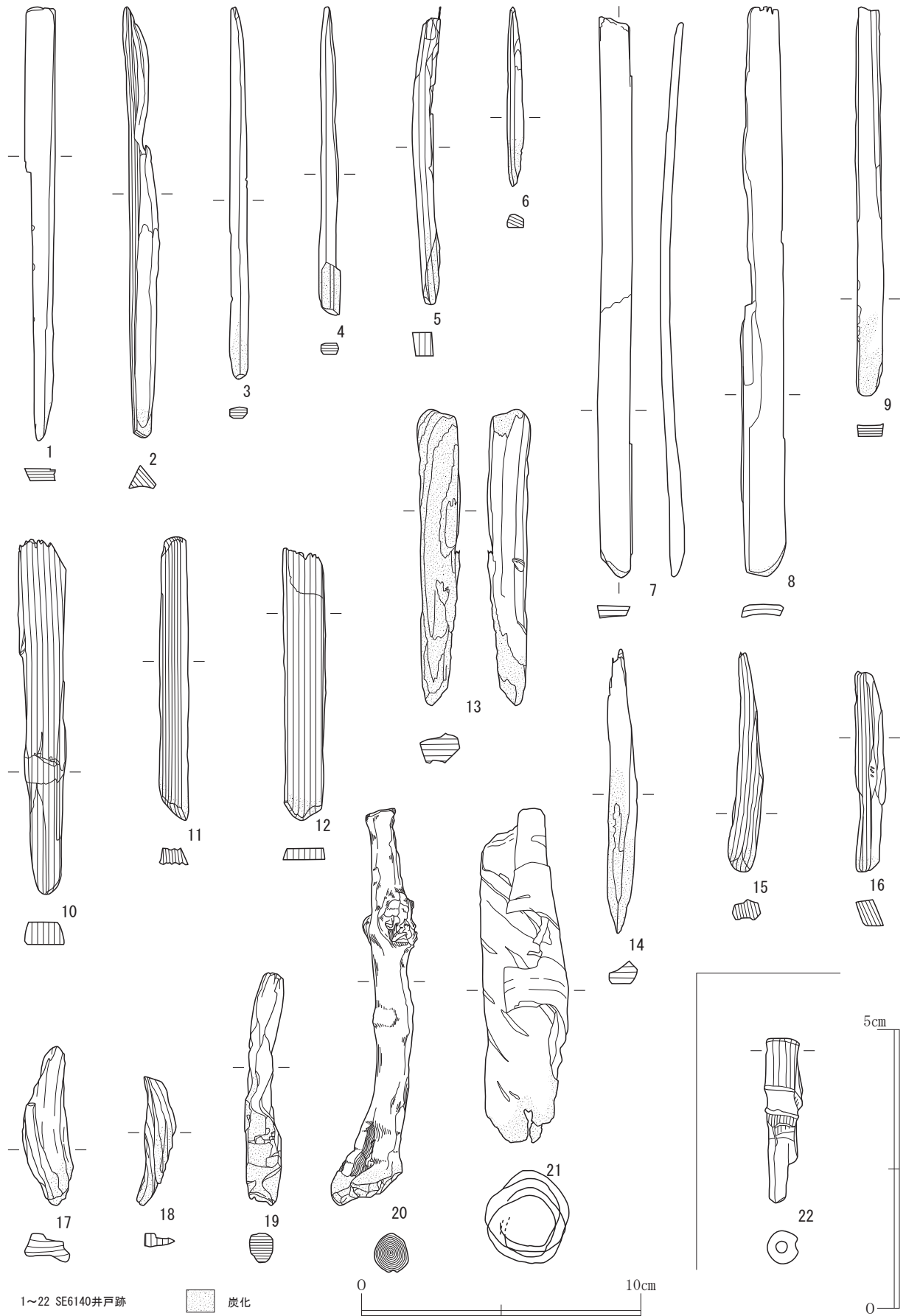
第98図 遺構内出土木製品(15)



第99図 遺構内出土木製品(16)



第100図 遺構内出土木製品(17)



第101図 遺構内出土木製品(18)



第102図 遺構内出土木製品(19)

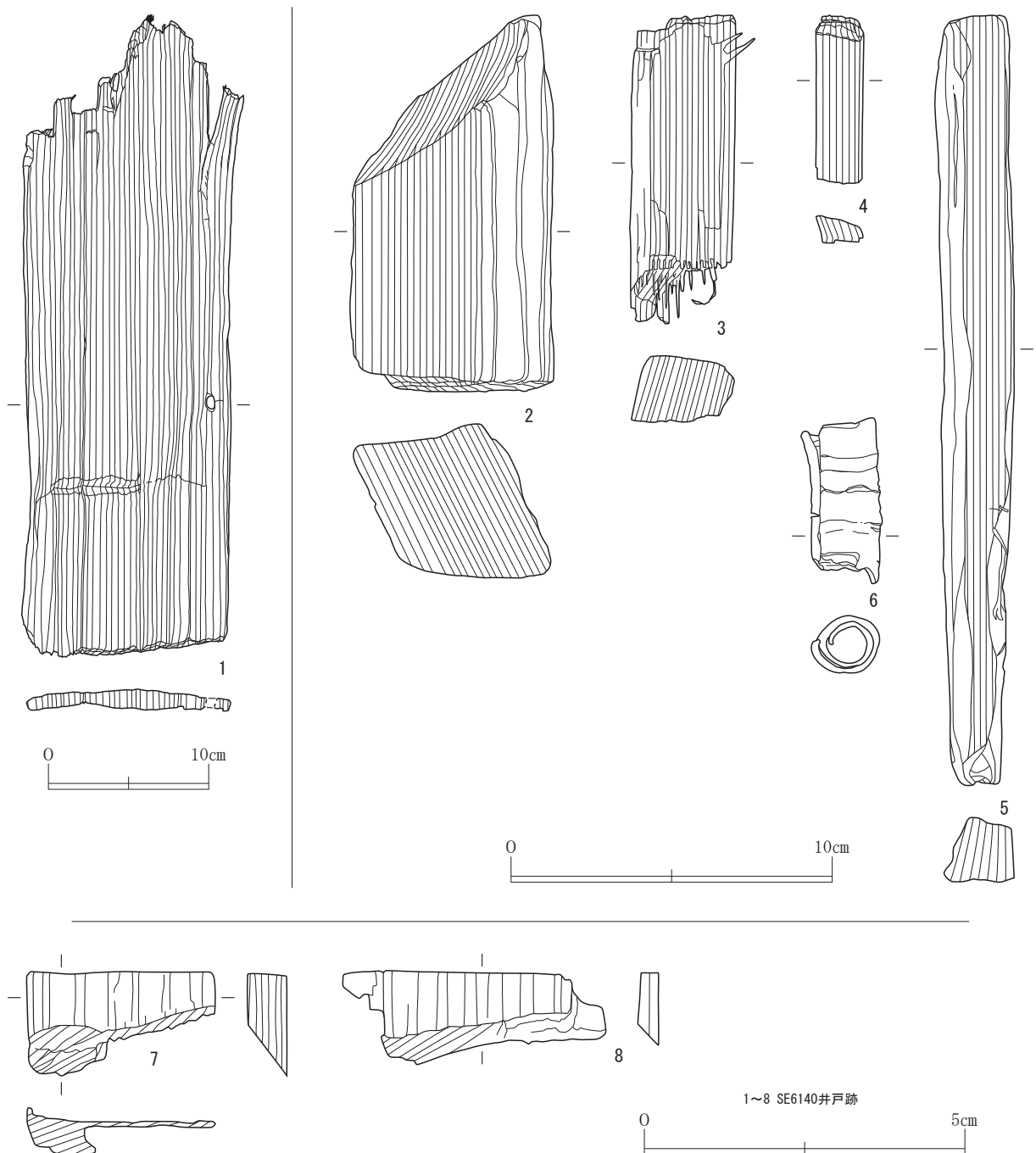
施文された土器で、第35図1、第39図1、第39図9は口唇に縄文が施文されている。第34図5・9～12、第40図5、第40図15、第41図10は無文の土器である。

c類：十腰内Ⅱ式

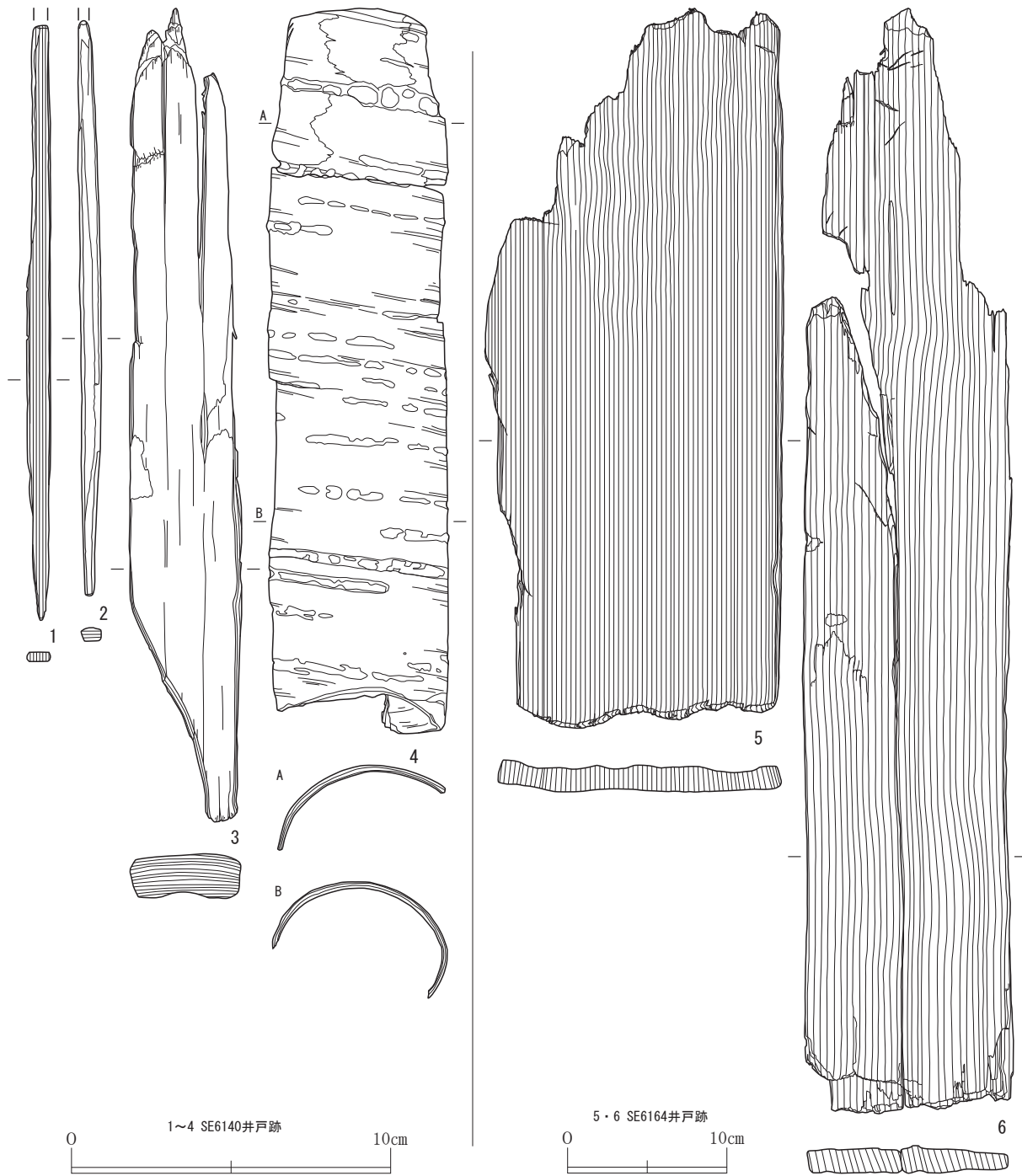
第34図3・4・6・8 (SI5060竪穴住居跡)、第41図1 (SK5056土坑)、第41図2・3 (SK5057土坑)、第41図11 (SK5071土坑)、第41図12・13 (SK5072土坑)、第42図1・2 (SK5076土坑) 第50図9～12 (ST5101捨て場)

第41図1は無文の口縁部が内傾する鉢形土器で、胴部文様は横位並行沈線間を縦位弧状短沈線で連結する。

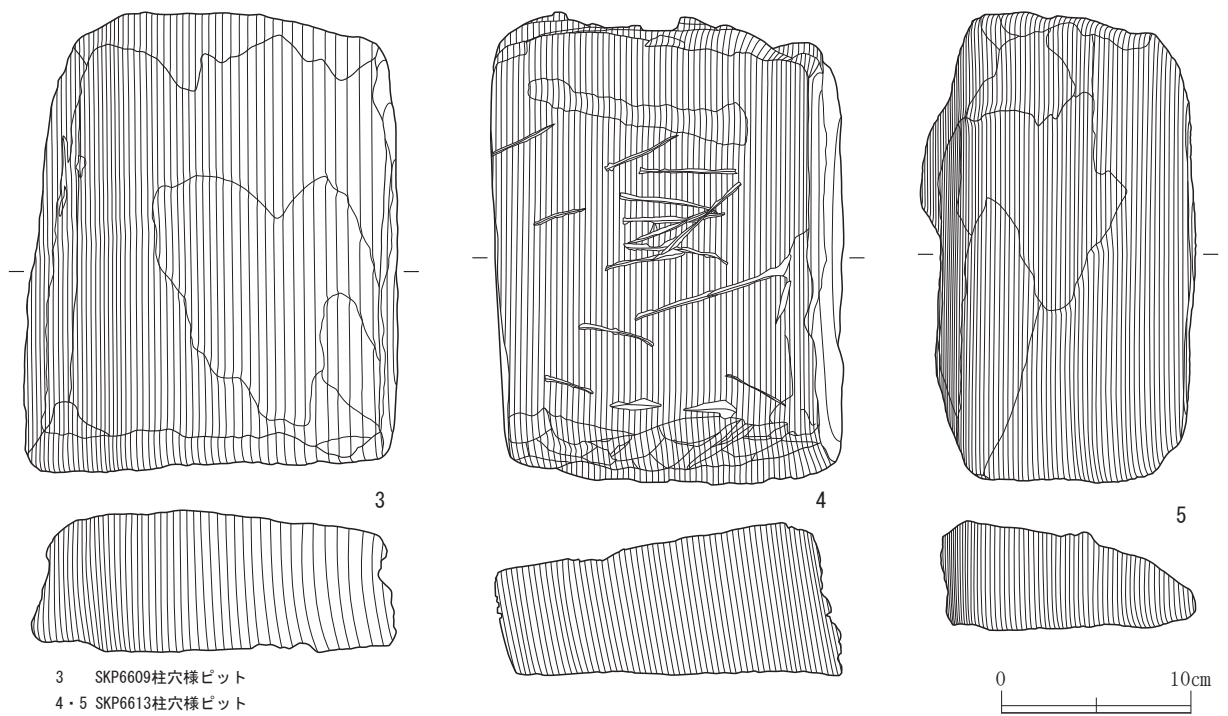
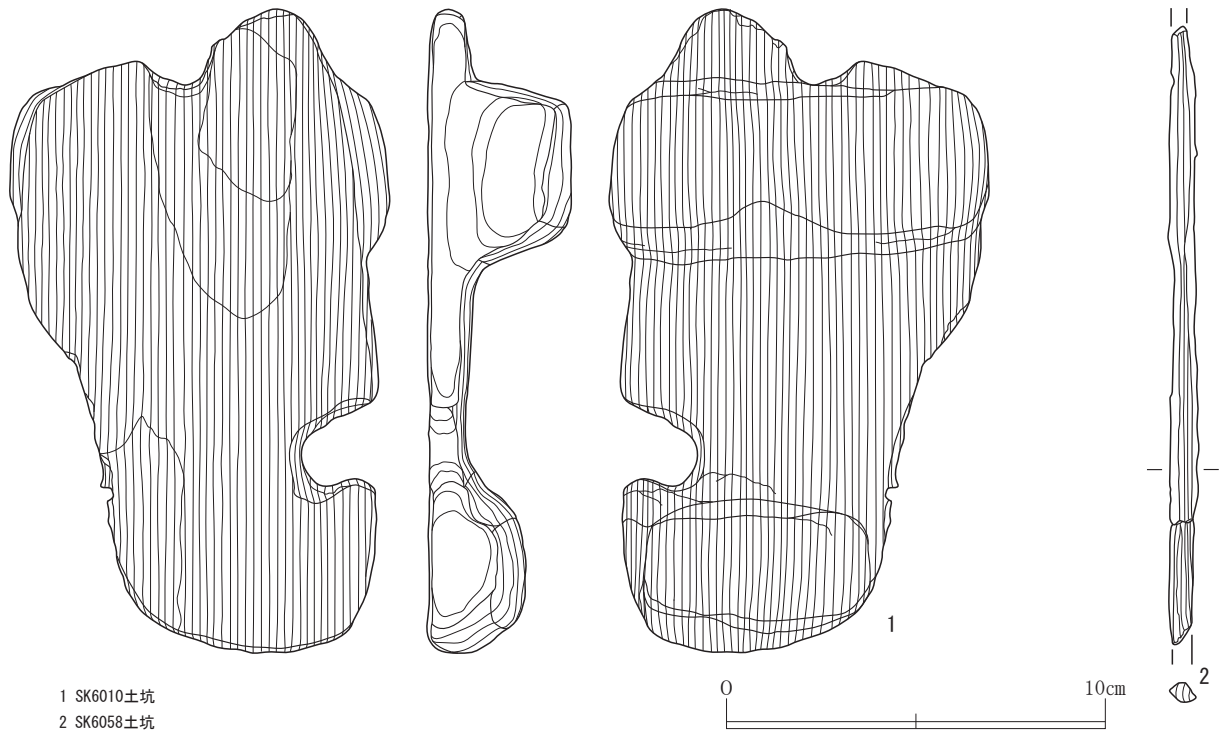
(146頁に続く)



第103図 遺構内出土木製品(20)



第104図 遺構内出土木製品(21)



第105図 遺構内出土木製品(22)

第IV群土器

a類：大洞BC～C1式(なし)

b類：大洞A'式以降

第42図7～9(SK5537土坑)、第43図6(SD5501)、第43図11(SD5503溝跡)、第44図5(SN6129)
第42図8・第43図11は表裏両面にハケ目痕があり、外面はその上から縄文が施文されている。

2 石器・石製品

石器類の出土点数は遺構内750点、遺構外4,600点の計5,350点である。器種別出土点数を第13表に掲載した。

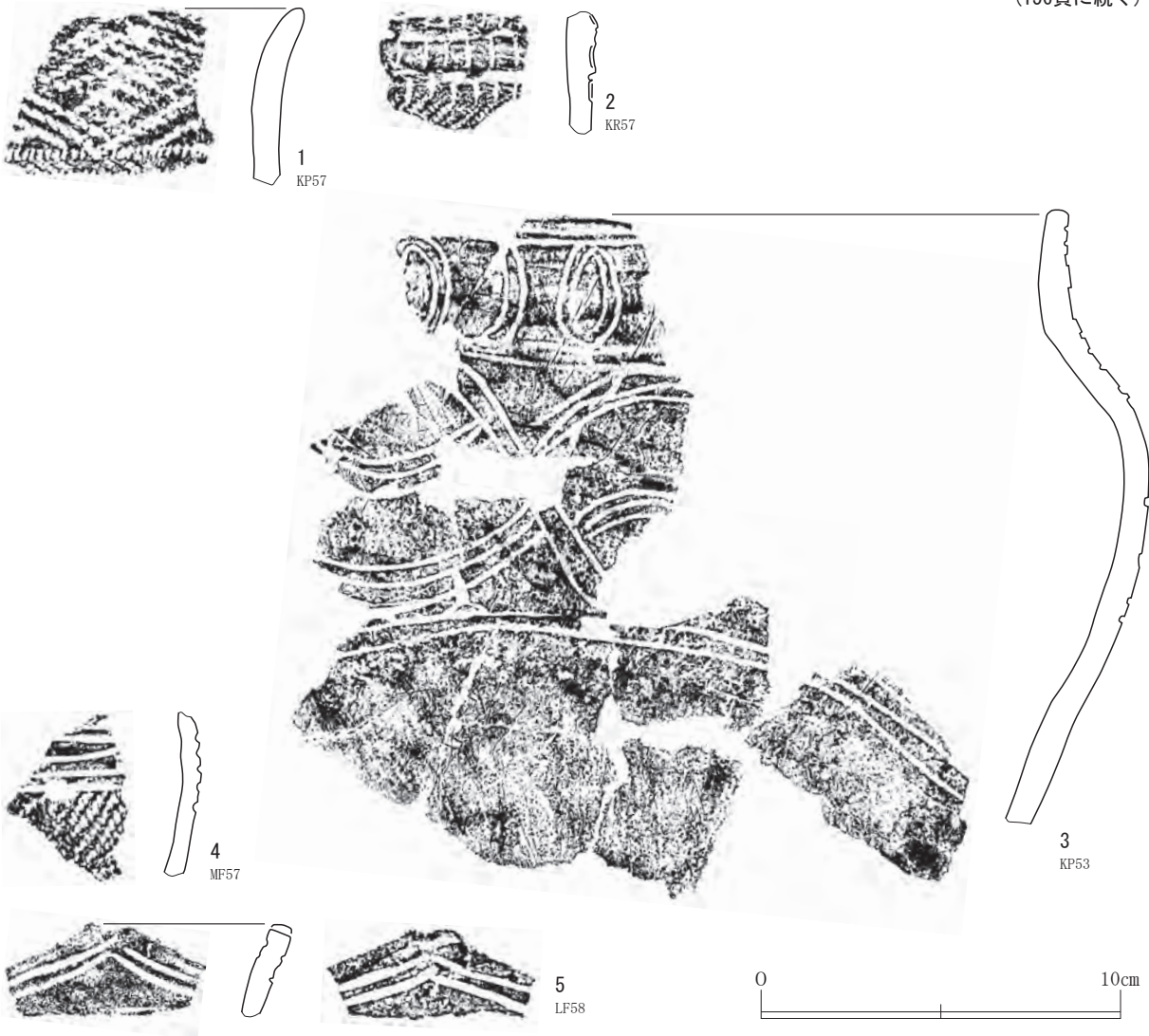
石鏃(第107図1～11)

第107図1～4は凸基有茎、5・6は平基有茎、7は凹基有茎、8は凸基無茎、9～11は凹基無茎である。2・4・7には矢柄を接着するアスファルト痕がある。2は石鏃を表裏両面からはさみ、4・7は端部に茎を差し込んでいることがわかる。

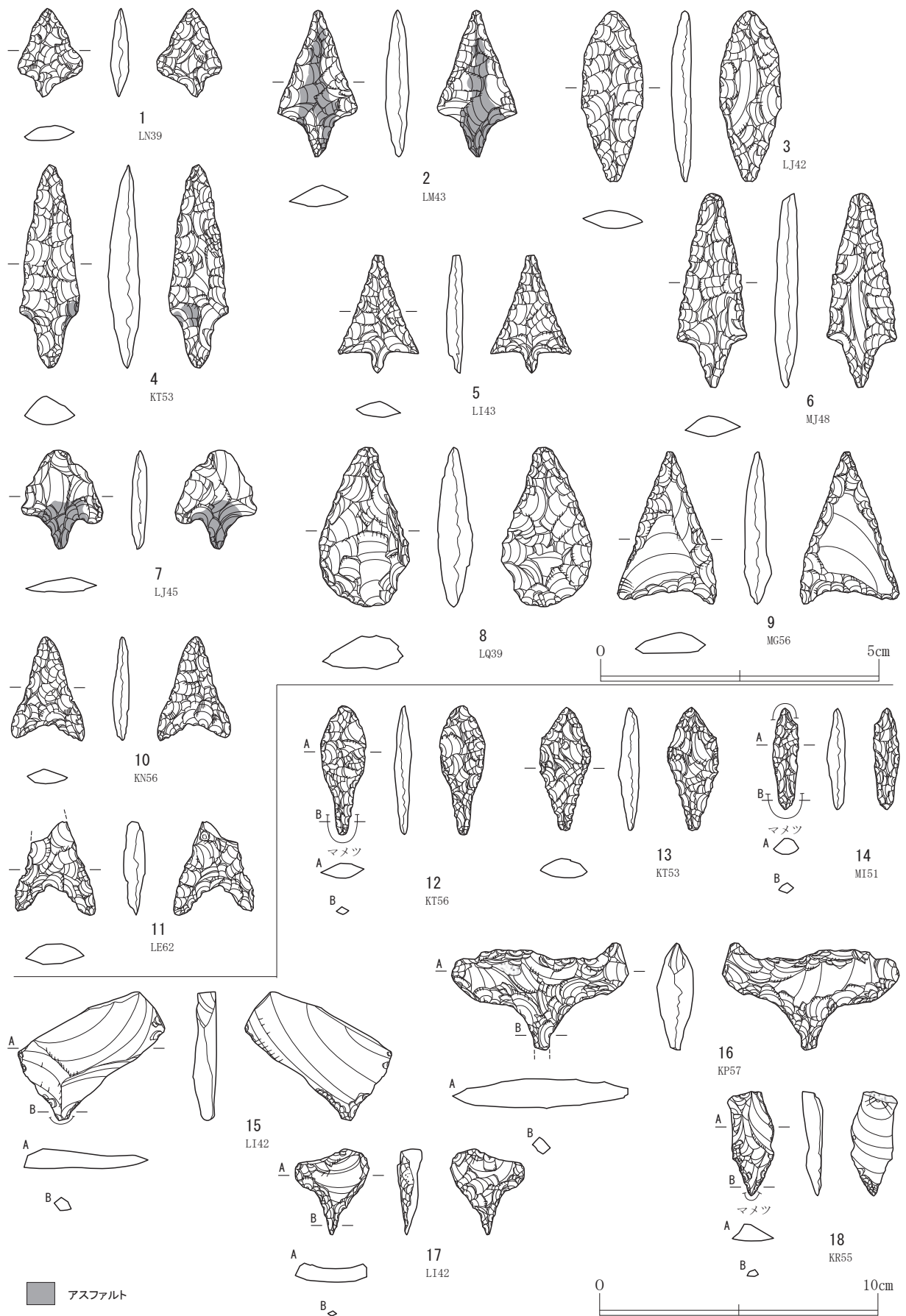
石錐(第107図12～18)

第107図12・14・15・18は先端が磨滅し剥離痕の稜線がとれて滑らかになっている。

(156頁に続く)



第106図 遺構外出土土器



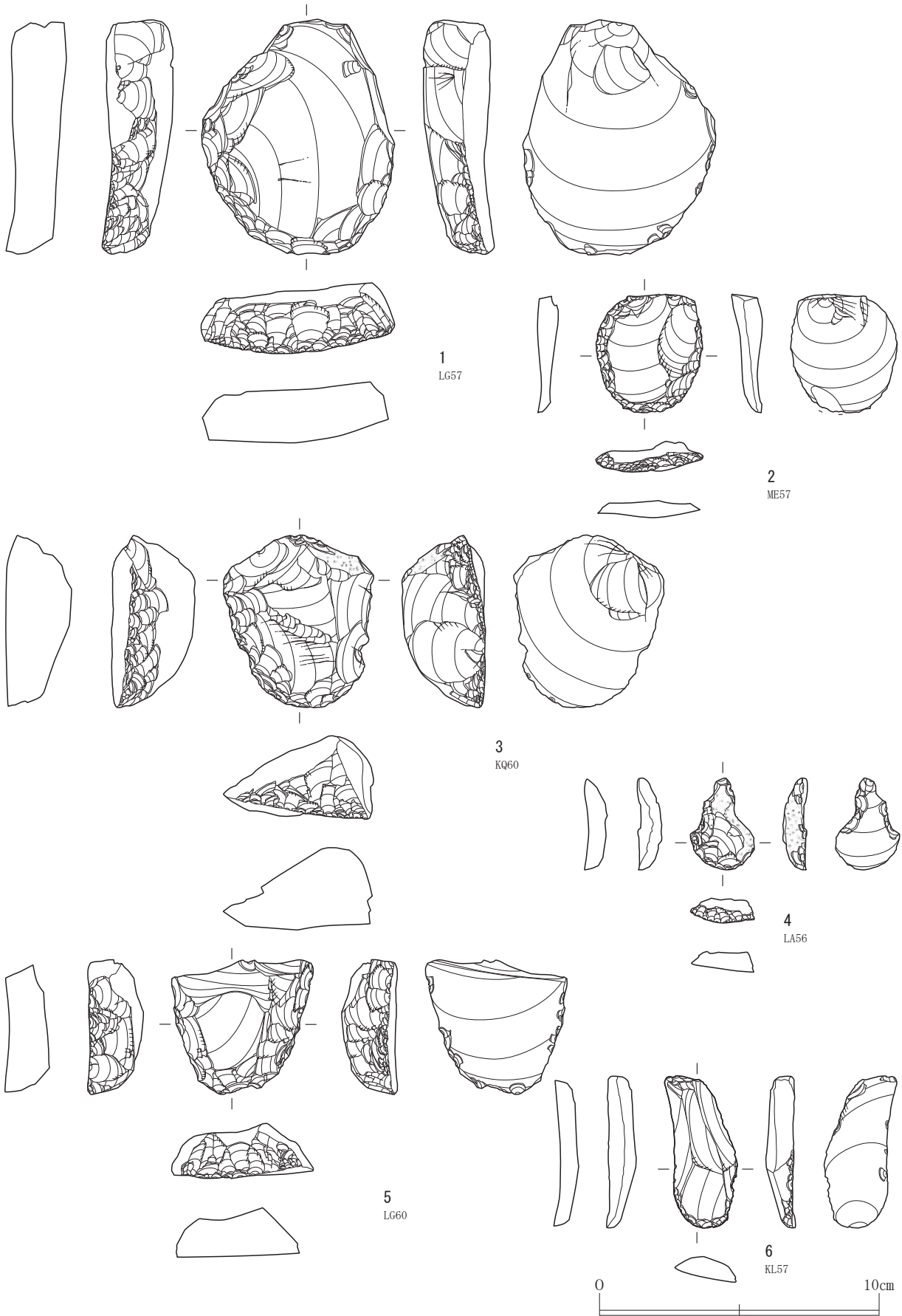
第107図 遺構外出土石器(1)



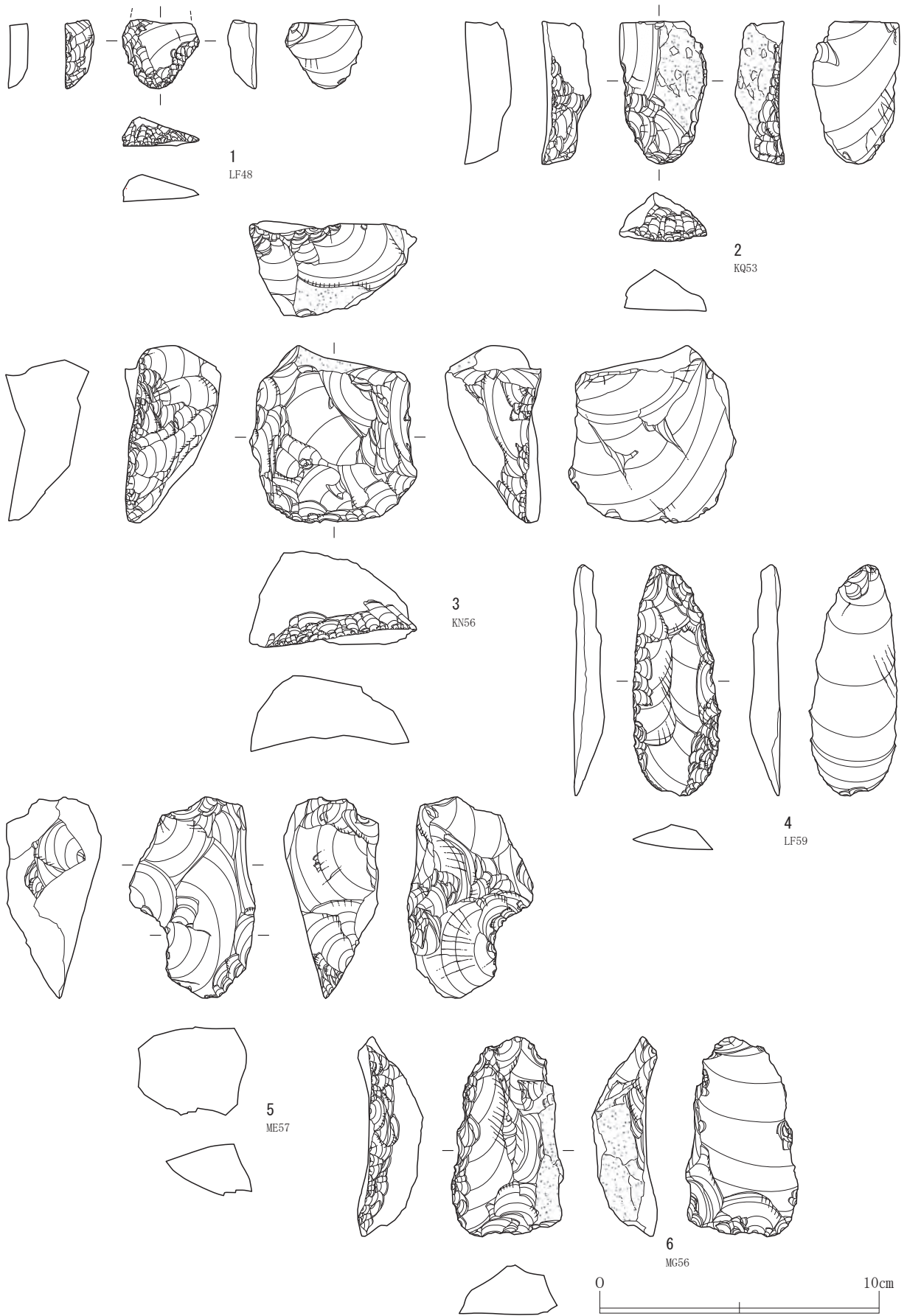
第108図 遺構外出土石器(2)



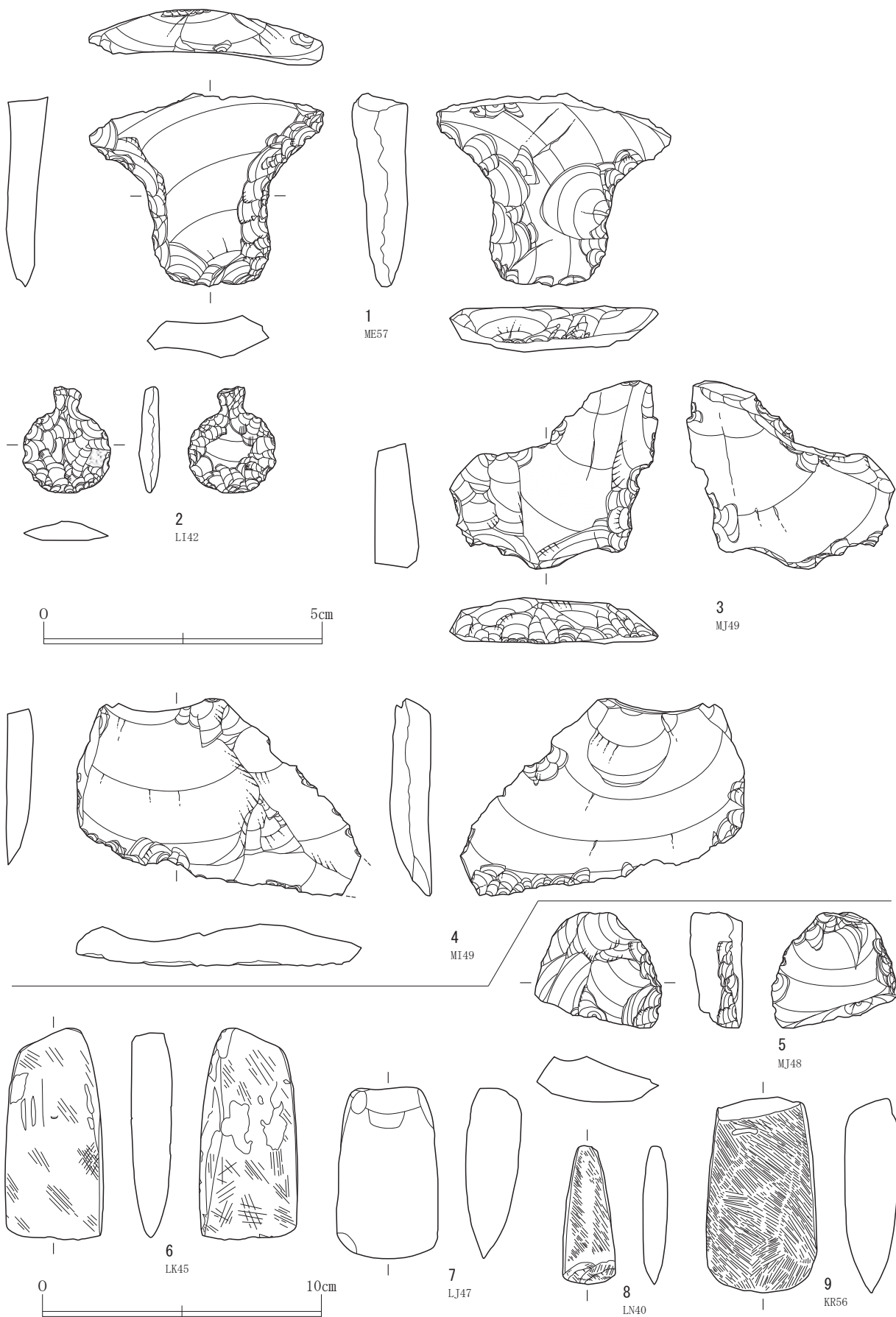
第109図 遺構外出土石器(3)



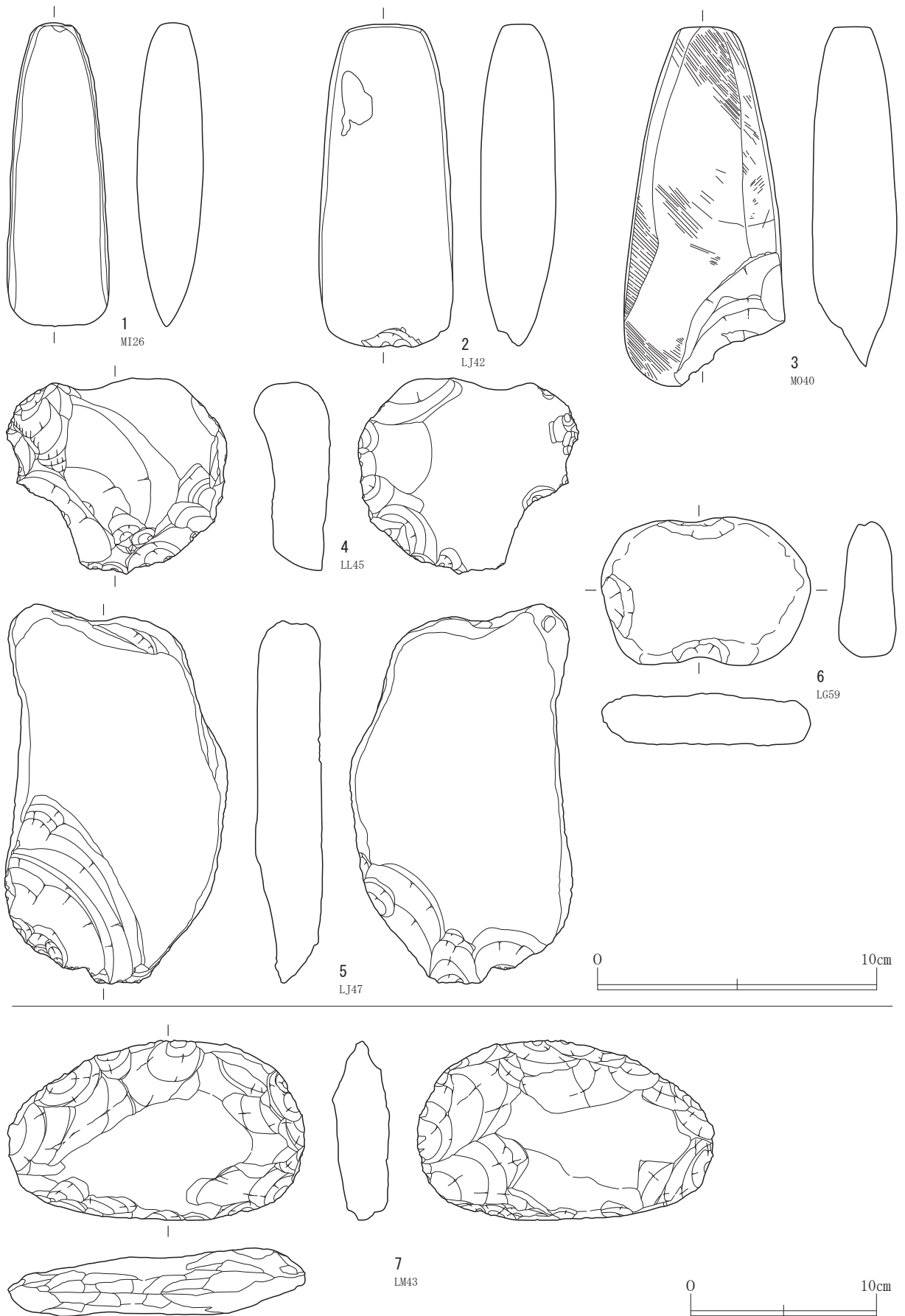
第110図 遺構外出土石器(4)



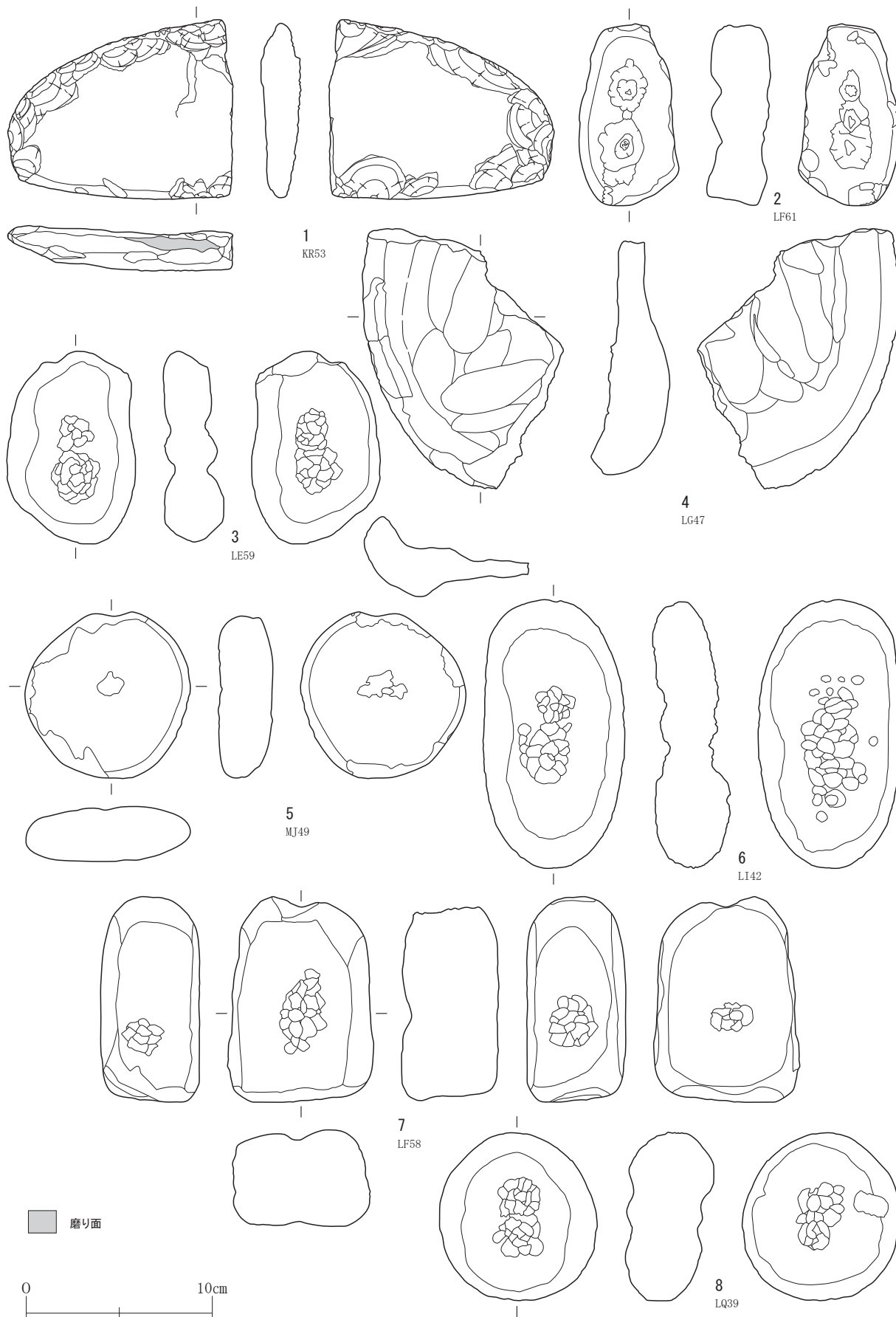
第111圖 遺構外出土石器(5)



第112図 遺構外出土石器(6)



第113図 遺構外出土石器(7)



第114図 遺構外出土石器(8)